平成9年度愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会の記録

活きている博物館

～歴史系博物館のこれから～

平成9年度愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会の記録

活きている博物館

1998. 2.19

主　催●愛知県博物館協会
後　援●愛知県教育委員会
会　場●一宮市博物館
担当館●名古屋市博物館　一宮市博物館

もくじ

CONTENTS

3●はじめに

4●基調報告　名古屋市博物館　犬塚　康博

学芸員奮闘記～悪戦苦闘!!～私たちのン10年～

9●日本モンキーセンター　水野　礼子

17●内藤記念くすり博物館　野尻佳与子

24●鳳来寺山自然科学博物館　加藤　貞亨

29●浜松市博物館　佐藤　拓伸

35●海の博物館　野村　史隆

42●レジュメ集

83●ココロのアンケート

博物館員調査ノススメ　犬塚　康博

アンケート集計結果

付録　平成10年度東海地区博物館連絡協議会・講演

103●博物館における市民参加

大阪市立自然史博物館 館長 那須　孝悌

114●あとがき

はじめに
INTRODUCTION

この本は，1998年2月19日，一宮市博物館を会場に，県下の博物館関係者はじめ約60名の参加を得て開催した，愛知県博物館協会の平成9年度歴史民俗部門研修会「活きている博物館～歴史系博物館のこれから～」の記録です。

この研修会は，水野礼子(日本モンキーセンター)，野尻佳与子(内藤記念くすり博物館)，加藤貞亨(鳳来寺山自然科学博物館)，佐藤拓伸(浜松市博物館)，野村史隆(海の博物館)の5氏による当日のレポート「学芸員奮闘記～悪戦苦闘!!～私たちのン10年～」と，事前に実施したアンケート調査から成り立っています。レポートは，県域・館園種・設立年代を違えながらも，東海地方における戦後の博物館活動を真摯かつ果敢に体現されてきた5館園の軌跡・到達点・展望に学びつつ，私たち自身を顧みようという趣旨によるものです。また，アンケート調査は，別に記したように，利用者調査と同時に博物館員調査の必要を思っておこなったものです。

さらにこの本には，1998年7月7・8日，東海地区博物館連絡協議会平成10年度総会にともなう，那須孝悌氏(大阪市立自然史博物館)の講演「博物館における市民参加」の記録も掲載しました。これは，愛知県博物館協会が当番県であったことから，研修会の趣旨に遠くないテーマで講演会を企画したことにちなんでいます。

愛知県博物館協会では，設立20・30周年という自らの節目において，記念誌を刊行してきた経験がありますが，この本は趣を異にして，激変する博物館界の渦中，私たちの試行錯誤の記録として作成しました。

最後になりましたが，レポートならびに講演の記録の掲載をご快諾いただいたみなさま，アンケート調査にご協力いただいたみなさま，そしてこの本をつくる過程でさまざまなご支援をいただいた多くのみなさまのご厚情に，心から感謝申しあげます。

2000年2月

平成9年度愛知県博物館協会
歴史民俗部門研修会担当館

基調報告

名古屋市博物館
犬塚　康博

おはようございます。ただいま紹介いただきました，名古屋市博物館の犬塚です。今年度，愛知県博物館協会の実行委員をやることになり，一宮市博物館の久保禎子さんと一緒に，この研修会の準備をしてまいりました。どちらが司会をしようか，どちらがこの発表をしようかと，直前の昨日まで迷いましたが，私がアンケート結果などを含めてお話をすることになりました。

昨年の歴史民俗部門研修会は，名古屋市博物館を会場にして，和本についての講義，その修復や梱包のしかた，さらに展示企画の方法といったhow to的な内容でおこない好評だったわけですが，今年は趣向を変えて，博物館は現在どうなっているのか――例えば，日本の博物館を見渡してみますと，何か地殻変動のようなことが起きている感じもするということで，この企画を立ててみました。

さて，アンケートの結果報告をする前に，基調報告と言うほどのことにはなりませんが，この研修会をもつにいたった経緯をお話しておこうと思います。これを計画した当初は，どちらかというと堅いイメージがありました。例えば，「地域に密着した博物館活動の方法やその思想を探る」というような，いわば地域博物館といったキー・ワードで示されるようなテーマを考えていました。しかし，この「論としての地域博物館」を考えていったとき，次のような危惧があったのも確かです。

それは，国際交流基金アジアセンターが「アジアの地域博物館を考える」というシンポジウムをおこない，その報告がある雑誌に載っていましたのでご覧になった方もいらっしゃることと思いますが，それを見ていますと，アジア各地の博物館関係者が来日し，それぞれの地域博物館を語るわけですが，みんなてんでバラバラなんですね。結局シンポジウムは，まず地域博物館の定義から始めないといけないというようなことになるわけです。つまり，私たちが地域博物館の話題に入ったとき，同じような展開と帰結を生むのではないかと思いがあったわけです。ですから，地域博物館ということは心のどこかに残しておきながら，良くも悪くも現実のありようの中に私たちの現在を確認し，将来を模索することが必要なのではないかと思ったわけです。

そこで，愛知県，岐阜県，三重県という東海３県で，ユニークな博物館の学芸員の方，あるいはユニークな実践をおこなっている学芸員その方―彼・彼女の所属する博物館がどうかは別として―に，それぞれの最初の課題意識，そしてそれを現実の俎上にのせたときに，いろいろ問題が出てくるわけですが，その際の苦悩や打開策，そして新たに生まれた課題意識，そうしたことをお話いただけたらと考えたわけです。

ちょっと寄り道しますが，戦後の東海地方には，ユニークな博物館がずいぶんありました。ユニークな方もいらっしゃいました。いまでは，館園の増加に埋もれてだんだん差別化がなくなり忘れられていますが，もう１度これを見てみたいと思ったことも，今回の企画の主旨の１つにあります。

そして，博物館の設立ブームが続き，20代，30代の学芸員がずいぶん増えました。今日もそうした方々が中心だと思います。私がもう少し若かったころ，愛知県博物館協会に学芸懇談会という集まりがありました。若い人が集まって，ある程度年輩の方とともに月例会をおこない，いろいろな話題や機会に接する経験がありました。まぁ，わからないなりにそうした場に出かけていたというのが実際です。今，そういう場を再現することはできませんが，１回限りになることを承知で，学芸懇談会のようなことができないものかとも思ったわけです。

さらに，こういう研修会に集まるのは，いわゆる同業者ということになりますが，同業者の間でも，あの人のやっていることはすごく気になるとか，あの人がやっていることは好きだとか，そういうことがあります。非常に個人的な感想になりますが，久保さんと私とで相談して，今回５人の方においでいただいたわけです。

さて今回，この研修会に先立ち，アンケート調査をおこないました。アンケート調査は，研修会を計画した当初からやりたいと考えていたものです。しかし，これも最初は，「常設展の位置づけはどのようなものですか」「教育普及活動の位置づけはどういうものですか」「今後の歴史系博物館の展開をどう考えますか」というような設問でした。しかし，こうした設問に続く回答は一般論になりやすい，あるいは資料をそろえたりする必要があったりで回答に困る，公式的な回答がかえってくるだけではないかという不安がありました。た

またま，日博協でしたか，膨大な量のアンケートを各館に配って回収していたようですが，そういうことはそういうところにまかせて，もう少しルーズかつソフトな部分で回答を得ることができないかと考えたわけです。例えば，「今後の歴史系博物館の展開をどう考えるか」という設問について言えば，次のようなことになります。つまり，いま私たちが好きだと感じている博物館活動というものがあるとすれば，ある意味でこれが今後の私たちの活動を規定していくことになるはずです。ですから，それぞれの好きな博物館をピック・アップしていただいて，そのチャーム・ポイント，つまり好きな理由ですね，それを書いていただくことで，そこに一定の傾向が見られるのではないか，というような考え方でアンケートをつくってみました。少々，設問の仕方が，最近流行のセルフ・ガイド風になりましが，子どもたちにそうするように，組織の立場でではなく，学芸員個人個人の思いを披露していただくことにしたわけです。

次に，アンケートの報告に移ります。全部で92件，それにプラス・アルファで，94件（現在103件）のご回答をいただきました。その結果については，回答の中にも，抽象化せずにナマのままで，ナマに近い状態で出して欲しいという要望がありましたし，私たちも最初からそのように考えておりましたので，字は小さくなりましたが冊子にまとめてみました。ただ，〆切日から本日まで時間が少なかったこともあり，入力ミスがずいぶんあります。正誤表も，とり急ぎわかった範囲で添えましたが，ほかにもありそうです。これは，お約束はできないのですが，追って報告集のようなものをつくるなかで完備したいと思いますので，とりあえず，今日のものは未定稿ということでお受けいただければ幸いです。

さて，私自身，このアンケートの回答を読みながら，まだ，１つ１つに驚いたり，嬉しかったりという段階にとどまっています。ナマのままお示ししましたので，ある程度抽象的な評価をした方がいいのかもしれないと思いましたが，検討も十分にはできていませんし，まだ見落としていることもたくさんあると思います。ですから，そのことを踏まえた上で，大雑把な印象を少し述べたいと思います。なるべく，私的な評価は加えずに，全体を肯定的に受け止めた上での印象となります。

まず，設問１の「好きな博物館」をめぐってですが，県内と国内と国外とをご回答いただきました。これは先程言いましたように，今後の博物館のイメージの原型というのがあるかもしれないということで設けたものです。これを通してみますと，全体的には，小規模ではなく，都道府県立やそれ以上の大中規模の博物館をあげる回答が多いという印象があります。そしてそれらのチャーム・ポイントは，博物館資料の量や質にかかわっているようです。数量化はしていませんが，例えば，9番の回答は，「やすらぎがある。資料(実物)が豊富」として資料のことに触れています。10番のトヨタ博物館をあげていらっしゃる方も，「展示資料の自動車のボリューム感」ということをおっしゃってます。それから，クンスト・カーメラについてもやはり「収集品」ということで，大中規模の博物館を例示した方は，資料の質や量に関わる言及をされているという印象を受けました。

その一方で，小規模な博物館をあげられた回答もあります。そのなかで特徴的だったのが，県内の師勝町歴史民俗資料館をあげていらっしゃる方が多かったことです。その場合のチャーム・ポイントは，師勝町歴史民俗資料館の展示の工夫の仕方，アイデアといったことに関し，「独自性」「特性」「個性」という言葉を使って評価されているケースが多いように感じました。

簡単に見ただけですが，大中規模の博物館を例示する場合は資料の量や質，それから師勝町歴史民俗資料館のような小規模館の場合，それとは違うところに評価の視点があるようです。これは，歴史民俗資料館というのが，ある時期一斉に各地につくられて，業者さんが入った関係もあるんでしょう，だいたいどこでも同じような展示というか，金太郎飴的な状況にあるとよく言われますが，こういうことから脱する１つの努力として評判がよいのかもしれません。これについては，キー・ポイントのようにも思いましたので，また後で申し上げたいと思います。

次に，２番目の「チャレンジしたい活動」です。ここでは資料の収集・保管，調査・研究，公開・教育という３つの分類をもち出しましたが，博物館研究者伊藤寿朗さんの分類を用いています。これも，全体を通してみますと，少し数量化してみた，と言っても足し算しただけなんですが，ａ・ｂ・ｃ特に偏ることがない

1 INUZUKA YASUHIRO

ような結果が出ています。個人的には，最初ｃに偏るんじゃないかという観測をもっていました。それは1990年代に入ってから，博物館教育や美術館教育に関するシンポジウムがおこなわれる事態が続き，ブームの感を呈することがありました。それに基づいてcが増えるんではないかと予感したわけですが，それはありませんでした。ただ，もしこのブームがなかったら，cの回答率というのは低かったのかもしれないとも思います。いずれにしても，任意にご回答いただいた結果を見ますと，博物館の３つの機能――収集・保管，調査・研究，公開・教育――が，全体としては均等に認知されているというように感じました。このことは，次の設問にも関係していきます。

３番目の「博物館・美術館の未来をめぐって」――世田谷美術館の川口さんの新聞記事は，導入という以上の意味はありませんでしたが――，回答はａの「未来がある」が圧倒的です。ただし，その理由を見ると，なおかつ博物館の３機能に照らし合わせて見ますと，「未来がある」という場合は，博物館の収集・保管機能，公開・教育機能に関わるものが占めています。良いものを集めるとか，子どもまで含めた教育活動をしてみたいというようなことを書かれていらっしゃる方が多いわけです。その一方で，調査・研究機能に関わる指摘は見受けられません。先程のチャレンジしたい活動のなかでは３機能とも均等でしたが，将来的な展望と言ったときに，調査・研究機能がないということは，ある意味で，現在の学芸員の状況を示しているように思えました。

これを考えると，調査・研究機能によって博物館の振興がイメージされない，またイメージしにくいという現実があると思うのですが，これはやむを得ないことなのかもしれません。例えば，公立博物館で研究機能優先型と呼ばれながら登場した博物館は，1989年の千葉県立中央博物館，1992年の兵庫県立人と自然の博物館，そして，1996年の滋賀県立琵琶湖博物館。そのあたりで，初めて定着したような感があります。この10年ぐらいの出来事です。また，国立の施設の話になりますが，1997年12月に行政改革会議が出した最終報告で，国立博物館を独立行政法人化するというのがありますが，その場合，国立科学博物館は試験研究の機関，そのほかの国立３館と近代美術館，西洋美術館それから国際博物館はいわゆる文教研修の機関として分類されています。国立科学博物館は研究所をもっていますので，研究の方にいくのでしょうが，博物館一般というのは，基本的に研究ではなく，文教，教育に属する施設として位置づけられるという関係の中にあるようです。歴史的にもその経緯は追えますが，そうした歴史性が私たちの気持ちに反映しているようです。

それから，bの「未来はない」という回答も少なからずありました。行政や経営者の無理解を嘆くような古典的な意見は，もちろんありましたが意外に少ないという印象をもちました。それから，館の個性如何をこの理由にあげる回答がいくつかあります。例えば，個性の問題をあげて，それがないから未来がないという回答が，24・35・42・89番あたりです。しかし，同様に個性の問題をあげて，それが充実されれば未来があると答えた31・41・63番などもあり，表裏をなしています。個性の問題というのは，もちろん館園の種類や規模にもよりますが，１つ重要なキー・ワードになってくるように思います。これも，最後にまとめて触れたいと思います。

それから，未来があるないに関わらずヴァーチュアル・リアリティの技術の発展と実物資料，その関係のなかで，博物館資料や博物館の未来を考えるという回答が比較的多くあります。それぞれの回答者の予測が当たっているかどうかは別として，実物資料から博物館は始まるのだという回答をも考慮すると，今では自明の，資料ということがらがもっと意識化されてくる時代がくるようにも思いました。

４番目の現在の問題をめぐってということについては，時間がおしてますので，省略します。

最後になりますが，全体を通して気づいたことを申しあげます。最近，ミュージアム・マネジメントという用語が普及しています。学芸員養成制度でこの言葉が登場したのは1997年４月ですから，私たちはこの語を用いて博物館の運営というようなことを学んではいません。しかし，このミュージアム・マネジメントという横文字の言葉が出る以前から，博物館の運営とか，金銭の問題だけではない全体の経営というテーマはこれまでの博物館論の中にもあったのだろうと思います。それを

つぶさにさかのぼって見ていくと，現在のミュージアム・マネジメントなるものも，ずいぶん変わってくるのではないかという気がしています。その当時考えられていたことが，いかに稚拙でしかも一般論に過ぎたとしても，やはりそれは私たちの先行の体験なのだと思います。そういう見方をしますと，そういうミュージアム・マネジメントのような意味を含んだ博物館活動——教育活動，収集活動，調査研究活動——が，回答の中にも見いだすことができるわけです。例えば，36番のチャレンジしたい活動に，「小さい子ども連れの若いお母さん対象で自然教室。ベビーシッティングできるボランティアさん等と共に，外に出る機会の少ない，若いお母さんのプログラムを行う」という回答があります。この回答は，久保さんに促されて気がついたのですが，堅く言うと，単に教育活動を実施するのではなくて，どのようにして無理なく快適に，人々が参加できるかそういうようなことも含めて考えている。教育活動それ自身のことだけでなく，それをとりまく環境，条件，そういうことをも考えながら，活動がおこなわれようとしているという印象を受けました。「論としてのミュージアム・マネジメント」ではなく，現実の中で，こういうことが考えられるようになってきているという印象です。もちろん，これ以外にもたくさんの例があると思います。思いつきであったり，その場限りのことであったりしても，こういうことがまとめられていくと，ミュージアム・マネジメントが虚像から実像へと転換していくのではないかとも思った次第です。

そして，先程保留した個性の問題です。今回の回答の，個性がないと未来がない，個性があると未来があるということについて，少し抽象化して考えてみたいと思います。最近博物館の危機ということを考えていますが，個性の問題はこのテーマに連なっていると言えそうです。要するに，個性がないと，博物館はなくなってしまうかもしれない。そういう危機として理解できるわけです。そこで，博物館の危機という事柄を想い起こすと，これまでもいくつかいろいろな事例がありました。例えば，アメリカの博物館は，1929年の世界大恐慌で財政危機に陥り，お金が入ってこなくる。そこで，ミュージアム・エクステンションという活動をおこないました。この考え自体はそれよりも前からあったのですが，より博物館の外に出て活動をおこなうことによって市民の支持と寄付を得，危機を乗り越えていきました。

それから1館の例で言えば，あまりにも有名ですが，ミュンヘンにあるドイチェス・ムゼウムは，1903年に，往時現在の科学を扱う博物館として始まりますが，22年後にはもう資料が満杯になって，どうしようもなくなってしまう。そして，新しく移転しなければいけない。しかし，新しく移転すると，その22年間の資料で展示することは現在の科学を示すことにはならない。そういうジレンマに陥るわけです。そのときに，現代の科学を扱う科学博物館ではなく，科学史を扱う博物館へと方針を大転換する。そして今，世界でも有数の科学博物館になっているわけです。そういう，1つの館のレヴェルでの危機の乗り越えもありました。

今，大きい話と小さい話とを見たわけですが，危機をどう乗り越えるかというとき，何らかの方針転換を伴うことがあることを知るわけです。そしてそれが，以後の博物館の方針として定着していく。そこで，日本の博物館の場合どうかと言いますと，館園によって受け止め方は違うとは思いますが，バブル経済が壊れるにともなって，私立博物館が閉鎖したり，運営が難しくなるというようなことがずいぶん出てきています。また公立博物館でも，税収低下で予算自体がだんだん削られていくという状況があります。今現在が，危機の時代であるわけで，例えばヴォランティアを活用する，ミュージアム・マネジメントを整備していくというようなことが語られるのは，やはり，危機をどう乗り越えるかという問題のなかでてきた動きなのだろうと思います。

ここでようやく，個性の問題に入ることになりますが，今回示された個性というのは，ありふれた言葉ではありますが，危機と向かい合う際の重要な鍵であると言って大過はないでしょう。その場合，師勝町歴史民俗資料館のケースは興味深いわけです。そして，今後さらに，この館に方針転換みたいなことが起きていくのかどうか——つまり，昭和30年代を主題とする展示を展開するこの博物館が，そういうものへとどんどん純化して，収集・保管，調査・研究，公開・教育といった博物館の機能全体において昭和30年代がトータルなテーマとなり，それによって個性が発揮さ

2 INUZUKA YASUHIRO

れ未来を獲得していくのか――ということが気になるところです。しかし，一方でまた，そうなった場合，師勝町の条例で設置される町営博物館でなくてもいいのではないかということも出てくるでしょう。「是非はともかくも」という34番の回答の詳細ははかりかねますが，あわせて気になります。

最近，結婚式や披露宴をおこなうことにより，財政面を支えようとする博物館がありますが，これもある種，危機における博物館の選択なのでしょう。そして，これが今後の博物館の，ミュージアム・エクステンションというような形で定着していくのかどうか，ということも思いめぐらしながら，今回のアンケート結果を通し読みした次第です。

失礼いたしました。最後に私の意見も述べましたが，アンケートの結果を読み込んでいくうちにもっといろいろなことが出てくると思います。回答結果をナマのままで用意いたしましたので，今日の最後の討論会や，ゲストの方々にも是非ご一読いただいて感興をひくような回答がありましたら触れていただきながら発表をお願いできればと思います。長くなりましたが，時間となりましたので終わります。ありがとうございました。

＊アンケート集計結果はP.86～102をご覧下さい。

3 INUZUKA YASUHIRO

●PROFILE
INUZUKA YASUHIRO　犬塚康博
名古屋市博物館
担当●パブリシティ
研究テーマ●日本人の博物館史

学芸員奮闘記

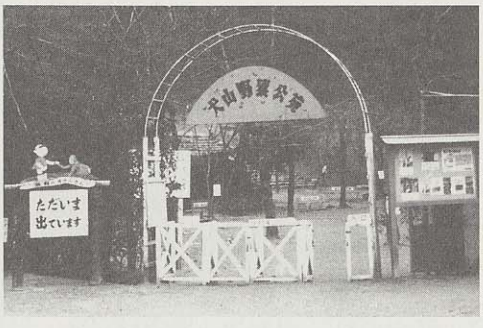
～悪戦苦闘!!～私たちのン10年～

日本モンキーセンター
水野　礼子

みなさん，こんにちは。ただいまご紹介いただきました，日本モンキーセンターの水野です。先程久保さんからすごい紹介をいただいて，恐縮してるんですけれども，自分がそんな人間じゃなくって，ただサルが好きでン10年このかた，廣瀬鎮さんの後をついてやってきただけですので，みなさんにご参考になるようなお話ができるかどうかはわかりませんけれども，とにかくモンキーセンターで私がどんな仕事をやってきたのか，モンキーセンターができてもう40年になるんですが，その間にどんな活動をおこなってきたのか，そんなことを少しお話して，若いみなさま方のご参考になればと思うんですが。

最初，久保さんから是非話をと言われたんですけれども，私はそんな学芸員として立派なことしているわけでもないし，とにかくお話するようなことはないと言ってお断りしたんですが，久保さんの熱意と説得力に負けまして，ここに立つことになりましたので，しばらくお付き合いいただければと思います。

レジュメの方にも少し書いてみたんですけれども，とにかくモンキーセンターができて40年になります。それでモンキーセンターの歴史というのは，ほぼ半分は多分廣瀬さんがつくられた博物館の活動，そういった歴史が非常に重いんじゃないかと思います。それでモンキーセンターと言うと，非常に博物館の活動を活発にやっていると外部からはどうも思われているようですが，やはりモンキーセンターも時代の流れとともに，ずいぶん中の様子も変わりまして，当時廣瀬さんが築き上げられた，博物館活動もなかなか引き継いでいけない状況です。そういう残念な一面もあるんですが，とにかく動物園としての博物館活動をなんとかやってるということをお話していければと思います。



犬山野猿公苑の入口

それで，自己紹介にも少し書いてみたんですけれども，みなさん方は多分博物館にお入りになるときには，非常に立派なお志があって，大学で学芸員資格を取られて，それぞれの博物館にお入りになったと思うんですが，私はただ高校を出て就職しました。でも，どうしても事務的なことだけは絶対にやりたくないと，デスクに座っているのが嫌だから，まぁ動物園あたりならいいんじゃないかなぁ，と非常にあいまいな気持ちで入ったんですけれども，入ったところがどういうわけかはまってしまいまして，丸30年過ぎてしまいました。30年，なんとなく博物館と一緒に生きてきたって感じなんですけれども。そもそも最初は，私は事務的なことよりも飼育係になりたかったんですが，今でこそ動物園や水族館というのは女性の飼育係だとか獣医さんというのが非常に注目の的ですが，30年ほど前というのは，本当にまだ動物園の中に女性の飼育係が非常に少なかったんですね。女性の飼育係では，当時は天王寺動物園でキーウィを担当しておられる方とか，それからいまではもうお辞めになったんですが，上野動物園の増田光子さんという，大変ユニークな獣医さん，後に園長さんになられた方がおられました。そういった方がおられるくらいで，非常に女性の飼育係が少なくて，当然モンキーセンターではそういうポストがないのでダメだっていうことで断られまして，ちょうどそのころ学芸部の事務係の方が辞められて空席になっていましたので，そこへ入れていただいたのが始まりなんです。今にして思いますと，あのまま飼育係をやっていたら，現在の自分がどうあったかまったく想像がつかないんですが，学芸員になってよかったなと思うことは，より多くの動物園や博物館のみなさん方と幅広くお知り合いになれたことだと思うんですが，こういったところでみなさん方と，広くお付き合いができるようになって，これが非常に学芸員になってよかったなぁと思うことの1つでもあります。

で，やはりモンキーセンターの活動をお話するには，廣瀬さんのことをお話しないと多分つとまらないんじゃないかと思うんですけれども，おそらくここにご出席のみなさんのほとんどの若い方は，廣瀬さんといってもご存じない

いかなければいけないかということを，みんなで話し合おうじゃないかということで，廣瀬さんたちがやはり主になってつくられた動物園教育研究会というのがあるんですけれども，それもそもそも廣瀬さんのお手伝いでやってたんですが，廣瀬さんがやめられてから特にそうなんですけれども，事務局ということを仰せつかって20年ほどずっと事務局をやっていました。そんなわけで廣瀬さんは人に仕事を非常にうまく，ぐぅーっと押しつけるといったらおかしいんですけれども，仕事をさせるのが非常に得意な方だったんですね。

それで，おそらく廣瀬さんからも，昔手紙をいただいた方というのもたくさんおられると思うんですが，非常に手紙魔ということで有名だったんです。お客さんが訪ねて来られて，どこか１カ所くらい寄り道をして家に帰られると，必ずその方の家に手紙が先に届いてるんですね。それは，毎日葉書をもって，なんせ歩きながら葉書を書くのが，二宮尊徳じゃないんですけれども，すごい人だったんです。手紙をもらった方が非常に感激して，「廣瀬先生からお手紙いただいたんで，返事を書きたいんですけれども，住所が読めないんです(笑)。」というくらい，廣瀬さんは，今でこそばらしますけども悪筆だったんです。なんせ歩きながら書いてるんですから，なかなか難しいですよね。それくらいすごい方なんですけれども。

それと，お客さんが非常に多くて，いろんなお客さんが訪ねて来られるんですが，「鎮さん，あんなにたくさんお客さん会ってて，本当によく名前を覚えててすごいですね。ところで，今の方，どなたですか?」「いやぁ，ボクもようわからんのや」。そういうことがしばしばありました。そんなことで，とにかくバイタリティあふれる廣瀬さんだったんですけれども，モンキーセンターやめられてその後名古屋学院大学に移られ10年ほどお勤めになったんですが，３年ほど前に，突然病気で亡くなられてわれわれも本当にビックリした次第です。

それであと，私の話とモンキーセンターでどんな活動をやっているかということなんですけれども，私は高校を出て入ったものですから，学芸員の資格を取ったのは，入所してから６年経って，それでちょうどそのころは，東京の国立社会教育研究所で，学芸員の講習会というのがある時代だったものですから，そのときに，夏に１ヶ月間講習を受けまして，それで学芸員の資格を取らせていただきました。

今，博物館学セミナーのことは少しお話しましたけれども，あと動物園教育研究会というのも，廣瀬さんだとか以前上野動物園におられてもう亡くなられました遠藤悟朗さんとか，栗林公園にみえた香川さんだとか，そういった方が中心になって動物園教育研究会というのをつくられました。そこで飼育の現場の方も，それからもちろん教育活動をやってる人も，それから外部で動物園が好きで好きでたまらないという動物園好きの人，それからボランティアの人だとか，いろんな立場の人が集まって，もう動物園という枠を取っ払ってとにかく動物園が好きな人が集まって教育活動について語ろうじゃないかっていう会を発足しました。それがもう今で回数を重ね40回近くになるものですから，もう20数年前のお話なんですけれども，それ以来ずっと「ZOO教研」と称していますけれども，それに関わらせていただいています。

それで，後のモンキーセンターでの活動というのは少しスライドを持ってきましたので，スライドを見ながらお話した方が実際におわかりいただけるかと思いますのでスライドをお願いいたします。

これは，廣瀬鎮さんの若かりしころなんですけれど，たまたまこれは今回このスライドをやろうということで，スライドを探してましたら，廣瀬さんが置いていかれたスライドが残ってまして，その中になんと非常に若かりしころの写真がヒョコッと出てきまして，私も，廣瀬さん辞められて以来初めて見つけてびっくりしました。このときに一緒にお嬢さんが写ってみえたんで，まだお嬢さんが小学校のころの様子でしたから，そうですね，もう30年位前の写真ですかね。非常にまだ活動的な本当に若さ溢れる時代の廣瀬さんですが，この廣瀬さんのもとで私もずっとこの博物館のことを学んできました。

2 MIZUNO REIKO



若かりしころの廣瀬鎮さん

これはサマースクールをやってるところなんですが，モンキーセンターではモンキー友の会っていうのがありまして，そこで自然観察例会だとか，それから毎年夏にサマースクールをおこなっていました。で，サマースクールをやるにあたって，やはりモンキーセンターはサルが主ですから，サルを観察しながら，何とか子どもたちに動物との関わりだとか，サルのそういった特徴なんかを学んで欲しいということで，いろいろな試みをおこなってきました。このときはちょうどサルを観察しながらスケッチをしてるところですね。ただ見るだけじゃなくて，こういうスケッチをすることによって，より細かいところまで見てもらえるんじゃないかということで，動物のスケッチをしています。ちなみにあの角っこに立っているのが，私が若かりしころです(笑)。

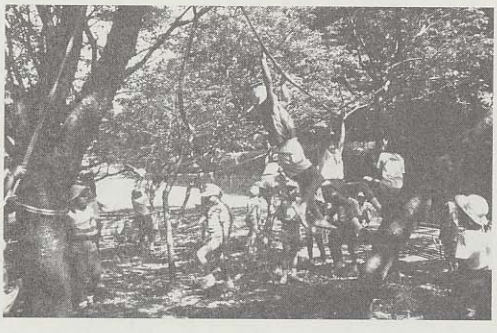
これは，子どもたちがロープ渡り（写真下）をやっているんですが，これは実際にテナガザルだとか，ああいった類人猿なんかが非常に綱渡り，ブラキエーションと言うんですけれども，そういうことを非常にうまくやるんですが，われわれ人間がやってみたらどうなんだろう，実際にうまくできるんだろうかということでやってみて，じゃ，うまくできないのは人間とテナガザルがどこの構造が違うからできないんだろうかという，そんなことを実体験しながらやってみたサマースクールです。

これはちょうど，この木の上のところに子ザルがいるんですが，このサルたちは人工哺育で育ったサルなんです。人工哺育で育ったサルたちを先生役にしまして，普通檻の中にいるとなかなかゆっくり見れないんですが，間近にこういったサルたちの動きを見たり，それから手足なんかもじっくりと観察できますので，こういった人工哺育のサルがいるときには，このサルたちを先生役にしてサマースクールなどをおこないました。

この子もそうですね。今タオルかぶってますけども，これも立派なサマースクールの先生でした。

これは竹の棒に，なんかぶら下げて歩いているんですが（写真下），実はあれはニホンザル，サルの体に見立ててるんですけれども，サルの子どもというのは生まれてすぐにお母さんの毛にしがみついて山の中を移動する，とっても把握力の強い手をもってるんですが，われわれ人間だったら本当にお母さんのそういった毛につかまれるんだろうかということで，実験をしてみようということになりました。実はドンゴロスが巻いてあるんですが，この中身は屑籠なんです。屑籠のところにこういう竹の棒を通しまして，ドンゴロスを巻いて，ここに１人ぶら下がっている子がいるんですが，どれくらいの距離，ぶらさがれるんだろうということでやった，非常にこんな大胆というか，まあいろんな面白い遊びをやったことがあります。

これは，あるサマースクールのときなんですけれども，自分たちの望む動物園，どんな動物園がつくりたいか，それをモノではなかなかつくれないもんですから，こういった大きなB紙の２枚ぐらい張り合わせた紙に，グループで，自分たちの理想とする動物園，夢の動物園を描いてみようということで，子どもたちに，グループごとに描いてもらいました。当時指導していただいたのは，まだ今もお元気で活躍中なんですけど，クリちゃんの





サマースクール
ロープ渡り（左）
サルの子供になってみよう（右）

漫画で有名な根本進先生ですね。根本さんも非常に動物園が昔から好きな方で，動物園の大ファンでいらっしゃるんですが，その方に講師に来ていただいて，絵を描きながら動物園のいろいろな話もしていただきました。これはもうそれこそ20年も以上も前なんですが，子どもたちがこんな動物園を欲しがっていたんですね，例えば動物園の真ん中に川が流れていたりして。

そうですね，これも大きな川が動物園に流れていて，やはり檻が全然ないんですね。だから，言ってみれば今のサファリ形式のような動物園を，すでにその当時の子どもたちが夢に描いていたという非常に楽しいサマースクールでした。

これは，今ではこんなこととてもできないんですけれども，当時おサルさんがエサを食べてそれがどのように消化されて出てくるのか糞分析をしてみようということで，おサルさんの糞を洗って，その中にどんなものが入っているのか調べてみました。例えば，まあ動物園ですから，やるものは決まっているんですけれども，ウリの種だとかモモの皮だとかそれからスモモの皮だとか，それから非常に繊維質の強いもの，そういうものをずっと洗ってみるといろんなもの出てくるんですね。これを野生のおサルさんでこういうことをやると，野生のサルがどういうものを食べてるかっていうのが実際にわかりますので，それの動物園版っていうことでこんなこともやってみました。

これは紙粘土でおサルさんをつくったんですが，これはリスザルというおサルさんですけど，非常に特徴がよく出ていて素晴らしいできばえです。

そもそもビジターセンターというのをつくったのは，動物園のなかでも非常に当時として見れば，新しい試みだったんですね。動物園のなかで，ただ動物を見るだけじゃなくって，実際に動物のことをもっと理解した上で，それぞれの動物を見てもらおうということで，そういった動物園の資料館づくりがおこなわれました。それでモンキーセンターのこのビジターセンターは当時としては非常に立派な動物資料館だったのですが，いまでは本家の方がすたりまして，よその動物園が非常に立派なものをつくっておられます。

中でどんな展示があるかと言いますと，例えばこういったサルの系統樹があって，サルの分類展示をしています。

これはサルの特徴，例えば手や足の特徴がどんな特徴があるのか，そんなことを見ていただいて，それから実際に生きたサルを見てもらおうということで展示しています。

それぞれ後，個々の細かいいろんな特徴ですねぇ，そういうのをずっとパネルで説明してあります。

これは分類にしたがって，下等なものからずっと高等なものへ順を追って展示がしてあるんですが，ここは剥製とかパネルを使って，そういう説明がおこなわれています。まぁ剥製資料なんかはちなみにモンキーセンターで全部飼育してたものを，当時としてはほとんど剥製だとか骨格標本だとか臓器標本なんか持っていますので，そういった資料についても事欠かない状況でした。

これはマウンテンゴリラの剥製なんですけれども，われわれは，今となってはこういったマウンテンゴリラを見ることはできなくなりました。現地から持って来れないので。

これは，特別展のコーナーですね。そこでいろんな特別展を随時やるんですが，例えばこういった銅版画の作家の展示会をやったりとか，あとは写真展をやったりとか年に３回から4回特別展をおこなっています。

これも銅版画の，ゴリラの緻密な絵ですね。

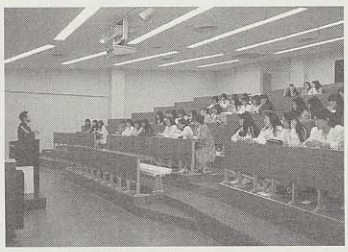
これはモンキーセンターで毎年おこなっているんですが，日本動物園水族館協会の中部ブロックの一環で，写生会をおこなっています。その写生会やったときの，特選作品や入賞作品を毎年展示しておりますのでこんな楽しい絵が毎年見られます。

これもお部屋の中で話しているところなん

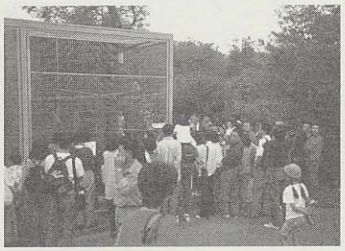
3 MIZUNO REIKO



さるの学習ひろば



レクチャールーム



レクチャー風景

ですが，モンキーセンターではこういった，今のビジターセンターの中にレクチャーホールというのがありまして，そこに階段教室があるんですがだいたい200名ほど入る教室がありまして，そこで前もって申し込んでいただいた学校団体の方を主としているんですけれども，レクチャーをおこなっています。当時まだ，廣瀬さんが非常に賑やかなレクチャーをしておられたころですね。まわりにこういったポスターなんかも貼ってあって。これもちょうど，そうですね，さっきお見せした子どもたちの描いた夢の動物園の絵だとか，そういったものも貼って，当時のレクチャールームというのは，非常になんか雑然としてたんですけど，楽しみがあったんです。いまは新しくなっちゃってあまりにも綺麗になって，以前のようなゴチャゴチャしたのがなくって，何となくつまらないなぁっていう気がして，そういう雰囲気づくりもまたやってかなきゃいけないとは思いつつ，なかなか手が出せないでいます。

こういった世界の動物園のポスターが貼ってあります。こういうことなんて，やはりレクチャーを受けに来ても，何となく楽しい雰囲気がするんですけれど，これがただイスと机が並んでいるだけだと，本当に動物園へお勉強しに来たって感じになっちゃうもんですから，こういう楽しい雰囲気づくりが大切かな，と思います。

これはゴリラの剥製なんですけれども，レクチャールームの演台のすぐ横に置いてありましてね，お話が終わると子どもたちがよくここへ来て，このゴリラと記念写真撮るんです。ゴリラに触ってもいいよってことで触らしてあげる，なんせ実物，生きたゴリラというのは絶対に触れませんので，毛の感触だとか体の大きを実感してもらうためには，多少の破損というのはあるでしょうけれども，こういうことも必要じゃないかなって思っています。

これも特別展のコーナーで，これ昔のビジターセンターの特別展のコーナーなんですね。このあたりは常設展があって見てまわれるところなんですが，実は改装される前は，ここに学芸部の部屋がありまして，このカウンターを通してお客さんといつでも学芸員とお話ができたんですね。いまでこそこういった部屋もなくなってしまいまして，われわれ学芸員というのは事務所の２階にいるのでこのころの学芸の雰囲気が非常によくて，やはり博物館というのは，職員とお客さんが絶えずナマの形で接しないと，本当にお互いの話が聞けないので，こういう感じのところがあるといいと思うんです。今われわれがいる学芸部の部屋ではなかなかそうゆっくりお客さんとお話することできないんですね。また，友の会の会員さんなんかで動物園好きで度々いらっしゃる方があるんですけれども，「動物園へ来てもそこにお目当てのお話したい学芸員さんがいないと，わざわざ事務所行って，例えば『水野さんいます?』とか言って訪ねて行くのはいやだから，やっぱり昔の雰囲気よかったねぇ」っていう話をよく耳にします。そういう壁づくりをしない交流っていうのが，本当に大事じゃないかなと思っています。

これもそうですね。以前はむき出しだったんですけれども，この立派な囲いができたのは，昭和天皇がお見えになったときに，ここでお休み処をつくられたものですから，非常に立派な部屋ができてしまいまして，われわれは部屋の中に入ってしまいました。それでもまあ何となく多少お客さんと接することができたという学芸員室です。

この新しい今のサルの学習広場のコーナーですが，われわれはこのカウンターのところにいつも座らされて，さらし首になっています。ここでお客さんたちは，こういったゲームをやったりとか，ここにサル関係の図書が置いてありますので，見たい人はここで読んでいただいたり，それからサルに対する質問だとかそういったことをここでお受けしようというところです。なかなか実際にサルのことだとか博物館のことについての質問は少なくって，まず一番多い質問は，「トイレどこですか」(笑)「遊園地はどうやって行ったらいいですか」ってそれぐらいの質問で，なかなかこちらが期待するような質問はないんですが，そういったとこから，お客さんといろんな接点をなんとか見つけていけたらなぁと思って，

毎日試行錯誤してます。

これは，こうやってたまたま熱心に見ておられるお客さんがみえると，声をかけてもいいかなぁっていう状況でしたら，近寄っていって声をかけて，「少しおサルさんの説明しましょうか?」と声をかけて，お話をしたりしてますけど，本当は時間を設けてそういう展示説明をしたらいいとか，そういうことを上の方からは言われるんですけれども，やはりお客さんというのはじっくり展示を自分で見たいという方もおられますので，その状況を見計らって，いろいろとお話をうまくしていく，そんなことをいま考慮中なんですけれども，やはりお客さんに声をかけるというのはなかなか勇気がいるし難しいんですよねぇ。でもこのタイミングをなんとかうまく見つけて，そういう交流の場をつくっていきたいと常々思ってやっておりますが。

これは生きたおサルさんじゃなくって，民俗資料の方なんですけれども，猿二郎館というのがありまして，サル関係の民芸資料を収集したところがありまして，そうですねぇ，今サル関係の民芸品だけで5,000点くらい収蔵品があるんですが，とにかくサルに関わるものなら何でも集まってるんです。これを集められたのは，豊沢猿二郎さんという方なんですが，自分も申年で非常にサルが好きな方で，自分で集められたんですけれども，廣瀬さんも非常にこういった民俗的なことを専門に研究しておられましたので，このころはこの猿二郎館も非常に生きた状態で展示されていたんですけれども，やはり時代の流れとともに何となく少しわれわれから離れつつあるような気がして，われわれも少し考え直していかなければいけない展示の１つだと思っています。

これは，いまの猿二郎館の中に，こんな絵馬もたくさん展示されているんですねぇ。申年のときにはいろんな絵馬が各地で出て来るんで，そういったものも集められています。

これは栗林公園で教育活動をやってる場面ですが，実際に動物園にあるこういう資料なんか持ってきて，動物園の園内で担当の獣医さんたちが話をするという，そんな場面があります。

部屋の中で話も聞くのもいいんですけれども，実際にその動物の前だとか，資料を見ながら話を聞くとより親近感がわくということで，動物園に限らずやはりそういう資料を目の前にして，お話をするというのは非常に説得力があるんじゃないかなという気がします。

これは富山市ファミリーパークの資料館ですが，こんな展示をやっています。郷土の動物を大事にしようということで，展示をやっています。

これは先程，犬塚さんの方から博物館のまとめの中に，非常に大きい博物館が好きなタイプと小さい博物館が好きなタイプというのがあったんですが，私は非常に今となっては多分古い人間だものですから，古い展示が好きなタイプです。これは多摩動物公園の，多分まだ裏の方へ行ったらこの施設は残ってるんじゃないかと思いますけども，タヌキが鬱蒼としたササの中に囲まれて暮らしてるという，そういう展示が昔ありましてこういう展示が非常に好きでした。これがいいか悪いかは別として，一面では非常になんとなく温もりのある展示じゃないかなぁっていう気がしたんです。

これも，そうですね。多摩動物園の林の中に猛禽の小屋があるんですが，動物たちにとってはかえってこういう施設っていうのは非常に落ち着いてて，人間にとっては見にくいんですけれども，動物たちには休まる環境だと思います。

私は動物園をまわるのが好きなものですから，いろいろまわってると面白い光景に出会うんですが，これはオランウータンが歯を痛めまして，これから実際に歯医者さんに診てもらおうというところにたまたま多摩動物園で巡りあって見せていただいたんですが，飼育係の人に非常に馴れてるものですから，これから歯の治療が始まるよってことで，先生に診てもらうんですね。

動物園の獣医さんはそれこそ内科から小児

4 MIZUNO REIKO



動物を見ると自然と笑顔に

5 MIZUNO REIKO

●PROFILE
MIZUNO REIKO　水野礼子
日本モンキーパーク学芸担当所属。
主な仕事は雑誌「モンキー」の編集・発送。モンキー友の会の対応。入館者へのレクチャー及び案内。博物館動物園等の雑務等々。
趣味●植物の世話。旅行先での博物館・動物園めぐり（旅行先で博物館・動物園を見ないで帰ると損をした気分になる）。サル関係のグッズを見ると買いたくなる習慣有。
興味のあること●サルの写真を撮りたいがなかなかうまくいかない。お客様とどうしたら自然に話ができるか等々。

科から産婦人科から耳鼻科から全部やらなきゃいけないんですが，さすがにこういう専門的な歯の治療になりますと，なかなか大変なので，こちらの方は実際に人間の歯医者さんの先生です。近所の歯医者さんに来ていただいて，こういう治療をやっています。

動物は飼育係の人を非常に信頼してるものですから，こうやって治療ができるんですが，これもやはり日ごろの動物と飼育係との信頼関係の賜物だと思います。

これも埼玉のこども動物園で乳牛の乳搾りをやるところなんですけれども，幼稚園の子どもたちは，牛乳はしょっちゅう飲んでるんですけれども，牛乳というのはどこから出てくるか知らないんですねぇ。なんか突然，牛乳ができるように思ってるんですけど，ちゃんと牛のおっぱいから搾られるというのを体験しようかということで，乳搾りをやらせるところがあります。

自分たちで実際にお乳を搾って，牛乳というのはこうやって出て来るんだよということを体験するんですね。子どもたちは勿論，なんか最近では若いお母さんたちからも，「えっ，牛乳は本当に牛のおっぱいですか?」っていう人があるらしいですよ(笑)。牛乳は，工場でつくられると思ってるような人がいるらしくって，こういう体験も動物園でしていかなきゃいけないのかなっていう気がしてるとこです。

あと，まとめというか，日頃自分がちょっと心がけているようなことを，お話して終わりたいと思いますが。やはり，この博物館にいるということは，自分の学芸員としての立場を守るということもあるんですが，より多くの方々と交流をして，双方交流の場をもっていくように心がけています。時間があれば，なるべく各地の動物園だとか博物館施設をまわって，日頃自分ではわからないことを教えていただく，そんなことを続けていきたいと思ってます。

それから動物園なんか特に，いろんな動物園ファンという方がたくさんおみえになりますので，子どもからお年寄りまでいろんな方がみえるんですが，そんな方々とのお付き合いを，長いお付き合い含めて，ずっとしていけたらって思っています。結構動物園というところは，なんか心のよりどころというか，ときどき精神的にイライラしたりすると，動物を見に来ると楽になるとか，そういうことで結構みえる方があるもんですから，そういう方のお話を聞いてあげるというのも，非常に大事なことだと思っています。ヒトの心の治療も必要なんです。

それから，歴史をたどるためには何か記録を残しておかなければいけないので，記録写真を撮るということで，極力何かあるというときにはカメラを持ってその辺を走りまわっています。

それと私は，みなさん方のように，何が専門という学芸員でもないもんですから，いろんな方の質問に答えられるように，なるべく情報を浅く広く得ようということで，情報網をなんとか張り巡らして，本当は深く追求すれば越したことはないんですが，なかなかそこまでいかないので，浅く広く情報を収集することを心がけています。

それといろんな方から電話での問い合わせなどがあって，お答えはするんですけれどもなかなか専門以外のことはわからないので，そういったことは無理に答えないで，専門家に素直にお渡しするということで，こういった情報は誰に聞けばいいよとか，そういうことがすぐにお答えできるような日頃の自分の素地をつくっておきたいと思ってます。知ったかぶりをしないで，必要なことはそれぞれの専門家にお任せしたらどうかなっていう気がしております。

そんなわけで，博物館というのはやはり，人とモノを結びつける非常に大切な場所だと思っているんですが，われわれ学芸員というのはそういった人とモノの間に立って，人とモノを結びつける大事な役割を果たさなければいけないと思っていますので，私はモンキーセンターという動物園の中でサルと人との通訳をこれからもずっとつとめて，後何年続くかわかりませんけれども，できる限り続けていきたいと思っています。

なんか体験というか，あまりまとまりのない，しょうもない話になってしまいましたが，とりあえずモンキーセンターの活動をお話して終わりたいと思います。

学芸員奮闘記

～悪戦苦闘!!～私たちのン10年～

内藤記念くすり博物館
野尻　佳与子

1. はじめに

みなさまこんにちは。内藤記念くすり博物館の野尻佳与子です。

私は平成元年からくすり博物館に勤務しております。そこで10年目の節目を目前に控え，これまで博物館で奮闘してきたことについてお話させていただくことになりました。諸先輩方を前に私の拙い奮闘話を申し上げることはお恥ずかしい限りですが，当館の博物館業務の方法や運営の実際をお聞きいただき，ご指摘やアドバイスをいただけましたら，私自身にとってもそしてくすり博物館の今後のためにもよいのではないかという思いで，お話を進めさせていただくこととします。

最初に簡単な自己紹介から始めさせていただきます。私の勤務するくすり博物館は，お手元にお配りしましたパンフレットから，その概要をお察しいただけることと思いますが，27年前にエーザイ(株)の設立により開館しました。薬業と医療の歴史的な展示をおこなうとともに敷地内では600種類の植物がご覧いただける薬草園も併設しています。

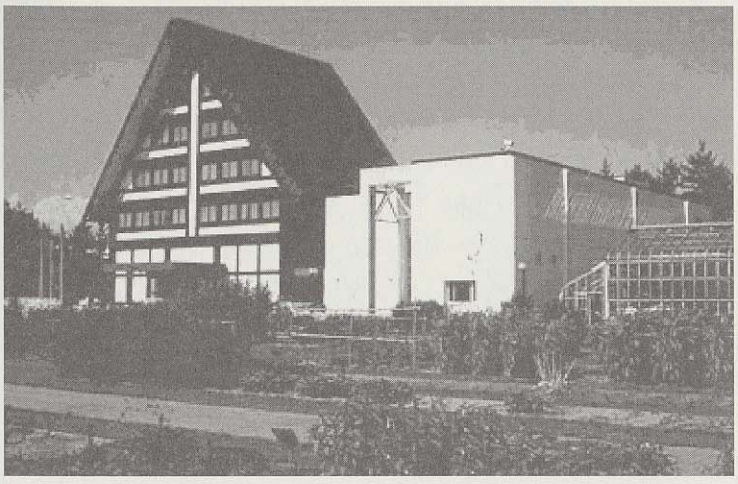
開館当時(1971年)には，医療やくすりをテーマにした博物館が日本にありませんでした。そのため日本全国の方々，特に業界関係者から注目をいただくこととなりました。そうした背景によって，博物館資料の収集にあたっては全国から医療や薬業など関連分野の資料のご寄贈をいただくことができ，現在でも随時，資料の寄贈があります。常に寄贈資料は積極的に収集･登録し，それをできるだけ展示に活かす工夫をしております。

そのため，現在の収蔵資料数は５万点に及びます。医薬を中心とした収蔵資料が多いため，企画展示は当館の収蔵している資料を系統づけて開催する企画が中心で，他館から資料を借用しておこなう企画展というのは，現在のところほとんどおこなっていません。ただし他館貸出は，その依頼内容に応じて協力していますので，ご希望の館がありましたらおっしゃってください。また，共同企画や合同展については当館でも検討していく必要があると考えています。

以上，くすり博物館について簡単な紹介をしましたが，まず第一の運営方針としては，博物館の運営上において，企業のPRや企業色というものは一切なく，日本国内の薬業資料収集保存と医薬業界全般の歴史を紹介する活動を行なっています。

こうした“薬”というテーマを扱っている性質上，私ども学芸員の専門は薬学あるいは理科系なのか，もしくは歴史などの専門なのかと思われがちなのですが，私自身の場合は文学部図書館情報学科です。特に最近の博物館においては，資料情報のデータベース化や図書資料などから得られる二次的情報の重要度が増し，博物館内図書室の充実や資料情報のデーターベース化をする必要が高まってきております。ですからそういった点では，できるだけ専門を生かして業務を進めていきたいと私は考えています。パソコンを利用した資料管理については，後ほどお話しさせていただくこととしますが，資料情報はパソコンのデータベースで管理しています。

そんな中で，私が主として担当しております業務についてですが，最初の４年間は図書資料及び図書室を担当しておりました。その後１年間は資料の登録管理を担当し，３年間普



内藤記念くすり博物館外観

及・展示の担当，そして１月より再び図書業務を中心におこなっております。しかしこれはあくまでも主担当であり，その業務の担当責任者です。少人数体勢で館を運営しているくすり博物館ですから，すべての博物館業務全般に各学芸員が重複して遂行しなければ業務はこなしていけません。それはみなさまの博物館でもきっと同じことでしょうね。

そこで本日は，図書関係業務，情報システムにまつわる諸業務を中心に話を進めさせていただこうと思います。今回のお話をいただいたときに，「普及活動のお話などでも…」ということでしたので，みなさまのお手元にお配りした資料の中には，“普及活動”としてその項目をとりあげてみましたが，みなさまの博物館では，もっと活発な活動をなさっていらっしゃるでしょうし，ここでお話申し上げるほど特色的な活動というほどのものでもありません。ただ，特色的なことと言えば職員の手づくりであること，薬草をテーマにした内容が多いことでしょうか。植物画と夏休み子供教室は10年以上，企画が続いております，ということでしょうか。それでは別紙(資料１)の「報告するテーマ」にしたがいましてお話を進めさせていただきます。

2. レファレンス活動

＜レファレンスサービスについて＞

はじめに，内藤記念くすり博物館でのレファレンスサービスについて紹介させていただこうと思います。

どの博物館でも，見学者からの質問に対しては，ごく自然に対応していらっしゃることと思います。情報提供サービスの１つとして，レファレンスサービスまたは参考業務とよばれる問い合わせ対応業務があります。一般的な普及活動や展示が誰にもにぴったりとあう既成品であるならば，こちらはオーダーメードの情報提供サービスとでも申しましょうか，より具体的な事柄についての情報の提供になろうかと思います。そこで，そのレファレンスサービスについてですが，どんな博物館であっても，利用者からの質問や疑問が寄せられない博物館はないと思います。たとえ見学者の立場から展示室が構成され，すべての点において満足がいくような解説が添えられていたとしても見学者は個々の疑問をもつものではないでしょうか。

そこで，そうした意識を持った際に，博物館側には，見学者がその問題を解決するための対応や調べるための方法が，博物館で用意できているか，ということを考えました。図書館の場合，カウンターにレファレンスコーナーが用意されていたり，専任の参考業務担当者が待機していたりします。しかし，一般的に博物館においては，レファレンス業務に対する意識は希薄なようです。

＜過去の記録からわかったこと＞

そこで，くすり博物館では，利用者の質問がどういった分野に対して多いのか，どのような情報を求めているのか，どういった事柄に興味をもっているのか，といったことを知る意味で，資料２の「レファレンス質問処理票」に，質問を受けた各学芸員が記録することにしました。過去1993年から1996年度までの統計をまとめてみたのが，資料３，４の「内藤記念くすり博物館における1993年度から1996年度までのレファレンス集計表」です。４年間のレファレンス記録を集計してみましたところ，くすり博物館に求めている情報や，館の特色が現れています。

まず具体的な回答となる情報を求めて，質問を寄せる依頼方法としては，電話と文書によるものが圧倒的に多く，いきなり疑問の解決のために博物館へ来館し，学芸員に質問を投げかけるという例は少ないという結果が明らかになりました。当館の場合は，遠方からの依頼者が多くて博物館への来館が困難だということも理由の１つでしょうが，情報源の所在を確認してから，改めて博物館を訪れるケースが存在します。質問者自らの調査によって，それなりの研究をおこなっている場合，手紙文書などを介しての込み入った質問が多く，その調査の着眼点にこちらが興味を覚えるという例も少なくありません。

その反面，見学者との会話からの直接的な

2.レファレンス活動

◎レファレンス・サービスについて
◎過去の記録からわかったこと（93年度～96年）
※資料 1：レファレンス質問処理票
※資料3,4：集計データ
◎注意を要する質問とその回答
◎よりよいサービスのために

質問では，展示室を見学した際に生じた一般的な質問によって，学芸員が何度も同じ質問を受ける例が多かったです。そこでこうした結果は，館内展示における不充分さと認識し，説明キャプションや解説パネルなどに情報を追加したり，新たな展示コーナーを設けるなど，他の見学者からも喜ばれるような展示となるような工夫をしています。

寄せられた質問の内容は，大まかな分類方法として，＜利用案内＞＜所在調査＞＜事実調査＞の３つに分けてみました。その結果，全体の約80%は事実調査によるものです。比較的即答の可能な利用案内や所在調査は，記録として残りにくかったという理由もあるように思われますが，＜事実調査＞の質問をさらに細かく見てみますと，利用者が当館に求めている情報と当館の特色が明らかになりました。その結果，全体の半分近くを占める44%が薬に関する質問であり，24%が薬や病に関する民俗学や風俗などの周辺事項，10%が薬や医学に関連した人々や地域に関する質問であることがわかりました。こうした結果はほぼ予想通りでしたが，薬とその周辺分野に関する情報を含めると，事実調査の内のさらに８割強が薬に関する問い合わせです。植物や薬草についての質問は，来館者からの質問を野外の薬草園で口頭にて敏速に処理してしまい，記録として残していないものも多く，実際の数よりも少なく記録されていると思われますし，健康問題に関しては，質問を聞いた時点で「健康に関してのご相談は，かかりつけの医師や薬剤師にお願いします」としたり，最新の薬学や医学に関する質問には，大学や研究機関など最新の学術機関などに問い合わせることを勧めました。このような記録にない質問も含めますと，その実数は薬に関する質問の割合がさらに増えると思われますが，薬に関する歴史とその周辺分野が全体の半数以上を占めています。

＜制限している情報提供＞

中には，対応を慎重にしなければならない質問もあります。当館の場合は医療や薬の専門博物館であるという特徴ゆえに，健康問題に関する質問が多く，慎重な対応を必要とする場合があります。

医療相談に関する質問は多いです。自分自身や家族の問題として「糖尿病に良い薬(または薬草)はないですか？どの薬草を飲んだらよいですか？」などというような類の質問です。このような健康相談と，法律相談，人生相談，そして将来の予測に関わるようなこと，価値判断についての質問には，基本的にはお答えしないことにしています。最後の価値判断に関する質問というのは，みなさまの博物館でも多い質問だと思いますが，価値があると思われる資料を持参されて「これは価値のあるものですか？」とか「貴重なものですか？」などと聞かれ，こちらが「珍しいものですね」とか「貴重なものですね」「○△時代のものですね」などとお答えしたところ，単刀直入に「では金銭的にお幾らぐらいのものなのでしょうか？」などという質問があります。

そこで，自分自身や家族や健康問題ならば医師や薬剤師に，法律問題なら弁護士に，といった専門家にご相談することをお勧めしています。しかし，資料の価値判断については，図書館とは異なり専門機関としての意見を求められることもあります。したがって，学問的な見地でお答えできる範囲内での回答はしていますが，金銭的な回答はしないという方針でおこなうことにしています。

なお，こうした問題については「JLA公立図書館部会参考業務参考事務部会『参考事務規程』」の注意事項の中で，回答を与えてはならないとともに，資料の提供も慎重でなければならない，但し場合によっては専門家を紹介する質問として，医療・健康相談／法律相談／身上相談／仮定または将来の予想に関する問題／が取り上げられています。また，同様の注意事項として「国立国会図書館『利用規則』」でも，／国家機密および公表を禁じられた事項の調査／古文書·古書·美術品などの鑑定／学習課題，卒業論文又は懸賞の問題／人生案内又は身上相談／法律相談／についての回答制限が取り上げられています。

博物館でも，図書館におけるレファレンス・サービスと同様，回答に対しての注意が必要となる場合もあるのではないでしょうか。

＜よりよい利用者サービスのために＞

こうしたレファレンスサービスの内容をまとめてみて感じたことは，博物館内における図書室の機能は，利用者サービスという観点

3.博物館内の附属図書室について

◎附属図書室について
・博物館本館4階，6階部分が図書室。
・図書資料3万点をNDC分類で登録して配架。

◎一般利用希望者にも開放
・学芸員の展示及び調査研究のための参考資料だけではない。
・利用者自らが利用できる開かれた専門図書館。
・和装本の閲覧も可能。
・貸出し・コピーサービスもあり。

◎コンピュータ目録
分類はNDC。書名・著者名・出版社・出版年・寄贈者・入手年など複数の項目から検索が可能。

◎図書館建設の計画
現在の図書室はすでに手狭状態。博物館開館当初からの計画もあり，別棟には図書館を建設する計画がある。

でも，重要だということです。当館は医薬の専門博物館であるために，特に情報源となる図書資料の必要性を痛感するのかもしれませんが，博物館がテーマとしている分野の専門書が，利用者の要求に対しても開かれているということは，利用者が博物館で得ることができる情報量の深さに繋がるのではないでしょうか。博物館講座や講習会といった特定の講師や学芸員による勉強会も普及活動の１つとして最近ではよく開かれてはいますが，個々の利用者が個々の知りたいテーマに合わせて，独自に知ることができる利用者サービス，それが博物館内図書室です。利用者の疑問や興味は千差万別です。日本全国から，医療や薬業の歴史については，所蔵資料に関する質問だけでなく，事実調査など具体的な質問が多く寄せられます。できるだけ個々の期待に応えたいものです。

3. 博物館内の附属図書室について

そこで，くすり博物館の附属図書室について紹介したいと思います。ただいま，述べたレファレンスサービスに関することから，博物館内の附属図書室の必要性がご理解いただけたのではないでしょうか。私どもの博物館では，開かれた図書室の存在が重要だと考えています。現在図書室には，医薬史の研究資料を中心に約３万点(５万冊)の図書があり，博物館の開館時間中，開放しています。貸出やコピーサービスもおこなっており，希望者はどなたでも利用可能です。詳しい利用案内については資料５の通りとなっていますし，蔵書の分類については資料６をご覧ください。専門図書館では独自の分類法を作成している機関が多いようですが，当館ではNDC分類を使用しています。別紙資料(資料６)をご覧いただくと，蔵書の傾向がよくおわかりいただけるかと思いますが，490～499.9までの医学と薬学の細分化は小数点以下４桁まで分かれおり，こうした分野の図書を中心とした蔵書構成になっています。

館内のスペースとしては本館の４階と６階の部分を図書室として利用しています。年間300名ほどの利用があり，150件ほどの貸出しおよびコピーサービスの要望があり，博物館の学芸業務と兼務で対応しています。現在，図書室専任の職員がおりませんので，私が他の博物館業務で外せないときや休日の日の対応は，他の学芸員に対応してもらったり，学芸員は利用希望があれば，他の業務を中断して対応しなければならないという状況です。

なお，将来的には，博物館の北側の用地に附属図書館を設置する計画があります。医薬学、特にその歴史分野を中心とした専門図書館です。現在の場所では図書の配架スペースも不足気味で非常に苦しい状況に置かれておりますので，できるだけ早い時期での増築をくすり博物館では計画しています。今のところまだ具体的な建設の見通しがついていませんが，将来的にはさらに充実した図書館として，理想的な利用者サービスができると思います。

4. インターネットの活用

最近，各種のメディアを通してよく耳にする言葉にインターネットがあります。世間一般でもインターネットに関する情報は氾濫していますが，「博物館」というテーマの中でインターネットを考えたとき，博物館の情報発信及び収集という点では非常に有効な手段です。私も自宅では1996年の４月より，博物館では1996年12月より，インターネットを通じて博物館に関する情報の入手をおこなっています。既にご利用の方もいらっしゃるかと思いますが，その有用的な利用についてご紹介させていただこうと思います。

＜博物館の公式ホームページについて＞

既に最近では多くの博物館が公式のホームページを開設します。みなさまの博物館でも既におこなっていらっしゃったり，他館のホームページをご覧になられて，こうした現状をご存知の方が多いことと思います。

公式ホームページを拝見しますと，パンフレットとほぼ同じような情報を掲載している博物館が大半です。しかし中にはホームページならではの情報を盛り込んだホームページも増えてきているようです。インターネット世界の特徴として，情報の発信者とその情報を見た受信者との交流がおこなわれやすいインタラクティブ(相互性)があげられます。こうした特徴を積極的に取り入れているホームページは，まだ少ないようですが，学芸員と利用者同士がホームページを介して意見交換したり(伝言板)，催事や教室などの案内や応募をしたり(メール送受信)，関連するホームページや他の博物館に利用者を案内したり(リンク)，どのページに興味をもって見た人が多いのかを後日調べる(アクセス回数チェック)こともインターネット上では簡単にできます。

ホームページとは，各博物館が発行する「博物館だより(博物館通信)」などとも似ていますが，少々異なる部分があります。発行部数やページ数に制限がなく，技術と手間と時間さえかけて発信すればキリがない世界です。今現在の博物館活動だけでも雑務が多く忙しくてかなわないという博物館の学芸員が多いのですから，ホームページは制作業者へ依頼して作成してもらい，博物館の概要(パンフレット程度)と企画展の開催案内などを，ときどき更新する程度のホームページが多いのが博物館の公式ホームページの現状だと思います。

当くすり博物館においても，ホームページまで学芸員が手間暇をかけて時間を費やすことができないために(いいわけ？)現在は外注しています。理想としては学芸員自らが「博物館だより」を制作するようにホームページに情報をどんどん追加していき，相互性のあるホームページができれば，博物館のホームページはもっと面白い内容になると思います。しかしながら，当くすり博物館ではできるだけ最新情報の更新をして，企画展・催事・説明会などの案内や情報を掲載するようにしていますし，将来的には収蔵資料や図書の情報データベースを公開したいと考えています。

これから博物館の公式ホームページを開設するという博物館の方も，まずはパンフレット程度の簡易な情報ページからでも，どんどん公開していただきたいと思います。博物館がホームページを開くことに対して，支援してくださっている活動が，その名も「博物館にホームページを！」というホームページです。東海大学博物館社会教育センター所属の柴正博さんと石橋忠信さんの活動があります。お２人はインターネットを通じた博物館職員間の情報交流にも積極的で，博物館メーリングリストの運営(後ほど説明)もされています。このメーリングリストの紹介は，後程させていただきたいと思います。

＜博物館関連ホームページについて＞

以上ここまでは，各博物館の公式ホームページについての概要をお話しましたが，個々の博物館の公式ホームページだけではなく，博物館が加盟している機関や団体，さらに博物館に興味をもっている人々や企業や団体が独自に開設している博物館関連のホームページというのも多く存在します。主なものを資料７のリストにあげておきましたので，興味のある方は一度ご覧になってみてください。資料７を上から順番に紹介していきますと…。

現在“日本博物館協会”がホームページをたちあげる準備をされているようです。アドレスも決まっていて制作中ということですから，この１ヶ月以内でアクセスできるように

3 NOJIRI KAYOKO

4.インターネットの活用

◎博物館の公式ホームページについて
・パンフレット程度の情報提供ページ
・所蔵品の情報データベースなども公開
・バーチャルミュージアム
参考：内藤記念くすり博物館
＜http:www.eisai.co.jp/museum/＞

◎博物館関連ホームページについて
・日本博物館協会/全国科学博物館協会などのページ
・企業や個人が発進する博物館情報ページ

◎共通様式による博物館資料情報のデータベース
・文化庁（国立東京博物館系）
博物館共通索引システムデータベース
・全科協（国立科学博物館系）標本資料データベースの標準化

◎博物館関係者の交流の場として
ML（メーリングリスト）
・各館及び博物館共通の諸問題について気軽に語り合うなど，情報交換として有効なシステム

なるでしょう。おそらく組織的には，ここが日本中の各博物館のホームページとリンクして，日本全体の博物館に関する全体の概要や情報を発信していくことになるのだろうと思います。そして“全国科学博物館協会”では，既に以前から加盟館全部の概要をリンクではなく，ホームページをサーバー内に作成して掲載し，既にホームページを開設している博物館についてはそこからさらにリンクするというようなホームページを公開しています。また，各都道府県の博物館協会でも，それぞれに加盟館の案内やリンクをおこなっているようで，そうした動向は各博物館協会ごとによってまちまちです。

さて，企業や個人が発信する博物館関連のホームページとしては，丹青社の「インターネットミュージアム」が，充実した博物館情報ページを発信しています。それから「博物館にホームページを！」や「日本の企業博物館」「ＵＲＬ収蔵庫」「博物館情報」「博物館の博物館」などは博物館に興味を持っている個人や，博物館で働いている職員が，個人的に発信しています。こうしたホームページは，博物館の公式ホームページとはまた異なり，非常に面白いというような状況もあるようです。

なお，このリスト(資料７)の一番下は蛇足でしたが「博物館に出かけよう！」というホームページは，私が公開しているものです(資料８)。興味本位で，私も個人のホームページを作ってみたい，という思いだけではじめたもので，最初は博物館に関するホームページにするつもりではなかったのですが，仕事好き(博物館好き)が興じまして，結局は「博物館に出かけよう！」などと題した博物館に関連するホームページになってしまいました。こうした経験は，くすり博物館の公式ホームページなどで，今後生かしてみたいと思います。

5.データベースについて

◎博物館資料の管理データベース
・登録資料約5万点余りは入力済み。
◎博物館図書の管理データベース
・登録図書約3万点余りは入力済み。
・和装本2万点余りの目録作業を進行中。
◎説明キャプションのデータベース
◎レファレンス記録
◎資料の貸出記録
◎博物館関係者の住所管理
◎今後の課題として
・画像情報の入力
・来館者への所蔵資料情報の公開
・インターネットでの所蔵資料情報の公開

＜共通様式による博物館資料情報のデータベース＞

現在，文化庁と国立東京博物館の方が中心となって基本構想づくりをおこなっているものとして，「博物館共通索引システムデータベース」というものがあります。そして全国科学博物館協議会と国立科学博物館の方が中心となって試みている構想として「標本資料データベースの標準化」という計画があるようです。多分みなさんの博物館の方にも案内文書が届いていると思うのですが，日本でも全国の各博物館が合同で資料情報の共通データベースをつくるという動きがあるようです。

私はそれぞれの進行状況や，詳細を知っているわけではありませんが，各博物館や資料館などが所蔵する資料情報を，共通索引の設定とか標準化をすることによって，共通したデータベースとして利用できないかという構想のようです。確かに，情報技術の発達とともにこうしたことも可能となるでしょう。前者の計画は人文歴史系の資料データベースであるのに対して，後者のデータベース計画は科学系の資料データベースのようです。両方の計画とも各博物館の連携が図れ計画が上手く進めば，非常に有用なシステムとなることでしょう。しかし，各博物館間の協力と資料情報の標準化(共通化)という問題は，非常に難しいと思います。しかし完成すれば非常に有用なデータベースシステムとなるはずですから，できる限りの協力をしていきたいと考えます。

＜博物館関係者の交流の場としてメーリングリスト＞

さて，とりとめのないお話が続いておりますが，お手元にお配りした資料にお勧めの博物館関連情報のアドレスを記載しましたが，中でも博物館ＭＬ(メーリングリスト)への参加はお勧めです。ここでＭＬといきなり申し上げてもご理解しづらいかもしれませんが，共通テーマについて，発信者が意見(情報)を書いたメールを，既に登録された参加者のアドレスへ一括してメールが送信されることによって意見交換し合うシステムです。これは，インターネットニュースやパソコン通信のフォーラムとも似たシステムで指定されたアドレスへのメールのやりとりによって仕組みが成り立っています。Museum Mailing List(省略してMML)では「博物館」という共通テーマ

を介して，会員同士がざっくばらんな意見交換をしています。ある参加者曰く，“居酒屋モード”ということですので，みなさまも気軽に参加してみてください。所属や実名での参加が基本でモラルを守って参加しながらも，実際の面識がないためか，年齢や社会的な立場や上下関係を気にせず本音で意見を語り合えるという点において，理想的な交流ができる場合もあります。なおこのＭＬは，先程申し上げました「博物館にホームページを！」という活動を運営していらっしゃる柴さんと石橋さんがサーバーを管理し，事務局として運営して下さっているＭＬです。

そしてまもなく，別のサイトのインターネットミュージアム(丹青社)でも，Museum Communication Network(省略してＭＣＮ)という２つめの博物館ＭＬを開設するようです。参加者が増えれば増えるほど活発で実のある意見や論議，情報交換ができること思います。興味を持たれた方はぜひ参加してみてはいかがでしょうか。

5. 所蔵資料情報などのデータベースについて

ここまでは，博物館におけるインターネットの活用ということで，外部との情報交流という点を中心にしてお話を進めてきました。しかし，博物館とコンピュータ利用を考えた時，最も基本的な利用方法としては，自らの博物館が収蔵する所蔵資料の管理データベースの登録とその活用だろうと思います。

くすり博物館の場合は，13年ほど前から，博物館所蔵資料のデータを１件ずつコツコツと学芸職員が１台のパソコンのハードディスクに入力してきました。現在は，蓄積した約５万件の資料管理データベースから，必要とする資料管理データの検索を瞬時におこなうことができます。

この資料情報のデータベースシステムについては，最近では費用さえかければ博物館業務専用の便利なシステムソフトも各種販売されていますし，データ入力もおこなっていただけるようですね。しかし当館の場合は，博物館資料管理のソフトはMS-ACCESSという最も基本的なデータベースソフトを導入し，当館で使いやすいように私が設計したものを使っています。１つのデータベースの中に博物館の所蔵資料目録(５万件)，それから所蔵図書目録(３万件)の情報が入っています。

そしてさらに，展示室の説明キャプションの情報も入れてしまおうということで，資料の解説内容の情報は２年前より入力を開始しました。それ以前はワープロによる編集で印刷し，作成した各職員のフロッピーディスクに保存されているだけで，博物館としてのデータの蓄積はおこなわれていませんでした。しかし２年前からは，サーバー内のデータベースに各々の学芸員が追加していくことによって，将来再び利用できる資料解説の情報も増やしていくという考え方です。

資料７は説明キャプションの登録用画面です。ACCESSのForm機能を使用してつくりました。各登録項目として，タイトル・よみ・説明・展示場所…など。というようなフィールドを設けまして，それぞれに入力していく仕組みです。そして将来的には，画像の入力をおこない，個々の資料の画像を見ることができるようなシステムを考えています。しかし現在は画像入力まではおこなっていません。画像入力作業には手間と時間を要します。また，蓄積したデータ容量も膨大な容量になることが推定されます。設備面・技術面で検討した上で効率よく利用できるシステムづくりが重要でしょう。ですから，まずは学芸員だけでできることからとりあえずは始めていこうということで，このようなオリジナルシステムを作成し，利用しながら，さらにシステム更新も考えていきたいと思います。

以上，とりとめのないお話になりましたが，私は来年度10年目の学芸員生活を迎えます。博物館における情報システムの活用，開かれた博物館附属図書館の建設などを今後の目標としながら，これからもくすり博物館で奮闘していきたいと思います。この度の機会では，みなさまに奮闘話を聞いていただき，ご指導やアドバイスをいただく機会を設けていただけましたことに，心よりお礼申し上げたいと思います。後程，ご意見，手厳しいご感想などもお待ち申し上げますのでよろしくお願いいたします。ご静聴ありがとうございました。

4 NOJIRI KAYOKO

●PROFILE
NOJIRI KAYOKO　野尻　佳与子
内藤記念くすり博物館
研究テーマ●薬史学，医史学，図書館情報学
担当●図書室，情報システム
趣味●ガーデニング，パソコン

学芸員奮闘記

～悪戦苦闘!!～私たちのン10年～

鳳来寺山自然科学博物館
加藤　貞亨

ただいまご紹介いただきました加藤と申します。鳳来町という愛知県の東の端の山の中からまいりました。私も博物館に勤めはじめて，今年で10年ということで，久保さんから依頼がありまして，このような場所で話をする羽目になってしまいました。

30分というお時間をいただき，うまくこなせるか非常に心配ですが頑張ってやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

食事の後で，血液が胃の方にいっていると思います。眠たい方はちょうどいいチャンスですので，この時間をぜひ利用してください。

鳳来寺山自然科学博物館と名物館長との出合い

実は私は最初から博物館に勤めていたわけでなくて，電子部品の会社に就職しまして，東京で営業をしていました。そこでは，やれ受注だ，納期だ，品質だ，あるいは価格競争だという世界に浸っていました。

帰宅は毎日深夜で，寝る時間も惜しんで仕事をしていました。仕事帰りにセブンイレブンでお弁当を買って，お風呂の湯に浮かべて暖め，食べながら入浴するという，わびしくも実に無駄のない生活をしていました。

そのような暮らしを５年ほどしていたわけですが，突然故郷での就職の話が飛び込んできました。厳しい業界でしたが，おもしろさも感じていたので躊躇しましたが，決心をして故郷にもどってくることにしました。

それが鳳来町立の鳳来寺山自然科学博物館だったわけです。

博物館というところに入りまして，はじめて学芸員という職があるというのを知り，それから紆余曲折の中で学芸員資格を取って現在に至っています。

就職したときは今の館長から数えて２代前の人で，地元では有名な館長さんでした。厳しい状況の中で館をもり立て，苦労された名物館長でして，毎日毎日，いろいろな話を聞かされました。

その１つに，われわれは役場の職員（教育委員会）なわけですが，博物館は役場で使いものにならん者が来るところなのだと言うのです。ですから博物館への配属は誰もが嫌がる，いわば「役場職員の姥捨山」というわけです。

意を決して転職したところがそういうふうに言われている職場でありまして，いきなり憂鬱な毎日でした。

さらに出鼻をくじくのに有効だったのは，朝一番の仕事が叱声から始まるということでした。掃除の仕方が悪いだとか，何をしたらいいのかわからなかったり，何かやろうとすると学校で何を学んできたのか，今まで何やってたんだ，というようなことから始まりまして，なぜ叱られるのか理解できない場面も多く，悶々とした毎日でした。

学生時代に武道の格闘技をやっていまして，蹴られたり，殴られたりとかは耐えられるのですが，言葉のパンチは今までにあまり経験がなく，生まれてこのかた聞いたことのない罵詈雑言は，私には非常にショックでした。

本当は，中途採用でしかも博物館のことを全く知らない自分を，短期間でなんとか使いものになる職員にしてやりたいとの館長の厳愛であったのですが，低次元な私は，今さらもう転職はできないし，いつか見返してやるぞという気持ちで，自らが決めた職場で勝負することにしたわけです。

友の会の育成で博物館も自分も元気になれる

いずれにしても10年間は押忍の精神で頑張ろう，というふうに思い直して勤務を続けました。朝叱られることから始まった仕事ですが，最初に手がけるように言われたのが，友の会の面倒をみろということでした。

レジュメに下手くそな絵が描いてあるのですが，これが記念すべき私の初仕事の成果でして「博物館だより」第１号です。情けないことにこれができるまでに約１週間かかりました。毎日書いては突き返され，また書き直し，そういうことを来る日も来る日もやっていました。当時は年間無休で開館していましたので時間はたっぷりありました。当然自分の休みはどんどんなくなってしまいます。幼稚な内容のたよりを何度も何度も書き直しこねくりまわすのみで，いっこうにＯＫがもらえず，いつまでたっても完成しないというありさまでした。今思うと恥ずかしいばかりです。

ただし，そればかりやっていたわけでもありません。うちの博物館は野外学習会も年間９回実施していまして，特別展も年間２回か

ら３回は開催しています。

当然われわれ常勤の職員だけでは対応できるものではなく，外部のそれぞれの専門の知識をもった講師の方に指導してもらいます。われわれはそれのお膳立てをしたり，お手伝いをするということになります。

私にとってこの野外学習会が唯一ホッとでき，解放感にひたれる場でした。学習会に参加する人は，うちの博物館がどんな暗い職場だということも知らないですし，非常に楽しみにして集まってみえるわけです。外部の先生方（鳳来寺山自然科学博物館学術委員）と会って直にいろいろと教わったり，受講者と一緒になって話を聞いたり，学習会の事前準備をしたりとかは，本当に楽しい時間でした。

わたしにとって野外学習会というのは，館長の呪縛から解放されるオアシスでした。当時，先生方も博物館の実状というのを知ってみえたものですから，いろいろ励ましてくれました。そんなこともあって，なんとか辞めずに来れたんじゃないかとも思っています。実は私の前にいた職員は半年で退職してしまっていたのでした。

それで，先程友の会の育成ということから取り組み始めたという話をしました。当館の友の会というのは昭和51年に発足していまして，私が勤め始めた昭和63年にはすでに12年経っていました。その当時の会員数は90名という低調な状況でした。

大勢の人が寄りつくようなところは博物館も活気づくし，自分も元気になるだろうということで，とにかく会員を増やすことから取り組みました。最初は無理矢理だったのですが役場の職員を勧誘したり，窓口でＰＲをしたり，学習会にみえた人にお願いして会員になってもらうことから始めました。

入会してもらう以上，それなりのメリットがなければ申し訳ありません。そこで実践したことの１つは，友の会員の証となる会員証をつくることでした。会員証をもつことによって仲間意識が生まれたり，特典が受けられたりして，博物館に来る楽しみや鳳来寺山自然科学博物館友の会の会員なんだという特別な意識が生まれてくるだろう，ということで全員に発行することにしました。

レジュメに会員証のコピーを付けておきましたが，実物はこういう簡単なものです。裏面側が参加証という形にしてありますが，学習会に出席するとスタンプを押してあげられるようにしてあります。

会員の推移ですが，昭和63年に担当を始めまして，なんとか会員を増やそうということでやってきました。そして，少しずつ会員の人数も増えてきまして，学習会の方もそれまでさみしかったのですが，会員が増えるにつれて参加者もどんどん増えてきたという状況です。

それから，友の会の運営というのはほとんど博物館の職員がしてきているわけですが，なん

1 KATO SADAMICHI



博物館だより第1号

とか組織化して自分たちで運営ができるような形にもっていきたいということで，会長の人選をしたり，組織づくりを始めました。

いろいろなところで調べますと，やはり退職した学校の校長先生とか地域の有力者などが会長になったりしているようでした。しかし，うちの場合は肩書きとかそういうことではなく，本当に博物館が好きで，会や会員のことを考えてくれる人に役員をやってもらうということにしました。総会も会報も今までなかったのですが，年に1回は総会を開催し，会報もつくっていこうということで，会員のみなさんから原稿を集めたり，職員も書いたりして2年前にやっと発刊にこぎつけることができました。

野外学習会は和気あいあいと，親子で楽しく学ぼう

野外学習会を実施していると言いましたが，和気あいあいと，しかも親子で楽しく学べるような雰囲気づくりをしていこうということで，会員の方にも積極的に呼びかけて，参加する人も教える人も楽しく，喜びがあるようなものにしようと心掛けてきました。

もちろん講師は私たちではないのですが，私なりにできることも何かあるだろうと考えました。専門的なテキストを用意しても，きっと読んでもらえないだろうし，自分がわからないことは参加する人にもきっとわからないだろうということで，自分の理解できる範囲で，幼稚でもいいから独自なテキストというか，資料を毎回つくって用意することにしました。

本当に幼稚なんですが，手づくりテキストは参加者には喜ばれました。また，先程も言いましたように，会員証に参加証をくっつけて，学習会に参加した人は出席印を押してあげることにしました。

その出席印は消しゴムでつくったものなんですが，これが子どもにとってはうれしいらしくて，それを楽しみに，講師の話は聞いてないけれども，終了時に押される出席印だけは押してもらいたくて，欠かさず毎回参加するような人がだんだんと増えてきました。

年間9回の学習会に全て出ますと，最後のマスところにパーフェクト印が押され，次の友の会総会の際に，館長から表彰状と記念品をもらえることにしました。

今まで学校で賞状をもらったことなど1度もなかったけれども，博物館の館長さんから賞状をもらえたということで，小さな子どもから大人まで，とても喜んでくれます。

また，それを目指してお父さんやお母さんまで巻き込んで，連れてきてもらって一緒に参加するという子どもがだんだんと増えてきました。親子や家族で楽しく，目的をもって参加するということに一役買ったのではないかなと思います。



会員証

博物館は窓口できっぷ売って，他になにしてるの

私たちのような田舎の博物館ですと，町民の方の博物館職員に対する印象というのは概ね「いらっしゃいませ」といって切符を渡して，あとはお茶を飲んでいると思っているようです。まずはその認識を変えてもらわなきゃいけないし，遊んでるわけじゃないぞという思いもありまして，博物館の活動だとか，館のまわりの自然の出来事などをわかりやすく知ってもらう何かいい方法はないかというので始めたのがイラストと簡単な文章で構成した『はくぶつかんだより』です。

他館から送っていただく「博物館だより」はとても立派で，ちゃんとした印刷をして出されているものですから，私のところのようなものが「博物館だより」とよんでもいいものなのか少し不安になることもあるのですが，とにかく自分にできるものでやろうということで，今も続けています。

たとえば先程紹介しました第1号ですが，勤務を始めた年の4月の12日の発行だったと思います。それからずっと続けていまして，現在47号になっています。最初は友の会員と窓口だけで配っていたんですが，町の議員からこれを町の全戸（約4,200戸）に配ってくれというような要望もありまして，最近では博物館になかなか来れないようなおじいさんおばあさんも楽しみにしていてくれるようになってきました。

発行がいつというふうに決めてはいなくて，私がやる気がしたときだけ書く，ということでやっています。だいたい年間5回か6回を目指していますが，本当に気まぐれな発行で，今度はいつ出るんだと催促をされて，それか

らあわててペンを執るというのが実態です。

そうした中で，町の広報担当者から広報の1ページをあげるから博物館で何か書けというような話もありまして，昨年から実現したんですが「博物館フィールドノート」というタイトルで連載を始めました。これは館長と私と交代で，題材が続く限りということでやっています。こちらは書きたいときに書くというわけにいかなくて，2ヶ月に1度は執筆しなければならず，意外としんどいことですけれど実行し，博物館で切符だけ売ってるんじゃないぞということを訴えているというわけです。

また『豊川』というミニコミ誌がこちらの地方にありまして，自然に関することなら何でもいいから文章を書いていいというので「気まぐれ　きのこ　たんけん記」というキノコに関する話を書き始めました。これは毎月発行なので締切りが近づくたびに自分の首を締め上げるおそろしい連載です。これには，いろいろな野性キノコとの出会いなどを書き連ねていますが，こちらは仕事をしているというよりも，遊んでいるということを暴露してしまっているようなもので，逆効果になっているのではと，ちょっと心配です。

いずれにしましても，博物館でどんなことをしているのか，どういうことをしたい，みたいなことを発信する，自分なりの方法だととらえて実践しています。

もう1つは，これも気が向いたらつくる程度ですが，例えば鳳来寺山地質探検マップとか，登山絵図とか，モリアオガエルの話というようなものを，随時つくっては窓口でお配りしています。鳳来寺山に登山したり，鳳来町を観光する人の便宜を図るというような目的と，窓口での会話の道具にも使っています。

フィールドは我が町わが郷土

うちの博物館では専門的な知識をもった職員というのがいないものですから，外部の講師にお願いしているという話をしました。でも，ただそれだけではつまりません。自分も何か関わりたいという思いがずっとありまして，町の人たちも興味があるし，自分もたぶん好きだろうということで，9年前から秋に『きのこ展』というのを開催しています。

そこに指導に来ていただいた先生が非常にいい先生で，その人についてキノコをかじり始めています。

自分の足場というのは地元鳳来町なんだという思いの中で，『きのこ展』はぴったりだったようです。

展示のために採集にいったり，みなさんに展示を見てもらったりしているうちに，「みん

2 KATO SADAMICHI

広報ほうらい「博物館フィールドノート」



ミニコミ誌　豊川「きまぐれきのこたんけん記」



なキノコが好きなんだな」ということがわかりました。そういうことで，最近ではいろんなキノコをもってみえる方が本当に多くなりまして，昨年の展示会でも320種ほどを展示することができました。

それから，やはり鳳来寺山と言いますと，仏法僧ことコノハズクの鳴き声で有名なんですが，最近は聞けなくなったということで話題になります。しかし本当に鳴かなくなったのか自分の耳で確かめたくて，昨年から毎晩のように山に入って，生息調査をしています。そうこうしているうちに，仲間が増えてきて，生息調査や巣箱掛けというようなことで活動が広がってきました。

コノハズクのことは，ほんとうはあまりやりたくないのですが，鳳来寺山を後ろに控え周りからどうなんだということを聞かれると，職場の関係上，どうしてもわかりません，知りませんとは言えず，何かせざるをえないというのが本音です。

最後ですが，地元にしっかり足をつけて自分の歩幅で歩くように心掛けています。何かしら動いていれば自分なりに見えてくるものもあるでしょうし，人が集まり，賑やかなところは楽しく，新たな何かが生まれたり始まるだろうとの思いで，少々泥臭い活動と思いつつも，自己流でばたばたと過ごしています。

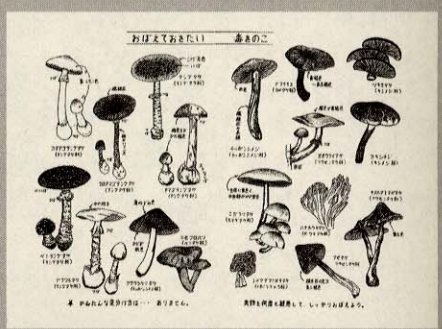
まとまらない話になってしまいましたが，本日は，このような機会を与えていただき，ありがとうございました。また，食後の貴重な睡眠時間にもかかわらず，勝手気儘な話を最後まで聞いてくださり，本当にありがとうございました。

3 KATO SADAMICHI



きのこを学ぶ





●PROFILE
KATO SADAMICHI　加藤　貞亨
鳳来寺山自然科学博物館
研究内容●コノハズクの生息調査保護，菌類フロラ（鳳来町の）等
担当●
・そうじ，草刈り，修繕
・採集，展示
・学習会，特別展，学術委員会（外部講師）等のこと
・出版物に関することや館の運営
・展示内容，保護動物の受入，問い合わせ

学芸員奮闘記

～悪戦苦闘!!～私たちのン10年～

浜松市博物館
佐藤　拓伸

まずはじめに，浜松市の博物館についてですが，開館からもう15年以上経過しております。市町村の博物館としては古い部類に入ってくるんじゃないかと思います。博物館の展示内容もコンピュータの検索のようなものもございませんし，大型のビデオシアターなどもございませんので，旧来の展示が中心でございます。博物館の方で展示替えの要求を出してもなかなかお金を割いていただけないというような現状です。入館者数ですが，年々減少しております。小学校の団体見学につきましても，減少しております。団体見学が減少している理由になるのかもしれませんが，浜松市内の小学校では，見学の形態も変わってきています。現地に子どもたちだけで集合していくような見学ですとか，子どもたちが行きたいところ，例えば科学館ですとか，浜松城ですとか，そういったところを選びグループごとに行ってくる。そういうような見学が増えて，６年生が博物館に来て歴史の勉強をするという形態が減ってきていることが，多少見学者の減少に影響しているのかもしれません。あとは，市全体としてみても，浜松の博物館がどこにあるのかも知らないという人もいらっしゃいますし，先生の中にも地元の文化財に何があるかとか，あるいはどんな利用ができるかということがわからない方が多いというのが現状です。ですからそれを少しでも解消するように，レジュメにありますような教育普及活動をおこなってきたわけです。将来的な利用促進を考えて，子どものころから博物館に親しむ素地をつくりたいということを目的にして，移動博物館なるものをスタートすることになりました。スタートにあたり，館内で学芸員を含めて，展示資料は何にするかとか，パネルはどんなものにするかとか，話し合いがもたれました。また，今の展示パネルはバンテアンパネルというもので，マジックテープでパッとくっつくようなボードになっています。関東の博物館を視察してきた前任の方が購入され，復元品を含めて展示品の準備をしていきました。そして，市の教育委員会に企画案を出して，その後小学校の校長会に話をもっていきました。協力要請をして平成５年度からスタートすることになりました。本年度でちょうど５年目になります。まだ課題が大変多いのですが，そういうことも含めながらの発表していきたいと思います。

最終的な目的としては，先程申し上げましたように，子どもたちが楽しみながら博物館に親しむ素地を育成したいということです。あわせて，学校の先生方にも博物館で一体どんなことができるのかといったことや，どんなものがあるのかということを普及していくというのも目的の１つになっています。浜松でおこなっています移動博物館の内容ですが，関東の大宮市博物館ですとか，行田市博物館ですとかが行っています。展示キットを学校にもっていって展示し，数日間それを学校の先生に授業で利用していただくという巡回展の形態をとっているところが多いと思います。当館では展示活動と展示に関係した体験活動，この２本立てで実施しております。まず，展示活動ですが，空き教室，各学校とも児童数の減少に伴い空き教室が出てきており，それを，プレイルームとか，郷土資料室とかに利用している学校が多いのですが，そうした空き教室を利用して展示をおこなっております。展示内容については，まず基本キットという，当初は２つくらいしかなかったのですが，要望があるたびにキットを少しずつ増やしていき，現在７つ，「大昔の人々」ですとか，「弥生時代の家」など７つの基本キットがあります。その中から１つ選択していただくような形をとっております。お手元の資料３，４に基本キットの例がのせてあります。実物資料と，復元資料をあわせてキットにしております。キットはコンテナで整理してあり，要望があるものをさっともっていけるように，基本キット自体の準備で時間がかからないようにしてあります。それに関連します体験コーナーも設定しております。主に動かすことができる復元品を展示してあるコーナーだと考えていただければよろしいかと思います。それと郷土コーナーです。それは学区で出土した考古資料ですとか，収集した民俗資料ですとか，学区に関係のあるものを展示しています。自分たちの身近な歴史的事象を提示することによって，見学に興味関心を高めようというねらいがあります。

次に体験活動ですが，これはクラス単位，あるいは学年単位で授業でおこなっていただいております。博物館で学習する楽しさを学ばせ

るとか，あるいは展示物を人間の生活との関連において，実際に体感することで具体的なイメージをつかませる上で，重要ではないかということで取り入れております。内容については，火おこしですとか，体験用の土器を使った煮炊きですとか，展示資料と関連した体験活動をおこなっております。くわしくは後程OHPで補足しながら見ていきたいと思います。

運営方法ですが，お手元の資料の５にありますように，まず，各小学校で希望調査をおこないます。小学校64校ありますが，10月ぐらいに要項と実施希望調査をくばり，11月くらいまでに回収します。毎年だいたい半数ちょっとくらい希望があります。その希望校から５校を選定し，日程調整をしながら５校の開催時期を決めていきます。そして挨拶，事前の打ち合わせというように進んでいきます。移動博物館が終わりましたら，アンケートをしていただき，それを今後の活動の参考にさせていただいております。

開催期間ですが，おおむね１週間程度です。学校の規模により，２，３日でおこなうところもありますが，それは学校の方の希望に応じております。期間中は，博物館職員が必ず３人は常駐しております。教育普及担当２名と，非常勤職員の方が１名です。体験活動によっては民俗担当のものが中心におこなったりですとか，あるいは，考古の担当のものが参加したりと弾力的におこなっております。

資料５の下を見ていただきますと，期間中の動きがわかるかと思います。そこの資料にありますように，体験活動と展示見学を，同じ時間におこなうこともできます。展示室に１人博物館職員を置きまして，残り２人で体験活動を，先生方と協力しながらおこなっています。

なかなか話では具体的にわかりにくいと思いますので，OHPの方で簡単に補足していきたいと思います。

まず，左上のものなんですが（写真左下），これが「弥生時代の家」という基本キットになります。ちょっと見にくいかもしれませんが，展示台の上にござをしいて，後ろはベニヤで壁をつくり，それらしい雰囲気をつくりだしています。その下（写真左上）なんですが，これは実施する前年に発掘調査をおこない，学区で弥生時代の住居跡が出た小学校でおこなった展示です。現場見学会にも子どもたちがたくさんみえたので，発掘自体にも少しスポットを当てた展示で，後ろの壁には発掘調査の写真パネル，前には発掘で使う道具を展示しました。

右下の展示ですが，郷土のコーナーになります。これは浜松に佐鳴湖という湖がありますが，その近くで土地区画整備にともなう発掘調査で出土したものを展示してあります。これは主に，考古資料を持って行ったところですが，民俗資料も展示することもあります。

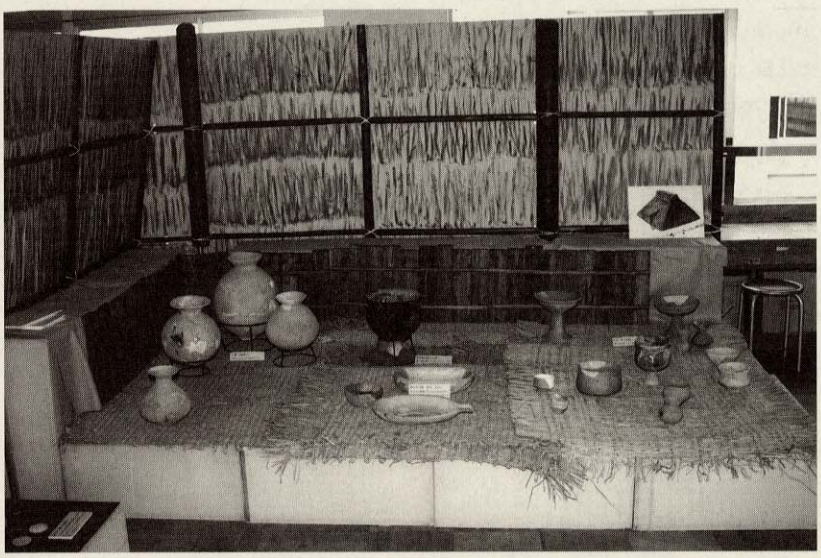
これが実際に展示を見学している様子です(写真左中)。「大昔の浜松」という展示ですが，触ってもらい，手触りとか，重さなどを実感してもらうようにしています。前に台付甕がありますが，こういったところに煮炊きに使った煤などがついておりますので，そういったものを見ながら，科学的思考も養えるんじゃないかとと思います。また，ここに見えますがワークシートを活用して展示見学をしています。これは６年生の社会科の授業で活用していただいたときのものです（資料12）。

次に，体験学習です。これが原始時代の住居づくりです（右ページ・写真左）。６年生が作ったものです。時間や難しさの関係があるもんですから，竹を柱にしてその周りにわら

移動博物館
（上）郷土のコーナー　発掘道具の展示
（中）基本キット　おおむかしの人々
（下）基本キット　弥生時代の家







で囲ったというような簡単な家です。実際につくり方と周りの素材が矛盾しています。体験活動の中にはそうした歴史的に疑問が出るところが多分にあります。これがまた後でも出てきますが，少し体験活動のネックになるところじゃないかと思います。しかし，学校で子どもたちができることのなかで，なるべく歴史的事象から離れないように，ということで基本的に考えております。

その下ですが，移動博物館を開催するときに，学校によっては，保護者や地域の方にも参加を呼びかけていただいております。およそ１週間に50人くらい，父兄が中心ですが，展示を見に来られました。この小学校では参観会のときに１年生が親子で体験活動をしたいということで，ちょっとわかりにくいかもしれませんが，黒耀石でリンゴの皮をむいているところです。

これは火おこしをしているところです（写真中）。右下の枯れ葉のところに，このときは焼き芋か何かが入っていたと思いす。ただ火をつけるだけでも結構喜ぶんですけれども，つけた火で何かをしてみたいということでおこなったものです。

その下ですが，これは展示のなかの体験コーナーです。右の子が持っているのは復元された弓矢です。左の子が着ているものは段ボールでつくってありますが，伊場遺跡で見つかったものの中に木製の短甲というのがあるんですが，その複製品です。比較的低学年の子どもにはこういった動かせるものが印象に残ったようです。

これは復元土器，体験用土器です。煮炊きをしているところです（写真右）。主にあさり汁をつくることが多いです。博物館の事業のなかの子ども講座でもこういったことをおこなっているのですが，２年くらいまえですか，O-157の事件がありましたので，そろそろこれもやめどきかなぁというようにも考えています。しかし，体験活動の希望を先生方に聞きますと，食べ物関係が比較的多いです。縄文クッキーをつくりたいとか，煮炊きをしたいとか，比較的食べるっていうのが子どもたち，先生方にとっても人気があるようです。

その下なんですが，浜松城を見学している風景です。先程の発掘の調査に視点を当てた展示がありましたが，展示の内容については学校によっていろいろ希望を聞いた上で，その学校の周りの特性を活用していきたいと考えています。ここの学校はちょうど浜松市の浜松城の二の丸の跡に建っていますので，展示も浜松城の瓦とか城下の絵図とかを中心に展示しました。また，浜松城周辺でクイズラリーをおこない，チェックポイントで学芸員が浜松城に関する話をしました。ちょうどここは最後のところで，全員に話をしているところです。

これは石臼をひいているところ，その下が糸車です（ともに次ページ写真）。石臼につきましては浜松の方で利用している教科書は「石臼の歌」というものが国語の教材でありますので，そういった要望が多いです。糸車につきましても低学年の教材で「タヌキの糸車」というものがありますから，実際にひいた音を実際に聞かせたいということで希望があります。

次は千歯扱きです。先程展示を見させてい

2 SATO HIRONOBU



体験学習　復元家屋づくり



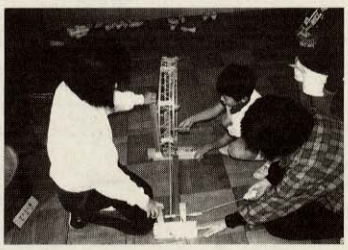
体験学習　マイギリによる火起こし



体験学習　体験用土器による煮炊き

ただきましたが同じような展示がありました。モミをとっているところです。こういった活動もおこなっています。これをとった後，千石通にとおして，後は唐箕を利用しておこないますが，残念ながら籾摺とかがないもんですから，その後どうするかというのが今行き詰まっているところなんです。子どもとしてみればせっかくそこまでやったのですからそのあと食べてみたいという思いがあり，その辺が課題です。学校によっては籾摺機という機械を持ってる学校があるもんですから，それをお借りしてそこだけ機械化してやってしまうこともあります。

最後にこれが「戦前の茶の間」という展示になります。展示のねらいとしては，今この博物館でおこなっております３年生を対象にした「おじいちゃんおばあちゃんのころの昔の生活」の学習，そこでの利用をねらっています。展示台を並べてその上に畳を4枚，大変重いものですから，できればこの展示本当はやりたくないんですが，しきまして，その上に自由にのってさわってもらうというような展示にしてあります。



体験学習　糸車による糸つむぎ



体験学習　石うすによる粉ひき

あと，カマドのつもりなんですが，これも古墳時代のカマドと併用しておりましておかしいといえばおかしいんですが，これは張りぼてでこちらの展示室にありますような立派なものではございません。こういったものを普通教室の１教室分に，その他に郷土のコーナーとか，体験コーナーとかも展示してあります。この場合は手前に遊びのコーナーがあると考えていただければいいと思います。OHPを見ていただきまして，移動博のなんとなく具体的な様子がイメージできていただけたんじゃないかと思います。

レジュメの方にまた戻りたいと思います。今見ていただきましたが，だいたい移動博物館は，学校によって大きく３つの形態に分かれます。利用の形態ですが，１つはどのクラスも授業として見学を1時間，あるいは体験活動を１時間程度をとっていただく学校と，展示見学はクラス全部しますが，体験活動は希望のクラスだけやるという形。もう１つが展示見学は高学年，中学年以下は休み時間，昼休みに見させてもらう。そういうような３つのやり方が中心になっております。

当初は一番最初に話したような，全学級が見たり，体験したりというような形をとっていましたが，なかなか授業時間が取れないですとか，あるいはちょっと負担になるというような声もありましたので，なるべく利用できるところは利用していただいて，そうでない学年については，休み時間などを利用して見ていただければいいかなということで少しずつ改善しております。

次にアンケート結果ですが，資料７から児童用のもの，資料10から教師用のものをのせさせていただきました。アンケート結果もそうですし，実際活動を見た感じでも，体験活動はどの学年にも一様に人気がございます。見学につきましては，特に高学年は実物に触れたということが大変印象に残っているようです。低学年になりますと，先程OHPでも見ましたとおり，復元品を動かす，着てみることが楽しかったというような回答が多かったです。

移動博物館の成果と問題点についてお話していきたいと思いますが，そこにありますように，まず，よさとしましては，やっぱり実物資料が見られる，触れられるということではないかと思います。実物資料は情報が大変豊かですし，子どもたちにとっては感動と学習意欲をもたせるには効果的なものだと思います。特に教科書に出てきているようなものですとか，あるいは資料集に載っていたようなものですとか，そういった既習の体験があるものほど，その出会ったときの感動が強いように感じられます。ただ反面，浜松の縄文時代の土器といいますと，比較的形も単調で模様も少ないものが多いわけですが，教科書に載っているものは，関東とか長野県ですとかの火炎土器をはじめとした比較的派手で模様がいっぱい付いているようなものです。ですから，縄文土器をもっていきましても，これは縄文土器じゃないというようなことを言う子どももいたりします。そういったところから解説で地域の違いですとか，時代による土器の変化なんかにも話がおよぶことがあります。

先程も言いましたが，もう１つはワークシ

ートを活用することによって，より展示資料を意図的に見させることができますので，かなり効果があったんじゃないかと感じております。ワークシートの例ですが，資料12です。そこに「大昔の浜松」のワークシート，下の方には低学年用のワークシート，活用して下さったものを後で送っていただきましたので，それを載せさせていただきました。

それと，体験活動で当時の生活の一部が体験できるということです。それによって，展示資料と精神的な距離が短縮できたのではないかなと思います。

それと，博物館職員が常にいるものですから，展示解説にしても，体験活動にしても，ティーム・ティーチング，先生との協力が円滑にできますし，子どもたちの疑問にもその場で答えることができるという点もいいところではないかなと思います。

最後に問題点です。先程浜松には64の小学校があるという話をしましたが，年間学校移動博物館を実施するのは５校しかありません。ですので，もう４年ぐらい待っているよというところもありますし，１回終わりますと次は20年後ぐらいになるという計算になります。校長会に毎年お願いに行くのですが，その席でも，せめて６年に１回，子どもが学校にいる間に１回くらいはできないかっていうようなお話をされます。当然のことだと思いますが，現状のような展示をしまして，郷土のコーナーもパネルをつくってもっていって，毎日，開催期間中に博物館職員が常駐しておこなうというのは，やはり５校が限度です。私も含めまして，職員も学校移動博物館だけをやっているわけではないもんですから，なかなかそれは難しいといったところです。ただし，巡回展式にするという方法もありますが，そうすると今，良さのところで申し上げた，たとえば質問にその場で答えられるというような良さが失われてしまいますので，なかなか難しいなというふうに考えております。それが移動博の最大の改善点じゃないかなぁというふうに考えております。

それと内容が全部の学年に対応したものではありませんので，なかなか教科学習として利用しづらいという面があります。

発達段階にとても合わないよと言われたことがありますので，その辺がすこし難しいかなぁと思います。

ただ，展示解説にしましても，学年に応じて方法は変えているつもりです。例えば低学年の場合は，おじいちゃんの子どもぐらいから逆に時代を進んでみたりという話し方をしたりして，何らかの対応を考えてはいるわけです。

それとこれもまた大きな問題なんですが，博物館の職員と先生方の考えが大分違うという面もあります。先生方はどうしても教科でいかに利用できるかということを望んでいます。博物館の職員の方は，子どもがいかに生涯学習の施設として博物館を利用していくかということを考えていきますので，その辺にずれがあります。

あとは体験活動の内容ですね。歴史的事実から本当にそうなのかという問題もあります。火おこしなんかも原始，古代ではキリモミ式でやっていると思いますが，実際それで子どもたちにやらしていますが，それだとなかなか火がつかないもんですから，どうしても簡単につく舞ギリの方をやらせたりします。そのときにも，これは原始にやっていた可能性もあるけど，今に近い時代の発火方法だという話をしながら，説明はしながらやりますが，火がつきますと先生がその横で「君は原始人に適しているねえ」というようなことを言われます。先生でもすぐその辺の歴史的事象が混乱してしまうということがありますので，その辺のところが難しいです。教育的効果からしても，果たして体験活動は意欲づけ以外に何か効果があるのかなという疑問も学芸員から声をいただくこともあります。

それと体験の用具の問題もあります。１クラス20人から40人いると思うんですが，クラス全員が満足いく体験できるにはかなり数が少ないですね。今，火おこし器にしてもだいたい10組くらいです。当館では石臼はひけるもので３組ぐらいです。数は大変少ないもんですから，そういったものを考えるともう少し数が必要かなということになります。

私も学校から来たものですから，例えば，今言いましたように，体験活動の道具が少ないと思いながら，収蔵庫に行きますと結構，数あるんですよね，資料が。これを何とか，眠らせておくのももったいないなぁというふうに感じるんですが，保存と活用のギャップで

3 SATO HIRONOBU

すね，そういうのをすごく感じる場面が数多くあります。

ただ，博物館の特性を利用した学習というのは主体的な問題解決学習です。そういった学習能力を，育成していく上では大変効果的ではないかというふうに考えております。中教審の答申にもあります，「生きる力」。まさにこの問題解決学習の能力ということになりますので，そういった意味でも，何とかこういった課題をクリアしまして，より学校で利用していただけたらなぁというふうに思います。

最後に，学校との連携を考えていくときに，移動博物館だけでは無理だと思うんですね。それでほかの部分で補っていく必要性を感じております。本来，博物館というのはこちらが出ていくのではなくて，学習に来ていただく，というのが本来の姿ではないかなというふうに考えております。そういう意味では，一宮市，ここの博物館でおこなっておりますような3年生を対象とした展示，それを活用していただくのは，なかなかいいなぁというふうに感じております。また，例えば6年生の歴史学習をおこないます4月・5月なんかにはそういった地域の原始古代のものを展示したりして，常設展をうまく利用していく必要があるかなぁというようなことを感じております。

4 SATO HIRONOBU

●PROFILE
SATO HIRONOBU　佐藤　拓伸
●小学校教諭を10年経験した後，浜松市博物館へ。
●浜松市博では，教育普及を2年間担当し，3年目の現在は発掘現場で勤務。来年4月から学校現場復帰の予定。
●趣味はスキー，山登り，旅行は1歳の子供のために現在我慢している。
●5月の浜松祭りで初子の凧揚げと練りをする予定なので今からたのしみにしている。

学芸員奮闘記

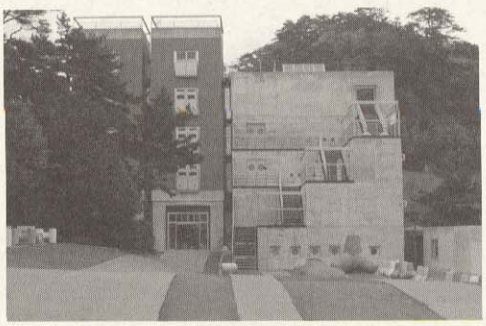
～悪戦苦闘!!～私たちのン10年～

海の博物館
野村　史隆

えーと，すごいんじゃなくって，単なるバカなだけな者です。実は，みなさんの話，ずーっと聴いてると，だいたい10年前か15年ぐらい前から，みなさんかかわってる方が，大多数というふうに見受けられるんですけども，実はボクは25年ぐらい，こういうこと，アホなことをやってまして，その25年の経緯とか，そのなかで感じたこと，あるいはわかってきたこと，見えてきた問題点などを，少しみなさんにお話しようかと思っております。レジュメの方は，こう思いつくまま，ずっと１から５まで書きなぐってあります。順序も滅茶苦茶になると思いますが，そういったことを少し話してみることにします。

まずボクが学芸員という部類の職種に就いたのが，昭和46年のときだったんですが，大多数のみなさんというのは，まだ学生のころの人が多いかと思います。そのころ，海の博物館がちょうど昭和46年の12月７日に，いまの新しい博物館じゃなくって，古い小さな博物館をオープンさせたわけです。この博物館，みなさん総合博物館とかいろんな種類の博物館があると思うのですが，海に限ったという点で，みなさんの博物館と比べると意外にやりやすかったのかもわかりませんが，そのころの，経過をまず話してみます。

昭和46年ごろといいますと，ちょうど，民具という言葉もやっと出てきたぐらいじゃなかったかなと思います。みなさんも知ってると思いますが，民俗の方で有名なあの宮本常一先生なんかも健在で，東京の青年会館だったと思いますが，そこで日本民具学会を発足し，それがずっと続いて来てるわけですが，そのころにわれわれも博物館活動をやってきたわけです。私どもの扱っている資料の中心は三重県ですけれども，つまり，伊勢湾から知多半島にかけて，あるいはそれから南の熊野灘にかけての漁撈習俗，あるいはそこで使われていた民具なんかを中心に，保存してきているわけです。最初われわれ海の博物館というのは，たったの2,000点の資料でオープンしてるんですね。最初の博物館というのは，非常に小規模で，建築も当時流行していたコンクリートの打ちっ放しのはこものでして，いまでは有名になってしまいましたが，東京大学の原弘さんなんかと徹夜で話して，博物館つくったんですが，その後14年経ってその間に10,000点ほど資料が増えてきまして，その漁具を国指定にしようじゃないかということで，13年ぐらい経ったころなんですが，約6,800点を文化庁に申請する作業に入りました。もうそのころというのは，もっぱら図面書きで終わったんですね。ご存じのように，みなさん，指定を受けようと思うと，図面を，詳細図面，あるいはそれに見合った略図面が必要であって，調査カードの作成があるんです。いつ，どこで，誰がどのように使ったかというものを全部書き込まないとだめなんで，そのころは，そういう調査カードの補足･追跡調査とかそうものに追われている時期が３年ほどありました。その後指定を受けると，いよいよその資料を永久保存するための収蔵庫建築にかかって，それにまた従事していくということになります。収蔵庫が，200坪平均の収蔵庫３棟あるわけですが，その収蔵庫が建築終わると同時に，展示棟２棟をつくりました。これは一般にお金をもらって見せていく展示ですけども，その収蔵庫３つと展示棟２つ，この大きく５つのブロックを完成させて，平成４年にいまの博物館の場所にオープンして，現在に至っているわけなんです。



オープン当時の博物館

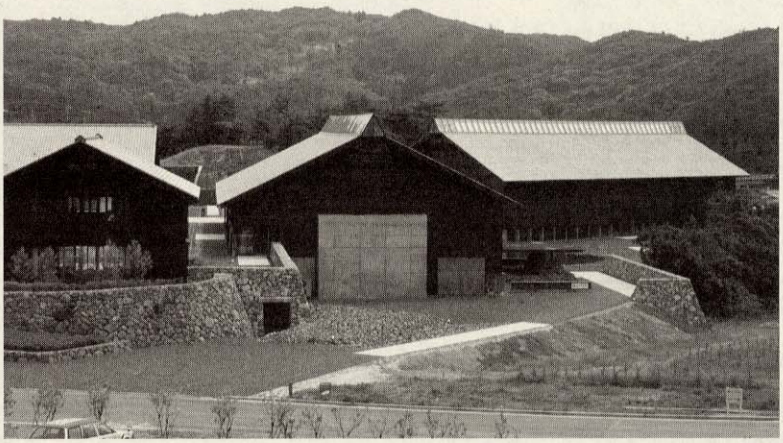
昭和の46年ごろといいますと，みなさん，なかには知っている人もいると思いますが，伊勢湾は四日市コンビナートの油で汚れてた時期ですね。それでそのころってのは，何かにつけて変革期だっんです。調査している方はよくわかっていると思いますが，だいたい戦前から着るもんであれば木綿ですね，それから網でいえば綿糸とか麻，そういう天然材料を使ってつくられていた漁具なりいろんな民具というのは，昭和30年代までは細々と続いてるんですね。昭和30年代の後半，昭和40年を境にして，石油からとれる化学的なもの，網であればナイ

ロンとかそういうものに変わってくるわけなんです。そうなると，いままで使われていたものがどんどん平気で捨てられるようになってくるんです。それは，そうだと思います。いままで使った網なんかは，必ず水洗い，塩洗いして干さないと長持ちしない。ところがナイロンの網だと，そのまま外にほっておいても腐っていかない。便利なところがあるわけです。人間ってそういうものができてくると，いままでのものはゴミと同じなんですね。だから，ボクはいつも言うてるんだけども，民具というのは必ず庶民の使っていた道具であり，その道具のなかにどういうドラマがあったかを学芸員が語ってあげないと，単なるゴミになってしまう，そういう言い方をしてるんですが，それは間違ってないと思います。

漁法の方もそうなんですけども，海が汚れてくると特に，われわれ博物館のある鳥羽地区っていうのはボラ漁が盛んだったところなんですが，地方によっては，ボラなんてって言いますけども，鳥羽のボラは非常に有名だったんですね。泥臭くもなくて，遠州ボラが来ますから，大半は伊勢神宮の参宮客の，宿場の焼き魚に使われていた例が多いわけですけど，そういうボラ漁というのがあります。これは「ボラ楯」漁といって，湾を封鎖して捕る漁法なんですが，400年ほどの歴史があるわけですけども，そういう伝統的な漁法さえもなくしていくんですね。それはどういうことかというと，ボラというのは雑食性ですから，海底にある泥と一緒に有機物を喰って生きております。ヘドロのなかに油質があると，ボラは油臭くなるんですね。100本に1匹，油臭いボラが入ると，もう市場価値はなくなっていくわけです。すると，売れない。売れないもの捕る必要はないわけですから，どんどん漁法が終わってしまう。こういうことは，いろんなところに見て取れるわけなんですが。伊勢湾もそのころ汚れていた。だから，そのころ漁村とかいろんなとこへまわっていくと，いろんな，いまで考えれば涎が出るようないい資料がゴロゴロしていたんですね。遠浅の海岸地区には必ず地曳網がありましたから，地曳網で使う木製の碇ですね，一見農家が使う牛の犂みたいな，そういう碇もゴロゴロしていた。ところが今はもう，そういうものは集めようと思ったって残っていないですね。そういうことがあります。



貝紫染め教室



現在の博物館

まず最初，2,000点から出発して，13年間ぐらいで，やっと10,000点ぐらいになりますね。そのうちの約6,800点ぐらいが指定受けたわけなんですが，13年間で約10,000点の集まり具合が，指定受けてから非常にモノの集まり具合が増えてくるわけですね。これは，3番目の「タダで持っていって」というところに含まれているわけです。漁村のフィールドは最初漁村に入っていきます。一番早い方法というのは，漁業組合に行きます。漁業組合っていうのは村をだいたいおさえてますから，役場的な役割してますから，そこへ行くとどういうものがあって，どんな名物男がいるかとか，その村の様子がわかるわけですね。そこでだいたいの様子をつかんで，主だった人にわたりをつけて聞いていくわけですが，最初のころは，博物館っていうのはあんまり漁村の人たちには関係ないわけですね。「何でこんなもん持っていくのや」「タダで持って行って，今度は金とって見せるのか」と，言うんですね。こういう言葉に代表されるような見方をされとったわけです。昭和60年，指定されて収蔵庫が建つ。そういうふうにして収集してきた資料は，赤錆のモノは錆落としされて，われわれ金ないですから，ワックスを塗ってそれ以上錆びないようにするぐらいしかできないわけですが，そういう処置をして，綺麗に分類して，収蔵庫の棚にずっと並ぶと，それを見に来た寄贈者たちの意識がいっぺんに変わってしまうわけですね。自分たちのゴミが，すごい価値を産んでるんだというのが

ほんとにわかるんですね。これをわからすのは，物量が一番です。だからみなさん１点集めたからいいって言うんじゃなくって，同じもんでもいいから，何百何十と集めて，並べて，それを見せてあげると，もう話さなくっても人を動かす力ができてくると思います。それをやって欲しいと思いますね。

それから，「次に新しい博物館になって」ですが，収蔵庫と展示棟含めて，われわれの博物館は，個人財団で経営してる博物館ですから，入館者がものすごく重要になってきます。経営母体が財団の場合，だいたい基金がつくってあって，その利息で最低限運営できるようなシステムなんですが，今日みたいに利息がなしに等しい状況に陥ると，入館者の入場料というのが非常に大事になってきます。みなさんずーっといろいろ体験学習とか，いろんなこと計画してやっていますが，そういうこと非常に大事になってきてまして，ボクもいろんなことを体験させてます。例えば，先程久保さんが言ったように鼈斗アワビもそうなんですが，志摩の海女に息づいている貝紫染色法ですね。イボニシを叩いてその副腎にあたるわけですが，それで染めて，皇帝紫と呼ばれている紫ですが，それでコースターを染めさせるとか，いろんなことをやっております。海苔すきとか，それから古代のやり方で塩をつくってみたりとか，いろいろやってるんですが，それによって，要するにお金のある博物館っていうのは，あるところっていうのは営業費っていうのがおそらくあるんだろうと思います。それによって広告チラシとか，その情報提供をできるわけですが，まったくなしのところは，そういう話題性をもって新聞とか情報誌とかにとりあげてもらわないと，その宣伝する手段がないわけですね。そういうことで，そういうことも最近非常に大事になってきて，いま３月いっぱいで完成するんですが，体験学習棟というのを建築中なんですが，この４月から，月２回か３回ぐらいずつは，いろんなものを体験してもらう専門の建物が完成します。

話が前後しますが，ずーっとやってきてまして，最近痛切に思うのは，３番目に書いてありますように，「今が危ない」というタイトルがありますけども，この前中日新聞の「三重の随想」というところに書いたものをコピーしておきましたので，また目を通しておいてください（資料２）。内容的にはですね，昭和46年ごろっていうのは，先程言ったようにフィールドに出かけて，おじいちゃんおばあちゃんに話聞きたいということで来てもらったり紹介してもらうわけですが，話して紹介してもらう人が明治20年代の人がだいたい出てきてくれたですね。80歳から以上の人ですけども，そういう方が話聞かせてくれたわけです。そういう人たちは当然，父親母親ってのは江戸時代後半から明治の初めの人ですよね。だから，もう江戸期の生活風習あるいはそういったものをそのまま引きずって生きている人たちの話ですから，非常に，いま考えるともっと聞いておけばよかったという後悔があるんですが，なんせ若いときですから，ええ加減に聞いてます。そのころの話は，船でいえば，まだ櫓船があったころですからね。日帰りで地先沖合でカツオ釣りをおこなっていた時代の話，実際に16歳で赤い褌締めて，腹の皮がちぎれるまで漕げって，青竹で殴られながら漕いだ，という話なんかも聞けた時代ですから。いま同じことをやると，ヘタすると昭和の初期の人が出てくるんですね。昭和生まれの人がもう古老なんです。そうするとその間に非常に欠落していったものがいっぱいあるわけで，だからみなさんほんとにもう興味もったら，ここにも新聞にも書きましたけど，今度の休みに行こうとそういうのじゃなくって，いまから行ってください。すぐ行って聞いてください。また，どっかでいいモノ（資料）を持ってる人を見つけたら，必ずもう説得して確保しておいてください。そうじゃないと，すぐなくなります。後で聞きに行こうていうころにはなくなっています。そういうほんとに危機感を感じたから，こういうことに書かせてもらったんです。

その次ですが，その13年ぐらいして国の指定を受けるときの作業のところで，図面書いたり，調査票を作成したりするわけですが，そのときに感じたことなんかは，要するに４番のところにもありますように，現場をとにかく知って欲しいということですね。みなさ

2 NOMURA FUMITAKA

んおそらく鍬というのは，土をほじくり返すものだと，もう思ってるでしょ。だけど，使ったことありますか？使ってみると本当にわかると思います。何でもそうです。これは宮本先生もよくおっしゃっていたことですが，それは柄の長さでその使う人の背丈までわかってくるんだということ言ってますから，それは本当です。それは釣竿でも何でもそうなんです。道具というのは，自分に合ったようにつくられてるんです。調整してあります。それから，みなさんわかったつもりでも，本当これはわかってないと思うんですね。だから，それをわかるためには自分でやってみるっていうことが，一番大切だと思います。先程の方なんかも，子どもたちに体験させてますけども，そういう格好でやってきて，やってみると全然わかってなかったというのが大半ですね。

われわれの体験もそうなんですが，古代の塩づくりっていって藻塩焼くという歌なんかからもわかりますように，久保さんの恩師でもある渡辺先生なんかが，最新説を言っておられます。藻塩の藻っていうのは，ホンダワラじゃなくってアマモじゃないかっていう話になってますが，海藻の種類は別として，何で藻を入れる価値が，必要性があるのかということなんかも，本当にやってると出てくるんですね。藻に潮をかけてどれだけ海水が濃縮されるかっていうと，ほんのわずかですねぇ。数回炎天下で海水かけても比重で1度上がるか，そんなもんです。じゃあ，そういうことぐらいですから，もっと違う意味があるんじゃないかとか，そういう疑問が出てきますね。だからみなさん，もっともっとわかっているつもりでも体験して，本当の疑問をもって欲しいっていうのが，ボクらからのお願いです。

それから，たくさん見るということですね。これは後でスライドでも，お見せしますが，意外と漁具というのは昔からのものがそのまま残ってるんですね。１つ例にとれば，アユ釣りなんかで木の枝を利用した丸めたタモ使いますね。専門の漁師は今も使う者がいます。そういうタモの図面を50点とか60点とか同じものを描いてると，見えてくるもんがあるんですねぇ。調査カードには，材質とか寸法とか書く欄があるのご存じだと思いますが，その材質について，網はもうだいたい麻か綿糸っていうのはわかりますが，木の材質は何かというと，今度はもうわからんわけですね。すぐ木の樹脂を剥いで顕微鏡で見て比較するわけです。最初，そんなバカなことしてたんです。ところが50枚ぐらい作図すると，わかってきます。１本の木から枝が出て，それを丸めて，ナマのうちに丸めておいて，型がついたところで真ん中を切って，タモ枠をつくったわけですが，ほとんどはヒノキかマツなんですね。山に生えているものを見るとすぐわかるんですね。ヒノキは，幹に対して少し枝がずれてきます。マツは，同じところから出てるんですね。それをわかるとねぇ，もうそんなことしなくていいんですね。もう枝の位置で，あ，これはマツだ，これはヒノキだと判別できるわけです。このようにいっぱいいろんなものを見て発見して欲しいということが１つです。

それからボクみたいなこと言ってると，いま学芸員になって新しいこと，何か冒険しようかと希望に燃えてる人は，「そんな明治20年代の人の話，もう聞けへんやないか，そんならわしらどうすんや」ということになるんですが，そうじゃないんですね。やっぱ，若い人は若い人で，いっぱいやることがあると思います。ボクらは，もうそういうフィールドとか蓄積されたものはたくさんありますけども，もうコンピュータとかそういうものまで，気を使う気持ちにならないんですね。だからそういうわれわれが報告したものを，ものすごくつかみやすいように，学術的に役に立つようにするのが，新しい人たちの役目だろうと思います。また希望することでもあります。



海藻おしば



夏の櫓こぎ教室

最近，面白い勉強会をボクらの近くでもってるんですが，そのメンバーのなかに，自衛隊退職者の方がいまして，それまで自衛隊の仕事のなかでおこなってきた，上空から撮影した航空写真をコンピュータを使って解析し肉眼では見えない文字を読みとることをおこなっている人がいます。どういうことかっていいますと，これはもうコンピュータを持ってる人は是非やってもらいたいと思うんですが，その人は，池田さんという人ですが，古墳とか石垣とかいろんなところに碑や石があります。一見われわれ肉眼では全然見えないんですが，それを例えばこういう碑があれば，この180度の角度をかえて何枚も写真を撮ってしまうんですね。この角度，この角度，この角度，ずーっと撮ってしまうんです。それから，上からも撮る。それをコンピュータで解析すると，まったく見えない字がはっきり出てくるんですね。

ボクらがいるとこってのは，いろんな古墳群や遺跡とかいっぱいあるんです。貝塚もあるし，だいたいは地図で見てへっこんだ入江のところが住居跡で，突き出たとこは古墳があります。そういうところを，やったらもう全部撮りまくって解析すると，意外なところにたくさん文字が浮き出てきます。この間も見せてもらったのが，海岸べりに古墳の石の一部がくずれて落ちていて，その石がちょっとおかしいからということで持ち込んで，それをその方法で写真撮って読みとったんですが，サヨリヒメというのが出てきました。その先生いわく，だいたいこの（志摩地方）に分布している古墳は，みんな斎宮系の古墳だということがはっきりしたらしいです。そういうことを，見せつけられると，いままでわれわれ古いやり方でやっていた研究ってのは，いったい何だったんだろうという，もうショックを受けるんですね。ほんとにコンピュータとか機械とか好きな人であれば，そういうところで役立てて欲しいと思ってます。

それから，5番目なんですが，これは各館いろいろ悩みごとがあって，いままでどこでも同じだと思うんで，ここで話すのはやめときます。

それから，不景気になると学芸員みな苦労するのがお金のことで，予算がないからどうしようかというのがありますね。そういう問題の解決法っていうのは，学芸員がバカになるか，ほんとに過労気味になるかどっちかでしょうけども，いろいろ方法があるんですね。われわれ平成４年にリニューアルしてオープンしたんですが，そのときでも海の博物館がやった手法というのは，ジオラマ，模型を含めた展示物を自分たちでつくったんですね。そうすると，よくかかっても10分の１でできますね。私どもの博物館に来られた方はご存知だと思いますが，実物の14mのカツオの八丁櫓船がどんと座ってます。明治のころってのは，だいたい14mの40尺船の八丁櫓だと14人乗りの水夫が乗るわけですが，当然等身大の人形乗せたいと思うわけです。まぁ人形がないと話にならないからということで，ある業者に見積もらせたら１体100万から110万ていう値段が出てきたんですね。14人乗せんならんから100万としても1,400万円ですね。これでは展示費が不足してくる。これはやばいということで，んじゃ作ろうということになった。たる木で骨組みして，ワラで肉付けして，それを紙粘土で肉付け絵具で色を着けて完成させた。髪の毛はシュロを墨汁で染めて結うんですけども，そういった格好にすると，だいたい館員が１人がかりで，ひと月に２体ぐらい作れます。費用も約10万円ぐらいでできると思うんですね。少なくとも，10分の１ぐらいでできます。

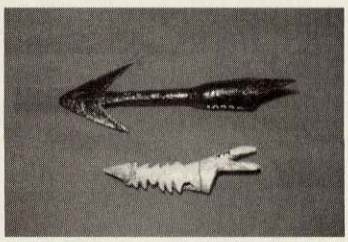
それと手づくりの模型，ジオラマなんていうのは，一番いいのは学芸員がいろいろとフィールドして調べた中で一番ドラマチックなところが出せるということです。学芸員の方はその場面のドラマを出したいわけですが，大企業に頼むとこの部分は落ちていくんですね。人形とかつくり物は綺麗です。例えば地曳網の模型などうちにありますけども，地曳網というのは女性が半分網曳きに手伝いに来るわけですから，乳飲み子を抱えた親もいっぱいいるわけですから，それを守りしてる人もいるし，そのまわりの背景なんかも自分たちでつくるとつくれるわけです。実際，ボクも鰹節，生節買ってきてシリコンで型採ってパラフィンローを溶かして，何10本も作ったし，生のウナギでも，シリコンで型とってつくりました。そうすると非常に安くできる。それと，展示したものに愛着ができますね。大事

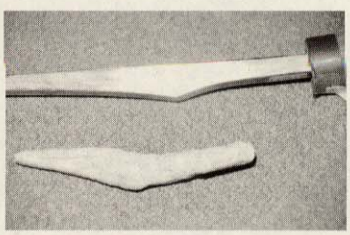
3 NOMURA FUMITAKA

にしてます。そういうこともあります。だから，皆さんもやってみてください。

それでは，ここでまずスライド，ちょっとお見せします。

順序は無茶苦茶ですけども，漁具とかそういうものを通して，わかってきたことていうか，考古をやってる方にも参考になるかと思いますが，久保さんなんかはそんなもんわかってるからしゃべらんでもええと怒られそうですけども，全然知らん人がいると思うんで，お話します。


燕型離頭銛


アワビオコシ


ワラ錘


刳り船

これは，タコツボのなかではイイダコツボといって小さいイイダコをとる道具ですね。有明海なんか，それから瀬戸内海で中心に使われているものですが，この真ん中の銅鐸みたいなのは，現在瀬戸内海で実際に使用されてまた生産されております。そしてこれを使ってイイダコ漁をやっているわけですが，古墳期からこういう格好のものが大量に出てますね。それからこれはアカニシを使ったイイダコツボですが，これは有明で盛んに使われてるものですが…。

これは先程ボクが体験コーナーで貝紫をやらせてると言いましたけども，このアカニシからも紫，パープル腺がとれるわけなんですね。それで大量にとったのは，知多の浅井さんなんか貝紫をとるためじゃなかったかと言ってますけども，ほぼ当たってるとボクは思ってます。それはなぜかというと，貝塚層から出てくる貝を全部調べてみますと，これ身を食べるんだったら，全部割りゃあいいと思うんですよね。ところが，パープル腺というのは，みなさんサザエの壷焼き食べたことあると思いますが，身のところと腸をつなぐ部分のちょうど境目のところに苦いところあるんですが，あのあたりにあるんですね。副腎に当るらしいのですが。この位置に全部，穴があけられてるんですね。だから，そこだけやっぱり古代の人たちは，そういう場所も全部割らなくてもその部分が入っているところを知っていたんだろうと思われます。そういうこともあって，ちょっと出してみました。

これは古墳期から出土するタコツボ形の土器とまったく同じようなものが，イイダコツボですけども，これ瀬戸内海の底曳き網を曳くと結構いっぱいあがってくるんですね。さかんに瀬戸内海では使われていたようです。昔からね。

それからこれの写真は何が言いたいかと言いますと，われわれはいろんな科学が発達してすごい時代にいますが，実はなんにも賢くはないというスライドです。全然進んでないということですね。この写真は，縄文期の燕型離頭銛ですね（写真左）。鹿の角でつくったものです。こちらが現在も使っている，志摩地方ではチョッキリ，一般にはモリといわれているものです。このモリ先ですが，この格好というのは，ここの部分ですね。鉄の部分は，ここヒツといいます。このヒツの中，空洞になってまして，鉄棒の先にこれを突っ込んでサメやマグロ，大物なんかをしとめるんですが，モリ先が体内に入って弱ったところを引き上げるという方法をとります。ところがこのヒツの部分は，3,000年前とまったく変わってないのがよくわかります。ただおそらく鉄が一般化したのかわかりませんが，この部分が鹿角から鉄に変わっただけですよねぇ。おそらくもう一般的になったのは古墳期だと思うんですが，これが鉄になっただけの，ほとんに形をそのまんま残しているだけの感じがしますねぇ。そうすると，漁具ですが，ほとんどベースは縄文期に全部できあがっているんじゃないかという気がしてなりません。

次に海女が使うアワビオコシなんですが（写真左），写真の上の方が四国の徳島の海女が使っているもので下が鹿角製のアワビオコシですね。縄文期に使われていた鹿角製のこのふくらみは今のアワビオコシのこのふくらみに名残が，まだ残ってるとボクは思ってるんですね。だって，あんなもん必要ないわけですから。この膨らみっていうのはね。アワビをこう，くっついているのを刺して，こうあげるんじゃないですよ。こうあげます。それにはこんなもの必要ないと思うんです。その名残じゃないかなっていう個人的な思いしてます。

これは左がマグロ。志摩地方でシビっていうんですが，マグロの釣針で，右は，これも

マグロとかサメの延縄針ですね。延べ縄用の針ですが，この格好も，鹿の角でできていたころの格好にまったくよく似ております。これは，どうかと言うとですねぇ，例えばこの釣針が，こうありますけども，これをこう縦に見るとどちらかに針ってのはひねってるんですね。少し。これは，やっぱり鹿の角，角針つくる場合ですけども，鹿の角を輪切りにしてそれを縦割りにして板状にしたものをくりぬいて製作したときどうしてもできるひねりの名残りだと思うのです。また実際にタイ釣りの場合なんかは，非常にひねりがきついんですが，古代の釣針を作る過程からで生まれてきた名残を残してるんじゃないかという気もしています。

この写真は，海の博物館のとなりに白浜遺跡というのがありまして，小銅鐸，あるいは勾玉とかいろんなもん出てますが，漁具資料も非常にまとまって出たということで，注目されていますが，ヤスとか釣針とかモリ先が出ております。この釣針なんか非常にその鹿の角の丸味がまだ残っているんですね。だから横から見ると少しひねりがかかってくるわけです。

話は飛びますが，次，船のことについていいます。これはフナダマ。船にも魂を入れますから，その魂を封じ込めるときの，人形の写真です。

それから考古をやっている人，ちょっと注目して欲しいんですが，石錘には切り目石錘を含めいろんなタイプありますが，出土すると切目石錘なんてのはこれは網に使ったと，決まったように言い切っていたんですが，これは逆に単なる石として扱われ資料にならなかった資料もだいぶあったんじゃないかと思う例です。なぜここにもってきたのか。これは単なる浜石をワラでくくって錘にしているものです（右ページ・写真左）。これは昭和の30年代まで，実際に紀州の方じゃこういう格好で使っております。こういう格好でね。ブリをとる網なんかには，グリ石を包んで編みあげおもりに使っています。これにはなんにも切り目もないんですよ。だからこれが，縄が腐って落ちてしまったらこれ単なる浜石ですよね。

次，これは25年前から，日本各地の刳り船を収集しにまわったとき，集めた刳り船で（右ページ・写真左），沖縄のサバニ，島根県のソリコなどの写真です。昭和47年のソリコ舟のときはまだ吉岡理一郎さんがまだ生きてまして，それで作らせたものです。100年も経つようなモミの木を伐って，その材料で270,000円でつくってくれました。

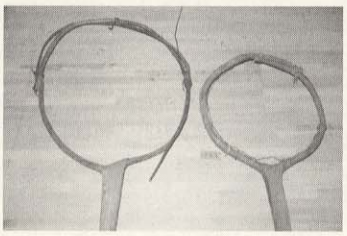
3番目の写真が男鹿のえぐり船ですね。次の水色が，下北のマルキブネです。一番右の新しい船が萱野さんにつくってもらったアイヌ丸木船です。25年かかって丸太の刳り船，それから板船へと移ってく工程に重要な船はだいたい集めたつもりです。

次にこの写真先程言ったタモの写真ですね（写真右）。これは枝の出が少しずれてますからヒノキです。これはタモの枠のつくりかけです。木がナマのときにこういう格好で，丸めておくんです。

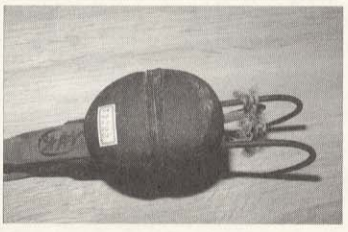
この写真は自然石を加工しなくって，錘に使う方法ですね。こういうふうにして，自然石をかがって使いますから，こういうかがっているものなくなれば，また何も変わらない浜の石になってしまいますね。だからそういうものも，発掘してる人は，特に漁具については注意してもう1回見直してほしい。

次の写真，これはタコ曳き（写真右）といって，タコを釣る道具ですけど，この下に串があります。そこにエサの白身の魚の肉をつけて，海底を曳っぱるとタコがのっかってきて，その重みを感じて曳っぱりあげるとタコが釣れるんですね。その錘に，こういう石を針金で巻いて重石にしてるわけです。これ，切目石錘と同じ格好です。これが落ちてたら考古学者は石錘だと思うんですよね。切り目石錘だと思うんですよね。

と言うわけで，バカな話をしてきましたけども，また何かあったら懇親会のときに質問してください。以上です。



タモ



タコ曳き

4 NOMURA FUMITAKA

●PROFILE
NOMURA FUMITAKA 野村 史隆
海の博物館
担当●資料室体験学習
昭和46年から伊勢湾志摩半島熊野灘の漁村を調査。「海村の祭り」「海女」「和船」をライフワーク。
趣味●動植物の観察
興味のあること●どうしたら宝くじに当たるかということ

レジュメ集

●43　水野　礼子
●44　野尻佳与子
●52　加藤　貞亨
●69　佐藤　拓伸
●81　野村　史隆

愛知県博物館協会　歴史民俗部会研修会
学芸員奮闘記＝悪戦苦闘！！私たちの（ン！？）１０年＝

（財）日本モンキーセンター・水野礼子

モンキーセンターが博物館登録をしてからすでに４０年以上がたちます。そのころは県内でも博物館がまだまだ少なく県内で二番目の登録博物館でした。動物園として博物館登録をしている所もほとんどありませんでした。これは現在まで続いています。今でこそ動物園も博物館の一施設だと言われるようになりましたが、当時としては画期的なことだったに違いありません。

モンキーセンターで博物館活動の先頭をきって活動をされたのは、愛博協の産みの親でもある故広瀬鎮氏です。そしてこの私が博物館や動物園にのめり込むようになったのも広瀬さんのお陰です。私が日本モンキーセンターに就職したのは高校を卒業して博物館の右も左も解らず、ただ動物が好き、普通の事務職が嫌いと言うだけの単純な理由からでした。それがどうして現在に至るようになったのか本人もよく解らないのですが。私が現在学芸員としてやってこられたのも、広瀬さんとのかかわり、モンキーセンターの博物館活動を語らないことには始まりません。博物館登録をしたのは昭和３２年のことですが、さすがにその当時のことを語るわけにはまいりません。私が就職する９年前のことですから。あえていうならばその前年に結成されたモンキー友の会の活動を中心にして、例会やサマースクールなどの普及教育活動をやっていたことでしょう。当時としては今のようにいろいろな遊びがありませんので、会員数も多く毎回の例会などへの参加者もたいへん多く、たえず定員オーバーの連続でした。会員数が現在の１０倍といってもいいくらいです。ちなみに現在の例会会員は１００名ほどです。当時よく聞かされたのは、岐阜の金生山に化石採集の募集をしたところなんとバス５台分ほどの参加者があったそうです。現在では想像を絶するできごとですが。・・・・・・・・・・・・・・・・

次の大きな活動といえば「博物館学セミナー」と称して、外部から講師をお呼びして様々な分野の方のお話を聞いたり、所内の人たちの研究発表・事例発表などを行なってたことです。この博物館学セミナーを通じて実に多くの方々とお会いすることができ、実に多くのことを学びました。

そしていつの頃からか動物園に興味を持ち始め、休みとなるとどこかの動物園を見に行くようになっていました。飼育の現場でもないのに飼育係の知り合いがたくさんでき、その当時お互いに若かった人たちもいい歳になり、現在では動物園の園長さんになっておられる方も何人かおられますが、ありがたいことに昔と変わらぬお付き合いをさせていただいています。

３０年間を通じて得るものは、数知れずありますが何といってもモンキーセンターでの仕事を通じて多くの方々とお知り合いになれたのは何にも勝る宝物だと思っています。若手学芸員さんは仕事を成功させることはもちろん大切なことですが、人と人との結びつきを大切にしていっていただきたいと思います。

学芸員奮闘記－悪戦苦闘!!私たちのン(!?)10年－

野尻佳与子(内藤記念くすり博物館)
1998年2月19日(木)11:35～12:05
一宮市博物館 講座室

報告するテーマ

Ⅰ．普及活動

◎夏休み子供教室
草木染め、スパイスからのカレー作り、ハーブ工作。

◎植物画教室
薬草観察としての点描画を中心に描いている。

◎薬草説明会
4月～11月までの季節、毎月1回季節の薬草を紹介。

◎薬草友の会
4月～12月まで、薬草を博物館附属薬草園内の標本園にて薬草3種類程度の植え付けから収穫までを体験する。

Ⅱ．レファレンス活動

◎レファレンス・サービスについて

◎過去の記録からわかったこと(93年度～97年)
5年間のレファレンス統計及び傾向の紹介
※資料1：レファレンス記録票
※資料2：集計データ
※資料3：グラフ

◎制限している情報提供

◎よりよい利用者サービスのために

Ⅲ．博物館内の附属図書室について

◎附属図書室について
・博物館本館4階、6階部分が図書室
・図書資料3万点をNDC分類で登録して配架

◎一般利用希望者にも開放
・館内での展示及び調査研究のための参考資料だけではない利用者自らが利用できる開かれた専門図書館。
・和装本の閲覧も可能
・貸出し・コピーサービスもあり

◎コンピュータ目録
分類はＮＤＣ。書名の一部・著者名・出版社・出版年・寄贈者・入手年など複数の項目からの検索も可能

◎図書館建設の計画
・現在の図書室ではすでに手狭状態。
・博物館開館当初からの計画もあり、将来は別棟に図書館を建設する計画がある。

Ⅳ．インターネットの活用

◎博物館の公式ホームページについて
・パンフレット程度の情報提供ページ
参考：内藤記念くすり博物館
http://www.eisai.co.jp/museum/>
・所蔵品の情報データベースなども公開
・バーチャルミュージアム

◎博物館関連ホームページについて
・日本博物館協会/全科協などのページ
・企業や個人が発進する博物館情報ページ

◎共通様式による博物館資料情報のデータベース
・文化庁(国立東京博物館系)
博物館共通索引システムデータベース
・全科協(国立科学博物館系)
標本資料データベースの標準化

◎博物館関係者の交流の場としてのML(ﾒｰﾘﾝｸﾞﾘｽﾄ)
・各館及び博物館共通の諸問題について気軽に語り合うなど、情報交換として有効なシステム。

Ⅴ．所蔵資料情報などのデータベースについて

◎博物館資料の管理データベース
・登録資料約5万点余りは入力済み。

◎博物館図書の管理データベース
・登録図書約3万点余りは入力済み。
・和装本2万点余りの目録作業を進行中。

◎説明キャプションのデータベース

◎レファレンス記録

◎資料の貸出記録

◎博物館関係者の住所管理

◎今後の課題として
・画像情報の入力
・来館者への所蔵資料情報の公開
・インターネットでの所蔵資料情報の公開

年　月　日

内藤記念くすり博物館

レファレンス 質 問 処 理 票

(受付者)　(処理者)　(館長サイン)

文書／FAX／TEL／来館者口頭　担当者名＿＿＿＿→＿＿＿＿→＿＿＿＿

依頼者(所属機関及び氏名)	紹介者(仲介者)
住所:〒 TEL: FAX:	

問い合せ内容とそのバックグラウンド

～(区切り線)～

回 答

媒介情報源	質問内容	回答方法(登録番号、書名、ページなど)
◆図書 ◆資料 ◆図書と資料 ◆なし	◆博物館概要・利用案内 ◆検索・照会・所蔵調査 ◆事実調査 内容キーワード	◆図書貸出(内容→ ◆コピー送付(内容→ ◆情報のみ提供 ◆回答不能 ◆回答禁止・制限

内藤記念くすり博物館における1993年度から1996年度までのレファレンス集計表

依頼方法	Ⅰ	電話	31	41	52	65	189
	Ⅱ	文書	11	25	28	32	96
	Ⅲ	来館	0	1	4	7	12
		合計	42	67	84	104	297

質問内容			93	94	95	96	合計
(複数分類有)							
利用案内	A	博物館および利用に関する質問	0	3	6	8	17
		小計	0	3	6	8	17
所在調査	B	特定の資料・図書などの所在調査に関する質問	6	14	12	15	47
	C	特定の内容についての所在に関する質問	9	4	13	16	42
		小計	15	18	25	31	89
事実調査	D	ことばについての質問	3	1	7	3	14
	E	人名・地名についての質問	2	5	11	6	24
	F	薬についての質問	17	23	23	41	104
	G	植物や薬草についての質問	2	0	6	6	14
	H	医学・医療史についての質問	2	6	2	10	20
	J	博物館(他館)に関する質問	0	0	2	1	3
	K	健康問題など	0	0	2	0	2
	L	その他の事物に関する質問	2	15	17	24	58
		小計	28	50	70	91	239
		合計	43	71	101	130	345

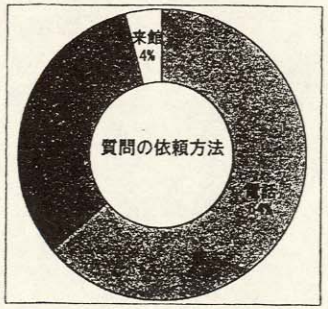
回答方法	1	情報そのものを提供した	6	13	29	40	88
(複数分類有)	2	コピーや写真などを提供した	29	46	39	46	160
	3	図書や資料を紹介した	5	5	11	9	30
	4	他の機関を紹介した	1	0	2	5	8
	5	回答できなかった	1	3	1	4	9
	6	情報提供を禁止した	0	0	3	2	5
		合計	42	67	85	106	300

情報媒体	ア	収蔵資料を使用	8	14	17	8	47
(複数分類有)	イ	収蔵図書を使用	25	39	44	56	164
	ウ	収蔵図書・資料を使用	6	4	2	8	20
	エ	情報のみ提供(媒体なし)	3	10	16	30	59
	オ	情報制限	0	0	5	2	7
		合計	42	67	84	104	297

問い合わせの総数	42	67	84	104	297

図1

電話	189
文書	96
来館	12



	'93	'94	'95	'96	合計
電話	31	41	52	65	189
文書	11	25	28	32	96
来館		1	4	7	12

図2

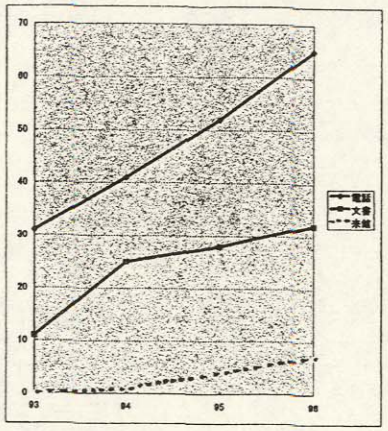


図3

利用案内	17
所在調査	89
事実調査	239

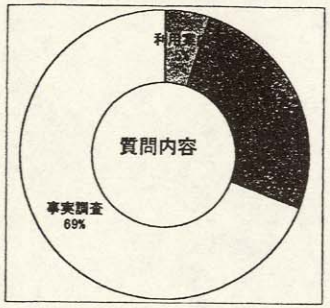


図4

B 資料や図書などの所在調査	47
C 特定の内容についての所在調査	42

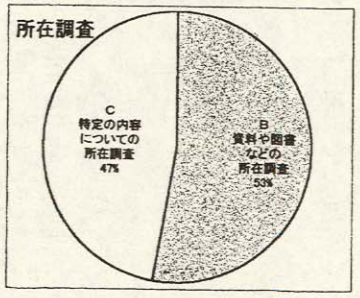


図5

Dことばについての質問	14
E人名・地名についての質問	24
F病についての質問	104
G植物や薬草についての質問	14
H医学・医療史についての質問	20
J博物館(施設)に関する質問	3
K統計関係など	2
Lその他の事物に関する質問	58

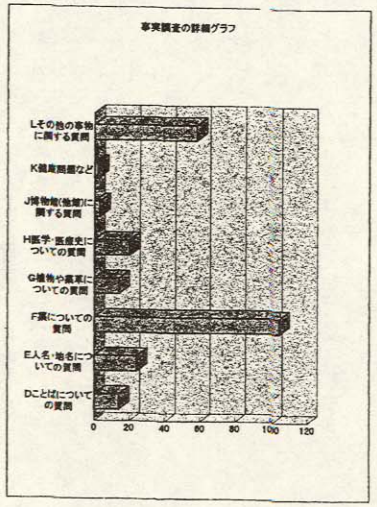


図6

7.収蔵資料を媒体として使用	47
4.収蔵図書を媒体として使用	154
9.収蔵図書・資料を媒体として使用	20
1.情報のみ提供(媒体なし)	59
8.情報制限	7

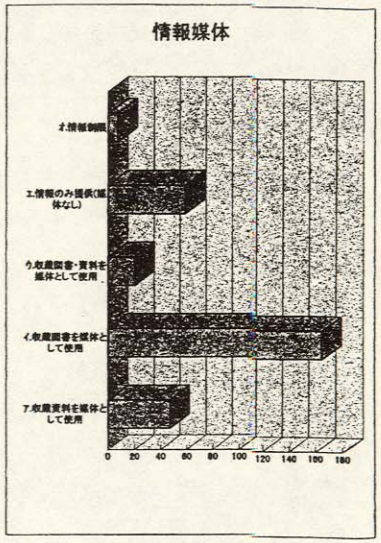
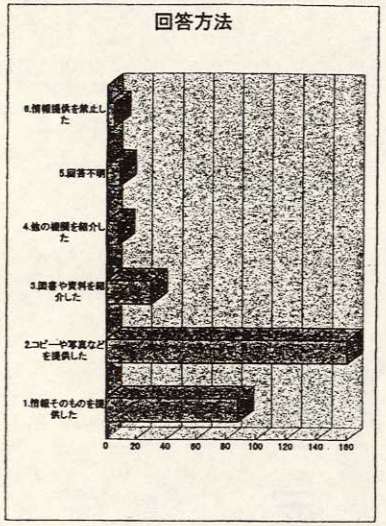


図7

1.情報そのものを提供した	88
2.コピーや写真などを提供した	160
3.図書や資料を紹介した	50
4.他の機関を紹介した	8
5.回答不明	9
6.情報提供を禁止した	5



内藤記念くすり博物館

＝図 書 室 利 用 案 内＝

＜利用時間＞

図書室・図書閲覧コーナー　９：００～１６：００

＜休館日＞

月曜日・12 月 28 日～１月８日

＜利用の手続き＞

入館希望の際には、受付で図書室利用申込書に記入の上、閲覧証の交付を受けて入室し、退出時に受付へ返却してください。閲覧証の返却により図書室を退出したものとします。

＜館内閲覧＞

図書室書架は４階と６階に設置されています。別紙の図書室案内図を参照ください。
館内の図書は、ご自由に閲覧いただくことができます。閲覧には、４階図書室または３階閲覧コーナーをご利用ください。利用済みの図書は、ご利用者自身で所定の書架に戻すか、担当係員にお渡しください。

＜館外貸出＞

４階図書室、または１階受付で申込用紙にご記入の上、必要な手続きをお取りください。

＜文献複写(コピー)＞

館所蔵図書、雑誌は著作権の許される範囲内で、コピーできます。
(古和装本などコピーできないものもあります。ご確認ください)
料金は１枚 50 円、セルフコピー(ご自身でのコピー)の場合は１枚 10 円です。
係員までお申しつけください。

＜図書の探し方＞

内藤記念くすり博物館の図書は NDC 分類(日本十進分類法)にしたがって配列されています。
分類表、書架案内図、NDC 分類目録をご参照ください。
お探しの図書の書名がわかっているものは書名目録をご参照ください。
なお、書名の一部や著者名、出版社などもコンピュータ検索によって可能です。
係員までご相談ください。

＜レファレンス＞

具体的な調査目的をお持ちで、必要文献をお探しでしたら、検索、記載図書の紹介など
係員までご相談ください。

＜所蔵図書＞

冊数　約 30000 点
医学・薬学の歴史的図書資料が中心です。

内藤記念くすり博物館
[図書分類表]

007 情報科学
010 図書館
020 図書・書誌学
025 出版目録
027 特定目録
028 所在目録
029 蔵書目録
030 百科事典
040 一般論集
050 逐次刊行物
059 年鑑
060 団体
069 博物館
069.05 逐次刊行物
069.6 一般の博物館
069.8 個々の博物館
069.9 催事目録
070 新聞
080 叢書・全集
100 哲学・心理学・倫理学
105 逐次刊行物
108 叢書・全集
110 哲学・人生観・倫理
120 東洋思想
130 西洋思想
140 心理学・易占
150 倫理学・教訓
160 宗教
170 神道
180 仏教
190 ｷﾘｽﾄ教
200 歴史総記
205 逐次刊行物
206 学会・団体
208 叢書・全集
209 世界史・文化史
210 日本史総記
210.3 参考図書
210.8 叢書・全集
211 日本史(通史)
212 日本史(時代史)
213 日本史(地方史)
220 東洋史
230 西洋史
280 伝記
280.3 辞典・人名録・肖像
288 家系・皇室・紋章
289.1 個人伝記(日本人)
289.2 個人伝記(東洋人)
289.3 個人伝記(西洋人)
290 地理・地誌・紀行
290.3 辞典・地名辞典
290.38 地図・絵図
291 日本の地誌・紀行
292 東洋の地誌・紀行
293 西洋の地誌・紀行
300 社会科学総記
310 政治
320 法律
330 経済
330.3 参考図書
330.5 統計書・年鑑
330.6 団体・団体史
332 経済史
334 人口
335 企業・経営
335.4 個々の企業・社史誌
335.405 逐次刊行物
340 財政
350 統計
360 社会学・福祉
370 教育
375.9 教科書・往来物
377 大学
377.05 逐次刊行物
377.28 個々の大学・大学史
380 風俗習慣・民俗誌
390 国防・軍事
394 軍事医学・兵食
400 自然科学総記
401 科学理論・科学哲学
402 自然科学史
403 参考図書
404 論集
405 逐次刊行物
406 団体
407 研究・科学教育
408 叢書・全集
410 数学
420 物理学
430 化学
430.2 化学史
430.3 参考図書
430.4 論集
430.5 逐次刊行物
430.6 団体
430.7 研究
430.8 叢書・全集
431 物理化学
432 実験化学
433 分析化学(有・無機)
434 合成化学(有・無機)
435 無機化学(実験)
437 有機化学(実験)
439 天然物の化学
440 天文学
450 地学・地質学
451 気象学
453 地震学・温泉学
459 鉱物学
460 生物学・博物学
460.2 生物学史
460.3 参考図書
460.4 論集
460.5 逐次刊行物
460.6 団体
460.7 研究・実験
461 理論生物学・生命論
462 博物史
463 細胞学
464 生化学(生物)
465 微生物学
467 遺伝学・進化論
468 生態学
469 人類学
470 植物学
470.2 植物学史
470.3 参考図書
470.38 図鑑・写真集
470.4 論集
470.5 逐次刊行物
470.6 団体
470.7 研究・採集・植物園
470.8 叢書・全集
471 一般植物学
471.1 植物形態学・解剖学
471.2 植物発生学
471.3 植物生理学
471.4 植物成分
471.7 植物生態学
471.8 植物分類学
471.9 応用植物・有毒植物
472 植物地理・植物誌
473 葉状植物・隠花植物
477 種子植物・顕花植物
480 動物学
480.3 参考図書
480.38 図鑑
490 医学
490.1 医学哲学
490.2 医学史
490.21 日本の医学史
490.219 日本の地方医学史
490.22 東洋の医学史
490.23 西洋の医学史
490.3 参考図書
490.4 論集
490.5 逐次刊行物
490.59 年鑑
490.6 団体・団体史
490.7 研究・実験動物
490.8 叢書・全集
490.9 東洋医学
490.938 伝染病
490.939 小児科
490.94 外科整皮秘
490.95 産婦人科
490.96 眼科
490.965 耳鼻咽喉科
490.97 歯科
490.99 薬方書
491 基礎医学
491.1 解剖学
491.2 発生学・胎生学
491.3 生理学
491.4 生化学(医学)
491.6 病理学
491.7 細菌病理微生物学
491.8 免疫学・血清学
491.9 寄生虫学
492 臨床医学
492.1 診断学・臨床検査法
492.2 対症療法・技術療法
492.3 薬物療法・血清療法
492.4 放射線医学
492.5 理学療法・温泉療法
492.6 食餌療法
492.7 ﾏｯｻｰｼﾞあん摩針灸
492.79 民間療法
492.8 医療器械
492.9 看護学・看護法
493 内科学
493.8 伝染病
493.9 小児科学
494 外科消毒麻酔ｶﾞﾝ
494.7 整形外科学
494.8 皮膚科学
494.9 泌尿器科学
495 婦人科学・産科学
496 眼科学
496.5 耳鼻咽喉科学
497 歯科学
498 衛生学
498.059 衛生統計・疾病統計
498.1 衛生行政・厚生行政
498.12 医療衛生法令
498.13 医療制度・医薬分業
498.14 医師
498.15 衛生試験・水質試験
498.16 医療施設・病院経営
498.2 家族計画・性教育
498.3 健康法・長寿法
498.4 環境衛生
498.5 栄養学・食品衛生
498.6 疫学・防疫
498.7 小児衛生・母子衛生
498.8 労働衛生・産業衛生
498.9 裁判化学・法医学
499.01 薬学概論
499.02 薬学史
499.021 日本の薬学史
499.0219 日本の地方薬学史
499.022 東洋の薬学史
499.023 西洋の薬学史
499.03 参考図書
499.04 論集
499.05 逐次刊行物
499.059 年鑑
499.06 団体・団体史
499.07 研究
499.08 叢書・全集
499.09 薬業経済・行政流通
499.091 薬事行政
499.0912 薬事法令
499.0913 薬事制度
499.093 薬業経済
499.0933 薬価・薬価基準
499.094 医薬品製造
499.095 薬局・薬店
499.098 薬科器械
499.1 医薬品
499.103 医薬品辞典
499.11 公定書一般
499.12 薬局方
499.121 日本の薬局方
499.122 東洋の薬局方
499.123 西洋の薬局方
499.13 準薬局方
499.131 日本の準薬局方
499.132 東洋の準薬局方
499.133 西洋の準薬局方
499.14 医薬品集・新薬集
499.141 ﾒｰｶｰの医薬品集
499.148 薬効別医薬品集
499.149 個々の医薬品
499.15 毒劇薬・麻薬
499.16 処方集
499.17 医薬部外品
499.2 薬理学・薬効学
499.2015 薬用量・中毒量
499.2018 副作用・薬害・DI
499.209 処方学
499.3 薬化学
499.4 薬品試験
499.5 薬品製造学
499.6 調剤学・病院薬学
499.7 家庭薬・民間薬
499.8 生薬学
499.81 和漢薬・中薬
499.86 薬用鉱物
499.87 薬用植物
499.871 日本の薬用植物
499.8719 日本地方薬用植物
499.872 東洋の薬用植物
499.873 西洋の薬用植物
499.879 個々の植物・生薬
499.88 薬用動物
499.9 本草学
500 工学・技術
501 工学基礎学
502 工学史・技術史
503 参考図書
504 論集
505 逐次刊行物
506 団体
507 研究・発明
508 叢書・全集
509 工業経済
510 土木工学
519 公害・環境工学
520 建築学
530 機械工学
540 電気工学
550 海事工学
560 採鉱・冶金学
570 化学工業
570.2 化学工業史
570.3 参考図書
570.4 論集
570.5 逐次刊行物
570.6 団体
570.7 研究
570.8 叢書・全集
570.9 化学経済・行政
571 化学工業・化学機械
572 電気化学工業
573 窯業・ｶﾞﾗｽ
574 化学薬品
575 燃料・爆発物・石油
576 油脂・香料・化粧品
577 染料
578 高分子化学
579 その他の化学工業
580 製造工業
588 食品工業
590 家政学・生活科学
598 家庭医学
600 産業
601 産業経済
602 産業史・物産誌
603 参考図書
604 論集
605 逐次刊行物
606 団体
606.9 博覧会・見本市
607 研究
608 叢書・全集
609 度量衡
610 農業
615.87 農薬
620 園芸
630 蚕糸業
640 畜産業
649 獣医学・動物薬
650 林業
660 水産業
670 商業
670.3 参考図書
671 商業政策
672 商業史
673 商業経営・商店
674 広告・宣伝
675 商品・ﾏｰｹｯﾃﾝｸﾞ
678 貿易
680 交通・運輸
690 通信事業
700 芸術
710 彫刻
720 絵画
730 版画
740 写真
750 工芸
760 音楽
770 演劇
780 ｽﾎﾟｰﾂ・体育
790 諸芸・娯楽
800 語学
810 日本語
820 中国語
829 東洋の諸国語
830 英語
840 ﾄﾞｲﾂ語
849.3 ｵﾗﾝﾀﾞ語
849.4 北欧語
850 ﾌﾗﾝｽ語
860 ｽﾍﾟｲﾝ語
870 ｲﾀﾘｱ語
880 ﾛｼｱ語
891 ｷﾞﾘｼｱ語
892 ﾗﾃﾝ語
893 その他のﾖｰﾛｯﾊﾟ語
899 ｴｽﾍﾟﾗﾝﾄ語
900 文学
910 日本文学
911 詩歌
912 戯曲
913 小説・物語
914 評論・随筆
915 日記・紀行
916 ﾙﾎﾟﾙﾀｰｼﾞｭ
917 ふう刺
918 作品集・全集
919 漢詩文
920 東洋文学
930 西洋文学

博物館関連のホームページ

日本博物館協会ホームページ	(準備中 2/12 現在)	Http://www.j-muse.or.jp/
全国科学博物館協議会		http://www.kahaku.go.jp/JCSM/index.htm
インターネットミュージアム	(ＭＬ開設予定) 展示施工会社　丹青社(株)の運営	Http://www.museum.or.jp/
博物館にホームページを！ 「博物館におけるホームページの活用と博物館ネットワーク構築」	博物館関係者同士の情報交換のＭＬがある	http://www.ask.or.jp/~museum/
文化財情報システムフォーラム 趣旨 文化庁で，国立博物館・美術館の収蔵作品や国指定文化財について，計画的にデジタル化と情報公開を進める「文化財情報システム・美術情報システム」を 構築中，さらにそのシステムを拡充して，国立館の収蔵品や国指定文化財に限らず，各公私立博物館・美術館がインターネットで公開している文化財や美術品の情報を容易に検索できる「共通索引システム」で結び，国民が自宅の端末から，知りたい情報を引き出せることを目指し，これを推進するために財団法人日本博物館協会の協力を得て，「文化財情報システムフォーラム」が設立された。	文化庁文化財保護部伝統文化課文化財保護企画室調査係	http://www.tnm.go.jp/bnca/
日本の企業博物館 日本中の企業博物館をほぼ網羅。紹介とリンクのホームページ	星合重男氏が主催	http://village.infoweb.or.jp/~fwgk6695/index.html
ＵＲＬ収蔵庫	博物館職員(神戸市立博物館塚原氏)が個人的に発信	http://www.bekkoame.or.jp/~atsuka/ush/ush.html
博物館情報（博物館事例研究会）		http://www2m.meshnet.or.jp/~suntou/museum/museum.html
博物館の博物館(ぼくの、私の、知りたいを助けてくれる)	松下こうじ氏(大阪大学大学院人間科学研究科)が発信	http://www.hus.osaka-u.ac.jp/esthome/matusita/Museum/Museum.html
博物館へ出かけよう！ 博物館関連のホームページへのリンクと下記コーナーがある。 (雑感ミュージアム/スキャナー押し花/道具が語るくすりの文化誌)	野尻佳与子(内藤記念くすり博物館)が個人的に発信	http://www.imart.or.jp/~kako/

内藤記念くすり博物館

Z00158

薬と病の合戦図

産地→

くすりとやまいのかっせんず　　江戸時代

売薬が武士の姿に扮し、鬼の姿の病気と戦をしている。薬の神様といわれる神農の指揮のもとで、薬は病と戦っているが、薬軍の方がやや優勢であるようにみえる。

Capｻｲｽﾞ
D

登録者
野尻

登録日
88/01/01

翻訳用和文
→

中野操様　寄贈←寄贈者

※Capｻｲｽﾞには、A(大型),B(中型),C(小型),D(小型細長)のいずれかｻｲｽﾞを指定する。半角大文字で。



なにが展示されてるのかな？覗いてみよう！

登録NO	分類NO	大分類	小分類
Z00158	10-06	広告	錦絵広告

資料名
薬と病の合戦図

作者	製科	売源群
一猛斎芳虎	-	-

県国名	時代	サイズ
---	江戸 弘化4-嘉永5(1	35.7x83.0

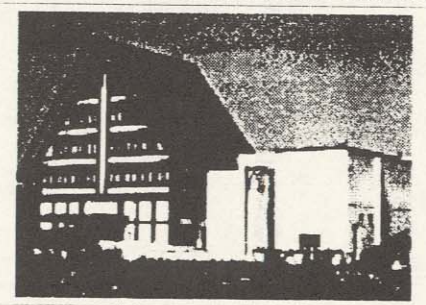
形状	容器	入手先
紙製		中野操

ﾖﾐｶﾞﾅ	収蔵	ネガNO
ｸｽﾘﾄﾔﾏｲﾉｶﾂｾﾝｽﾞ	197-	0063-19

収蔵場所	印刷	点検	図録	備考
1		済	広告	

参考:くすり博物館所蔵資料ﾃﾞｰﾀ

※↓ここには将来資料の画像が表示できる



備考

状態特徴

平成９年度愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会資料

鳳来寺山自然科学博物館
加藤　貞亨

ア）鳳来寺山自然科学博物館と名物館長との出会い

役場職員の姥捨山！？
憂鬱な毎朝と押忍の精神
叱声，罵詈雑言は，訓育．厳愛
年間無休開館
学習会とそこで出会う人達は博物館勤務の中で唯一のオアシス

イ）友の会の育成（多くの人が寄りつけば）で博物館も自分も元気になれる

とにかく会員を増やそう（博物館を取り巻く人達は財産．子どもは宝）
会員証（学習会参加証）の発行
組織作り
総会を開催したい
会報を創ろう

ウ）野外学習会は和気あいあいと，親子で楽しく学ぼう

友の会員の積極的な参加で受講者も講師も歓びを
幼稚でもいいから自分でオリジナルなテキストを作んだ（子どもの視点で）
学習会参加証に出席印を押す楽しみ，押される楽しみ（パーフェクトを狙え）
会員表彰で生まれてはじめてもらう賞状

エ）博物館は窓口できっぷ売って，他になにしてるの

「はくぶつかんだより」でコミニケーション（窓口，友の会員，町民へ配付）
「博物館フィールドノート」（町の広報誌”広報ほうらい”へ連載）
「気まぐれ　きのこ　たんけん記」（ミニコミ誌”豊川”へ連載）
自然のパンフレット（窓口，友の会員へ配付）

オ）フィールドは我が町わが郷土

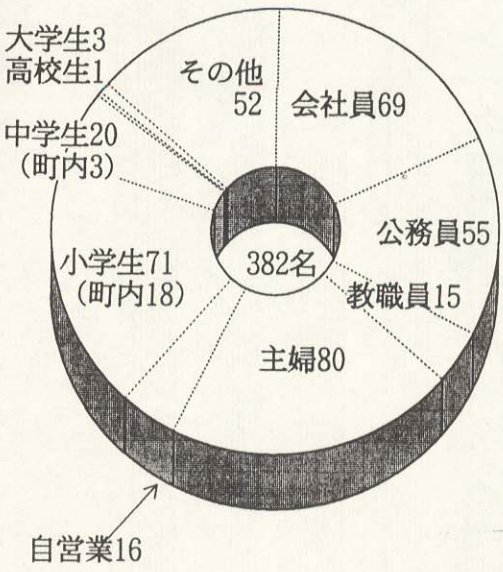
みんなキノコが好きだったんだ
コノハズクからは逃れられない
出前博物館

自分の歩幅で歩く
動けば見えてくる
人が集まり，賑やかなところは楽しい．　何か生まれ，何かが始まるかも
自然こそ最高の師（今関六也）＝実物こそ師

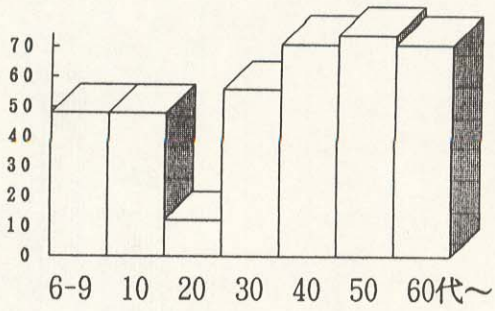
友の会活動

平成９年度の友の会の会員構成

職業別の構成



年齢別の構成



地域別の構成





講習会参加証

会員No.

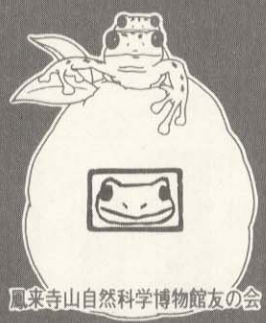
氏　名

住　所

○入館のとき、係員に会員証をお示しください。
○本人以外の使用はできません。
○この会員証の有効期限は　　年3月31日限りです。

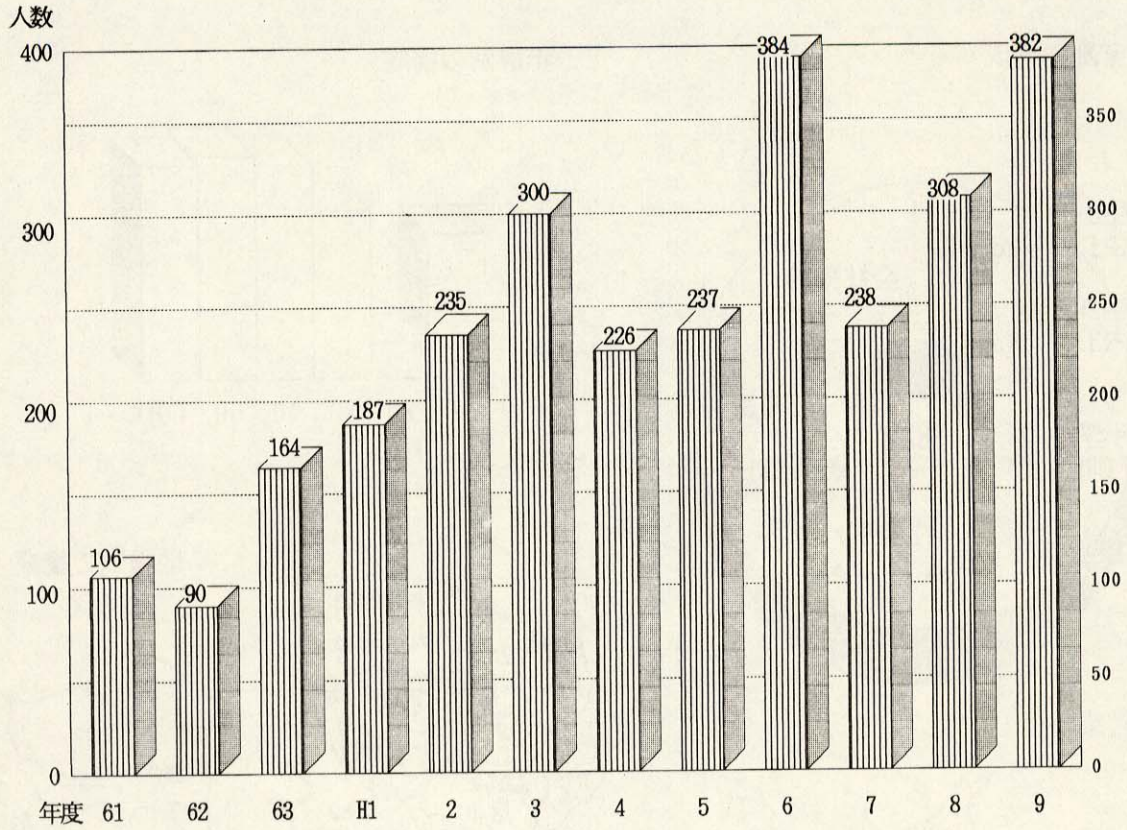


会　員　証

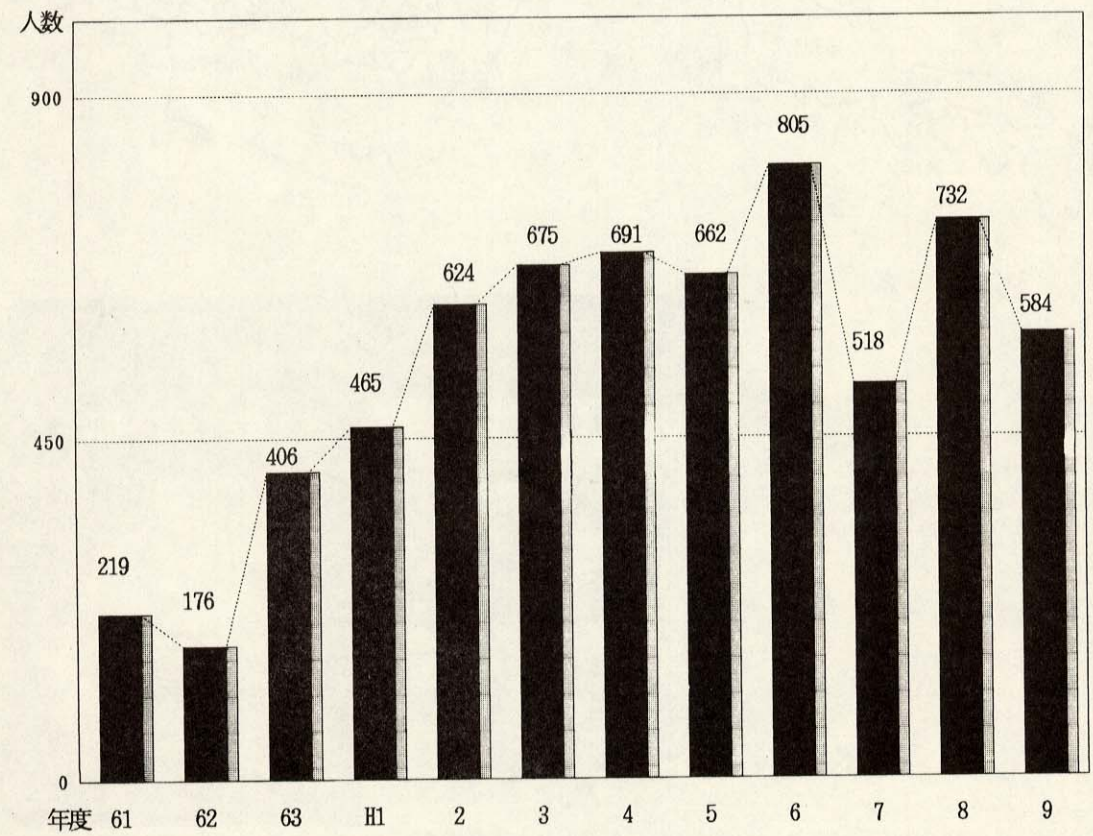


鳳来寺山自然科学博物館友の会

博物館友の会員の推移



博物館学習会の参加者推移



平成9年度　鳳来寺山自然科学博物館行事一覧表

期日・場所	行　事　名	内　　容	備考
5月24日（土） 鳳来町県民の森	鳳来寺山周辺の 生きものを学ぶ	鳳来寺山東側、県民の森の虫や魚、鳥や貝などの動物ウォッチング.	50名募集 300円
6月8日（日） 豊橋市赤沢海岸	海岸の地形と 化石を学ぶ	渥美半島東部赤沢海岸の地形と地層観察、化石採集（バス利用）	40名募集 2000円
7月13日（日） 鳳来寺山麓	夏の植物を調べる	普段見過ごしている路傍の身近な植物など、足元の植物観察.	50名募集 300円
7月20日 ～8月30日 博物館講堂	（特別展） 自然研究の たのしみ	当館学術委員の研究の一端を紹介. 研究の小道具や方法、進め方などを紹介し、自然研究のヒントを提供.	通常入館料
8月3日（日） 嵩山と石巻山	鍾乳洞と 川のつくる地形	嵩山の蛇穴で鍾乳洞の観察. 石巻山から豊川を学ぶ.（バス利用）	40名募集 2000円
8月23日（土） 鳳来町寒狭川	川の生きものを 調べる	水生昆虫、魚類、貝類など水生生物を調べる.（ｻｲｸﾘﾝｸﾞﾀｰﾐﾅﾙ現地集合）	50名募集 300円
9月20日～10月 31日博物館講堂	（特別展） き　の　こ　展	鳳来町内で採集した本物のキノコとパネル、写真で野生きのこを紹介.	通常入館料
10月12日（日） 鳳来寺山	きのこを学ぶ	きのこ採集をとおして、発生環境や種類、見分け方を学ぶ.	50名募集 300円
11月9日（日） 鳳来寺山	秋の紅葉を楽しむ	紅葉するもの、しないものなど、楽しみながら植物観察.	50名募集 300円
12月13日（土） 鳳来寺山麓	バードウォッチン グと巣箱作り	野鳥観察と、巣箱・エサ台作り. コノハズク用巣箱作り（設置は別日）.	50名募集 300円
1月4日 ～3月31日 博物館講堂	（特別展） わたしの自由研究	夏休みや冬休み、学校や家などで取り組んだ自由研究の成果を紹介. ★展示紹介する作品を大募集☆	通常入館料
2月8日（日） 鳳来寺山周辺	冬の自然探検	きびしい寒さの中に身をおいて、冬を越す生物のありのままを観察.	50名募集 300円

1．詳しいことは、電話でお問い合わせ下さい。
2．学習会の参加費には、傷害保険料も含まれます。
3．申込は1ヶ月前から受け付けます。希望者が多い場合は、鳳来町在住者・友の会員を優先に、先着順となります。1講座ごとに申し込んでください。

申し込み・問い合わせ先：鳳来寺山自然科学博物館
〒441-19　愛知県南設楽郡鳳来町門谷字森脇6
TEL／FAX　0536 3－5－1001

仏法僧（コノハズクの声）を聞こう 聞きたい 鳴かせたい

博物館では、コノハズクの生息調査や保護活動について町民の皆さんの協力と支援をいただきたいと願っています。

「仏法僧」の鳴く里づくりに皆さんからの情報や、行動がおおきな力になります。多くの方の耳と、手足と熱意を貸してください。



活動の内容

1．鳴き声調査

⑴今シーズンの鳴き声情報の収集

方法：鳴き声を直接聞きにでかけます。

・夕方から明け方にかけて「ブッポーソー、ブッポーソー」と鳴きます。

・蛾などが飛び回るような暖かな夜によく鳴くようです。

・鳴き声を聞くことができたら博物館へ連絡してください。

（聞いた日時、場所、鳴き声の様子、報告者の住所・氏名・連絡先）

（録音してあればさらにありがたいです）

・博物館職員が確認に出向きます。

期間：４月下旬から７月頃

場所：家のまわりや生息していそうな場所

・自然林が多く、昆虫類などのえさが豊富で樹洞がありそうな森林。

⑵過去に聞いたことのある方からの情報提供

方法：鳴き声を聞くことができた場所、年代、自然や環境の変化等についての聞き取り調査をおこないます。

・過去（昨年より昔のこと）にコノハズクの鳴き声を聞いた経験のある人は博物館へ連絡ください。

期間：随時。記憶の糸をたどって、できるだけ詳しく教えて下さい。

2．巣箱作成、設置、利用状況追跡調査の共同作業

方法：コノハズク用の巣箱を作成し、生息が期待できそうな場所を選んで巣箱を掛けます。翌年以降定期的に利用状況の追跡調査を行っていきます。

期間：巣箱作成・１２月頃

巣箱設置・１２月～３月

追跡調査・翌年以降の１１月～３月

3．その他コノハズクに関するあらゆる情報

⑴姿を見た（飛んでいた、生息していた、営巣していた、死体など）

⑵保護した（傷病、衰弱、網に掛かっていたなど）

⑶その他（エピソードなど）

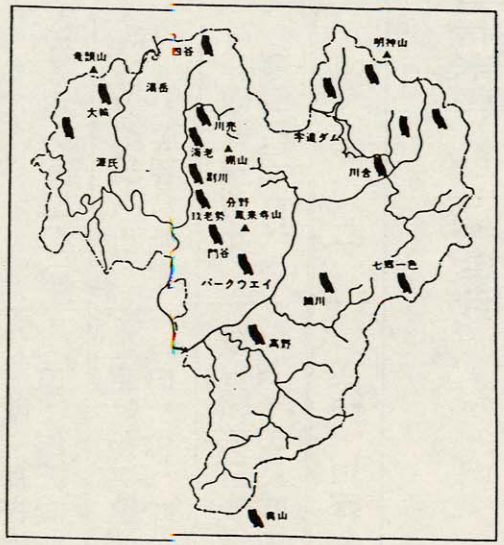
平成８年５月、仏坂と池場で「仏法僧」ことコノハズクの鳴き声が確認されました。鳳来寺山での鳴き声が途絶えて久しいなかでの明るいニュースでした。

以前は、鳳来町の各地で聞くことができました。自動車やテレビの普及など、生活は快適で便利になりましたが、自然の息吹にじっと注意を払うことが少なくなったようにも思います。

もしかしたら、わたしたちの裏山にやってきて、気づかれずに鳴いているのかもしれません。

この機会に仏法僧の鳴き声にじっくりと耳をすましてみてはいかがでしょうか。

コノハズクを呼び戻すために、わたしたちにできることからひとつづつ取り組んでまいりたいと思います。



コノハズクの声が聞けた地域

連絡先／鳳来寺山自然科学博物館：５－１００１

博物館だより

第1号

□ あたらしい行事(ぎょうじ)あんないができましたよ。



だい1かいめは
5月29日(日ようび)
「ほうらいじ山の生き
ものを学ぶ」です。

おとなだちといっしょに参加(さんか)してね

□ ことしのモリアオガエルの産卵(さんらん)はいつになるのかな

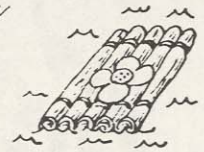
たまごをはじめて見つけた日	
昭和55年	5月13日
56年	5月17日
57年	5月10日
58年	5月 6日
59年	5月15日
60年	5月12日
61年	5月15日
62年	5月13日
63年	月 日



□ ふしぎな花・・・ハナイカダの花

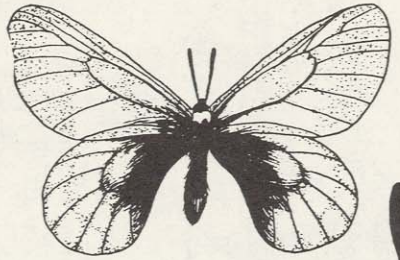
あわいみどりいろの花がはのまんなかに咲くかわったしょくぶつです。ほうらいじ山でも見ることができます。





わかばはゆでればたべられます。ためしてみてはいかが。

□ ウスバシロチョウ・ギフチョウの幼虫は何をたべて大きくなるの



ウスバシロチョウ

幼虫はムラサキケマンを食草にします。4月の中ごろからヒラヒラとしぶすがたがみられるかもしれないよ。



ギフチョウ

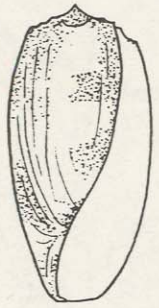
幼虫はカンアオイを食草にします。はくぶつかんではさなぎが3月18日から羽化をはじめたよ。

□ たのしい春の特別展(とくべつてん)

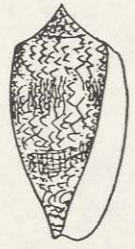
―南の島と海の貝―



みなみの海にはきれいな貝がおおくみられます。でもおそろしい貝もいますよ。



アンボイナ



タガヤサンミナシ

○イモガイのなかまは猛毒(もうどく)をもっていてさされるとすう時間で死んでしまいます。



春の博物館事情





長い間ほんとうにごくろうさまでした

（平成7年3月31日）

博物館の発展に功献し、長く、その運営に心血をそそいでこられた松井保館長（20年間）と、4年間にわたり鳥居植物標本（シダ類）の分類整理に尽力された加藤等次研究員のお2人が、この3月いっぱいで館をはなれることになりました。

今までのご努力と功績に深く敬意を表し心より感謝します。今後も博物館を陰に陽に支援していただけることを願ってやみません。

おつかれさまでした。ありがとうございました。







大空にもどったオオコノハズク

（平成7年4月6日）

新館長誕生

（平成7年4月1日）

鈴木仁志（ヒトシ）新館長を迎へ新しい体制での博物館の出発です。

鳳来町教育長と兼務になりますが、今後の学校休日の活用、生涯学習の場、学校教育との連けいなど地域に密着した、ひらかれた博物館づくりに、少人数ですが職員一同力をあわせてがんばりたいと思います。





コノハズクよたっしゃでな

（平成7年4月3日）

平成4年10月3日、名古屋市新栄で保護され、博物館に持ち込まれたコノハズク。館長がずっとめんどうをみてきましたが、自然界に飛び立つまでには回復することができませんでした。

今回、豊橋動物園で専門の獣医さんに保護をお願いすることになりました。

豊橋動物園ではコノハズクの繁殖研究にも取り組んでおり、将来のためにも安心です。

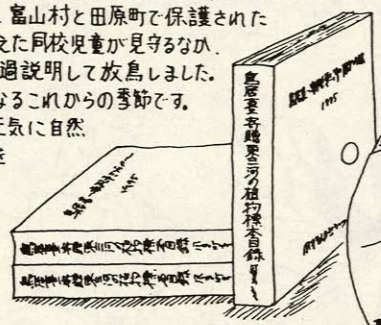
松井前館長が直接ひきわたしましたが、よくなれていたのでさびしそうでした。

傷ついて保護されたオオコノハズクが元気になり、動物愛護活動で有名な新城市立八名小学校（森 哲成 校長）で放鳥されました。

飛びたったのは、富山村と田原町で保護されたもので始業式を終えた同校児童が見守るなか、松井前館長が経過説明して放鳥しました。

エサの豊富になるこれからの季節です。

たくましく、元気に自然にもどることを祈りました。



「鳥居喜一寄贈東三河の植物標本目録」の完成

（平成7年3月30日）



当館学術委員であった故鳥居喜一先生が昭和初期から60余年の歳月をかけて採集した腊葉標本、約4万余点が博物館に収蔵されています。

その標本目録がついに完成しました。

この目録は牧野彦二先生（学術委員総務主任）の多大な陰の功労なしには存在しません。11年以上にわたり収蔵庫にかよわれ、黙々と分類整理あたられた結果です。ぼう大な時間と汗の結晶です。

標本の安全保管と有効活用は館の大切な使命です。

平成7年度 行事決まる



今年の年間行事が決まりました。

学習会はできるだけ、第2、第4土曜日、夏休みに行うよう心がけました。

また、特別展も地域性のあるものを考えています。

郷土の自然科学博物館、おおいに活用して下さい。

館報24号発行

（平成7年3月31日）



「鳳来寺山自然科学博物館30年史」として編集されています。

提言や思い出、30周年記念式典のもようなどが収録されています。

ヒノキ花粉飛散

（平成7年4月8日）



今年はスギ・ヒノキ花粉の大発生の年といわれています。門谷の谷でも3月1日のスギ花粉についてヒノキ花粉が大発生し、谷中が白くけむるほどでした。

はくぶつかんだより No. 32 1995. 4
— 鳳来寺山自然科学博物館 —

新緑から深緑の季節へ



日本一の大断層 中央構造線を学ぶ

（平成8年6月8日、54名）

総延長1,000kmにもおよぶ中央構造線がわたしたちの町を分断するようにとおっています。今回の地学学習会では、新城市から鳳来町で見られる中央構造線の露頭を観察して、大地のダイナミックな動きと、成り立ちを学びました。



博物館の新しい風（平成8年4月1日）

新年度の人事で博物館に新館長が誕生しました。前学術委員で医王寺住職でもある横山良哲館長です。さらに、藤原浩子さんにかわって酒向千歳さんが配属されました。今後友の会の事務局もやってもらいます。

若い新館長のもとでスタッフ一同、はりきって活動をはじめました。



奥三河のお宝ハンティング

（平成8年6月13日）

標本用岩石の採集をしながら、奥三河地方の岩石・鉱物の産地めぐりをしました。今回は、そのほんの一部ですが館長に案内してもらいました。大理石やマンガン鉱山跡は、宝さがしの気分でワクワクしてしまいました。





巣箱に野鳥が入ったよ

（平成8年5月13日）

昨年の12月16日、鳳来寺小ふるさと学級で作った巣箱から、ヒナが巣立ちました。自分で作った巣箱が野鳥の保護に役立ったことを、自分の目で確かめることができて、とてもよい体験でした。

新聞（東愛知）でも紹介されうれしい話題になりました。



第2回友の会総会

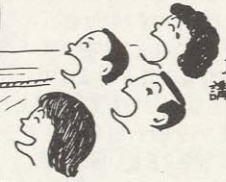
（平成8年5月12日）

一、平成7年度会員表彰
一、平成7年度活動報告
一、平成8年度活動計画
一、役員改選

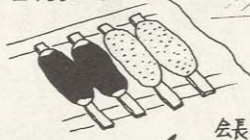
○特別講演
当館学術委員
井波一雄先生



大好評だった講演会



○懇親会
五平もち作り



博物館友の会（小椋克好会長）の第2回総会が開催されました。今回は、会報「瑠璃山」も創刊され、特別講演では、平成8年度「植物地理・分類学会」賞を受賞（6月1日）された井波一雄先生のお話を聞くことができました。内容は、次の会報No.2に掲載予定です（お楽しみに）。

懇親会では、昨年にひきつづき五平もち作り、焼きたてのあつあつをおなかいっぱいいただきました。



まいごのフクロウちゃん

（平成8年5月17日）

下山村の路上でひろわれたフクロウのヒナが持ち込まれました。全身が白い羽毛でおおわれていて、まだ飛べる状態ではありません。近くに巣も見つけられず、農家の人が保護していたものです。

巣立ちまで博物館で飼養することにしました。6月末には放鳥する予定です。



鳳来寺山の生きとものを学ぶ

（平成8年5月25日、97名）

鳳来寺山の北側、植原林道をコースにしておこないました。植原川はきれいすぎて水生生物は少なかったですが、ふだん人が入らないところでもあり、野鳥は18種が確認されました。ただし、姿はなかなか見れないので、鳴き声での調査になりました。



うれしい利用者

今年度も町内の小学生（山吉田小3年生、鳳来東小4・5年生、鳳来寺小2・3年生）が博物館を訪れてくれました。郷土の自然のことなら何でも対応できる博物館を目指して、子供たちの期待にそえるよう努力していかなければなりません。

ありがとうございました

（平成8年5月31日）



庄田とよ（67）さんは、昭和47年4月から当博物館に勤めて以来、25年と2ヶ月にわたり、人知れず陰で館を支えてくれた大功労者です。館にとって冬のような時代も、もくもくと仕事をされ、なくてはならない存在でした。草とりから、そうじ、文書の清書、片づけ、標本づくりまで、何でもためるお母さんでした。なかでも腊葉標本作りは、みごとです。標本ラベルに採集者と標本作成者の欄があれば、当館の腊葉標本の多くは庄田さんの名が書かれるはずです。

この5月末日で退職となりましたが、今までの功労は職員一同決して忘れません。心より感謝しています。



モリアオガエル産卵

（平成8年5月31日）



5月の少雨と寒さはモリアオガエルの産卵にも大きな影響を与えたようです。今年最初の産卵は5月31日で、例年より2週間、昨年より11日遅れでした。博物館で記録をつけはじめてから（昭和50年）もっとも遅い記録になりました。

はくぶつかんだより No.37 1996.6

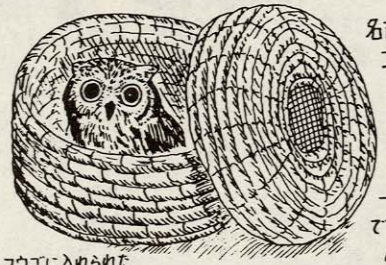
鳳来寺山自然科学博物館

鳳来寺山自然科学博物館

博物館のコノハズク日誌

はばふつかんだより No.43 1997.4

名古屋で保護されたコノハズク（平成8年5月初旬）



フウゴに入れられたコノハズク

名古屋市昭和区でコノハズクが保護されました。

鳥獣店を経営する早川敏雄さんの手厚い看護によって一命をとりとめることができました。

6月5日、リハビリのために鳳来寺山の博物館へやってきました。（はくぶつかんだより No.38参照）

コノハウス（平成8年8月8日）



より自然に近い状態で自由に飛びまわれる空間を作ってあげようと考え、中庭にこしらえました。

巾、奥行7m、高さ8mで内にはペカンの木がまるごと、すっぽり入っています。ちょうど大きなカヤをつった感じです。

日光浴



秋になり気温が下がってくるとコノハズクのとまる位置がだんだん高くなってきました。

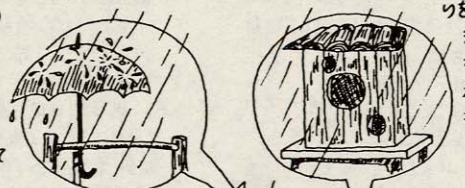
それまで葉陰にかくれるようにしていたのが日当りのよい場所で、体をふくらませて、太陽の熱をいっぱいに吸収しているように見えます。

それとも、冬を前に渡りの旅に思いをはせているのでしょうか。

雨やどりしてホッ（平成9年3月28日）

氷雨で死にそうになった苦い経験から、安心して雨やどりできる場所の必要性を痛感しました。初めは、大きな巣箱形の小屋を設置しましたが、一度も使ってくれません。逃げ場がないのが不安なのかもしれません。次にいつも使うとまり木の上にカサをさしてみました。しかし、一時的にとまることはあっても、長くはいられないようです。カサに当る雨音が大きいので気になるのかもしれません。

次に周囲がまる見えの屋根付きのとまり木を作ってみました。すると今度は安心したのか、大雨になると必ず中に入って雨やどりをしています。



ながなか神経質で苦労します。

コノハ隠れの術



警戒心の強いコノハズクは、コノハウスへ移ってからは、日中ほとんど木の葉陰に隠れるようにして、じっとしています。

こちらの目が慣れるまで、なかなか姿を見つけることができません。体の色は木の幹とほとんど同じですし、体も細くしているので初めての人は、位置を教えてあげても、わからないほどです。

お気に入りの場所？（平成8年6月15日）



とりあえず2m四方ほどの部屋（保護室）に移すと、フクロウ用の大型の巣箱が気に入ったのか一日中、出入口にとまってじっとしています。

でも決して箱の中には入ろうとしませんでした。

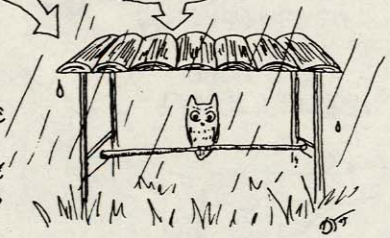
おこるとこわいゾ



あまり近づきすぎると、クチバシをカチッカチッと鳴らし、羽を思いっきりふくらませ、羽角をふせて体や頭を左右にゆらして相手をいかくします。

逃げるときは、サッと飛びあがり、ネットにへばりついて、まるでコウモリのようなポーズで、こちらをにらみます。

食欲旺盛体重増加



平成8年7月5日の体重60g。その後コノハウスに放鳥。運動量も増えた為か、エサを自分の体重の半分ほども食べるようになりました。

12月6日の測定では80g。ほぼ平均的な体重にまで回復しました。平成9年3月21日の計測では83g。毎日ほとんどエサを残しません。不消化物はペリットとして口からはき出します。もちろん糞も良好です。

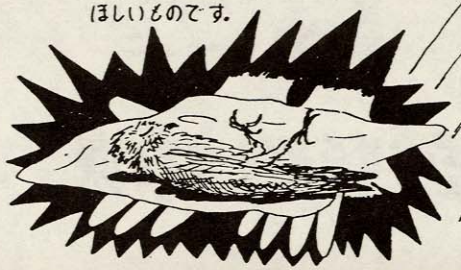


ペリット（実物大）

仏法僧（ブッポーソー）と鳴いた！けど…（平成8年8月20日、12月31日、平成9年1月16日）

つぶやくほどの声で鳴きました。門谷の谷に響きわたる大きな鳴き声ならばみんなが驚いたにちがいありません。幸運にも聞けたのは隣家の日比野さんと、博物館職員だけでした。

今年こそは、仲間にとどく声で鳴いてほしいものです。



コノハズクが死んでしまったァ!!?（平成8年12月5日）



前夜から降り始めた冷たい雨が気になって、その朝近づいてみました。

心配が適中して、雨に体温をうばわれ、飛べなくなってしまったようです。体を温めてやろうと、さらに近づいても逃げる元気もないようです。タオルにくるんで部屋に運ぼうとすると、少し抵抗した後、目をつむりピクリとも動かなくなってしまいました。　死んでしまった!!

こちらの心臓が止まるほどのショックでした。

しかし、冷静になって顔を近づけると、わずかに鼓動が伝ってきました。急いでストーブで体を温め、懸命に処置した結果、正午頃、「クゥー」という声と共に箱の中で起きあがることができました。感激と安と、命のはかなさと重さをずしりと感じた、長い長い一日でした。

気持ちいいのかな（平成9年3月4日）



厳寒期の室内生活でクチバシのまわりと足指にびっしりと重いほどアカ（エサから付く汚れ）がこびりついてしまいました。

見るに忍びずピンセットできれいに取り除いてやると、全く無抵抗。かゆいところに手がとどいた快感か、されるがままに、うす目をあけて、じっといい子にしていました。

春から初夏へ

はくぶつかんだより No.44 1997.6



博物館館報26号
（平成9年3月28日刊）

平成8年度の館報ができあがりました。内容は学術委員、博物館職員の調査研究報告と事業報告です。愛知県初のヤステ目録をはじめ、鳳来寺山北東部の砂岩脈、医王寺断層の新露頭、鳳来寺山の維管束植物、鳳来町のきのこ(1)などカラー頁も交えた見やすい編集です。興味のある方は、ぜひ読んで下さい。



モリアオガエル初産卵
（平成9年5月7日）

今年は例年になく早い春のおとずれと思っていたら、モリアオガエルも気が早く卵を生みました。鳳来寺山中腹の医王院近くの池が毎年いちばん早いので、いつも気をつけています。昨年は5月3日でした。今年は24日も早い産卵で、昼間でした。同日、博物館でも産卵。たのしい話題になりました。



第3回友の会総会開催
（平成9年5月11日）

平成9年度の友の会総会がたのしくおこなわれました。役員は
会長：小椋克好さん、副会長：大嶽幸男さん
会計：山田恵一郎さん、監事：竹之内昭夫さん、
大橋滋子さんが再選されました。ひきつづきがんばっていただけます。そして平成8年度の報告と9年の計画が承認されました。

特別講演は、学術委員の菅谷先生による「地震と災害」についてです。内容は「るり山」No.3でくわしくお知らせします。早く知りたい人は直接先生に聞きましょう。

友の会報「瑠璃山」No.2も総会にあわせて発行されました。井波先生の講演、会員の記事が載って充実の内容。全会員に配布しました。







博物館学術委員総会（平成9年4月19日）

4月から平成9年度の博物館事業計画にもとづいて活動を開始しています。中でも教育普及活動は、たいせつな事業のひとつです。

野外学習会、特別展は、特にそれぞれに専門の学識をもった学術委員の先生方に指導や支援をいただいています。博物館の全委員に一同に集まってもらい、学習会、特別展、館報への執筆など、さまざまな打合せがおこなわれました。人気の学習会もこのようにして決まります。



こん親会は五平もち作り。自分でにぎったもちに特製みそダレをつけて焼き、あつあつをいただきました。

コノハズク鳴き声調査開始
（平成9年5月2日～）

鳳来町でまだ「仏法僧」の聞けるところはあるのでしょうか。期待と不安のまじるなか、夜な夜な鳴き声を求めて山へ入りました。

広報やはくぶつかんだより、オフトーク放送などで町の人や友の会のみなさんにも協力をお願いしたところたくさんの情報を寄せていただきました。

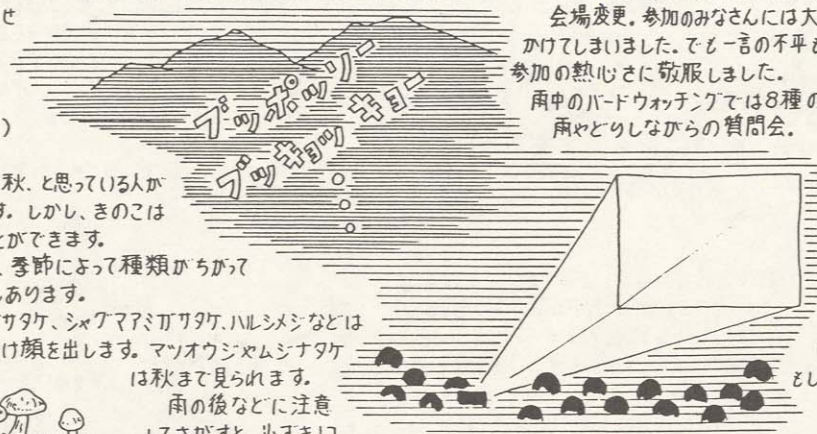
現在3ヶ所で鳴き声が確認できています。

6月に入ると聞きにくい季節になってきますが調査は続けています。情報があったら、連絡してください。

鳳来寺山の生きものを学ぶ会
（平成9年5月24日・雨・80名参加）

朝からの雨で県民の森から、急きょ博物館へ会場変更。参加のみなさんには大変めいわくをかけてしまいました。でも一言の不平もなく、雨でも参加の熱心さに敬服しました。

雨中のバードウォッチングでは8種の野鳥を確認、雨やどりしながらの質問会。



午後はスライドを使ったり、標本で、野鳥、水生昆虫、貝の話。そして最後に顕微鏡でチョウの羽の鱗粉の観察もしました。

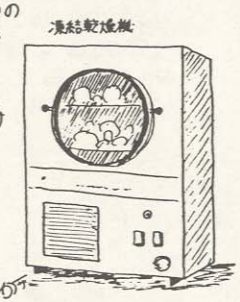
新兵器登場（平成9年5月30日）

きのこなどのようにやわらかく、くさりやすいものの標本作成は大変です。今までは液浸か、乾しシイタケのように乾燥するしかありませんでした。

液浸は、ビンや薬品が必要で、標本と長いあいだに白くなったり、くずれたりします。

乾燥はしわしわのミイラになって元の形がわかりません。

この機械は凍結した標本から水分だけをぬき取り、ほとんど原形のまま標本にすることができるすぐれものです。魚や鳥もどろうんできます。



春～初夏のキノコ（平成9年4～5月）



キノコといえば秋、と思っている人が多いと思います。しかし、きのこは一年中見ることができます。

ただし、季節によって種類がちがってくるものもあります。

アミガサタケ、シャグマアミガサタケ、ハルシメジなどは春にだけ顔を出します。マツオウジやムシナタケは秋まで見られます。

雨の後などに注意してさがすと、必ずキノコに出会えます。



鳳来寺山自然科学博物館

水無月の話題

亀太郎と鶴吉のこと
（平成9年6月23日）

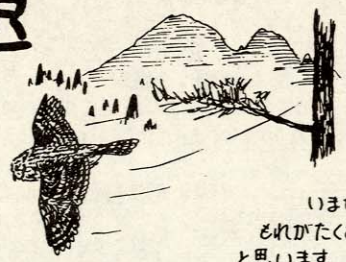
玖老勢の民家の屋根裏に巣をつくり、生まれたばかりのムササビの赤ちゃんが運び込まれました。育てる親がいなくなったためです。

職員（森下）が母親がわりにめんどうをみることになりました。ちゃんと育って長生きするようにと鶴吉（104g）、亀太郎（92g）の名をつけましたが、ひ弱だった亀太郎はすぐ死亡。

片や鶴吉は、毎日ミルクにむしゃぶりついて順調のようです。無事成長し、グライダーのように飛ぶ日を夢見ています。



授乳中の鶴吉
7月13日 体重240g



うれしいこと悲しいこと

6月29日夕方、オオコノハズクが元気に飛び去っていきました。5月27日、連合の道路に飛べずにうずくまっていたところを助けられたのです。

博物館で保護し、順調に回復したので、同地内で放鳥することにしました。保護した原田りつ子さんもとてもうれしそうでした。

一方、同じ四谷でアカショウビンがガラスに激突死（6月7日）、副川でオオコノハズクの幼鳥がへい死（6月2日）、玖老勢でトラツグミ(?)の幼鳥へい死（6月1日）豊川インター付近でフクロウ事故死（4月24日）、鳳来寺山パークウェイでフクロウの幼鳥へい死（6月24日）など、悲しい出来ごとにもたくさん出会いました。

鳳来町のモリアオガエル

〝モリアオガエルの生息分布を調べよう〟と町の広報で呼びかけました。さっそく連絡をいただいたり、博物館員も出かけて生息の調査をしました。

町全域を走りましたが、まだまだつぶさに見ていません。調査もれがたくさんあると思います。

また、期間も限られているので、これから産むところもあるはずです。新しい情報をおしえて下さい。



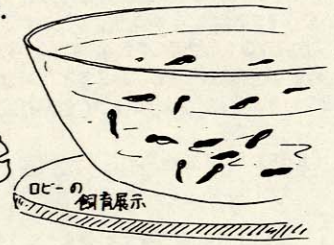
● 平成9年6月に産卵を確認できた地域と場所

台風7号とモリアオガエル
（平成9年6月20日）



6号に続いて7号が上陸。東海地方を縦断しました。この時期の上陸は、めずらしいそうです。強い風は前日に産んだ卵塊を吹き飛ばしてしまいました。彼らにとって予期せぬ災難でした。地上に落ちた卵は池にもどし、今はオタマジャクシになって元気に泳いでいます。





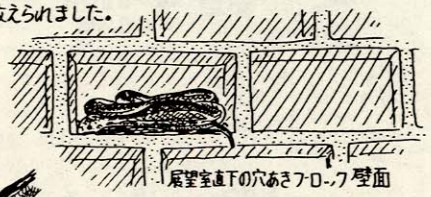
満腹・満足
（平成9年6月12日）

黒沢の請井さんからの連絡で産卵状況を見に行きました。まさにそこはモリアオガエルの楽園でした。池や田の石垣、ツツジや竹などあたりかまわずと言っていいほど白いアワだらけです。それはそれはみごとでした。

朝、開館のために3階の窓をあけると目の前の壁にアオダイショウが身動きせずにくつろいでいました。よく見るとお腹がポンポンにふくらんでいます。

近くにはカラッポになった小鳥の巣（セクロセキレイ）がありました。ヒナを丸のみしてしまったようです。

コンクリートの3階まで登ったヘビの執念と、生きるきびしさを教えられました。





モリアオガエルもヘビの大好物です。親はもちろん卵塊にも頭をつっこんで中身をきれいに食べてしまいます。生き残れたもののみ子孫を残せます。

「海岸の地形と化石を学ぶ」会
（平成9年6月8日・晴のち雲・62名参加）

蔵王山で渥美半島の成り立ちや地形を観察した後伊古部、高塚間で化石の観察と採集をしました。

70万年～30万年前の貝化石で、ヨコハマチヨノハナガイがざくざく採れました。

ここは河川や浅い海（沿岸・内湾域）の石(いし)や砂、泥がたまってできた地層です。

時間を忘れて採集しました。こわれやすいので、紙にくるんで大切に持ち帰りました。



夏の特別展「自然研究のたのしみ」
（平成9年7月20日～8月31日）

自然の調査や研究は、どのようにしておこなわれているのでしょうか。とても興味があります。

野外調査の方法やセット道具、スケッチや標本の作り方などを紹介します。

地学、植物、動物の分野で、学術委員の先生の手づくりの展示です。

専門の研究の一端ものぞけます。

夏の自由研究の参考にもなるはずです。



ササユリ



ほんとに美しい花ですが見られる場所はめずかになってしまいました。

木を伐採したあとにササユリが復活したところもありますが、心ない人にぬき去られてしまいます。

自然が造りだした美をひとり占めしてはいけません。持ち帰っても、翌年はぜったい花を楽しめないのですから。

鳳来寺山自然科学博物館

ほんぶつかんだより No.45 1997.7

秋ときのこと博物館

きのこ展準備
（平成9年9月7日～20日）



今年は例年よりも半月早く開催したいと考えていたので、夏の特別展示を片付けると、すぐに準備にとりかかりました。また、今までずっと使ってきたパネル類も、全面改訂することにしましたからおお忙しでした。これまでも館職員の手作りの展示にこだわってきたので、看板作り、パネル作成、写真、資料展示、レイアウトなど、すべて自作にしました。
限られたメンバーで、連日準備に没頭しました。

第9回きのこ展開催
（平成9年9月21日～10月31日）

きのこ展の主役は何といっても本物、実物です。どんなに詳しく説明した文章や写真でも、実物には及びません。実際に手にとって触れたり、臭いをかいだりかじったり、びみょうな色あいや、細かな特徴まで確認できます。
しかし、館員だけで広い展示台をうめるだけのたくさんの標本を集めるのは大変です。
今年も友の会員やきのこ好きな人たちの協力で期間中約320種のきのこを展示することができました。支援の方すべてをここに紹介したいのですが、紙面が足りません。ちなみに、採集と展示で、のべ35名が協力。標本提供者119名でした。さらに、きのこ相談が118件。そして期間中1,942名の方が見学にみえました。

高価な寄贈品
（平成9年10月16日）



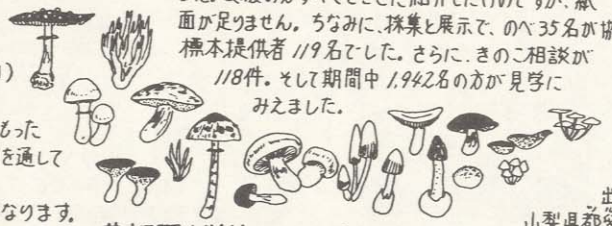
きのこの王様といえばマツタケです。最近では、外国産も多数出まわって、手に入れやすくなったとはいえまだまだ高いことに変わりはありません。
地元産ともなると貴重品で、見つけるのは至難の技です。
そんなマツタケを長篠の伊藤忠志さんが寄贈してくれました。
数年前、展示しておいたマツタケを失敬された苦い経験から、今度は、凍結乾燥標本にして、ケースの中へ展示することにしました。今年購入した標本作成器が大活躍しています。



「秋の紅葉を楽しむ」会
（平成9年11月9日 晴 65名参加）

2年ぶりに県民の森でおこないました。紅葉があざやかになる条件として、谷間で、日ざしがよく当り、昼夜の温度差が大きいところがよいそうです。日中、光合成により作られた糖が、夜の冷えこみで移動できずに葉に残り、アントシアンという赤い色素がつくられるためです。ここ門谷も、県民の森も絶好のもみじの名所ということになります。

きのこを学ぶ会
（平成9年10月12日・晴、94名参加）



きのこを学ぶには、正しい知識をもった講師のいる観察会などで、実物を通して学ぶのがいちばんです。
この学習会は、今年で10回目になります。毎年欠かさず出席し、今ではきのこに詳しい会員が何人もいます。

黄柳野小学校できのこウォッチング
（平成9年10月6日、晴、全校生徒）



ここは学校の裏山が即、きのこ観察のできるすばらしいフィールドです。この日は、みんなで26種を見つけました。
そして、19日には親子遠足で「きのこ展」も見学してくれました。

ムササビの教科書



小学4年の国語教科書に「ムササビのすむ町」という教材が出てきます。
山梨県都留市の小さな神社の森に住むムササビと人とのかかわりが書かれています。
"実物に勝るものはなし"鳳来寺小と鳳来東小の先生が館で飼養中の鶴吉に目をつけました。
10月14日に鳳来寺小、10月24日に鳳来東小へと出張してきました。（保護者同伴＝森下）
期待どおりの役目をはたせたかどうか鶴吉は何も言ってくれませんでしたが、帰ると疲れたのか巣の中でぐっすり眼っていました。

自然観察指導員講習会
（平成9年10月10～12日）

今回、244回目は、鳳来町の愛知県民の森で開催されました。これには60名だけ参加できます。
その中に、鳳来町から友の会員の小山舜二さん、当館の酒向、森下が含まれていました。研修を終え、自然観察指導員として登録されました。
これからの活躍が期待されます。
がんばりましょう。

きのこ観察会
（平成9年10月19日、晴、30名参加）



「きのこを学ぶ会」にもれてしまった人を中心に、医王寺周辺でおこないました。
館の職員だけで実施。
きのこの発生は少なめでしたが、準備しておいた50人分のきのこ汁はペロリとたいらげてしまいました。

❝きのこ展裏ばなし❞

採集した野生きのこの鑑賞寿命は、せいぜい1～3日間です。時間とともにしなびたり、とけたり、腐ったり、さらにはキノコバエなどの幼虫（ウジ）がはい出てきて、あたりを徘徊し、悲惨な状態になります。片づけは、においとウジとの戦いで、女子職員は泣いてます。



京都のきのこ展
（平成9年10月18日）

日本で最大のきのこ同好会で、菌類研究の第一人者が多数入会している関西菌類談話会の、第7回きのこ展が、京都府立植物園で開催されました。17日から3日間で、この日視察に行きました。
展示会場には、ボランティアの会員が常時10名ほどいて、見学者にていねいに説明してくれます。
会場裏では、採集し持ち込まれたきのこを、すべて形態と、顕微鏡を使った肥子の観察により同定をしていました。その上で展示されます。とても勉強になりました。



オオ！マイッタ!!ケ？
（平成9年10月25日）

新聞を見て、初めて見るきのこ名に新種かなと思ってしまいました。ヒラタケのなかまが、どこかでオオマイタケになってしまったようです。なかなかおもしろい名前で、納得してしまいそうです。
でも、命にかかわるものだと、まちがいはゆるされません。
博物館が鑑定したことになっていてビックリ。冷や汁をかきました。伝聞には注意！





鳳来寺山自然科学博物館
はくぶつかんだより No.47 1997.11

夏の話題

はばつかんだより No.46 1997.9

ロビーに超ミニ水族館誕生

（平成9年8月10日）

生きた水生生物を見てもらうために、長い間あったらいいなと考えていたアクアリウムをようやく設置することができました。

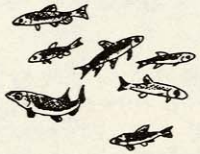


最初にここの住人となったのは、巴川のアカザ、カワヨシノボリ、カワムツ、オイカワでした。これらの魚は、塩瀬の林宗徳さん親子の協力によるものです。ふだん見られないアカザはひときわ目立っていました。

水族館異変（平成9年8月14日）

この日の朝、水槽をのぞくと、ほとんどの魚がお腹を上にして浮んでいました。かろうじて生き残ったカワヨシノボリとカワムツも苦しそうです。原因は、前夜、職員（加藤）が閉館時に水のろ過器の電源を切って帰ったためでした。魚たちには大変かわいそうなことをしてしまいました。こんな失敗は2度としないよう、深く反省しました。

水族館復活（平成9年8月21日）



友の会会長の小椋克好さんと錦司くん、吉明くんのおかげで、アクアリウムに元気に泳ぐ魚たちの姿がもどりました。水槽のそうじまでしてくださり、感謝、感激です。以後、気持ちよさそうに泳ぐ魚たちに、訪れた人たちも立ち止って見入っています。

博物館の職場体験（平成9年8月8日）

新城市立東郷中学2年の大嶽雄作君（友の会員）と中尾鳳志君が体験学習にやってきました。普通の見学では見ることのない標本の整理を手伝ってもらうことにしました。

2人とも真剣に取り組んでくれたので、作業がはかどりました。博物館のあまり目立たない仕事の一端に触れてもらいました。





鶴吉のおひっこし

（平成9年8月20日）

保護、飼育中のムササビ、すいぶん大きくなりました（体長29cm、体重650g）。

この日、今までの移動式の家から、地階の動物保護室へ移すことにしました。「ひとりでさみしくないかナー」「今ごろ泣いているんじゃないかナ」と職員（森下）は心配で夜中に何度かのぞきに来たり、家につれていったりもしていたようです。もちろん、今はひとり（一匹）でだいじょうぶです。

植物標本庫のくん蒸

（平成9年9月3～5日）

植物標本庫には、故鳥居喜一先生のさく葉標本を中心に約5万点が収蔵されています。我館の大切な宝物です。

その大事な資料を虫やカビから守るためのくん蒸です。

専門の業者が、ガスがもれないように窓などに目張りをし、室内に殺虫・殺菌ガスを送り込みます。標本を守る大切な作業です。

凰来寺山自然科学博物館

使ってください

（平成9年7月20日）



門谷21世紀の人たちが、昨年にひきつづいてコノハズク用の巣箱掛けをおこないました。これは、博物館も協力しています。

門谷の谷にコノハズクの鳴き声がもどること、巣箱を使ってくれることを期待して、今後もつづけていく計画です。



残念だった学習会

（平成9年7月13日 雨）



使えなかった資料

「夏の植物を学ぶ」会は、毎年恒例になっている観察会で、いつも暑い時期なのに人気があります。

今回、みなさんにお知らせしたところ、114名の参加申し込みがありました。

私たちも資料の印刷部数を急きょ増やして準備しました。ところが前日からの雨がやまず、やむなく中止としました。この10年間で初めてのことです。楽しみにしていたみなさんには、うらめしい雨となりました。

川の生きものを調べる

（平成9年8月23日、晴）

今回の学習会は豊川の本流、寒狭川を会場に選びました。

サイクリングターミナル（布里）前の大きな川は、採集には広すぎましたが、泳ぐには最適でした。

魚類はカマツカ、カワムツ、シマドジョウ、カワヨシノボリの4種、水生昆虫は16種が確認できました。

水質はもちろん「きれいな水」でした。（71名参加）

バクの上あご化石

（平成9年8月19日）



昭和28年、玖老勢（クロセ）の分野で、設楽層群から発見された化石です。バクの化石は、日本ではきわめて少なく、大変貴重なものです。

紛失しては大変なので、今回精こうなレプリカ（複製）を作りました。展示されているのはレプリカで、本物は大切に保管してあります。

鍾乳洞と豊川の地形

（平成9年8月3日、晴 49名参加）

豊川沿いの地形、豊橋市嵩山（スセ）の蛇穴（ジャアナ）を観察しました。バス利用のため定員からあふれた方が多く心が傷みました。

鍾乳洞はひんやりして別世界でした。



平成9年6月1日　広報 ほうらい

博物館フィールドノート

森の貴公子

日本には、およそ三十九種類のカエルがすんでいます。私たちのまわりにも、いろいろなカエルがいます。県内で十三種、鳳来町では十種がくらしていることがわかっています。

カエルが大好きと言う人にはなかなかお目にかかりませんが、一種だけ、毎年いつも五月から六月頃にかけて、話題になり、人気のあるカエルがいます。

森に住む緑色のカエル、森青蛙です。森でくらすものは他にもいますが、このカエルは木の上が生活場所で、おまけに卵まで木の上で産んでしまうという変わり者です。

モリアオガエルの生息分布を調べよう

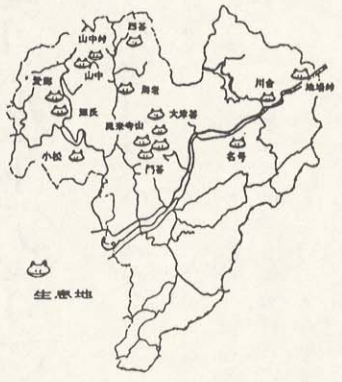
このカエルは、海岸近くの低地から標高二千メートル以上の高地まで分布するそうですが、一般には山地の森林にすんでいます。鳳来町内でも、どちらかというと標高の高い地域に多いようです。

二十年ほど前の調査では、下の分布図のように鳳来町の北側の部分にだけに生息していることが、はっきり表れています。

その後、水田の耕作放棄や転作などで産卵場所がなくなったり、移動したり環境が変化したりしていることが考えられます。現時点のモリアオガエルの生息場所の調査が必要になってきています。

「うちの田んぼに毎年卵を産むぞん」とか、「裏山の砂防ダムの池に産んどるぞ」など、皆さんの身近な情報をお知らせ下さい。

町じゅうの最近の生息状況が判れば、西暦二千年直前の鳳来町のモリアオガエルがどんなだったかという最新の生息分布図ができあがります。そして後世に貴重なデータとして残ります。情報をお持ちの方は、ぜひお知らせください。



モリアオガエルの分布図
（鳳来町自然と文化－原田猪津夫 1979－部改変）

ところでモリアオガエルって何？

鳳来町の住人でモリアオガエルを知らないとちょっとはずかしいので、念のために少し解説をします。初めて聞く人もこれを参考に他市町村の方に、知ったかぶりをしてください。

モリアオガエル（アオガエル科）

分布は、本州、佐渡島などで、青森県の下北半島にまで棲息しています。天然記念物にしている地方もあります（岩手県松川御護沼、福島県平伏沼）。

頭は幅広くて平らべったく、手足のそれぞれの指先には吸盤があり、木登りに便利になっています。体の色は、緑色でこの地域のものは背中や顔に赤かっ色の不規則な斑紋があります。（下図参照）

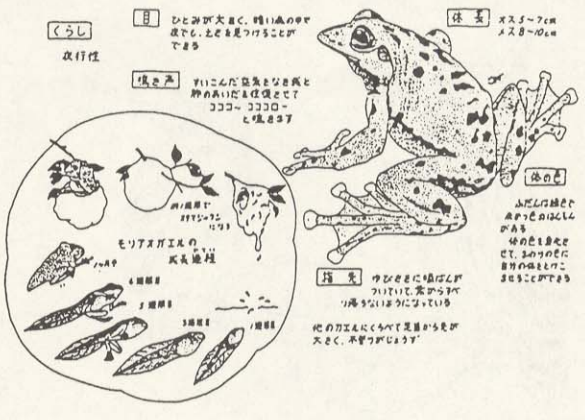
繁殖の時期は5月中旬から7月頃。池や沼、水田など流れのない水の上にさしかかる木の枝や、草などに産卵します。

雨の降るような夜に、池や水田の周辺で、オスがココ……とかわいらしい声でさかんに鳴いて、メスを呼びます。声に誘われてやって来たメスに数匹のオスがしがみつくようにして産卵が始まります。

メスはオスと共同作業で粘液をこねくりまわして泡状の巣（卵塊）を作り、その中に三百から六百個の、直径三ミリメートルほどの乳白色の卵を産みます。

卵は、泡の中でふ化し、一週間ほどたつと、卵塊が崩れ落ちるようにしてオタマジャクシ（幼生）の姿で下の水へ落ちて、こんどは水中生活を始めます。水の中で順調に育ち、生き延びたオタマジャクシは一カ月ほどで足が出て、次に手が出ます。尾びれが短くなると、水の中からはいだします。

陸上に上がるとすぐに木に登り、クモや虫を食べてくらし、めったに水には入りません。冬は浅い土の中や、コケの下などの地上で冬眠します。メスは三歳で産卵するといわれています。



博物館では、毎年シーズン中にモリアオガエルを卵塊の状態から変態直後まで水槽で飼育展示していますので、じかに確かめることをおすすめします。

そして、納得がいったならば、次は、このカエルのことを知らない友達を誘って、つれてきてくわしく説明してあげてください。きっと感心し、喜ばれるはずです。

（加藤　貞亨）

広報 ほうらい　　平成9年8月1日

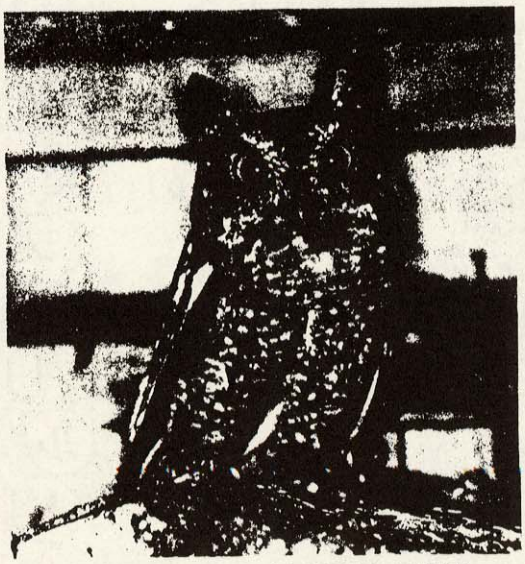
博物館フィールドノート

鳳来町在住のオオコノハズク

コノハズクはいつも脚光を浴びて、いわばスター歌手といったところです。まさに名声を博しています。その鳴き声が聞けた聞けないというだけで私たちを一喜一憂させます。

神秘なその声を聞こうものなら、感動が身体中を駆けめぐります（今年は、幸運にもその機会に恵まれた方が何人かいます。）

一方、姿形はコノハズクとよく似ているにもかかわらず、あまり話題に上らないフクロウの仲間に、オオコノハズクがいます。



保護中のオオコノハズク（1997.6.28撮影）
6月29日、四谷で放鳥、元気に飛び去っていった。

この鳥は、コノハズクのように移動はしないので、留鳥といいます。鳳来町内でも何カ所かで生息していて、こちらは一年中留まっているわけですから住民票を発行してもいいくらいです。

オオコノハズクは大きな羽角（耳のように見える羽）をピンと立てて、目は大粒の琥珀玉をはめ込んだような美しい橙色をしています。からだは大きすぎず、小さすぎず、かわいらしさと精悍さが同居した凛々しい顔つきをしています。

鳴き声はコノハズクが天下一品ですが、容姿はオオコノハズクの方が上のような気がします。

夜行性で、餌は主にネズミなどの哺乳類や小鳥など。繁殖や子育ては木の洞などを利用します。生息場所は比較的人里近い所にもいるようです。しかし、生態はコノハズク同様わからないことのほうが多いです。

平成九年になって、すでに七件もこの鳥が町内で保護されたり、死んでいるのがみつかりました。

オオコノハズク救護の記録

月日	場所	状況
1.18	紺屋平	保護，1.20放鳥
2. 1	棒　夫	へい死
2.21	蔵　平	事故死
3. 8	大　島	目撃
5.17	細　川	事故死
5.27	連　谷	保護，6.29放鳥
6.12	副　川	へい死（幼鳥）

コノハズクと間違われて連絡された方もいました。はじめて見る人は、やはり区別がつけにくいようです。

そこで、オオコノハズクとコノハズクの見分け方のポイントについて図で示してみます。

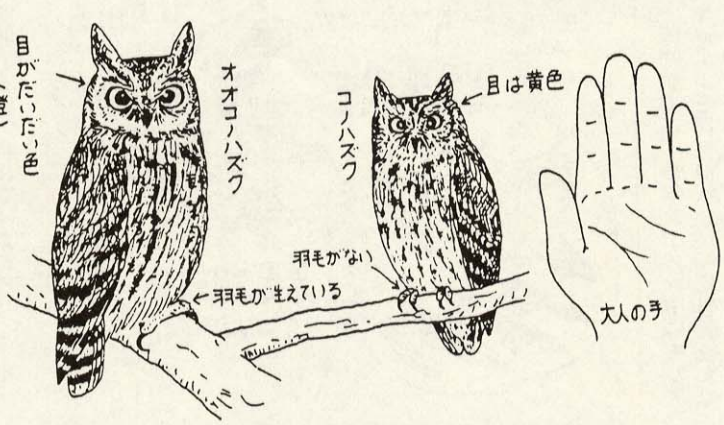
今後も協力をお願いするコノハズク生息調査の参考になります。また、オオコノハズクの生息状況を知ることも同じように大切なことだと思います。参考にしてください。

一、コノハズクより体が大きい（コノハズクは体重八十グラム前後で、手のひらに納まるくらいの大きさ、オオコノハズクは百五十グラム前後で手のひらからはみ出すほど）

二、目が橙色（コノハズクは黄色）

三、足の指の部分が羽毛に覆われている（コノハズクは足指に羽毛がない）

この三点が大きな違いになります。見かけたり、保護したら知らせてください。



多様な生物が暮らせる環境は、私たち人間にとっても良い環境のはずです。同じ町内に住む生き物どうしです。自然界のさまざまな隣人とも顔見知りになりましょう。

（加藤　貞亨）

気まぐれ きのこ たんけん記

その2

―豊かな川の流れる山と里の―

加藤 貞亨

きのこはどんな形かと問われれば、私たちは迷わず、傘と柄のついた、絵本やイラストなどで見る姿形が思い浮かびます。恐ろしい原爆のきのこ雲もその形です。

きのこの仲間は知れらているだけでも、膨大な種類がありますが、そのなかの腹菌類というきのこのグループにはなかなかおもしろい形のものがたくさんあります。

スッポンタケ

このきのこは、柄（托）が殻をやぶって出てくるまでは、形も色も、まるでジャガイモか、タマゴのようです。

夏から秋にかけて竹藪や、林の中で発生しますが、最初に出会ったときは、とてもこれがきのこには見えません。

卵から飛び出した柄と、その先端の傘の様が、ちょうどスッポンが首を伸ばしたように見えることから、この名がついたと想像できます。

柄の先端の傘の部分にグレバという異臭を放つ粘膜状の胞子を作り、子孫を増やします。

私たちが悪臭と感じるこの匂いも、虫たちにはたまらなくそそるようで、彼らがせっせとグレバを体に付けて、胞子をばらまいてくれます。

平成8年の秋は、裏の竹藪でたくさん発生しましたが、ある高校のクラスが博物館を訪れたとき、そのなかの一人がスッポンタケを見るなり「あっ　チ×ポタケだ！」と叫んでいました。

こちらが恥ずかしくなってしまいましたが、実は鋭い直観力と観察眼でした。

というのは、きのこにも世界共通の名前である、学名がそれぞれにちゃんと付けられていますが、ちなみにスッポンタケは Phallus impudicus で、Phallus は陰茎、impudicus は淫らな、と言う意味のラテン語だそうです。

ですから、むしろスッポンタケというより、全体的な形といいサイズといい、学生がつけた呼び名ほうが、ふさわしい名のようにも思えます。

しかし、よくよく考えると、××を使わないと書けなかったり、人前で大きな声で説明できない様な名前は、やはり避けた方がよいようです。

きのこと聞くと「食べられますか」とか「毒ですか」と必ず質問がありますので、そのことにも触れなければなりません。スッポンタケは食用になります。

柄の部分を卵から抜き取り、臭いグレバを洗い流して乾燥したうえで甘辛煮、酢の物、辛子あえ、酢味噌あえ等にするそうです。

～だそうです。などと自信のない書き方をしているのは、筆者がまだ実践していないからですが、中華風のスープによく合うそうなので、次には試してみたいと思います。



サンコタケ

このきのこも裏の竹藪で昨年よく見かけました。サンコというのは密教で使う仏具を指すそうですが、まだ実物を見たことがないので、医王寺住職でもある横山館長に教わらなければなりません。

平成八年十月、サンコタケのスケッチをしようと部屋に持ち込み、描きはじめると、隣の女性職員の様子がだんだんおかしくなってきました。

夢中になっている本人は、全く気づかなかったのですが、このきのこのグレバがたまらない悪臭を放っていたのでした。

肩身の狭い思いをしながら、それでも完成させましたが、時間とともに匂いは強くなり、ひんしゅくをかってしまいました。

食べられるわけでもなく、ただ臭いだけの変な形のきのこを、何がおもしろくて顔を近づけて2時間も眺めているのか、と思われたに違いありません。

—豊かな川の流れる山と里の—

気まぐれ きのこ たんけん記

その3

加藤 貞亨

平成8年の秋の山は、歩いていて、とても楽しいものでした。様々なきのこたちがあちらこちらで顔を出し、一つ一つにあいさつしていると、なかなか次に進めないほどでした。たくさんの出合のなかには、眼も味覚も楽しませてくれるきのこがあります。そのなかでも筆者の胃袋が、特に印象強く覚えているきのこを紹介します。

オオムラサキアンズタケ

いわゆるきのこの形はしていません。傘はへら状や扇状で幾重にも重なり、縁はちりめん状に波うっています。傘の裏側はひだではなく、しわ状で複雑にわかれたりくっついたりしています。

大型の菌で、色は全体が名前のとおり紫色でとてもきれいです。

今回出会ったオオムラサキアンズタケは、山頂部に近い赤松と落葉広葉樹の混ざり合った林に5メートルはどの菌輪をつくり、それはそれはみごとでした。わが家の裏山で四年ほど前に一度観察したことがありましたが、こんなすごいのは初めてです。

欲を出してすべて採集してくれば、このきのこだけで自動車の荷台が一杯になったことでしょう。

土地の人は利用しないらしく、菌輪の一部が足で蹴りちらかしてありました。何ともったいないというか、知られていなくて幸運だったというか、さっそく記録し、一部を採集してきました。（図はそのほんの一部をスケッチしたもの）

きのこ展で展示したところ、隣町の設楽町の方がこれをみて、地元では「トサカ」と呼んで、食べていると教えてくれました。ゆでてから、生姜醤油で食べるとおいしいとのことでした。

清水大典先生の本によれば、「脂肪質にあう。鉄板焼き、すき焼き、バター（油）いため、けんちん汁、焼き飯、豆腐汁、あんかけ、煮物、てんぷら、フライ、酢の物。」となっています。

つまり、何にでもあう。ということのようですので、調理方法は妻にまかせ、試食しました。佃煮風に調理してくれましたが、今まで食べたいろいろなきのこの中でも特に印象に残る美味しいきのこでした。

ややまれな種で、あまり知られていないきのこですから、出会ったときの感激はひとしおです。これからはもう一つ楽しみがふえました。

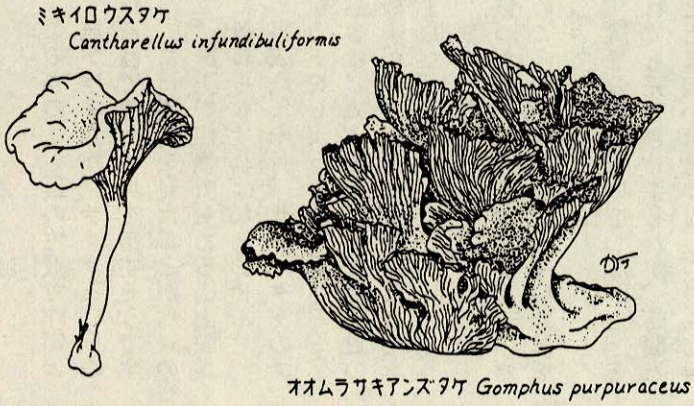
ミキイロウスタケ

傘のようすがウスのようなのでミキイロウスタケとなっていますが、ウスタケとは別の科でアズタケ科のきのこです。筆者は昨年十月に鳳来寺山で初めてお目に掛かりました。やや小型で、柄の部分がレモン色、ひだはしわ状、かさの表面は淡黄灰白色です。

今までに実物を見たことがないきのこでしたが、館の隣のご婦人が、かご一杯採って尋ねてみえました。裏の鳳来寺山でうなになって生えていて、いくらでも採れるとのことでした。

「調理法は簡単です。熱湯にさっとくぐらせて、酢味噌あえ、マヨネーズあえ、すまし汁、けんちん汁にします。」と答えると、さっそく調理してくれ、筆者にも食べさせてくださいました。料理は酢の物、マヨネーズあえでした。感想を正直に述べますと、机にアルコールを隠し持っていなかったことが悔やまれました。

翌週、大いに下心をもってフィールドワークにでかけましたが、大部分がすでに老成していて、無念の帰館となりました。（図はその時の採集品）



学社連携から学社融合へ

～学校移動博物館「博物館がやってきた！」事業を通して～

浜松市博物館
佐藤拓伸

1．はじめに

浜松市…人口約５７万人、小学校６４校、中学校３２校

学校・子供対象の教育普及活動

・団体見学時の説明
・収蔵資料の学校への貸し出し
・体験学習のレクチャー
・博物館資料活用委員会
（市教委指導主事１人・市内小学校教諭10人、年間４回、ワークシート作成など）
・博物館資料の教材化
（年間１回、市内小中学校教師対象）
・土器作り・藁草履づくりなど子供対象講座

活動の傾向・問題点

・団体見学数の減少
（遠距離の学校、グループ別見学など）
・見学の形態の変化
（質疑応答中心・体験学習の希望など）
・短時間で展示資料を流し見る物見遊山的な見学
・一部の教師だけによる収蔵資料活用
・学校５日制対応の必要性

・教師…博物館の活用方法の認識（博物館に何があるか、どんな利用ができるかなど）
・児童…博物館に親しむ素地の育成（博物館の楽しみ方、情報収集方法の理解など）
・学校５日制、生涯学習社会への対応

◎学校移動博物館「博物館がやってきた！」事業
・「博物館活用マニュアル」の作成
・学校５日制対応講座（子供考古学教室、子供おもしろ博物館など）

2．浜松市博物館の学校移動博物館

①学校移動博物館の目的
○博物館の資料を**見たり触ったり**することにより、子供たちの発達段階に応じて、**博物館の存在の認識**や、**歴史学習の動機付け、教科学習の発展**を図る。
○実物や復元品に触れることや体験活動を通して、**楽しみながら**歴史に触れたり、学習したりできるように努める。
○考古資料や民俗資料など実際に見たり触れたりすることを通して、**文化財を大切にしていこうとする気持ち**を育てる。
○学校と博物館との事前の話し合いや運営の中で、**博物館資料を活用した学習の方法の普及啓発**や、**学校教育現場のニーズの吸収**に努め、相互の連携を図る。

②学校移動博物館の内容
○展示活動…空き教室を利用、基本展示キット・体験コーナー・郷土のコーナーからなる。
・基本展示キット…「おおむかしの人々」「古墳時代の家」など７つ。１つを選択。
・体験コーナー…復元銅鐸・鋤や鍬など木製品の復元品など操作活動のできるもの。
・郷土コーナー…校区またはその周辺からの出土遺物や収集した民俗資料
○体験活動…クラスや学年単位で教科学習や特別活動の１つとして実施。
・火おこし・体験用土器による煮炊き・土器作りなど。
・事前に担当教師とねらいや内容・準備物・役割分担などを話し合う。

③学校移動博物館の運営方法
○年間の実施校は５校で、実施希望校の中から選択される。
○開催期間はおおむね１週間くらいで、学校の希望により決定される。
○開催期間中は、博物館職員が常駐し、展示見学・体験活動ともに子供たちの間に介在する。

3．学校移動博物館の実施状況

○展示見学や体験活動の実施形態は、下の３つに大別される。
（休み時間、放課後は全ての学校で自由見学）
・展示見学、体験活動とも全クラスで授業として実施。
・展示見学は全クラス授業として実施、体験活動は希望のクラス・学年で実施。
・展示見学は高学年のみ授業として実施、体験活動は希望のクラス・学年で実施。
○展示や体験活動の内容は、博物館と実施校で協議しながら作り上げるので、各校特徴があった。
・前年に校区で弥生時代の遺跡の発掘調査…「弥生時代の家」と発掘調査の道具とパネルの展示
・浜松城に隣接…「浜松の移り変わり」の展示、浜松城周辺のクイズラリーの実施
○テーマとも言える展示の希望は、教科学習での利用を意識したものが多い。
・６年の「日本の歴史」と「おおむかしの人々」「おおむかしの浜松」など
・３年の「人々のくらしのうつりかわり」と「戦前の茶の間」
・国語の戦争を題材とした物語文の学習や６年の社会と小キット「戦災の資料」
○全学年を通して体験活動、低学年では復元品による操作活動、高学年は実物資料を実際に触ることができたことが印象に残ったようである。
・特に３年の「戦前の生活用具」、６年の「実物の土器」など、教科学習に関連したもの。
○保護者や地域の方の参加
・保護者や地域の方の展示見学
・参観会で親子体験活動、地域のお年寄りによる昔の道具の説明や遊びの紹介など

4．学校移動博物館の成果と課題

①よさ・教育効果・成果
○実物資料が見られる、触れられる→感動と学習意欲
・授業や読書経験など知識がある程度獲得されているほうがより効果的
・ワークシートを活用することにより科学的に分析
・文化財を大切にしていこうとする意識の向上
○当時の生活の一部が追体験できる→当時の人々との精神的な距離を短縮
・当時の人々に親近感を持ち、その生活をイメージ
・知恵や苦労、工夫を実感し、共感的理解から展示を見直し
・「楽しい」活動から展示とフィードバック
○博物館職員が常駐している。→子供たちの疑問にその場で対応
・活動を円滑にし、相互理解が図りやすい
・疑問にその場で答えることにより学習意欲の沈下を抑制
○博物館に親しみや興味を持ち、来館への動機付けとなった。
・「浜松市博物館に行ってみたい」93.2％（児童アンケート結果より）

②問題点・今後の課題
○開催方法の検討と見直し
・毎年20校以上の実施希望があるが、実施は５校
・実施校の増加は、準備や職員の常駐など職員数の点から困難
・巡回展形式では移動博物館のよさが発揮されにくい
○学校移動博物館の内容を教科学習や教育活動に生かしにくい
・展示や体験活動を教科学習に取り入れにくい学年が多い
・展示や体験活動の内容が発達段階（特に低学年）にそぐわないものもある
○博物館職員と教師との相互理解・役割分担にズレ
・学校側は教科教育での活用、博物館側は生涯学習の素地の形成がねらい
・学校側は博物館資料の教材化への研究、博物館側は博物館資料を発達段階に応じた活用の方法や楽しませ方の研究が不足
○体験活動の内容と道具数の見直し
・歴史的事実という面や教育効果から疑問視されるものも少なくない
・用具の数が全員が満足行く活動を行うには物足りない

5．おわりに

○博物館の特性を生かした学習→主体的な問題解決学習能力の育成…「生きる力」
○学校移動博物館の内容のスリム化と他の教育普及活動での補充
○博物館職員と教師が相互交流により歩み寄る…生涯学習社会の対応を目標

基本キット　おおむかしの浜松

コーナー	展示資料 資料名	出土地	説明パネル
①はじめに			おおむかしの人々 浜松遺跡分布地図 イラスト年表
②縄文時代の住居	深鉢形土器２点	前山Ⅰ	おおむかしの浜松
	深鉢形土器２点	蜆塚	
	深鉢形土器	茨城県	狩りや漁をしていたころ
	浅鉢形土器	前山Ⅰ	
	石鏃１１点	蜆塚	縄文時代住居内イラスト２
	叩き石２点	欠下平	
	凹石２点	川山	縄文時代の蜆塚のムラ
	石皿	蜆塚	
	すり石	川山	縄文人の顔イラスト
	石錘３点	蜆塚	
	石斧４点	川山	
	耳飾り	蜆塚	
	首飾り２点	不明	
	曲玉３点	不明	
	矢	復元品	
	編布具	復元品	
	編布衣	復元品	
③弥生時代の住居	壷３点	伊場	米作りがはじまったころ
	台付き甕２点	伊場	
	高坏２点	伊場	弥生時代住居内イラスト２
	鉢２点	伊場	
	碗	伊場	弥生時代の伊場のムラ
	片口碗	伊場	
	磨製石鏃２点	不明	
	紡錘車	伊場	
	弥生土器片３点	村前	
	しゃもじ２点	復元品	
	槽２点	復元品	
	原始機	復元品	桜ヶ丘５号銅鐸写真２
	貫頭衣	復元品	
	臼	復元品	銅鐸の絵イラスト
	杵	復元品	
④古墳時代の住居	壷２点	伊場	大きな古墳が作られたころ
	須恵器水甕	地蔵平	
	長甕	伊場	古墳時代住居内イラスト２
	甑	伊場	
	須恵器（身）	伊場	古墳時代集落想像図
	須恵器（蓋）	伊場	
	須恵器高坏(身)	伊場	竈・甑・長甕の図パネル
	須恵器高坏(蓋)	伊場	
	装身具１７点	地蔵平	須恵器と土師器
	土師器高坏２点	伊場	
	碗３点	伊場	浜松周辺古墳分布図
	砥石	伊場	
	曲げもの７点	復元品	
	木製碗	復元品	
	かまど	復元品	
⑤大昔の人になってみよう	柄付き石斧	復元品	銅鐸
	弓	復元品	
	短甲木製品	復元品	桜ヶ丘５号銅鐸写真
	盾	復元品	
	木製鍬２点	復元品	銅鐸を鳴らしてみよう
	木製鋤	復元品	
	柄付き磨製石斧	復元品	
	銅鐸	復元品	
計	114点	実物資料 85点 復元資料 29点	２５枚

基本キット　戦前の茶の間

コーナー	展示資料 資料名	収集地	説明パネル
①台所付近	まな板	若林	戦前の茶の間（タイトル）
	ひしゃく	若林	
	しゃもじかけ	若林	戦前の茶の間
	しゃもじ	若林	
	おたま	若林	
	羽釜	若林	
	たらい	領家	
	洗濯板	参考品	
	かめ３点	参考品	
	ねずみとり	参考品	
	かまど	復元品	
	流し	復元品	
②茶の間	茶箪笥	若林	
	ラジオ	天竜市	
	薬箱	子安	
	蝿帳	植松	
	鰹節削り	子安	
	火鉢	都田	
	火箸	有玉北	
	五徳		
	鉄瓶	有玉北	
	机	蜆塚二	
	筆箱	都田	
	教科書２点	復元品	
	柱時計	平松	
	女児用着物	復元品	
	こたつ	若林	
	湯たんぽ	植松	
	炭火アイロン	都田	
	火のし	都田	
	こて	蜆塚一	
	ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙ蓄音機	中沢	
	レコード５点	中沢	
	蚊取り豚	参考品	
	ちゃぶだい		
	おひつ	芳川	
	おひついれ	芳川	
	鉄鍋	若林	
③昔の遊びをしよう	めんこ	体験用	
	おはじき	体験用	
	お手玉	体験用	
	けん玉	体験用	
	輪投げ	体験用	
	ビー玉	体験用	
	竹とんぼ	体験用	
	だるま落とし	体験用	
	コリントゲーム	体験用	
	浜松駅前（昭和12）	写真パ	
	紙芝居（昭和前期）	写真パ	
	子供たち（昭和前期）	写真パ	
	リヤカー（昭和15）	写真パ	
計	６０点	実物資料 38点 復元資料 22点	２枚

基本キット 浜松の移り変わり（市内中心部の小学校編） 小キット一覧表

コーナー	展示資料 資料名	収集地	説明パネル
①はじめに			浜松の移り変わり 浜松遺跡分布地図 年表（前半）
②浜松城ができる前の浜松	深鉢形土器 深鉢形土器 浅鉢形土器 石鏃１１点 叩き石 凹石 石皿 すり石 石錘３点 石斧２点 矢	前山Ⅰ 前山Ⅰ 前山Ⅰ 蜆塚 欠下平 川山 蜆塚 川山 蜆塚 川山 復元品	イラスト年表 狩りや漁をしていたころ 蜆塚遺跡 蜆塚のムラの想像図
	壷 台付き甕 高坏 弥生土器片３点	伊場 伊場 伊場 村前	米作りがはじまったころ 伊場遺跡 伊場のムラの想像図
	長甕 甑 須恵器（身） 須恵器（蓋） 須恵器高坏（身） 須恵器高坏（蓋） 装身具１７点 かまど	伊場 伊場 伊場 伊場 伊場 伊場 有玉西 復元品	古墳が作られたころ 伊場遺跡 浜松周辺の古墳 浜松周辺古墳分布図 甑・長甕の図パネル 古墳時代のムラの想像図
	墨書土器「布知厨」 木簡「驛家」 木簡「濱津」	色複写 復元品 復元品	遠江国ができたころ 伊場・城山遺跡 奈良時代の東海道と郡家
③城があったころの浜松	かわらけ２点 草土千軒遺跡	東照宮 色複写	ひくま宿 古城・ひくま宿推定図
	石塔 臼片 家紋入り瓦５点 鯱片２点 浜松古城図	浜松城 浜松城 浜松城 浜松城	浜松城があったころ 浜松城 浜松城の石垣 浜松城を横から見ると 浜松城歴代城主一覧表
	諸国当上之図 浜松御城下絵図 浜松御城下略絵図 油山寺山門 二川宿本陣 歌川広重浜松宿	館作成 複製 複製 色複写 色複写 色複写	町並みの様子 大正７年の地図 城域と現在の図 本陣・高札の位置図
④広がっていく浜松	市役所（明治44年） 警察署（明治後半） 郵便局（大正4年） 中ノ町軽便鉄道 駅前の人力車 浜松駅（福島豊蔵図） 机 筆箱 石板 教科書２点 浜松市詳細図 浜松名所絵葉書	写真パ 写真パ 写真パ 写真パ 写真 写真 蜆塚二 都田 高槻市 復元品 昭４年	浜松の近代化 年表（後半） 軽便鉄道線路図
⑤太平洋戦争と浜松	ヘルメット 防空頭巾 上衣・もんぺ 慰問袋 軽機関銃 焼夷弾 模擬爆弾 日の丸寄せ書き 千人針 配給切符 松菱を遠望 防空壕 軍事訓練	中島 鴨江三 鴨江三 入野 南伊場 和合 初生 中島 初生 鴨江一 写真パ 雑誌 雑誌	太平洋戦争と浜松
⑥戦争後の浜松	モール街（大正後期） モール街（昭和40代） 鍛冶町西（大正初期） 鍛冶町西（昭和40代） 鍛冶町東（昭和24年） 鍛冶町東（昭和36年） 浜松駅（昭和10代） 浜松駅（昭和40代） 浜松駅前（昭和10代） 田町通り（昭和9年）	写真パ 写真パ 写真パ 写真パ 写真 写真パ 写真パ 写真パ 写真 写真	戦争後の浜松 市域拡大図 市中心部の現在の写真
計	113点	実物資料 101点 復元資料 12点	３７枚

キット名	展示資料 資料名	収集地	説明パネル・その他
銅鐸を調べてみよう	前原銅鐸 銅鐸分布図 銅鐸に描かれた絵 11点 前原銅鐸レントゲン写真３点 実物大銅鐸９点 復元銅鐸	復元品 館作成 パネル 写真 パネル 体験用	古代の技術「銅鐸」 銅鐸って何？ 銅鐸の作り方 日本列島東と西 前原銅鐸 銅鐸に描かれた絵 前原銅鐸レントゲン写真 銅鐸の大きさ 銅鐸を鳴らしてみよう 弥生時代の人々の暮らし
平野部の農業（田）	犂 犂鞍 ふろ鍬（黒鍬） 開墾鍬 木鍬	入野 天王 貴平 蜆塚三 神ヶ谷	
平野部の農業（畑）	ふろ鍬（黒鍬） 開墾鍬 木鍬 綿くり 綿	貴平 蜆塚三 神ヶ谷 中田島	
学校の道具	机 石板 すずり 筆箱 教科書４点	蜆塚 高槻市 蜆塚 都田 復元品	
戦災の資料	ヘルメット 軽機関銃 焼夷弾 模擬爆弾 防空頭巾 上衣・もんぺ 慰問袋 日の丸寄せ書き 千人針 配給切符 写真パネル アサヒグラフ	中島 南伊場 和合 初生 鴨江三 鴨江三 入野 中島 初生 鴨江一	太平洋戦争と浜松 各資料の名称板 「松菱を遠望」「Ｂ29機」他 「防空壕」「軍事訓練」他
生活の道具	はいちょう 薬箱 ちゃぶだい 鰹節削り 炭火アイロン 火のし	植松 子安 子安 都田 都田	
川の漁の道具	もじり 三角網	天王 天王	
浜の道具	浮きだる 浮き 浜弁当 湯だる ながらみほり	白羽 白羽 白羽 白羽 中田島	
開墾の道具	ざるもっこ なわもっこ てんびんぼう 背負子 開墾鍬	上石田 呉松 篠原 蜆塚二 蜆塚三	
足袋屋の道具	うちぬき型３点 木製足型 形を整える台 製品 足袋の分解品	小池 小池 小池 小池	
臼製作の道具	大鋸 前掻 柚斧 小掻 臼	天王 天王 天王 天王	

学校移動博物館の流れと日程

1．実施までの流れ

学校移動博物館は、おおよそ以下の流れで実施される。

①実施希望調査・実施校の決定
　前年度の10月頃に市内の各小学校へ実施要項を送付し、実施希望調査を行う。次に、それらを集計し、社会科理事校長の助言をいただきながら実施校を選択する。それを市校長会理事会で承認していただき実施する５校が決定する。

②実施校への挨拶、お願い
　12月下旬に実施校へ赴き、実施決定の通知と、次年度の教育課程に学校移動博物館の組み込みの依頼する。教育課程の話し合いが終わった後、おおよその開催期日、内容などを知らせていただく。

③実施校との事前打ち合わせ
　４月に開催期日の確認と、今後の打ち合わせの計画をする。その後、開催１・２ヶ月前に、担当者と事前打ち合わせを行う。その際、学校としてのテーマや、展示や体験活動の内容、展示場所などを協議する。

④学校移動博物館の実施
　開催前日に展示資料を搬入し、展示する。放課後、教員に展示資料の解説や子供たちへの事前指導のお願いなどをする。開催期間は、学校の希望によるがおおよそ１週間。その間博物館職員は常に数名常駐し、展示資料の解説や体験活動の援助をする。最終日の放課後に撤収をする。

⑤アンケート調査と集計
　学校移動博物館終了後、事前にお願いしておいた教師・児童のアンケート調査用紙を回収し、集計する。その結果は、来年度の内容を検討する際の資料として活用する。

2．神久呂小学校での学校移動博物館日程表

		６月６日（木）	６月７日（金）	６月10日（月）	６月11日（火）
２校時 9:20 ～10:05	展示		１年１組	２年１組	５年１・２組
	体験	４年４組 火おこし			３年１組 火おこし他
３校時 10:20 ～11:05	展示	６年１・２組	１年２組	２年２組	５年３・４組
	体験	４年１組 火おこし	６年全組 原始住居作り他	５年全組 縄文土器作り	３年２組 火おこし他
４校時 11:15 ～12:00	展示	６年３・４組	１年３組	２年３組	４年２・３組
	体験	４年２組 火おこし	６年全組 原始住居作り他	５年全組 縄文土器作り	３年３組 火おこし他
昼休み	展示	自由見学	自由見学	自由見学	自由見学
５校時 13:55 ～14:00	展示	４年１・４組	３年３・４組	２年４組	３年１・２組
	体験	４年３組 火おこし			３年４組 火おこし他
放課後	展示	自由見学	自由見学	自由見学	かたづけ

※　６月５日　午前…搬入・展示　　放課後…教師への展示資料や注意事項などの説明
　　６月11日　放課後…片付け・撤収

学校移動博物館実施状況一覧表

年度	実施校	開催期間	基本キット、小キット	郷土のコーナー	体験活動	利用延べ人数
五年度	与進北小	6月1日 ～6月9日	『おおむかしの人々』 「戦災の資料」など	箕輪遺跡他出土品、足袋屋・臼屋の道具など	火おこし、体験用土器による煮炊き	3，822人
	笠井小	6月11日 ～6月23日	『浜松の移り変わり』 「平野部の農具」など	恒武町西ノ宮遺跡他出土品、笠井市関係資料	火おこし、土器作り、土器野焼き、糸作り	3，665人
	砂丘小	6月25日 ～7月3日	『おおむかしの人々』 「戦災の資料」など	「浜の道具」、堤町村東遺跡の出土品	復元住居作り、糸作り	6，584人
	可美小	9月30日 ～10月8日	『おおむかしの人々』	可美小郷土資料室の資料	復元家屋作り、復元土器・石器での調理など	3，695人
	初生小	11月5日 ～11月11日	『浜松の移り変わり』 「戦災の資料」など	「開墾の道具」、浜松張子・凧他郷土玩具	火おこし、米の脱穀・選別、昔の遊びなど	2，751人
六年度	南庄内小	5月10日 ～5月13日	『おおむかしの人々』	村櫛町大田遺跡・村櫛町湖底遺跡の出土品	火おこし、糸紡ぎ	790人
	滝沢小	5月24日 ～5月28日	『弥生時代の家』	『銅鐸を調べてみよう』滝沢鍾乳洞の出土品	火おこし、竪穴住居作り、体験用土器で調理	486人
	伊佐見小	6月14日 ～6月22日	『古墳時代の家』	ナウマン象の尺骨、大人見町神ヶ遺跡出土品	火おこし、糸紡ぎ、土器作り、土器野焼き	4，034人
	五島小	11月15日 ～11月22日	『農家の庭先』	「浜の道具」、海東遺跡の出土品	糸紡ぎ、縄文住居作り、米の脱穀・選別など	1，285人
	三方原小	11月29日 ～12月7日	『戦前の茶の間』	三方原小郷土資料室所蔵の農具・生活用具	米の脱穀・選別、土器作り、土器野焼き	2，229人
七年度	曳馬小	5月19日 ～5月26日	『おおむかしの人々』	高林東遺跡・阿弥陀遺跡・曳馬野古墳群の出土品	火おこし、原始機式布織り、土器作り	2，184人
	相生小	6月1日 ～6月7日	『おおむかしの人々』 「戦災の資料」	海東遺跡の出土品、ツツミドオリ銅鐸パネルおよび銅鐸関連資料	火おこし	1，785人
	篠原小	6月14日 ～6月20日	『おおむかしの人々』	篠原小ふるさと資料館展示資料	火おこし、体験用土器による煮炊き、縄文風クッキー作り	2，366人
	城北小	11月29日 ～12月5日	『戦前の茶の間』 「戦災の資料」 「学校の道具」	村長平遺跡・曳馬野古墳群・住吉一丁目・和合町の出土品	火おこし、昔の遊び、糸車回し、開墾体験、黒曜石で皮むき	936人
	元城小	1月12日 ～1月20日	『浜松の移り変わり』 「戦災の資料」 「学校の道具」	市役所西館・東照宮遺跡他の出土品、浜松城出土の瓦・石塔・石臼	七輪で餅焼き、火おこし、石臼挽き、浜松城周辺クイズラリーなど	808人
八年度	豊岡小	5月9日 ～5月15日	『おおむかしの浜松』	下滝遺跡群、半田山古墳群の出土品	火おこし、体験用土器による煮炊き	2，131人
	浅間小	5月24日 ～5月30日	『弥生時代の家』 ・発掘調査の道具	鳥居松遺跡出土品と写真パネル、伊場遺跡出土短甲木製品レプリカ	縄文土器作り、体験用土器で煮炊き、すいとん作り、石臼挽きなど	1，509人
	神久呂小	6月6日 ～6月11日	『おおむかしの浜松』	佐鳴湖西岸遺跡群（前山遺跡、大平遺跡、浦前遺跡）の出土品	原始住居作り、土器作り、神原埋蔵文化財調査所見学など	2，356人
	和田東小	10月21日 ～10月25日	『戦前の茶の間』 「戦災の資料」	木船遺跡・松東遺跡・越前遺跡の出土品、前原銅鐸レプリカなど	昔の遊び、米の脱穀・選別、土器野焼き、藁草履作りなど	1，927人
	新津小	1月16日 ～1月21日	『浜松の移り変わり』 『戦前の茶の間』一部 「戦災の資料」	堤町村東遺跡・倉松町瓦塚遺跡出土品、新津小所蔵米津台場砲など	縄文風クッキー作り、体験用土器による煮炊き、昔の遊びなど	2，787人
九年度	与進小	5月12日 ～5月16日	『おおむかしの浜松』 『浜松の移り変わり』 の一部、「戦災の資料」	天王中野遺跡・安養寺西遺跡の出土品	火おこし、石臼挽き、七輪で餅焼き、昔の遊び	3，178人
	村櫛小	5月29日 ～6月3日	『おおむかしの浜松』	村櫛町大田遺跡の出土品、村櫛小郷土資料室所蔵の農具・漁具	火おこし、体験用土器による煮炊き	680人
	豊西小	6月17日 ～6月21日	『おおむかしの浜松』	蛭子森古墳・恒武町山ノ花遺跡の出土品、笠井市関係資料など	勾玉作り、石臼挽き、七輪で餅焼き、土器野焼き、原始住居作り	1，386人
	※11月に都田小、1月に西都台小で実施の予定。					

学校移動博物館児童アンケート結果集計

（対象：実施校中の１３校児童２，９６５人）

１．あなたは、移動博物館の教室に何回行きましたか。

（人）　（回）

学　年	児童数	０回	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回以上	平均
１　年	４０１	１	１１０	７９	１０１	３３	２１	３８	１８	２．９
２　年	４３７	０	８４	９７	８７	８９	３０	３１	１９	３．１
３　年	４３３	３	８１	８１	９３	５９	５２	２３	４１	３．３
４　年	４４４	７	１９６	１１１	６１	３６	１６	１１	６	２．１
５　年	４５２	４	１７０	１６７	６９	２７	１１	３	１	２．０
６　年	７９８	０	２４２	２１９	１６３	９９	４１	２３	１１	２．５
合　計	２９６５	１５	８８３	７５４	５７４	３４３	１７１	１２９	９６	２．６

２．移動博物館の中で、何が１番思い出に（こころに）残っていますか。（複数回答）

（人）

項　　目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合　計
○基本キット、小キットに関すること	372	353	304	315	330	520	２１９４
①本物の土器、土器を触ったこと	53	72	38	70	93	230	５５６
②弓矢、石斧、木製農具、短甲木製品などの復元品	149	96	71	66	33	82	４９７
③焼夷弾、配給切符、千人針など戦災の実物資料	46	43	43	52	59	62	３０５
④首飾り、耳飾りなどの装飾品	20	56	9	20	27	26	１５８
⑤毛皮の敷物や人形などの展示セット	12	23	30	24	26	20	１３５
⑥戦前の教科書、机、学習用具	12	10	18	27	24	5	９６
⑦土器、石器、木製品など大昔の道具全般	21	4	9	21	18	22	９５
⑧アイロン、ラジオなど戦前の生活用具	2	8	36	8	7	17	７８
⑨本物の石器、石器を触ったこと	26	5	8	8	3	15	６５
⑩竈、臼と杵、曲げもの、木の器・さじの復元品	14	12	11	8	6	1	５２
⑪茶の間や台所など戦前の家の中の様子	1	8	9	3	7	13	４１
⑫戦争の写真パネル、雑誌記事	4	3	12	4	6	4	３３
⑫アンギン、原始機、服の復元品	5	3	6	1	3	15	３３
⑭浜松駅周辺他（明治～昭和40年代）の写真パネル	3	4	1	0	5	0	１３
⑭浜松城下および東海道の絵図、古地図	2	2	1	1	5	2	１３
⑭縄文人の顔、市内遺跡分布地図など説明パネル	2	4	0	1	2	4	１３
⑰家紋入り瓦・鯱・石臼など浜松城の出土品	0	0	2	1	6	2	１１
○体験活動に関すること	110	82	95	159	116	419	９８１
①火おこし	6	15	48	94	63	242	４６８
②けん玉、お手玉、めんこなど昔の遊び	43	49	21	9	6	1	１２９
③土器作り、土器野焼き	0	0	0	31	29	35	９５
④七輪で餅焼き	15	14	4	8	0	24	６５
⑤黒曜石で食材を切る	14	0	20	0	0	22	５６
⑤体験用土器によるアサリ汁作り・煮炊き	1	0	0	0	1	54	５６
⑦大豆を石臼でひく	3	3	1	6	1	10	２４
⑧体験用土器による赤米・アワ・キビなどの炊飯	0	0	0	0	0	19	１９
⑨糸車回し	18	0	0	0	0	0	１８
⑩原始機式布織り	0	0	0	0	13	2	１５
⑪戦時中のパンを食べよう	10	0	0	1	0	3	１４
⑫勾玉作り	0	0	0	10	0	0	１０
・その他（藁草履作り、原始時代の住居作り等）	0	1	1	0	3	7	１２
○郷土コーナー、体験コーナーなど	85	137	181	87	113	156	７５９
①復元土器パズル	3	29	61	34	27	35	１８９
②復元銅鐸、銅鐸レプリカ	44	27	31	7	12	20	１４１
③お手玉、けん玉、めんこなど昔の遊びコーナー	5	35	37	4	14	13	１０８
④学校、地域所蔵の資料	22	7	19	7	20	31	１０６
⑤校区の出土品・民俗資料・古地図など	4	11	7	12	18	31	８３
⑥博物館職員の説明・会話	6	5	13	4	8	6	４２
⑦昔の人の苦労・工夫・知恵	0	1	1	4	6	6	１８
⑧昔のこと、昔の人、昔の生活	0	7	2	5	1	2	１７
⑧全部、いろいろ	0	3	6	4	3	1	１７
⑩施文具で粘土に模様をつける	1	6	0	0	1	4	１２
⑪「大昔のくらし」「土器と石器」などビデオ視聴	0	2	3	2	0	4	１１
・その他（スタンプ、友達と遊んだことなど）	0	4	1	4	3	3	１５
○特になし	0	0	2	3	4	6	１５
○不明	14	6	8	7	0	0	３５
○無回答	8	6	8	2	8	4	３６

3．移動博物館を利用して、初めて知ったことは何ですか。（複数回答）

（人）

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
○大昔の人の生活や活動に関すること	37	44	50	89	75	180	475
・火のおこし方、火おこしの苦労など	10	16	10	37	35	74	182
・炉や竈、家の中の様子など	4	10	9	14	10	51	98
・食べていたもの、食事について	4	6	13	17	10	34	84
・狩猟、漁労、採集について	9	5	9	8	2	5	38
・生活の様子、現代の生活との違い、村の様子	4	3	3	6	8	4	28
・古墳やお墓、土器棺のこと	5	2	2	2	4	0	15
・環壕、戦争があったこと	1	2	3	5	3	1	15
・米作り、米作りの始まりなど	0	0	1	0	3	11	15
○土器に関すること	46	53	42	38	85	206	470
・土器の存在、材料、作り方など	44	33	22	18	32	23	172
・形や種類、用途とその変化	0	3	8	9	36	87	143
・模様の付け方、模様の違いなど	1	2	2	3	4	33	45
・土器の大きさ・重さ・手触り・色など	0	1	5	4	12	22	44
・土器の底に籾や葉の跡があること	1	2	1	1	0	27	32
・その他土器について	0	12	4	3	1	14	34
○戦前の茶の間、生活に関すること	117	81	83	88	33	54	456
・戦前の生活用具とその使い方	90	57	38	54	19	20	278
・戦前の茶の間・生活の様子、今との違いなど	1	5	25	10	5	20	66
・戦前の教科書・学習用具・学校の様子	16	4	12	12	8	9	61
・戦前の遊び・遊び道具について	8	15	4	8	0	1	36
・食べ物や食事、台所について	2	0	4	4	1	4	15
○土器・石器以外の道具、道具全般	34	46	45	74	43	121	363
・道具全般について、道具の使い方など	7	16	23	47	26	44	163
・銅鐸について	9	10	5	9	5	22	60
・短甲木製品、楯について	3	3	4	5	0	20	35
・木の器やさじ、曲げものとその作り方など	8	5	6	6	4	2	31
・鍬・鋤・臼・杵など米作り関係の道具	0	6	6	3	4	9	28
・アンギンや機織りの道具、服の作り方	2	1	0	2	4	17	26
・その他（鉄の道具、木簡など）	5	5	1	2	0	7	20
○大昔の人、衣服、身につけていたもの	16	47	39	41	54	135	332
・耳飾り、首飾り、勾玉など装飾品	6	14	22	23	25	63	153
・昔の人が着ていた服、服の変化、服の材料	7	23	15	16	25	60	146
・縄文人の顔、容姿、身長、抜歯の習慣など	3	10	2	2	4	12	33
○戦災の資料、戦争に関すること	36	39	30	49	31	58	243
・焼夷弾や模擬爆弾、軽機関銃、ヘルメット	19	12	14	25	18	32	120
・配給切符やもんぺなど戦争中の生活の様子	1	3	3	3	4	9	23
・千人針、日の丸の寄せ書き、慰問袋	0	1	6	9	2	5	23
・その他浜松の戦争、戦争の怖さなど戦争全般	16	23	7	12	7	12	77
○石斧、矢じりなど石器に関すること	57	24	20	13	12	54	180
・弓矢、矢じりなど	37	13	9	3	5	32	99
・石斧について	9	4	4	5	2	4	28
・石匙、石器でものを切ること	7	2	0	4	0	14	27
・紡錘車、石錘などその他の石器、石器全般	4	5	7	1	5	4	26
○浜松城下、浜松の移り変わりに関すること	13	7	11	11	42	35	119
・浜松城、浜松城主、城下町、宿場町について	6	7	11	10	23	21	78
・浜松駅や駅周辺の移り変わり	7	0	0	1	19	14	41
○その他	8	43	83	125	123	139	521
・学校の近くの遺跡、出土品、昔の様子	2	7	12	43	49	55	168
・昔の人の苦労、工夫、知恵、器用さなど	2	7	12	20	18	30	89
・昔のものが今も残っていること	1	11	23	22	17	12	86
・発掘調査、土器の復元などについて	0	3	8	15	18	11	55
・浜松にもたくさんの遺跡、遺物があること	2	2	2	2	4	18	30
・学校移動博物館、浜松市博物館のこと	0	2	3	3	1	6	15
・全部、いろいろ、何もかも	0	0	7	0	0	3	10
・その他（昔のこと、現代との類似点など）	1	11	16	20	16	4	68
○特になし	1	28	29	12	11	19	100
○不明	5	15	8	6	2	4	40
○無回答	87	21	24	2	7	4	145

4．移動博物館を利用して、「もっとくわしく調べてみたいな。」「勉強してみたいな」と思うことがありましたか。あったら書きましょう。（複数回答）

（人）

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
○大昔の人の生活や活動に関すること	32	56	36	52	38	99	313
・食べていたもの、料理のしかた、米作りなど	18	29	12	17	14	28	118
・なぜ火がつくのか、火おこしきの作り方など	6	7	8	10	12	25	68
・大昔の狩りや漁のやり方	2	3	3	1	4	10	23
・大昔の生活全般やその他の大昔の生活について	6	17	13	24	8	36	104
○戦前の茶の間、生活に関すること	27	30	31	53	12	26	179
・戦前の道具とその使い方について	13	10	17	27	4	7	78
・戦前の学習用具、学校や勉強の様子について	13	12	4	6	3	1	39
・戦前の服装や食事など生活の様子	0	0	5	14	2	10	31
・戦前の家の中の様子・台所の様子	0	6	4	1	1	4	16
・戦前の遊び道具・遊び方について	1	2	1	5	2	4	15
○土器に関すること	6	17	12	20	44	74	173
・土器の材料、作り方、焼き方など	1	8	3	4	13	19	48
・土器の種類・形・用途とその変化	1	2	1	8	7	22	41
・土器の模様の種類・付け方・その変化	0	0	2	2	1	12	17
・土器全般、その他土器について	4	7	6	6	23	21	67
○大昔の人、衣服、身につけていたもの	14	23	16	29	23	46	151
・耳飾り、首飾り、勾玉など装飾品	0	4	3	16	10	26	59
・服の材料や作り方、服装の変化など	7	14	9	6	10	9	55
・昔の人の顔、顔の入れ墨、髪型、身長、寿命など	7	5	4	7	3	11	37
○戦災の資料、戦争に関すること	13	16	17	48	16	38	148
・爆弾や機関銃など武器について	10	10	7	20	8	17	72
・服装や食事、防空壕など戦時中の生活の様子	1	0	1	11	1	5	19
・戦時中の浜松の様子、戦争の原因・経過など戦争全般	2	6	9	17	7	16	57
○土器・石器以外の道具、道具全般	15	14	17	27	30	40	143
・大昔の道具、道具の作り方や使い方など	4	9	14	17	22	11	77
・銅鐸の用途や作り方、描かれている絵など	6	3	1	4	3	13	30
・機織の道具、糸・布を作る技術など	5	0	0	0	5	6	16
・その他（木の器、鉄の道具、米作りの道具など）	0	2	2	6	0	10	20
○大昔の家、家の中に関すること	13	10	6	10	6	42	87
・住居の大きさ、材料・作り方、住居の変化	8	5	3	8	3	18	45
・かまど、敷物など家の中の様子、	5	4	3	1	0	9	22
・古墳や当時のお墓、土器棺、埴輪について	0	1	0	1	3	15	20
○石斧、矢じりなど石器に関すること	11	14	7	6	10	28	76
・弓の作り方、矢じりのことなど	6	6	5	1	8	19	45
・石斧の作り方・使い方	5	6	0	1	1	3	16
・石材、その他の石器の作り方・使い方など	0	2	2	4	1	6	15
○中世・近世・近代の浜松に関すること	6	4	4	2	12	11	39
・浜松城、城主、城下町、宿場町について	3	2	2	2	9	11	29
・昔の地図・絵図・写真など	2	1	2	0	2	0	7
・近代の浜松駅周辺の様子、交通について	1	1	0	0	1	0	3
○その他	24	33	41	78	56	94	326
・もっと昔のこと、違う時代のこと	0	10	4	19	11	22	66
・土器はいつ、どんなところで発見されるのか	1	9	7	8	4	9	38
・発掘の道具と方法、年代の測定の仕方	5	0	4	7	4	12	32
・土器作り、縄文食作りなど体験活動に関すること	2	0	3	4	13	9	31
・なぜ何千、何百年前のものが残っているのか	2	0	2	12	1	4	21
・学区の遺跡・出土品・昔のもの	1	1	0	1	4	8	15
・その他（化石、キョウリュウ、浜松の歴史など）	13	13	21	27	19	30	123
○特になし	31	103	133	94	101	178	640
○不明	40	11	11	3	2	5	72
○無回答	117	126	117	83	132	178	753

5．浜松市博物館や他の博物館にも行ってみたいと思いますか。

（人）　（%）

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	割合
・行ってみたいと思う	359	379	399	400	408	715	2660	93.2
・行ってみたいとは思わない	11	35	26	26	28	57	183	6.4
・どちらでもよい	1	0	1	1	4	5	12	0.4
・不明	4	3	1	1	1	2	12	－
・無回答	26	20	6	16	11	19	98	－
合計	401	437	433	444	452	798	2965	100.0

学校移動博物館教師アンケート結果集計

（対象：実施校中の１３校教師２５１人）

１．移動博物館の中で最も印象に残ったものは何ですか。（複数回答）

（人）

○基本キット、小キットに関すること	１６４	○体験活動に関すること	９０
・実物の土器、土器に触れたこと	６６	・火おこし体験	３９
・焼夷弾、配給切符等の戦争関係資料	２６	・七輪、石臼、もっこなどの体験	１８
・耳飾り、首飾りなどの装身具	１２	・体験用土器による煮炊き	８
・矢じりなど狩りの道具	１２	・黒曜石でリンゴの皮むき	４
・炭火アイロンなど戦前の生活用具	１１	・機織りの体験、原始機式布織り	３
・アンギン、原始機、服の復元品	７	・その他（土器作り他）、体験活動全般	１８
・戦前の茶の間の様子	７	○郷土コーナー、体験コーナー、その他	６３
・石斧や木製農耕具などの復元品	６	・学区の出土品・民俗資料・古地図	３７
・浜松城下、浜松市内の絵図や古地図	５	・復元銅鐸、銅鐸レプリカ	８
・昔の教科書	３	・展示品に自由にさわれること	７
・大昔の家の中の再現	２	・子供たちの真剣な顔、目の輝き	３
・矢じり、石斧など石器	３	・その他（ビデオ、土器パズルなど）	８
・市内遺跡分布図ほか説明パネル	２	○特になし	４
・明治から昭和初期までの写真パネル	２	○無回答	１１

２．展示や体験活動などでこんなものがあればさらに利用が広がると思われるものがあれば教えてください。

○実物資料、復元品、説明パネル、展示の方法など展示に関すること			
・昔の生活や発掘調査のビデオ	１２	・手にとって触れることのできる展示物	２
・竪穴住居（実物大、レプリカ）	６	・昔の食べ物、食べ物のサンプル	２
・随時体験（操作）活動ができるもの	６	・キョウリュウの化石	２
・昔の教科書や学校で使われていた道具	４	・図や絵がもっと多いと分かりやすい。	２
・低学年にも分かりやすいもの。	４	・中世・近世のもの	２
・戦災の資料、戦時中のくらし	４	・昔のものと比較するため現在のもの	２
・パソコンによる学習、クイズ	４	・その他（古墳の石室内部の再現など）	２６
・生活の様子の再現、ジオラマ	４		
○体験活動の内容や方法など体験活動に関すること			
・土器作り、野焼き	９	・土器を使っての煮炊き	２
・竪穴住居作り	５	・糸車で糸紡ぎ	２
・縄文クッキー作り	５	・餅つき	２
・体験活動の道具の数を増やす。	４	・その他（機織り、杵と臼で脱穀など）	１２
・石器で肉や魚を切る	３		
○特になし			２０
○無回答			１３６

３．移動博物館を開催したことで、学級・学校でどんなプラス要素・マイナス要素を感じられましたか。

（人）

○プラス要素	人数
・歴史や昔の生活に対する関心・興味が深まった。	７３
・昔の人の生活の一部分が追体験できた、苦労や工夫が実感できた。	５９
・本物を見たり、触ったりできた	５１
・博物館が身近に感じられ、博物館に対する興味、行きたいという意欲が持てた。	１９
・社会、国語など教科学習に生かしたり、学習の興味付けにしたりできる。	１９
・昔の生活について思いをめぐらせたり、歴史や昔の人々を身近に感じたりできた。	１７
・ふだん見られないもの、博物館に行かない見られないものが見られた。	１５
・現代と比較して、昔の人の知恵や工夫を知ったり、現代の生活を見直したりできる。	１４
・地域の遺跡や歴史、昔の町の様子を知り、それらに興味が持てた。	１３
・五感により昔の生活の様子を実感し、歴史や社会的事象の知識が深まる。	１０
・博物館の存在と意味を知ることができた。	７
・自分の疑問を博物館職員に質問する姿勢、自分自身から勉強する姿勢が見られる。	６
・学校にはない資料が得られる、学校だけでは行えない体験学習ができる。	６
・文化財に対する意識を高めるよい機会。展示品の見方・扱い方の勉強になった。	５
・専門的な説明が受けられ、質問にも答えてくれるので疑問がその場で解決できる。	４
・お年寄りから体験談を聞いたり、保護者が来校したりと地域の参加が見られた。	３
・その他（公共施設の利用の仕方がわかった、楽しく活動できたなど）	２３
・無回答	１０

（人）

○マイナス要素	人数
・授業時間の調整が大変、授業時数に無理が生じる、時間的なゆとりがない。	１７
・展示の内容が低学年には少し難しい。	６
・見学の指導がしっかりできない。子供の資料の取り扱い方に気を使う。	４
・展示品の数が限定され、歴史の流れが途中で切れてしまう。	３
・開催時期と教科学習の時期がうまく合わない、教育課程の中で計画的に取り組めない。	３
・図工室やプレイルームなど特別教室が授業で使えなくなること	２
・活動と教科学習が結びつかない。活動がその場の単発になりやすい。	２
・その他	１２
・特になし	８２
・無回答	１２４

4．学校移動博物館を、子供たちにとってよりよいものにしていくためには、さらに博物館や学校としてどんなことをしていけばよいとお考えですか。

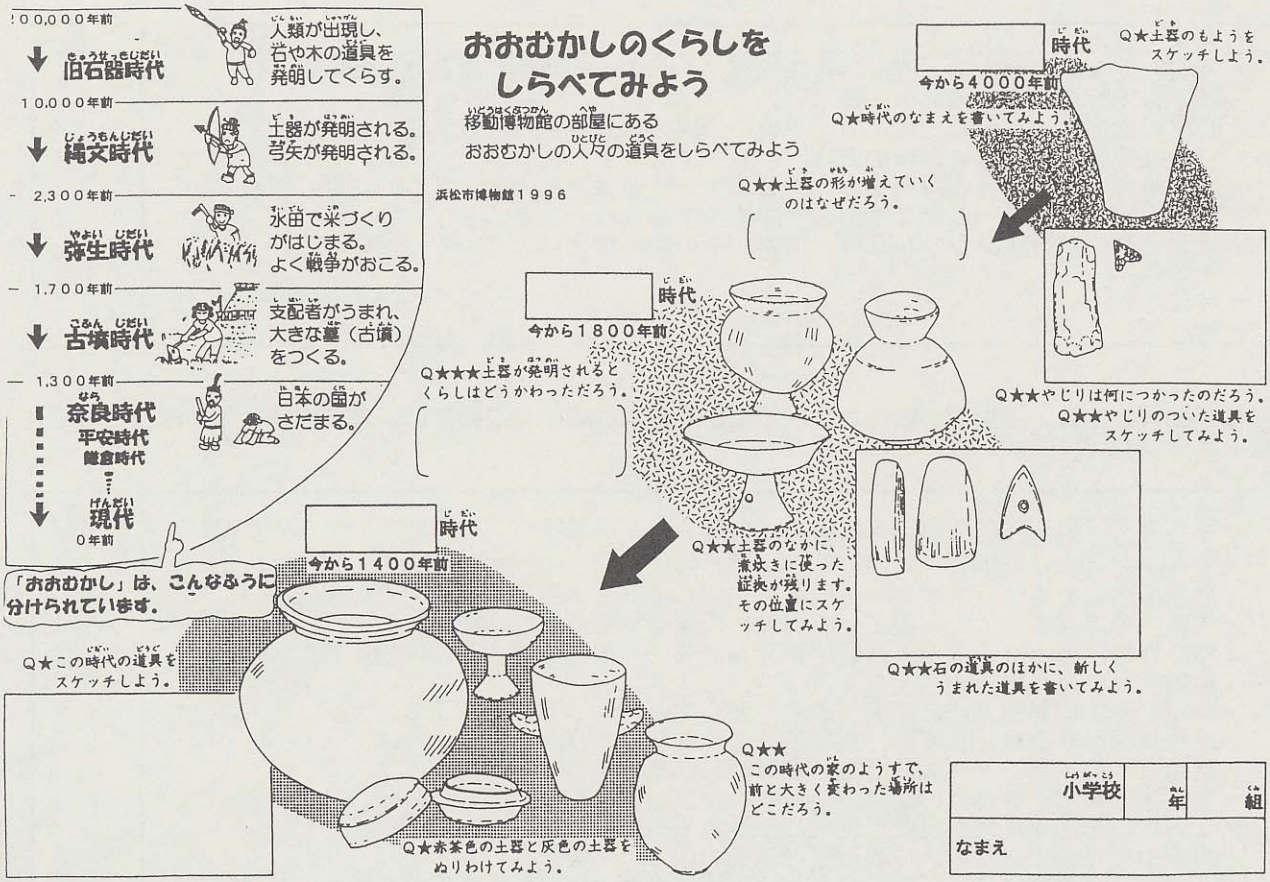
○博物館として	人数
・さわれる品物、体験（操作）活動ができるものを増やす。	２２
・できるだけ多くの学校を訪問してほしい。毎年訪問してほしい。	１７
・展示品の数を増やしてほしい。内容を充実してほしい。毎日少しの変化がほしい。	１６
・体験学習の充実・工夫（幅広い内容で、低学年でもできるものなど）	１４
・移動博物館の内容（展示・体験活動）を事前に子供たちや教師に周知する。	１３
・体験活動の道具の数を補充してほしい。	８
・分かりやすい展示方法の工夫、説明。触っていけないものの表示の工夫。	８
・開催期間をもう少し長くしてほしい。時間的なゆとりがほしい。	５
・展示以外のイベント（体験活動）を計画し、ＰＲする。	４
・ビデオの利用、効果音の活用。	４
・学区の出土品や民俗資料など地域にかかわるものや資料の充実	３
・実演して見せてほしい。体験活動の説明の仕方の工夫。	３
・その他（発達段階に応じた展示と説明、体験活動の材料も博物館で準備してなど）	４８
・特になし、現状でよい	１４
・無回答	９９

○学校として	人数
・児童への事前指導（展示内容、見学のマナーなど）、啓蒙、よさの紹介・ＰＲ。	２３
・教科学習・指導計画との関連づけをし、計画的に利用する。	１９
・展示スペースの確保、ゆったりと展示を見学できる空間を用意する。	１８
・ＰＴＡや地区と協力して、常設の展示室や資料室を作る。所蔵資料の有効に利用する。	１４
・ゆっくり見学、体験活動ができるだけの時間の確保	１０
・移動博を進んで利用する方向（学校独自の特色ある展示・活動）で計画する。	５
・開催期間中に利用した感想や見所を放送や掲示板で紹介する。全校集会を開く。	５
・体験活動をより多くの子ができるように工夫する。	４
・浜松市博物館をＰＲし、移動博の活動をさらに広げさせる。浜松市博物館を利用する。	４
・保護者や地域に解放する、ＰＲする。	４
・低学年でも体験活動が実施できるようにしたい。	３
・その他（事前に綿密な打ち合わせをする、職員の協力体制の強化など）	３０
・特になし	８
・無回答	１０８

5．博物館（社会教育施設）を学校教育の中で生かしていくために、博物館（社会教育施設）に何かご意見・ご要望があればお書きください。

（人）

・移動博のような交流はいいと思う。博物館職員を派遣してほしい。	２３
・館内に常設の体験コーナーがあるといいと思う。様々な体験ができる場になるとよい。	１６
・子供向けのたよりを出し、宣伝、ＰＲをして関心、興味をもたせる。	１０
・第２、４土曜日に小学生向けの講座の開催。学生、大人を含め幅広い講座の充実。	８
・教科の単元と貸し出し資料の一覧や冊子があるとよい。	８
・学習内容に踏み込んだ学習資料、展示品の説明のプリントがほしい。	４
・その他（子供にもわかりやすい展示や説明、浜松の歴史ビデオの作成・配布など）	１４
・特になし	２１
・無回答	１５６

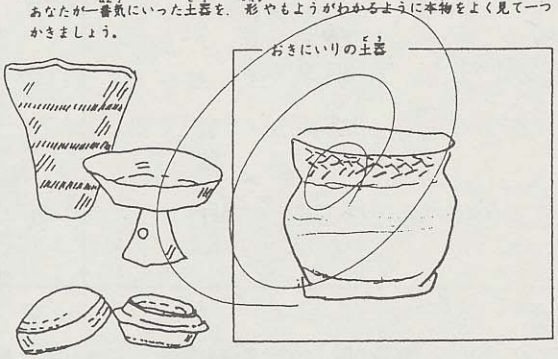


「おおむかしの浜松」ワークシート（高学年用）

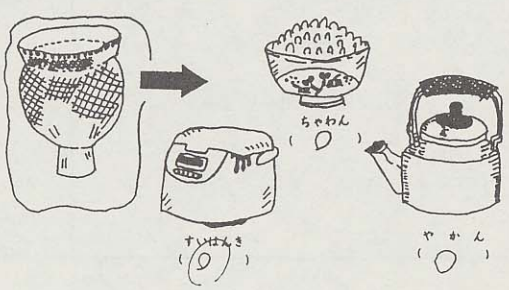
おおむかしのくらしをしらべてみよう

いどうはくぶつかんの部屋にあるおおむかしの人々の道具を調べよう。

★おおむかしの人は、下のような土で作った土器という入れ物を使っていました。あなたが一番気にいった土器を、形やもようがわかるように本物をよく見て一つかきましょう。

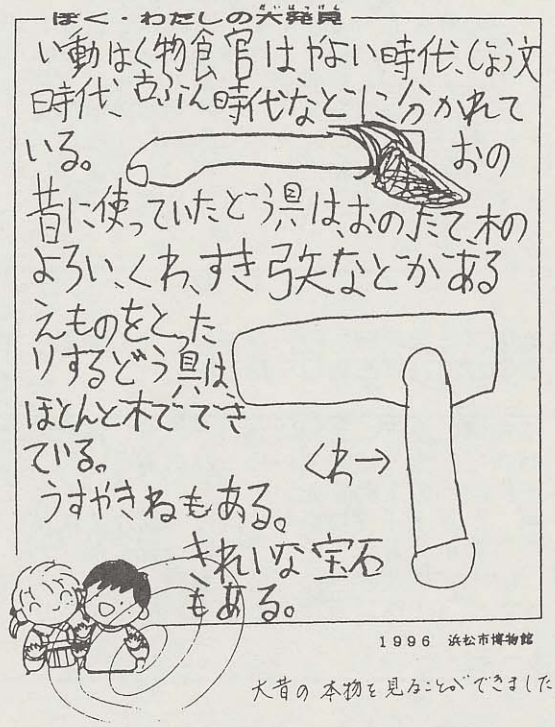


★下の土器は、「だいつきかめ」といいます。どこにあるかさがしてみましょう。また、それはなにをするのに使ったのでしょう。みんなの家で、それをするのに使っているものを下からえらんで○をつけましょう。（○はいくつでもいいよ。）



神久呂 小学校	4年	4組	なまえ さとう進平

★いどうはくぶつかんの部屋で見つけたあなたの大発見をえやことばでかきましょう。



「おおむかしの浜松」ワークシート（中・低学年用）活用例

学芸員奮闘記～悪戦苦闘！！私たちの10年～

海の博物館　野村史隆

① 海の博物館とともに２５年間。（昭和46年からの歩みと周囲の変貌）
- 宮本常一氏との出会い（民具学会発足）
- 民具でなかった道具。（ポイ捨て時代・伊勢湾汚れ放題・新しいものはいいことだ）
- 「タダで持っていって、金とって見せるんか」から「取りに来てください」へ。

② 学芸員は「雑芸員」でいいが、「雑巾」ではない。－（仕事量と内容）
- 羨ましい外国のキューレーター・ワーカーシステム。とその落とし穴。
- 仕事量の多さは研究どころではー便利屋さんへ
- 博物館ブームは模型屋さんを喜ばせた。（ジオラマ、船、）
- 手作りならば１０分の１で、きめ細かい作品ができる。

③ 今があぶない！（今の現状）
- 物も人も昨日まであったのにー「あれれ、無くなっている」
- 同士、若い人の奮起を！

④ 若いひとへの提言（お願い）
- 現場を知れ。
- 体験しろ。そして本質を知れ。
- 沢山見ろ。（見えてくるものがあるから。例ータモ・モリ）
- 学者であってドラマ作家であれ。
- おじさんたちの苦手なコンピューター分野で開拓を。

⑤ 悩みごと（博物館の現状）
- 上司は金を集めて口出すな。（ミュージアムマネージメントの重要性。）
- 民間博物館なら別だが、公立は入場者数だけで善し悪しを決めるな。
  ※それはアピール不足だけかも知れない。／金のかかる展示は公立で。
- 嘆かわしい日本の文化意識（予算カットの矢面）

●中日新聞1997（平成9）年7月6日（日曜日）掲載

〔25〕 三重第二総合 1997年（平成9年）7月6日（日曜日） 中

みえ随想

今があぶない



野村 史隆

博物館の学芸員という仕事柄、各地の海村にフィールドに出ることが多いが、最近、特に感じることがある。

それは物も人も今、どんどんなくなっていっていることからの危機感である。

昭和四十六年以来二十五年間、三重県内は無論のこと、日本各地に行き、いろいろな人にその土地の歴史や風俗、習慣を聞いたり、また残すべき資料の収集に当たってきて思うことである。

民俗学とは、日本の国民の大多数を占めていた一般庶民を研究する学問であることから、その人々に息づいている風俗、習慣は当然、古老からの聞き取り調査に頼る部分が多くなる。

調査地の海辺の村に着くと、まず、漁業組合に行ってその地区の概況を聞き、次に物知りの古老を紹介してもらう。たいてい村にはだれもが認める生き字引といわれる年寄りがいて、その古老を呼び寄せてくれる。

私が調査に入りかけた昭和四十六年ころは、その紹介してくれる話者は明治二十年代生まれの老人が中心だった。この人たちの親はたいてい幕末生まれなので、本人たちも親が持つ江戸時代の名残を引きずって生きている人たちであった。したがって江戸から明治期の生活、風俗、風習、職人の技が聞き出せた。

しかし、二十五年経た今、同様に古老を訪ねると、すでに明治生まれの人はまれで大正生まれの人が大半で、中には昭和初期生まれの人も登場してくる。

二十五年の歳月から考えれば当然だが、その間に受け継がれずに欠落していった昔の人の知恵や技がどれだけあったろうと考えると残念でならない。

明治の生活と昭和の時代の差は、船で例えるなら「櫓（ろ）こぎの時代」と「発動機船」ほどの差がある。何もかも人の手に頼っていた時代は、人間の技が生きていたが、動力化になると軽視され、長い間培ってきた知恵と技は薄れていくことになる。

物質文化である道具（民具）も同様のことが言える。海で生業（なりわい）をたてている人たちを「海民」と呼ぶならば、そして彼らが用いる道具、とりわけ漁具についても昭和三十年代を境に大きく様変わりをする。

今まで使用されていた麻や棉糸の網はナイロンや化繊網に、木や竹の天然材料を用いた浮き類はプラスチックや合成樹脂に、また、海に乗り出す船さえも木造船からFRP（繊維強化プラスチック）船に変化していくことになる。

そして、高度成長時代に入り、消費社会になると、今まで何千年もの間、われわれの祖先がはぐくみ、知恵が凝縮されていた民具は「いったい今までの自分たちは何だったんだろう」というつぶやきが聞こえるかのように、いとも簡単に捨てられるようになる。

ある時期の一家の経済を支えた釣り針一本かもしれないことを思うと、釣り針一点、網一枚でさえ捨てることはできない。一つ一つの道具にはそれぞれにドラマがあり、どれひとつ同じものはない。それを考えると、どれ一つ捨てることはできず、二十五年間収集を続けてきたが、最近の状況には危機感さえ感じる。

この間までその辺でよく見かけた物が、いざ集めようと思うと、すでになくなっていることである。ものが消えていく時というのはそうしたものなのだろうか。

物に限らずそれは人にもいえることで、釣りの話はあのおじいちゃん、海女のことならあのおばあちゃんに聞けば完ぺき、時間ができたらゆっくり話を聞きに行こうと思っている矢先、亡くなってしまうことがやたら多いことである。

「このままじゃ何もかも消えてしまう、今を残さねば」という焦りばかりが空回りする。（海の博物館学芸員）



テッポウユリ・西塚芳子
（松阪市・二紀会同人）

ココロのアンケート

1998 winter

ココロのアンケート
1998 winter

博物館員調査ノススメ

名古屋市博物館　犬塚康博

1990年代，博物館は未曾有の転換期にある。とは言っても，これは，今現在を現代史として生きようとするときに通有な思いで，とりたてて私たちに固有のものではない。いつの時代にも，現状を批判し，新しい博物館像を描く人たちがいた。1990年代も，これと基本的に変わることはない。しかし，繰り返しばかりでもなく，新しそうな兆候もある。例えば，博物館利用者という存在が，理念や一般論・スローガンから脱出して，具体的な姿を見せ始めている。そして，多様な彼・彼女たちを把握しようと，利用者に関する調査がおこなわれる。博物館が利用者を，利用者もまた利用者を調べ，その結果を博物館に反映させようとする。こうした調査は過去にもあったが，博物館側のお為ごかしだったり，そもそも調査の方法論もあってないかの如きだった。今なお玉石混淆だが，利用者調査を〈展示のエスノグラフィー〉に位置づけようと提起した，橋本裕之の「物質文化の劇場――博物館におけるインターラクティヴ・ミスコミュニケーション――」(『民族学研究』第62巻第4号，1998年3月)が，この時期に現れたのも理由なきことではなかったのだろう。

そして，利用者調査の一方で，論理的に希求されてくるのが博物館員調査である。博物館員調査と言っても，館員たちがつかさどる専門分野での展覧会や論文などに対する批評ではなく，ましてや職員数や年齢構成などにとどまる物理的データを集めるものでもない。それは，館員たちがどのように博物館ということがらを思考し，実践しようとしているのかを把握する調査のことである。大仰に21世紀を口にせずとも，向後の博物館の理論と現実を規定するのは，利用者と博物館員という博物館をめぐる人的関係の大雑把な2項目の相が重なり合う場に，博物館の最も控えめなヴィジョンが隠れているのではないだろうか――。そう考えて実施したのが，このアンケート調査である。

もちろん，稚拙な急場しのぎという外観と，データを蒐めることに終始した感は否めないが，その要因たる私たちの非力は棚にあげて，データの分析と評価は，将来現れるであろう優秀な博物館学研究者に委ねようと思う。なぜなら，「本業は歴史学・教育学等々，余技で博物館学」という研究者は数多いても，自他共に博物館学を本業と言い切ることのできる研究者は見あたらず，博物館学はいまだカッコウの巣であり，とりもなおさず私たちがそのカッコウだからである。しかし，そうした研究者の登場も，最早時間が解決する段階に到達しているかのようだ。もちろん，それはアカデミズムの独壇場でなくてよく，むしろアマチュアリズムの不可視の可能性のうちにあると言ってよい。このアンケート調査は，そうした近未来に向け，1998年初頭の愛知県の博物館員の心の在処，その一部を記録しようとしたものである。極論すれば，いつか博物館がなくなってしまうというような事態が訪れたときに発せられるであろう「なぜ博物館はなくなってしまったのか」という問いに対し，案外このアンケート結果が回答の一部を提出していたりするかもしれない。あるいは，「1998年にその予兆はまだなかった」とする確認材料となるのかもしれない。いずれにしても，都合の悪いことは無論，都合のよいことさえも忘れがちな私たち自身に関する現認報告である。

●アンケート調査用紙
（実施期間 1998年1月〜2月）

愛知の学芸員、その心

アンケート調査1998

メモ

① あなたのもっとも好きな博物館は？行った、行ってないを問わず。
その博物館のチャームポイントは？いくつでも結構です。書ききれない場合は裏へ！！

a. 県内（　　）
チャームポイント

b. 国内（　　）
チャームポイント

c. 国外（　　）
チャームポイント

② あなたがチャレンジしたい博物館活動は？
次の中からひとつ選んで、その具体的なイメージを……。アイディアは盗みません！！
［a. 収集保管部門／b. 調査研究部門／c. 公開教育部門］

③ 博物館・美術館に未来はあるか
とは世田谷美術館学芸員・川口幸成さんの記事（1998.1.12付朝日新聞夕刊6—見ましたか？）の
メイン・タイトルでしたが,その内容とは無関係に。
［a. ある　b. ない］
⇒あるとしたら、どんな未来？具体的なイメージを。

⇒ないとしたら、それはなぜ？

④ あなたが所属する博物館・美術館に、今、欠けていると思われる思想や活動が
ありますか？是非!! 教えて下さい。

⑤ 最後に、あなたは？
所属館園種［歴史（考古・民俗を含む）／自然史／科学／動物／植物／水族／美術／その他］館・園
博物館員歴［　　］年
所属館の学芸スタッフ人数（正規職員のみ）［　　］人
性別［　女／男　］
年齢［　　］歳　正直にお願いします!!

〜おまけの質問〜
★あなたは、博物館・美術館というところが好きですか？
［a. とても好き　b. 仕事としては好き　c. きらい　d. その他（　　）］
★学芸員という仕事は好きですか？
［a. とても好き　b. 仕事としては好き　c. きらい　d. その他（　　）］

ご協力
ありがとう
ございました
I&K

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
1	豊橋市自然史博物館	周囲（敷地内）で遊べる。	江戸東京博物館	遊び心がある展示。	大英博物館	莫大な収集量。資料の運営。	c	博物館に来ない人たちへの営業、館で待つのではなく、外で利用者の拡大を図る。博物館のおもしろさを知ってもらう。	a	モノを中心とした活動の他に、気軽に遊べる場所の提供。	積極的な教育活動、資料の活用。→余裕がないのが原因か。	歴史	3	9	男	29	d（とりあえず好き）	d（どちらとも言えない）
2	豊田市民芸館	囲炉裏があって、雰囲気がよい。	東京国立博物館	いつ行っても、良いものが展示してある。			c	博物館資料を収蔵庫にしまっておくままでは、とてももったいないと思います。展示の機会は少ないので、それ以外の方法で何とか利用したいと思います。	a		博物館資料は市民のものという考えに欠けていると思います。	歴史	21	いっぱい	女	44	a	a
3	豊橋市自然史博物館	県内で唯一恐竜化石の全身骨格をみることができる！	瑞浪市化石博物館	地元の化石に基づいた博物館活動。小学校の時から何回もいっています。	ハウフ博物館（ドイツ）	海生は虫類化石の大量なコレクションとその展示手法。	a	国内の化石資料の収集。地域ごとの代表的な物のコレクションの充実を目指したい。	a	標本の永久的な保管場所として実物を見ることのできる数少ない場所となっていくと考える。バーチャルな物がもてはやされているが、今後、実物の重要性は増すと考えている。学芸員が未来がないと言えば、それが未来がなくなった時ではないでしょうか。	事務方の博物館活動に対する理解と、学芸員の博物館活動を理解させようとする努力。地域に根ざした調査研究、教育普及活動。	自然史	4	6	男	27	a	a
4	愛知県美術館	中庭の大きさ。	岐阜県博物館	人文・自然の綜合。	（行ったことない）		a	名古屋市博物館の保管倉庫。	a	将来への期待がある。	元気がない。	歴史	20	1	男	75	b	b
5	東山動物園	基本に忠実。	国立民族学博物館	ディスプレイ。	オランジュリー美術館	自然光。	c	ライティングの充実。	a	物質集積場として。	館内の物の整理。	美術	2	3	女	26	a	b
6＊	愛知県美術館	明るさ、立地条件がよい、地下の駐車場から展示室までつながっている。	神戸市立博物館	展示の内容、導線の作り方、案内標識の見やすさ。	メトロポリタンミュージアム	ミュージアムショップの品物が豊富でデザインがすぐれている。	b	過去にあった数々の質問から人が普段電気エネルギーにどんな関心をよせているか分析する。	a	欧米に近づく、一日中何度でも足を運べる学習の場、大勢のボランティア、オリジナルのミュージアムショップ。	入場無料のため客層に制限がない（ホームレス等）。	科学	7	0（有資格者は9名ですが企業博物館ですので学芸員としての仕事は行っていません）	女	29	a	d
7	名古屋市博物館	いつ行っても教えられる点が多い。	琵琶湖博物館	学芸員の調査、研究の過程や成果を展示している。	ロンドンデザインミュージアム	車や飛行機、船、カメラ…などデザインを観るために同じサイズのケースに入れてしまったすばらしいコンセプトなど…。	b	自動車の発達と社会の動きをさまざまな角度から検証し、日本社会における自動車の意味と未来像を展望したい。	a	市民が情報＝新しい刺激を得る場所として、未来はより明るいと思います。	小中学校との連携をはじめ、市民にひらかれた博物館像の構築と活動の推進。	歴史	9	9	男	45	a	a
8	リトルワールド	実際の生活の様子がよくわかる。	京都府文化博物館	模型等見て楽しめる。	ドイツ・中世犯罪博物館		a	資料の保管に関する専門的な知識を身につけたい。	a	映像、動くイスなどを使った疑似体験できる博物館		歴史	1	9	女	27	a	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
9	愛知県美術館	やすらぎがある。資料（実物）が豊富。	東京国立博物館	やすらぎがある。資料（実物）が豊富。	ルーブル美術館	やすらぎがある。資料（実物）が豊富。	c		b	行政に理解がない。		歴史	20	3	女	40	d（好きな方）	d（普通）
10	トヨタ博物館	自動車の好き嫌いはともかく、展示資料の自動車のボリューム感には圧倒されます。	江戸東京博物館	江戸の街なみや明治・大正の近代建築の模型は迫力をもって観る者にせまってきます。	クンスト・カーメラ（ロシア・サンクトペテルブルクの自然史博物館）	ピョートル大帝の悪趣味な収集品があると聞いています。一度、行ってみたい博物館です。	a	保存科学の十分な理解をしていきたい。 収蔵庫内の正しい「清掃」の仕方を考える必要がある。くん蒸作業だけではお金の無駄遣いになる危険があると思っています。	a/b	a:美術館については、「現代美術」の積極的な紹介を行っていく必要を感じます。　b:特に民俗部門にパワーダウンを予感しています。ただの「古道具屋さん」に終わらない" 何か" が今後、必要とされると思いますが、私自身はまだ見いだせないでいます。	②で示したように、保存科学的対応が欠如しています。	歴史	4	3	男	30	a	a
11			かかみがはら航空宇宙博物館	巨大	スミソニアン博物館	巨大	a	データベースの構築（収蔵品管理台帳のフォーマットの再検討、他館との共通化？）	a	バーチャルな世界と現実の物とを結びつける。	民俗文化財の収集方針がない（受け身的収集）。		9		男	39	a	d（好きだけど仕事の一割程度のため）
12			交通博物館（東京・神田）				b		a			動物/植物/水族	5	0	男	42	a	d
13	愛知県美術館	図書館とかいろいろあるから。	興福寺宝物館	仏像がどれをとってもすばらしい。特に「仏頭」が素敵！	大英博物館	世界中の歴史がわかること。	b	民俗学的なもので歩いて調査したり、聞いたり見たりして研究してみたいです。	a	具体的にはわかりませんけど、なんとなくです。	なぜ入館料をとるのか？高いので来る気がないという人も多いのではないでしょうか。	美術	2	1	女	23	a	a
14			国立科学博物館		大英自然史博物館		c	参加型の実験的展示	a	生涯学習のベースとして		自然史	17	6	男	42	a	a
15	リトルワールド	世界を対象としたオープンミュージアム。	MIHOミュージアム	最新施設で、東西の古美術を展示、自然と共生した建築など世界的レベル。	メトロポリタン美術館	良くも悪くも巨大館。運営も展示も明日の日本の博物館界の指針になる。	c		a	日本の社会が高度余暇社会に向かい生涯学習の必要性が高まるから、シニア市民向きが中心となり、若年、幼年へも広がる。	100％私立の民間財団の運営によるが、活動を拡大するに当たり積極的に社会資金の流入に取り組めない。税制や教育制度を変える力がない。	歴史	20	9	男	45	a	b
16	森のある広場資料館	便器の展示	下関考古博物館/千葉県立総合博物館	遺跡博物館（下関）/行ってみたいところ（千葉）	中国歴史博物館		c	小学6年生と一緒に学区を歩く、そしてともに学ぶ。自然の一部としての人間を考える。	a		チャレンジ	考古	21	20	男	47	a	a
17	明治村	広い空間、環境。	福岡市立博物館	回遊式。			b	何といっても確かな情報の蓄積です。	a	人間にかかわるあらゆる情報の集約化。	とくにない。	歴史	6	9	男	48	d（普通）	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
18 *	（あまり印象がない）		（あまり印象がない）		オルセー美術館（パリ）	有名な作品が至近距離で見られることと豊富な展示室。		特にありません。	a	貴重な資料や作品を永久保存し後世に残し伝えていくことは大切な事と思う。	ただ見せるだけでなく、わかりやすく理解できるかどうか。入館者全体が満足できているか？	その他	1	0	男	54	d（見るのはすき）	d（私自身は学芸員ではありません）
19	なし		上野表慶館 竹橋近代美術館工芸館	どうも古くさい建物の中に、資料が並んでいるだけというのが好きなようだ。	ウィーン美術史博物館	超一級の資料がこれといった演出もなく並んでいる。しかも、印象に強く残る。	b	地域、フィールドに関する様々な情報を百科全書的にまとめることを考えています。データベース的に、少なくとも市民が必要とする専門情報がすぐに出てくるような形にできれば理想だと思います。	a	日常の場から古い道具や器具がどんどん消えていく訳で、そうした物に対する人々の意識は単に無用になったとも言えない、微妙な関係があると思います。常に今を過去の物を通して検証する場は必要なのでしょう。それは変化の方向を考えることにも繋がっていくと思います。	地域住民を巻き込んだ形での活動です。若い頃は、いろんな地域活動に首をつっこんで一定のネットワークができたのだけれど、今では相談を持ち込まれるという形でのかかわり方が中心になりました。博物館を利用できる（遊べる）住民を増やすことはできなかったように思う。	歴史		1	男	42	b	b
20	愛知県芸術文化センター	いけば自分の興味をひくものが一つはあるという多様さから。	国立近代美術館	規模が大きい美術館ながら焦点を絞った企画展をしていると思いますが（個人的な好みです。）			c	地域密着型の小規模な地方自治体直轄の当館は市民の皆に知ってもらうところから始めるべきではないかと思います。	a	より細分化した分野ごとの仕事とそれを総合的にプロデュースする場所という運営の方向性。	ゆとり	美術	1	3	女	25	b	b
21			琵琶湖博物館	展示構成と専門の裏付けがしっかりしている。	スミソニアン自然史博物館/ブージ博物館	展示、普及部門	b	世界の研究機関や博物館との連携事業、特別展、研究費による調査等の推進。	a	生涯教育や知的アミューズメント、そして分類学や資料の保管。川口さんの記事、意味不明。	博物館職員としての専門性、博物館の独自性、学芸員そのものの質。	自然史	10	6	男	43	a	a
22	ぎょぎょランド	タダ、お手軽、のんびり	鳥羽水族館	内容が濃く、一日では見きれない。しかし、高すぎる。	ゴーギャン博物館	すべて複製品で構成、日本の絵画との比較も面白かった。		解説パネルの無い博物館…無理か？	a	堅苦しさが減り、気楽に訪れてくれる人が多くなったような気がします。世界中の博物館がネットワーク接続され、資料、文献の収集情報、展示情報などが相互保有となればすばらしいですね。	企画展示をしたいが部屋が無い。	科学	11	2	男	32	a	a
23	特にありません（良く知らない）		特にありません（良く知らない）		特にありません（良く知らない）		c	学校へ出張して展示や説明、質疑。	a	生きた人間とのかかわりを十分出していく（一つの物体としてみるだけでなく）。	今を生きることとどう結びつけていくか。正規の学芸員がいない。学芸員の養成	歴史	1	0	男	64	b	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
24	リトル・ワールド	実物大の建物・家具等まで再現し、料理や衣装物まで凝っている点。			レオナルド・ダ・ヴィンチ博物館	設計図を元に復元した模型の凝り方、歴史・美術・科学の枠にとらわれず、その長所を組み合わせた展示が多い点。	c	所蔵品を眠らせない。時間をゆっくり過ごさせるための工夫をする（居心地の良さを提供）。解説をできるだけ少なくする資料の公開方法を追求する（特に科学系に言える）。	a/b	a:テーマパークとは別の知的な大人の遊び場。好奇心をかきたてられる場所（裏面へ）。b:根本的に遊び心が欠如している。館数が多すぎて個性を発揮しにくい（裏面へ）。	調査、研究部門の活動を目的・主体性をもっておこなっているものがない点。（もちこみや、依頼を受けた物のみ）分野的にやりにくい点はあるが。	科学	4	2	女	26	a（ただし、よく期待を裏切られる）	
25	博物館明治村	スケールの大きさ、博物館の活用がすばらしい（博物館が生きている）。	東京国立博物館	わが国最大、特に日本古美術品がすばらしい。	ルーブル	展示品の多さ（20万点）200年以上の歴史がある。	b	湿原に関するもの	a	ただ漠然としており具体的なイメージは無い。	日本人のライフスタイルにはたして博物館や美術館があっているのだろうか。	歴史	5	0	男	23	b	
26	豊田市美術館	建物が美しい。常設展で、作品に合わせた展示方法がとられている。ショップが充実している。	水戸市芸術館	いつも現代美術のおもしろい展覧会を開催している。建物がユニーク。	マルモッタン美術館	こじんまりしていて、落ち着いて鑑賞できる。カーペットの色まで作品にぴったりで素敵。	b	自分の勤務する美術館が所蔵する作品について、作品に接して調査し、展示等に役立てるとともに、文献にもあたって研究を行う。	a	普及活動の充実により、活性化するのでは。	企画展の準備に追われ、所蔵品の調査や管理がたち遅れている傾向にある。このことは館内で問題になり、見直しが始まっている。	美術	4	9	女	31	a	b
27							a	現実問題として、どこに何があるかを把握したい。種別でパソコンに入力し、検索可能になれば尚良い。資料保管の基礎がなされてないので、まずそれから…。死蔵品にはしたくない。			展示活動には、調査研究は不要と思われている感あり。それと、展示は業者がやるものであり、学芸員が資料を展示する必要はないともきっと思っている。	歴史	2	0	女	36	a	a
28	三河武士と家康の資料館		三河武士と家康の資料館				b				調査・研究	歴史	15	1	男	40	b	a
29	名古屋市博物館	広い展示施設。国外の特別展。	国立歴史民俗博物館	日本の民俗、歴史がひととおりわかる。	ルーブル美術館	迷路のような高大な展示室。モナリザ。	a	台帳の整備、パソコン化。	a	明るい未来？学芸員の地位の向上。		歴史	5	2	男	35	d（すき）	b
30	鳳来寺山自然科学博物館	資料が豊富、手作りで環境にやさしい。					c	小学校との連絡を密にし、学校教育の中に資料館を定着させたい。	b	お金と資源の使いすぎ。	学校との連携。	歴史	7	1	男	32	a	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
31	なし	いろいろな所へ行ってはいるのですが、いざこう聞かれてみると思いつきません。	なし	いろいろな所へ行ってはいるのですが、いざこう聞かれてみると思いつきません。	なし	いろいろな所へ行ってはいるのですが、いざこう聞かれてみると思いつきません。	b	館蔵資料について精通し、それを展示、情報提供に活かす。館の対象とする人物、時代に関する情報を収集し、その公開、提供を行う。	a	各館が、設立主旨に基づく特性を活かし、特化することで、利用者を開拓し、またその満足度を高める。	教育普及活動については個別の利用者（個人）に対しては対話という形で行っているが、組織的、継続的、系統的な活動は、人、場所の点で欠けている点があり、行えないでいる。	歴史	21	1	男	46	a	a
32	名古屋港水族館	ペンギンのコーナーが良い。付近の他の施設とあわせて一日楽しめる。	竹中大工道具館	コンパクトであり、特に大工道具のレイアウトが良かった。	大英博物館	行ったことがないので。収集品に興味があるから。	b	東海地方は日本のほぼ真中に位置し、東西からの影響を縄文土器などに見ることができます。旧石器時代～現代（大げさですが）までの東西の要素と東海地方の独自性といったことを、特に縄文土器から見ていき、それを展示（企画展など）などで公開できればと思います。	a	一例としてこれまでも行ってきたことですが、そのままでは散逸してしまうう資料の収集、保管を適切に行うことも一つの意義あることだと思います。	体験学習等を通した幅広い年齢層へのはたらきかけ。	歴史	8	2	男	34	a	a
33	ない		石川県立歴史博物館	建物も良いし、展示も学芸員の意気込みを感じる。	V＆A	展示品がすごく多い。きれいな展示と収蔵展示とが一緒でおもしろい。	c	アマチュアからプロまで対応できるシステムを確立したい。例えばビデオプログラムについても5分→10分→30分というように内容を分けた物を用意する。	a	地域に密着した展示をこころがける。小中学生が地元に誇りをもてるような仕掛けを。	欠いているのは公開教室。（スペースがないため）		10	2	男	33	b	b
34	師勝町歴史民俗資料館	是非はともかくも、館の独自性は魅力。	千葉県立博物館	近年、各地で県レベルの博物館が設立されたりしているのでよくわかりませんが、私がこの博物館を訪れた頃は、展示等非常に勉強させられた。	全米日系博物館	日本語でことたりる。					博物館、美術館というより、行政に理解が欠けているのでは。	歴史		1	男	34	a	d（わからない）
35	トヨタ博物館	トヨタの往年の名車が数多く展示されているから。	奈良国立博物館	「正倉院展」を開催し、仏教美術品が集められているから。	スミソニアン博物館	膨大な未整理資料があると言われている収蔵庫を見てみたい。	c	民俗資料を見るだけなく実際にさわって使ってみる体験学習（資料は新たに作成しても可）。	b	博物館の乱立で、来館者の寡い合いと展示の質の低下・画一化が起こる。	テーマを持って調査・研究し、それを発表すること。	歴史	2	2	男	27	a	a

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
36	豊橋市自然史博物館	自分の勤めているところだから、愛してます。	富山市科学文化センター	大学時代に大変お世話になりました。スタッフの方々がすばらしいし、活動も地域博物館として、とてもしっかりされています。			c	小さい子ども連れの若いお母さん対象で、自然教室。ベビーシッティングのできるボランティアさん等と共に、外に出る機会の少ない、若いお母さんのプログラムを行う。	a	いかに立場、条件に合う活動を行うかが成功のカギ。	資料の保管、情報公開の重要性。地元の自然を、記録する。又は、資料を収集する。	自然史	5	6	女	26	d（すき）	a
37	名古屋港水族館	ペンギンを見るだけで幸せな気分にさせる。これ、ずるいよね。ジェティーなんか巨大なミュージアムショップみたいなもの。これもずるい。	塩尻市立平出遺跡考古博物館	史跡・泉・館・屋外展示のバランスが良い。平出の泉を含む自然環境はリラックスさせ「また行きたい」と思わせるものがある。	米国ホロコースト記念博物館	芸術・文化にひたると人間が崇高な存在であるかのような錯覚に陥りますが、愚かさに直面するとき、傲慢さが打ち砕かれ、人間の本質を知ることが出来るように思います。	c	日本縦断れきしウルトラクイズ：日本中の予選を勝ち抜いた小学生を集めてウルトラクイズ！各地で地域にちなんだ出題を（地域学習）二本テレビ（仮名）系列でＴＶ放映、お茶の間で大人も子供も真剣に（生涯学習）手に汗握るぜ！（学芸員の協力と各館の施設・資料提供必須。）	b	①社会に対する影響力の喪失（ひとりよがりの展示）。②多様性に対応するための理論の欠落（未来に博物館は博物館足りうるか？）。	突拍子もない遊び感覚に満ちた発想、それを実現する根性。ペスタロッチ的教育法：個別学習に向かうための手段に対し無頓着→押し着せの撰行。プロジェクトメソッド：教育活動の目的・手段・結果判断の方法が不明瞭。（技術・実践についてはオルバトリックから遊離すべき）	歴史	5	2	男	30	b	b
38	師勝町歴史民俗資料館	魅力ある展示を行っていて、それが館の特性となっており、大きな博物館とは違った味がある。	足立美術館	スケールが壮大。			c	自分の館でしか出来ないような、展示や講座。	b	日本の社会構造が変わらないため。	「何のために館があり、どんな活動をしていくべきか」ということを考えて、追い求めることを、設置主体も館を怠っていること。	歴史	5	2（但し、表面上）	男	28	d（自分にとっては愚問である）	d（自分にとっては愚問である）
39 *			国立博物館	建物が古い。大きい。行ったことがない。					a			歴史	3	20	男	40	b	
40	豊田市郷土資料館/見晴台考古資料館	地域に密着した、誰もが感心を持つと思う企画展を行っている。	豊田市郷土資料館/見晴台考古資料館	地域に密着した、誰もが感心を持つと思う企画展を行っている。	故宮博物館		b		a	地域に密着した展示や企画に力を注ぐ。	身近な所の調査研究が十分できてない。	歴史	2	2	男	27	d（自分の興味があるところはすき。）	a
41	師勝町歴史民俗資料館	資料を効果的に展示する工夫がすばらしい。	香りの博物館	個性的な展示品を扱っている。	該当なし。		a	資料台帳をデータベース化し、他館との情報公開によって、相互貸借をすすめる。	a	娯楽施設としても博物館がみなおされる。ただし、利用者のニーズにあった個性的な館だけが生き残る。でもテーマパーク化した館を良しとするか悪しとするかはわからない。	広報活動	歴史	4	1	女	26	a	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
42	愛知県美術館	展覧会テーマへのこだわり。客集めを主としない展覧会が開かれる点。	大阪市立東洋陶磁美術館	専門性が高く、陶磁器のみを展示する館のため、展示ケースの高さ、奥行きなどの配慮、館の姿勢が見て取れる点。	大英博物館	コレクションの充実、人類の歴史を見ることができる点。博物館の存在意味を示しているように感じられる点。	c	小・中学生を対象にした体験学習や展示説明会など。長期休みの期間中や第２・第４土曜などに少人数（10人以内）で、実際に展示物に触れたり、昔の暮らしを体験したりしながら、理解を深めてもらいたい。	b	小規模の館が数多くありすぎて、個性が出しにくくなっているため。予算カットの対象になりやすい。スタッフの数が少なく、中途半端な活動になってしまうため。	行政側の館に対するイメージが統一されていないため、展示などの企画が通りにくい。館の特性を活かした活動ができていない。台帳の整備ができていない点。	歴史	1	2	女	23	a	a
43	愛知県美術館	内部の設計。	愛媛県歴史文化博物館	殊に収蔵庫の大きさと配列、そして生涯教育（学習）施設の充実など。	ワシントンナショナルミュージアム	建物、殊に玄関、そして内部の設計。	c	本業はbです。犬山市文化史料館に勤務上、c。但しcのうち小・中学校を対象とした生涯教育・資料の示す精神的な世界を案内したい。	a	博物館・美術館施設から家庭教育、生涯学習教育を。	生涯学習教育とその施設及び機材（器材）。		30（但し当史料館勤務は10年）	0	男	62	a	b
44	産業技術記念館	ものがよく手入れされていて、知識と愛情が伝わってくる。	国立民族学博物館	広い。たくさんある。さわれる。きれい。ゆたか。			a	金にあかせて資料を買いまくってやる。	a			歴史	12	23人ぐらい	女	37	b	b
45	野外民族博物館リトルワールド	世界各国の生活文化について、体感して学ぶことができる。	美ケ原高原美術館/彫刻の森美術館	自然の中で、のびのびと作品が鑑賞できる。	ルーヴル美術館	とにかく行ってみたい。	c		a	”ない”と言ってしまうとあまりにも寂しいと思います。博物館や美術館の未来があるかないかは、もちろんそこで働く職員、特に学芸員にかかっていると思います。		美術	2	1	男	36	a	a
46							b					美術	20	20		47	a	b
47	徳川美術館	所蔵品によるテーマ設定（展示）と展示の見やすさ。	江戸東京博物館	館の展示目的に即した資料類のテーマ別構成による展示手法			a/c	所蔵資料をベースにした理解しやすい常設展示のあり方を探ること。（当館類似施設ではなかなか参考になる展示形態が少ないため）	a	見学者体験型の展示を企画展、特別展に組み入れて行くべき。	展示資料の時代背景・習慣の違い等を理解させながら展示資料を理解してもらう事。	歴史	17	1	男	43	b	b
48	日本モンキーセンター	収集方針	出光美術館	階下のながめ	V＆A	ミュージアムグッズと食堂の充実。			a	秘庫化、体験専門等の機能分化	互助						d：図書館の次	b
49	名古屋市博物館	原始から近代まで調和のとれた展示	長野県歴史館/大阪府近つ飛鳥博物館	実物とレプリカ及びレイアウトのよさ。	ボストン美術館/メトロポリタン美術館	ガラス越しではなく、身近に見学できる。	a	人間生活の基礎をなす民俗資料、社会経済の基盤たる生産材の発掘。	a	祖先の遺産にふれ、今の時点での次世代で残す選択をする。	みるだけでなく、ふれる、やってみる、作ってみるといった能動的機能。	歴史	9	9	男	55	b	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
50	設楽町立奥三河郷土館	博物館の原点	相模原市立博物館	総合博物館、見学するのにちょうどよい広さ、新しい。			a	博物館活動の基本、これがあるからこそ、調査研究、公開教育がある。	a	その時代のニーズに応える博物館。	専属の職員の配置がない（現在、文化財保護事務と兼務となっている）。	歴史	6	8	男	32	a	a
51	奥三河郷土館	民具の収蔵展示。			ボブ・マーリィミュージアム	弾丸の跡			b	博物館には過去しかない。現在も少しある。	未来へのビジョン。	歴史・美術	8	6	男	31	b	d
52	豊橋市美術館/名古屋市美術館/岡崎市美術博物館	建物と新しい故の可能性（豊橋）/収集方針（メキシコルネッサンス）（名古屋）/16世紀東西文化という一筋縄ではいかない収集方針を持っているところ（岡崎）	千葉市美術館	旧銀行を包んだ建物がユニーク。常設展が近世の屏風絵等に現代美術やオブジェを合わせるなど、魅力的な展示手法を使っている。	チューリッヒ市立美術館	海外にあまり行ってないので。この美術館は、質・量・施設・スタッフともにレベル高い。行ったときの企画展がまた良かった。	c	とりあえず、企画の立案、それにともないbの調査研究（aは今現在限界がある）。	a/b	a：現在の体質を捨て、より専門的に細分化・オタク化した活動ができればあるいは。b：やがては、インターネットの発達で、個人単位で美術歴史資料を眼前にする。仮想体験で満足できる世代に「ホンモノ」がどれほどの力を持つかが。	研究活動・普及活動に加え、いろいろ多くありますが、それはひとえに20年近い中古美術店（中堅ではない）であり、体質・思想ともに当時のものを引きずっているからだと思います。またあまりに行政的という点も支障有り。	歴史・美術	6	6	女	28	d：進行形で自問中	d：進行形で自問中
53	豊田市博物館	建築・立地	水戸芸術館	建築・ファザード	ルーヴル美術館	コレクション	b		a	現在の概念をくつがえすような有機的な活動を展開する美術館・博物館。	学芸の思想や個人活動がうまく反映されない点。	歴史・美術	19	3（専任）	男	45	a	b
54 *	豊橋市美術博物館	豊橋公園の中にあって環境が良く親しみが持てる。	静岡県立美術館		ルーブル美術館		a		a			歴史・美術	5	6	男	46	d：仕事以外で好き	
55	桃太郎神社宝物館	キッチュ。	明治大学刑事博物館	人間の恐ろしさ、根の深さがよくわかる。	ヨーヴィック・バイキング・センター	ディズニーランドのノリで、イギリス・ヨークの歴史を視覚（ジオラマ）聴覚（説明・効果音）嗅覚（におい）で体験できる。	c	太陽の下で明るい体験講座。	a	未来とは常に模索することから生まれるもので、「ある」ものでも「ない」ものでもない。あえていうならあ「ある」。社会の中の一つの事業。	人間不在/教育施設の一つという自覚。	歴史	10	8	男	32	b	b
56 *	愛知県立美術館	展示室の空調の完備。天井が高い。					c	公開講座の充実	a		調査研究と普及活動	歴史・美術	1	6	男	51	b	d
57	メナード美術館	一度見学に行ってみたい。	江戸東京博物館	スケールが大きい。	大英博物館	一日では見学しきれない広さと資料の豊富さ	b		a	a：地域の生涯学習活動の拠点として住民を巻き込んだ形での活動。b：財政的な面。		歴史	2	3	男	28	a	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
58	リトル・ワールド	子供連れで一日遊べる。食べ物もよい。	ひめゆり平和祈念資料館/宝塚市立手塚治虫記念館	亡くなった女子学生のその状況とアルフォト写真がショッキング（ひめゆり）/一日マンガを読んでいられる。（宝塚）							人事異動	歴史	32		男	46	b	b
59			兵庫県立博物館	**（常設？）展示の充実。美術館などの文化施設もよい。			b		a	単に観るだけでなく、参加できる館。	公立施設であるがために、冒険が足りない（一般受けする展示となる）職員不足により研究等が満足にできない。	歴史・美術	7	6	男	29	a	a
60	師勝町歴史民俗資料館	展示方法などの工夫。	茨城近代美術館	コレクション・建物・ロケーション。	MOMA	コレクション	b	芸術は難解なものというイメージを見直す機会を作るような活動の基となる研究、調査。	a	博物館がもっと身近な存在になる。	施設が老朽化し、手狭になっており、コレクションを意図するとおりに展示できない。職員数に対して企画や抱える業務が多くて調査研究や普及活動に手がまわらない。	美術	8	6（ただし専任は3人）	女	31	a	b
61	巡回展期間の名古屋市博物館	良いものが沢山出品されているから。	林原美術館	ゆったりした空間の中に文化財が陳列されている。陳列品が居心地良さそう。またその後の館内の喫茶室の雰囲気が良い。	行ったことが（見たことも）ないので語れません。		a	保管という意味で、保存修復技術を学び館で活かしてみたい。これを学ぶことによって、文化財の気持ちがより一層判るかも。		文化財が劣化し、モノの移動が不可能になり、モノのない館は未来がなさそう。しかし、３Ｄバーチャルリアリティー等の最新技術でモノが立体的に陳列されれば楽しいですね。	モノに対する心構え。障害者への配慮。笑顔。	歴史	6	5	男	28	d（館によりけり）	a
62	明治村	居ながらにして明治時代を楽しむことができる。	江戸東京博物館	日本橋の実物大**（模型？）などを使い、居ながらにして江戸時代にタイムスリップできる。テーマパーク型博物館の代表。	オルセー美術館	昔の駅舎を利用し、世界的名画が気楽に観ることができる。	b		a	次世代を担う子供たちを対象としたテーマパーク型の博物館・美術館作りをすすめ、従来の一方通行型のタイプから参考型の施設作りを進めていく。一つの例として韓国ロッテワールド民俗博物館。	調査・研究活動…少ない職員で施設の管理・運営から企画展示をこなしている中で、個々の調査・研究活動に専念する時間が全くといっていいほど無い。	歴史・美術	18	6	男	46	a	a
63＊	豊橋市美術博物館	郷土の人物を中心とした特色ある展示内容。	江戸東京博物館	館内の広さと展示の企画力。	故宮博物院	展示物の豊富なこと。	a	コンピューター管理。	a	館独自の特色とアピール。	ホームページ等による情報公開	歴史	2	2	男	46	b	d：学芸員ではない

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
64			猪熊弦一郎現代美術館	美術作品（現代のものだけですが）を体感できる。小さな子供も楽しめる。	オーストリア工芸美術館	収蔵展示の手法が取られている点。常設展示は解説が充実している。	c	わかってもらえなければ楽しんでもらえない。お堅い格調高い説明ではなく年少者にも親しまれるようにしたい。	a	上記の②にあるような年少者の博物館・美術館ファンを作れば「ある」と言えます。日本の博物館はお年寄り向きです。年少者たちが興味をもてる場所作りをしなくては明日に続かない。				4	女	36	a	a
65	産業技術記念館	動くこと。	国立民族学博物館	豊富なAV ソフト、企画展、出版活動等。			b		a	博物館間の定期的組織的な人的ネットワークによる自治体を越えた地域史の視点をもった活動が全国的に広まればより活性化していくと思う（歴史系博物館としては）。	地域文化の掘り起こしや紹介については展示会等で行っているが、総合的な視野に立ったものでなく、いきあたりばったりのようで、指針が必要ではないかと思います。	歴史	4	2	男	36	a	a
66	師勝町歴史民俗資料館	博物館からもっとも遠いと思われる世代を取り込む発想	キッズプラザ大阪	来館者は意識していないがあくまでテーマパークではなくて博物館だと思う。	セーラムピーボディ	小さいながらもしっかりとした研究活動がされている気が。	a/b/c	総ての分野が一体となった活動。一例として、情報電子化による共有の進展など。	a	テーマパーク化する新しい博物館はどこでその差を証明できるかにかかっているでしょう。	100年後のみずからの姿を描いた発想。	歴史	13	2	男	36	a	a
67	師勝町歴史民俗資料館	ハイレベルな手作りの良さ。	国立民族学博物館	豊富な資料。	故宮博物院	文明がそこにあるという感動	c	とにかく現在はインターネットをどう活用するかに興味があります。具体的なアイデアはありませんが。	a	インターネットの普及により、情報を手に入れることはどんどん容易になる。しかし、それゆえに実物に触れることの大切さが認識されるようになると思う。	公立館なのでお客様意識に欠けます。	その他	4	1	男	26	a	a
68	メナード美術館	エントランスが明るい。広すぎず、ちょうど良い作品数。	北海道三岸好太郎美術館	建物（外観）から作家のイメージが伝わって来る感じ。	ギュスターブ・モロー美術館	展示は確かにヨーロッパ独特だが、作品が見やすい。			a	これまでの様にただ見せる側という立場のみではダメ。今後は、人と人の心のつながり、心の置き場としてもっと落ち着いた活動が必要だと思う美術館（博物館）。	今は精一杯といった感じ。	美術	6	1	女	31	a	a
69	豊橋市自然史博物館	県下でもっともまともな自然史博物館。	琵琶湖博物館	思想、目的、ベースが明確	大英自然史博物館	ベースがしっかりしていること。	b	しっかりとしたベースの上に成り立ったオリジナルな活動。	b	今のスタイルの日本の博物館は中途半端なため。	何を何のために活動するかといった、理想的な思想。特に所属する現博物館に限らず！	自然史	14	6	男	35	b	b
70	愛知県美術館	時々面白い展示がある。	大和文華館	趣があり内容もしっかりしている。			b	現地調査をしながら各地を訪問する。たまには外に出たい！！	a	共同研究、相互協力。	資料収集が不足している。設置者が博物館活動を理解していない。		15	1	男	37	a	a

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
71	名古屋市博物館		東京国立博物館	常設展示でも一級の資料が展示されている。ミュージアムショップ、資料館も充実。	メトロポリタン美術館	全世界的な資料群を保有。もちろん年代も。	a	他館との資料の相互寄・受託。各館で分野を分担。	a	運営面、特に人的配置・仕事分担と強調できた館とできない館の差が両極に分かれたグループになる。	文化・教育的な仕事は未来の国・人間への投資という意識。活動は上をみればきりがないです。各分野にわたって欠けていますが、一人や二人でできる活動には限界がありますね。	歴史・美術	5	2	男	38	a	b
72	岡崎市美術博物館	展示企画展など妙に力が入って、マニアックな内容なものがある。どうしてこの内容を岡崎が企画するのだろうと思いつつ、それでも面白そうな企画についつい足が向く。	東京国立博物館	やはり地下のミュージアムショップでしょう。地方では手に入らない図録やゆかいなグッズがいっぱいあるので展示を観るほかに、十分楽しめる。万歩計を付けて歩くとなんだかとても運動したみたいで、更に得をした気分になるし。	故宮博物館（北京の方）	とにかく量が半端じゃない。ケースの中に超過密に並ぶ展示品。これらの展示品が、1.8M分のケースでおそらくうちの展示ケース内が全部埋まるだろう。量と質に圧倒されたが一体どれほどのものなのだろう。ふう。気が遠くなる。	c	ホームページを作成して、博物館の持つ情報を発信したい。バーチャルミュージアムをチャレンジしたい。ただゲームなどでやっているバーチャル体験は難しそうなので、そこは何とか努力して。まずは博物館資料に興味を持ってもらえるよう、情報をオープンにしたい。	a	図録やCD-ROMで、大まかな形は分かるが、本物は実際に見てみないとわからない。一般の人にも『本物』を見たいという嗜好があるから。だから、本物の持つ力は失われないから。	地元にもっと密着した展示を行ってもよいと思うが、なかなかたどりつけない。地元の人が、もっと来てみたくなる博物館づくり、が必要。いつ行っても同じものがある（展示されている）というイメージを打破したい。	歴史・美術	2	2	女	27	a	a
73			千葉県立房総のむら	江戸時代の農村風景をそのまま疑似体験できる。			c	小中学生を対象に、農業、民具製作などの実習活動を行う。	a	民俗部門に限定すれば、①現状では誰からも注目されていない民俗事象に光を当て、その伝承者により元気になってもらうこと。②消滅が予想される民俗事象をものの面から残して行くこと。③実物をもつ者の強みを発揮すること。	やりたいことはやるが、やりたくないことはやらないという、趣味的な姿勢で仕事を行い、給料を得る状況からの脱却。	歴史	5	21	男	34	a	a
74	特になし		東京国立博物館	収蔵品の質と量	ルーブル	収蔵品の質と量。博物館は見せ方よりも見せるものの価値が本質だと思った。	c	インターネットで東博のような情報提供とかテーマを決めたリタルタイムチャットはおもしろいかも（当方では現実味がないのでアイデア盗んで下さい）	a	地味で良いから、地域住民の学習の場。	思想や活動どころでなく、施設・体制が全くない。	歴史		0：館には管理人しかいないので、市教委が展示活動を出前で行っている	男	44	a	d（仕事に好き嫌いは無いはず）
75	明治村	広々とした所	広島県立歴史博物館	「草戸千軒実物大復原」。またこの部分のみであるが、写真撮影可であるところ。			a	特にイメージはない。	a	特にイメージはない。	ない				男	34	d：好きでもきらいでもない	d：好きでもきらいでもない

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
76	愛知県陶磁資料館	敷地が広く駐車場も広い。建物がきれい。	江戸東京博物館	建物の構造がユニーク。	大英博物館		b		b	情報網の整備（インターネット）等により、家にいながらにして、展示物を観賞できるから。博物館は展示物の倉庫となる。また、それにより、展示物の保存が行われるから。					男	24	b	a
77	メナード美術館	小規模ではあるが、まとまったコレクションを落ち着いた雰囲気で観賞できる。	札幌芸術の森美術館	緑豊かな環境と、フィールドアスレティックを楽しむようにした。ボランティア解説をうけながら巡れる野外展示。			a	新設館、リニューアル館ではすでに当然のように実施されているデジタル化、今のところ手つかずの状況であるので、まず収蔵品のデーターのデジタル化を。	a	多分。具体的なイメージはないが、人寄せ的な展覧会の開催でなく、地域に密着したリピーターを増やせる活動などに見いだせるのではないか。		美術	0.8	2	男	40	a	b
78	豊田市美術館	アプローチから正面入口を見たとき、空が広い。美しい風景です。	笠岡市立竹喬美術館	学芸員の方の着実な仕事ぶりが素晴らしい。個人を顕彰する美術館として憧れの存在です。	国立自然史博物館（パリ）	リニューアルして動物模型（標本？）が原寸大で行進しているように並べてあるのをぜひ見てみたい。	b	チャレンジと言うより、当然やるべき事なんですけど、カタログ・レゾネを作りたいです。しかし、著作権者が「作る」って言ってましたから、10年以上雌伏しています。一生だめかもしれん。	a	溜まり場（人もモノも無条件でぼーっとできる唯一の場所。モノの方は何らかの価値があると判断されて収蔵されている訳ですが、興味のない人にとっては無用のもの。人もまた同じ。と思えばそこにあるだけで許されるといいな。	欠けていることだらけですが、自分も責任があるので指弾しにくい。一つだけ挙げるなら、長期的展望がないことでしょうか。しかしかえって好きなようにできるし。	美術	14	2	女	37	a	b
79	豊橋市美術博物館/安城市歴史博物館	展示企画の豊富さ。立地環境の良さ。（豊橋）/地域密着型の展示企画。またそれと同時に全国区の展示企画を行うこと。（安城）	板橋区立郷土資料館/横浜市歴史博物館	少ない学芸スタッフにもかかわらずいろいろな活動を展開。（板橋）/できてまもない館。これからの事業に期待。歴史（史跡）公園整備された中に存在。（横浜）	故宮博物館／陝西歴史博物館	資料の豊富さ。単なる趣味！？	c	学校・他館との連携。自館だけではなく他館とも協力しての情報ネットワーク作り・展覧会事業の共同開催・学校現場への出張講義、実資料の積極的な貸出利用など。	a	ある。あると信じたい…地域社会に密着した博物館。だれでもが気軽に訪れることができる博物館。	資料の整理保管に関する専門的知識及び資料に関する調査研究。博物館活動に関する理事者および上司の理解。学芸スタッフに関する理事者および上司の理解。	歴史	6	1	男	29	a	a
80 *	豊橋市自然史博物館				大英博物館		b		a			歴史	0	0				
81			きのこものしり館/琵琶湖博物館/地球博物館	背後にフィールドを擁し、豊富な資料を展示する。			a		a	地球博物館が専門官とアマチュア・住民の仲立ちとなり、郷土の研究を進める地域住民に開放され、愛され活用される博物館。	人。誰のため、何のための博物館なのか。	自然史	9	1	男	39	b	b

アンケート集計結果13

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
82 *	該当なし		北海道開拓記念館	調査・研究（出版物も多く、学芸員が大学の講師もできる）展示など内容が充実。自然、歴史、民俗など総合的に見ることができる。	Kunst Historisches Museum, Vienna	各展示室にソファーがあり、そこでガイド（６カ国語ある）をみながらゆっくりと見ることができる。また、展示室内にカフェもあり、くつろぐことができる。全室VTR、写真OK（ただし、ストロボ不可）	b	数年先の展示を目標に十分な研究を行う。	a/b	a:欧米の館に追いつき追い越すことができれば。ハードではなく、人とソフトに予算を。 b:役所の事務的仕事とはちがうことを上層部が全く理解していない。	事務に追われ、学芸活動は基本的にとまっている。役所の思想では十分な活動はできない。企業博物館のような戦略も必要。	歴史	6	8（事務・行政業務）	男	37	a	a
83	南知多町郷土資料館	シンプルなあり様の中に未完の分厚さがある。	靖国神社遊就館	戦後ブームの中の戦争・平和博物館はこの博物館をきちんと評価していかなければいけないと思う。	スタッテン・アイランド・チルドレンズ・ミュージアム/黒龍江省博物館	手作りで豊富なアイデアが実現されている（スタッテン）／恐竜が目玉だが衛生展示もやっていたのが印象的。ロシア→満洲国→中華民国→中人民共和国と国籍を変えながら現存する博物館。こうでなければいけないと思える。	a/b/c	ひとつのテーマでa.b.c.が一環できる活動	b	思想そのものが欠けている。	思想そのものが欠けている。	歴史	17	20以上	男	41	d：aだからc	d：aだからc
84							b	統一テーマによる共同研究	b			歴史	0	1	男	29		
85	あるはずなんですが、今イメージがうかびません。						c	はじめての人に分かりやすい展示。	a	具体的なイメージはうかびません。		歴史	4.5	2	男	41	a	a
86	古川美術館		西洋美術館/彫刻の森美術館		トプカプ宮殿内の博物館/メディチ家礼拝堂内		b		a	実際にその場所に行かなくても資料が見ることができ体験ができる。	講演や講座などの教育普及面。	歴史	5	2	女	27	a	a
87	ありません		ありません		知りません		a/b/c	a、b、cを融合した、働く者、来る者、見る者、探す者のための活動	a	博物館なり美術館は箱物として存在する。	当館は歴民館でありますが、欠けているのは、お金であります。	歴史	12	1	男	38	a	a
88	安城市歴史博物館	博物館としての基本機能	中谷守吉郎記念館	雪の神秘さ、美しさ。						ふつうの博物館。	郷土への回帰。	歴史、美術	2	6	男	34	a	b

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
89	師勝町立歴史民俗博物館/蒲郡市水族館	学芸員のアイデアがストレートに生かされていると思われる。（師勝）/今は超大型水族館が主流ですが、大きすぎて疲れます。魚をゆっくり見るには昔の小窓式の水族館の方が安心してゆっくり見ることができ、個々の特徴を至近距離で見ることができます。（蒲郡）	ミュージアム・パーク茨城県自然博物館/羽村町立動物園	地元の学校との提携がよくとれていて、館長の指導のもと学芸員がフルに活動し地域の自然を活用しながら保護している。（茨城）/とても小さな動物園で立派な施設もありませんが、動物が身近にみられ手作りの暖かさが感じられる動物園です。			c	サル関係の公開講座やボランティア導入ができるといいと思うのですが、その下地がととのっていないので地ならしからやらないといけないので、現在そのエネルギーが出てこない。せめて来館者とのコンタクトを大切にしたい。	b	私立で個性ある展示を打ち出してゆける所はいいが、公立館で義務的に行われているようなところは面白味に欠ける。お金だけかかっていて、いつまでこの展示を続けるのだろうかと思わせる。	「博物館」であることをわすれかけている。教育活動ではなくイベントとして扱われることに異議を唱えるのだが、なかなか理解してもらえない。	動物	31	3	女	50	a	a：学芸員というよりは動物園人なのかもしれません。
90	二川宿本陣資料館	テーマがはっきりしている。	東京畠山記念館	門を入ってから建物の入口まで、庭の雰囲気がよい。	行ったことがない		a	全国博物館の館蔵品目録の様式統一	a	本物を見ることができるから、最新テクノロジーに頼ると他のテーマパークなどと違いはなくなる。	公立館の宿命であるが、他の博物館以外の機関、例えば大学、県市町村史編さん室との交流に上の方の理解がない。		21	22	男	45	b	b
91	師勝町歴史民俗資料館	まだ行ったことはありませんが、いつもポスターや展示会のテーマが個性的なので。	江戸東京博物館	ミュージアムショップがすごく魅力的で、展示室も見ごたえがあります。	大英博物館	まだ行ったことはありませんが死ぬまでに１度は行きたいところです。ロゼッタストーンへの憧れ。	a	館内資料のデータベース化。全国共通データベースができれば資料のリストアップが容易なのですが・・・。	a	複数館による巡回展等が増え、他県の学芸員との交流が活発化する。	体験型の展示、外国人見学者への対応。	歴史	4	2	女	26	a	b
92	名古屋市博物館	企画展が興味深いモノが多い。常設展の内容も豊富。	天理参考館	国際的で豊富な収蔵品。			c		a	楽しく教養を身につけることができる場。	まだ郷土資料が置いてある”箱”の段階だと思う。場所や施設規模の問題もあるとは思うが、市民の認知度も低いような気がする。	歴史	0	8	男	23	a	b
93	名古屋港水族館	生物自体に魅力がある。海ガメの産卵など、研究にも期待できる。	千葉市加曽利貝塚博物館	史跡を利用した野外博物館。土器作りの体験学習も徹底している。			c	「博物館だより」を刊行し、利用者とやりとりするきっかけをつくりたい。／講座を充実させたい。	a		博物館活動の根幹たる調査研究がおろそかになっている。／行政に埋没して、主体的・創造的な発想が生みだしにくい状況にある。	歴史	2	2	男	26	a	a

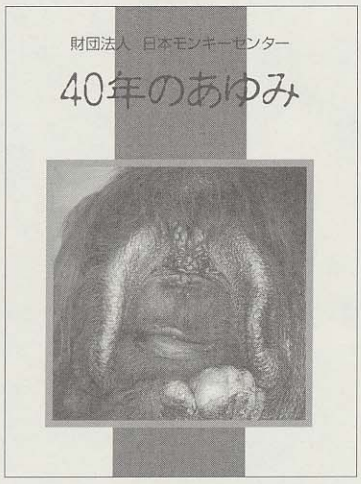
NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
94	リトル・ワールド	館さんから保育園児まで、老若男女、それぞれが楽しめる施設、売店、プログラム（昨秋、家族［60歳代～4歳］で行った）。	国立民族学博物館/各地の企業博物館（これは県内も含みます）	見たい〈道具〉は総てあるのではないかと思わせる圧倒的な量の展示物。今、これにエンタテイメントな面を盛り込もうとしているそうです。驚異！（民博）。	メキシコ国立人類博物館	見せるための技術の高さ（とくに色彩計画、パネル類の書体選択、壁面の処理、大型造作物の使い方など）。	とりあえずc：「教育」はないほうがいいと思いますが。	今、博物館で公開されているのは、収集保管されているモノや、調査研究された成果や結果だと思う。〈○○展〉は知られていても、〈博物館〉自体はあまり知られていないのではないか？博物館活動自体を公開するような企画にチャレンジしたい。	a/b			歴史	19	22	男	42	d：これも設問の意味がよくわからない。好きな博物館・美術館は好きだし、嫌いな博物館・美術館はきらい。博物館・美術館と書店とどちらが好きかといわれたら書店かもしれない。	b：まあ、20年近く続けてこれたのだから、少なくとも、きらいじゃないと思う。
95	ない		昔の海の博物館	手づくりで、海と人を愛する学芸員の心が伝わってきた。夢や思いは必ず人を感動させる。	ビショップミュージアム・セイシャルエコミュージアム	数少ない経験の中でしかないが、ビショップはボランティアが充実していて、子供が大切にされていることに感動した。自分の市を誇りに思い、そのすばらしさを皆に伝えようとする情熱を持った素敵な学芸員にセイシャルで出会い、未来がとても明るく見えた。	×	あなたにとって博物館って何ですか？仕事以外で博物館を見に行かない学芸員であるあなたに問いたい。こんなことを言ってみたい。	a/b	aである博物館を知っている。ただ、bである博物館を目の当たりにしている。現実はすべてにおいてむなしいもの。世の中を動かすのは横暴で間違った権力で、権力に洗脳された博物館には絶対に未来はない。	博物館を「博物館」として愛する心。そして、博物館として市民、しいては「人」に愛される博物館でありたいと思う心。博物館にとって大事なのはモノだけじゃないんです。それを活かす「人」なのです。	美術を含み自然を含まないらしい歴史	10	4	女	32	a	d：博物館が大好きだからだからc
96	徳川美術館	しばらく行ってませんが、そろそろ行こうかなという気にさせる充実した収蔵品がうらやましい。	千葉市美術館	すごい図録をつくりますね。	ウフィッツィ	連日通いたいくらい、作品に魅力がある。	特になし。		b		館としての基本方針が定まらない。（収集・寄託等）	美術	2	5	女	32	a	c
97		最近、他館の情報を集める余裕もありません。申し訳ないですが、答えられません。不勉強でごめんなさい。					c	aとbの上にcも成り立っているとは思うが…。人間どおし、触れあいの中で共に学びたいと思う。	b	当館の場合でいえば、自先の業務に追われ、理想とされる博物館像に程遠いから。	地域住民の環元、実体のつかめない愛称にふりまわされている。計画性のない業務内容等、最悪な状況ではないだろうか。	歴史	7	5	女	31	c	c
98	？思い浮かびません。		原美術館（特にミュージアムパークのほう。）	建築と企画。	デンマーク？ルイジアナ美術館	建築、サービス、コレクション。	c？	とにかくこの分野がいちばん重要なような（不十分な）気がします。	a/b	館によって、取り扱う分野によって異なるのでは？	今後の展望、計画。	歴史、美術	2	6	女	29	d（どちらともいえない。）	d（どちらともいえない。）

方が多いかと思います。糸魚川先生あたりは，もう廣瀬鎮さんとは昔から，若いころから多分お付き合いがありご存じかとは思いますけれども，廣瀬さんをご存じの方はごく一部の方じゃないかなと思うんですが，まぁなんせ廣瀬さんのバイタリティというのは計り知れないものがありまして，どこからあんなエネルギーが出てくるかといつも思わされるんですけれども，なかなかすごい方でした。廣瀬さんの，もちろんお仕事を話せばいいんですけれども，今さらお仕事を話してもしょうがないので，今はあの世に逝かれて３年ほどになりますので，少しは鎮さんの悪口言っても多分怒られないと思いますので，鎮さんの悪口というか，非常にユニークな面を少しご紹介しておこうかなと思います。

廣瀬さんというのは，非常にどなたからも親しまれる方で，名前は，外部の方は廣瀬さんといって改まっておっしゃるんですが，もう内部とか周辺の人たちはチンさんチンさんって言うんですね。どうしてチンさんって言うかって言うと，ひろせしずむのしずむっていう字が鎮守の杜の鎮って書くんです。鎮さん鎮さんということで，私も入ったときからまわりの人が鎮さんって呼んでるもんですから，鎮さんなんてそんな偉い人だとは思わず，鎮さん鎮さんと…冗談なんですけれども。みんなそんな呼び方をしてまして，非常にそういうことからも，とても親しみのある方でした。

今，この愛博協が発足して37年か38年になるんですが，そもそもこの愛博協をつくられたのも廣瀬さんたちでした。廣瀬さんと当時，今まだ現役で活動してらっしゃいますけれども，豊橋の向山の天文台におられて，今御園の科学館にいらっしゃる金子功さんあたり，お２人が中心になられて昭和37年ですか愛博協が発足しております。当時は，愛博協の加盟館もたった11館だったんですね。今でこそ，もう10倍近くの博物館を越すようになったんですけれども，当時としては本当に小さな，協会というところまでおそらくいってなかったんじゃないかと思うんですけれども，博物館が集まってできたのが愛博協の始まりだったんですね。

廣瀬さんは，昭和61年の３月に，モンキーセンターを22年間勤められて退職されたんですけれども，その間愛博協の準備だとか実行委員会を非常に精力的につとめて，愛博協をここまで育てあげられた，愛博協の生みの親だと言っても申し分ないかと思います。廣瀬さんの面白いエピソードを少しここでご紹介しておこうかと思うんですが，なんせ廣瀬さんっていうのはそういう非常にみなさんから親しまれる方なもんですから，当時若手の学芸員さんとか，これから博物館に入りたいという人がよく相談にいらしたんですね。どんな方でも拒むことなく，すごく忙しい方なんですが，わずかな時間を割いてお話を聞いていただけるんですけれども，例えばいろんな悩み事があって相談にみえた学芸員さんなんかと話していると，鎮さんはすごく話を聞くのが上手なんですね。話をウン，ウン，ウン，ウンと聞いて何か仕事をさせられるはめになったという，逆に何か相談に来たのに，仕事を受けて帰ってしまったとか，そういうことが多々あったようです。私もその１人じゃないかと思うんですけれども，ちょっとほんの手伝いのつもりでやり始めた仕事が，何かそちらを主になってやらなきゃいけない仕事になってしまったものがあります。それこそ先程犬塚さんが言っておられた学芸員の勉強会というのをやっていたんですけれども，それ以前にモンキーセンターが主になって県内とかその周辺の博物館の現場におられる方といろんな話をしようということで，博物館学セミナーっていうのをやってたことがあります。それの担当をさせられたりとか，それから動物園教育研究会というのも廣瀬さんがつくられたんですが，動物園もただ動物を飼育展示してるっていうだけじゃなくって，やはり動物園の中でどういう研究や教育活動をやって



記念誌「40年のあゆみ」


開園当時の動物園

NO.	①好きな博物館						②チャレンジしたい活動		③博物館・美術館の未来		④現在の問題	⑤あなたのプロフィール					♥博物館・美術館への思い	
	a.県内		b.国内		c.国外		a / b /c	Image etc.	a / b	because		所属館園種	館員歴	学芸員スタッフ人数	性別	年齢	場が好きか	仕事が好きか
	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント	博物館	チャームポイント												
99	ヨコタ博物館	作手の自然。一般客で入ったが、館長の説明がていねい。おまけに自分で採ったという山菜で、夕食を作り、ごちそうにまでなった。館長の温かい心くばりが素晴らしい。	富山県立近代美術館	何もない町に、近代美術の文化が根付いているとこらがスゴイ。	ベルギー王立美術館	コレクションのグレードが高く、中世から現代までの幅広さが見るものを飽きさせない。	c	アーティスト、レジデンスなどの活動によって、世界のアーティストを人レベルで文化交流させ、新たなる芸術を創造する一助とする。	a	確かにメディアが発達し、データとしての資料は簡単に手に入るかもしれない。しかし、それらでは、決して満たされないのが「心」であろう。「人間らしくなれるミュージアム」これがキーワードとなるのではないか。	館の心臓とも言うべき常設展のスペースがないこと。	美術	2	5	男	34	a	d 内容による
100	岐阜県美術館	展示コンセプトの意外性と建物・アウトスペースの快適さ。	1.青森・森林博物館 2.岩手・橋本美術館 3.三重・斎宮博物館	1.見学したのはずいぶん昔ですが、旧営林署の建物、自然、歴史、産業の融合した内容が印象的でした。（当時） 2.私立で、地方でこれだけできれば… 3.イベントがよい。			c	具体的なイメージはありません。ワークシートを作りたいだけです。（こども用+大人用+老年向け）	a	今までと違い、共通の未来像を作れない/作らないことにこそ未来があるのでは？（逆説的な「ある」ですが）	資金をgetする活動。	その他	10	4	女	33	a	a
101	おかざき世界子供美術博物館	体験型の美術館として活動内容が好き。	大阪人権博物館/海の博物館	抽象的で難しいテマをそれなりにうまく展示していると思う。/収蔵展示がすごい！展示の仕方が良い！	フランスのラ・ビレット/フランスの自然史博物館	旧屠殺場を科学技術博物館とした公園、スケールの大きさはもちろんであるが設計のアイディアが、そして活動内容が充実している。/吹き抜けのスペースに展示された動物園のような自然史博物館、施設内にある植物園も良い。	a	見ていない。	a		資料を保存するスペース。	歴史	9	4	女	31	a	a
102	師勝町歴史民俗資料館	小さいながらも工夫が感じられる。	1.国立歴史民族学博物館 2.川崎市市民ミュージアム 3.石川県立歴史博物館 4.琵琶湖博物館	1.何回行ってもあきない。 2.企画がよい。市も力を入れている。 3.トータル的によい。 4.自分の館にはない新鮮さが魅力。			b		a		予算と展示保管スペース。（つまり建築物の充実）	歴史、その他	7	4	女	31	a	b
103	名古屋城天守閣	施設全体が展示物のところ、近代的な建物よりも雰囲気が良い。	江戸東京博物館	博物館というよりはテーマパーク的な感覚で成功している博物館だから。	ルーブル美術館	ニケ像が好きなので。１日で見学しきれない点。	b	茶道の各流の比較をして、系譜とは別の流れや、時代背景などを考えてみたい。	a	“ある”と云うか“あって欲しい”と思う。バーチャルミュージアムが悪いとは思っていないけれど、『物』に対する概念の変質の歯止めが、どこかに無いといけないと思います。博物館は、そのためにも必要ではと思います。	美術館であるという根本的な考えが無い。	美術	1	1	女	24	a	a

＊は学芸員でない職員。

No.19裏面

芸術新潮１９９７・12の特集「創立120周年記念展，やっぱり東京大学のコレクションは凄いぞ！ここ掘れ，東京大学」の中の対談，「帰りなんいざ！若く美しき明治の「学問」へ」を読まれたでしょうか。東大の西野嘉章氏と荒俣宏氏の対談はいろんな面で示唆に富んでいます。

＊＊＊＊＊

西野「今回の展覧会で僕が言いたかったのは，カオティックな学問のあり方。白然財と文化財が入り乱れるような学問の原型的な環境のなかに若い人たちをまねき入れ，もう一度今の分類大系に囚われない学問のあり方がないかを探ってもらう。そういうインヴィテーションなんです。」

荒俣「いいこと言いますね。それこそ博物館の仕事ですよ。博物館の見せ方のいちばん基本的な役割だと思う。」

＊＊＊＊＊

今の博物館が，館そのものも分類され，展示も既成分類の中に，整然と組み立てられすぎているのではないかしらんと思われませんでしょうか。教育機関としての性格が，博物館本来の教育でなく，学校教育のストーリーを宝物でトレースするだけになりすぎているのではないかなと思います。そんな点で，新しいきれいな博物館にはチャームポイントが感じられないのかもしれない。ただ，「あのワニにも感動したね。わかる人にしかわからんだろうけど。」荒俣，とか，「生物標本にも感動したね。カンタリジンとかアニスとか，わかる人が見ればけっこう危険な生薬が入っている。」荒俣，というように，博物館は，ディレッタンテイズムやアカデミズムのための機関になってしまう危険を常に内包しているようです。

では，市民の博物館がディレッタンティズムを排し，生活という基盤から必要とする歴史や民俗，美術，工芸，自然のもう一つの学を想像することが可能なのでしょうか。学芸員も，そういうトレーニングを受けてはいないような気がします。

No.24裏面

(美術館・動植物園・テーマパーク・科学館は対象から除外)

博物館はその性格からどうしても「大人の趣味」を追求する場となっています。そのため博物館の来館者は「その趣味の人」と「家族連れ，カップル系」といった浮動層に分かれることになる。この２種類の人種が，博物館に求めるものは榎本的に違います。

私設の博物館であれば「その趣味の人」のみのニーズに的を絞るのがある意味では博物館の基本理念にマッチしているとも言えます。まただまっていても博物館を探しだし，そこを訪れます。

しかし，公共の博物館のように「社会教育の一環」として設置され「家族連れ，カップル系」をターゲットにせざるを得ない場合，本質的に「その趣味の人」を基準に設置させられている博物館は「学習を強いられる場」に早変わりするのは間違いありません。

大型都市の企画力，財力のある博物館であれば，魅力ある特別展・企画展で人をよびこむことができますが，市のための博物館・郷土資料館等は，どこの都市に行っても内容は入る前から予想がつき，テーマパークや動植物園のように子どもの興味を引くものでないとすれば(残念ながら，子どもの好奇心や驚きはいわゆる“ビックリ系，体験系”でなければ動かすことはできないのは，多くの実験教室等の経験から確実)ターゲットにしている「家族系」の支持指示を得られないのは確かです。

③に対して

入館する前から内容が想像される博物館のネーミングセンスをあらためる。「家族連れ，カップル系」をターゲットにするなら，テーマパーク顔負けの体系的コンセプトの用意と五感をフルに活用できる展示品を設置し，異空間を提供する(ex.プラネタリウムやリトルワールドのように)→ロマンのない博物館は必ず自然淘汰されることになる。

一般に展示物と解説の数が多すぎる。展示コーナーにゆっくり展示品を見られる工夫が，特に博物館・科学館系にはなさすぎる(ex.椅子一つとってもくつろげるものではない。駆け足観覧ではなにも記憶に残らない)。

博物館は一般公開し，展示物があるから「博物館」なのであって，調査や収集だけでは，研究機関や大学と何らかわらない。その附属の「資料館」の方がよっぽど魅力的である。博物館の基本展示概念は「家族・カップル系」であって「その趣味の人系」にはより詳しい情報を提供する空間を別に持つべき。リファレンスコーナーの強化，マルチメディアの利用。博物館事務所の開放等。

No.45裏面

②に対して

C　公開教育部門

博物館活動においてもっとも大きなウェイトを占めるのは，教育普及活動だと思います。資料を収集し，それを調査研究し，分類し，収蔵するこはもちろん重要な博物館活動ですが，収蔵した資料を如何に見る人のニーズに合わせて展示していくかということが，いちばん重要なことだと思います。貴重な資料をどれだけ収集しても，展示の方法や資料説明の方法などがしっかりしていないと，結局，観覧者に対して，何も得るものがないところだという気持ちにさせてしまうだけだと思います。

特に，子供たちに対する教育普及活動は，今後博物館や美術館にとって重要な活動になっていくと思います。

そこで，具体的なイメージといってもなかなか頭の中に浮かんできませんが，今考えていることは，学芸員が各小学校，中学校などへ出張していく，“移動博物館”といったことです。これは，むこうから来ないなら，こちらから出向いて行って，少しでも博物館や美術館に親しんでもらおうとするものです。

おそらく，すでに行っているところもあるのではないかと思いますが，「自分たちの身近にある博物館や美術館では，こんなことをやっているのだよ」ということをわかってもらうためには，ポスターやチラシの配布といったことだけではなく，学芸員自らが学校などへ出向き，先生となって教育普及活動をすることが重要なことだと思います。

学校の授業の中に，一ヶ月に一回でいいので，社会活動といった時間を設けていただき，“移動美術館”が開催できればと考えています。

④に対して

当館は，子どもたちのための美術博物館としてさまざまな活動を行っていますが，子どもたちに対する教育普及活動が欠けていると思います。子ども対象の施設でありながら，子どもたちに対する教育普及活動がなされていないというと，いったい何をやっているんだと怒られるかもしれませんが，学芸員がひとりしかおらず，資料の収集から分類，収蔵，展示，さらには教育普及までひとりで対応しなければならず，子供たちに対する教育普及活動を何か行いたいとは思っているのですが，なかなかそこまで手がまわらないというのが現状です。

この学芸員不足の現状を少しでもプラスの方向へ持っていくために，今ではどこの博物館や美術館でも行っていると思いますが，ボランティア活動を是非取り入れたいと考えています。当館ではボランティア活動を取り入れておらず，現在のところ，その予定もありませんが，地元に密着した美術館を目指すには，やはりそこに住んでいる方に参加してもらうことが重要なことだと思います。そこに住んでいる方と一緒に美術館を運営していく姿勢があってこそ，美術館に未来があると言えるのではないかと思います。また，表現が悪いかもしれませんが，学芸員の不足を補うためにもボランティア活動を取り入れていければと思っています。(学芸員とボランティアの方が一緒になって，子供たちのための美術館作りができればいいなあと思います。)

＊思うがままを文章にしたため，支離滅裂になってしまいました。申し訳ありません。

No.68裏面

③に対して

これまでの様に，ただ見せる側という立場のみではダメ。今後は，人と人の心のつながり，心の置き場所としてもっと落ち着いた活動が必要だと思う。美術館(博物館)は，資料展示や保存のために有ることはもちろんだが，社会の抱える問題と関係の無い場所ではない。近頃の(たとえば)子供たちの関わる心の問題，又，大人達の無倫理な心，に呼びかける役割も，学芸員の考え方次第によっては，行ってゆけるのではないだろうか。

これからは，目新しいものを紹介して行くだけではダメだと思う。もっともっと博物館は社会の一部になってゆくべきではないか。ナマイキでスイマセン。

No.89裏面

博物館の一員として動物園・水族館を書かせてください。

①―a　蒲郡市水族館

今は超大型水族館が主流ですが，大きすぎて疲れます。魚をゆっくり見るには昔の小窓式(魚のぞき型)の水族館の方が安心してゆっくり見ることができ，個々の特徴を至近距離で見ることができます。

①―b　羽村町立動物園(東京都西多摩郡)

とても小さな動物園で立派な設備もありませんが，動物が身近に見られ，手作りの暖かさが感じられる動物園です。

No.94裏面

①ａｂ共通：各地の企業博物館

今が旬という感じ。どこへ行ってもそれなりに楽しい。広告・展示会等で企業が蓄積している伝える技術，見せる技術の奥深さを感じる。

②回答続き：また，〈○○展〉を企画するにしても，３が密接にからみあった地道な展示をやってみたい。

③に対して

博物館が〈もの〉の収集保管を前提とする機関とするならば，すでに実物資料を豊富に収蔵しているところ，資金を潤沢に準備できるところには，a.未来はある(実物資料がすでにあれば，あるいは入手できれば，そこから新しい情報を引き出すことができる。よって時が経っても存在理由があるだろう，というほどの意味です)。そうでないところは未来がないとは思わないけれど，かなり苦しいのでは。

もちろん，前者が〈もの〉があることにあぐらをかいていては未来はなくなるだろうし，後者にその苦しさを乗り越える力(いま，無価値とされている〈もの〉から新たな価値を見出すような力)があれば新しい地平が開けると思う(実例がありますよね)。

館の目的を再確認して，活動の整理をし直す時期が近づいている，それとも，もう来ているのではないか。見誤ると，b.未来はない。

〈もの〉の収集保管が必ずしも，博物館活動の前提にならなくなる可能性すらあるように思う。ただ，そうなったなら，その機関は博物館法でいうところの博物館ではなくなるのだが。

④アンケートの設問には「欠けている思想や～」とあるけれど，思想自体がないと疑っているときには，どのように記入すればよいのか…冗談です。実は設問の意味がよく分からない。「～『あなたがあった方が良いと思っているけれども，』今，欠けている～」という意味かな。そうだとしても「思想」の意味するところがいまひとつ分からないし，できる範囲の「活動」はしているハズだし(新たな活動をするほどの余剰人員はどこにもいないハズ。取捨選択した結果ではないかな)…。

回答者から担当者へ

とてもハードなアンケートでした。

③の設問がもつ広がりなどは無阻に近いものでしょうし，おまけの２番目もかなり重い内容を含んでいるものと思います。

正直な気持ちを言えば，「こんなこと，アンケートで聞くことか？」です。おまけの２などは対面調査でもすれば，なかなかよい社会学的，文化人類学的調査となるのではないでしょうか。

②(おそらく④も)は，いま，していない(できない)ことについての設問だと思いますが，日々の作業に追われているなかで，これに答えることもしんどいことでした。

お願いをひとつ。このアンケートをどのような形で集計，分析される予定かは知りませんが，あまり抽象化せずに，なるべくナマに近い形での公表をお願いします(大部になったとしても)。「何をつかむかは，私たち次第…」(チラシから)の余地を残しておいてください。

平成10年度東海地区博物館連絡協議会・講演

博物館活動における市民参加

大阪市立自然史博物館館長　那須孝悌

1998. 7. 7

会場●ルブラ王山　会議室

博物館における市民参加

大阪市立自然史博物館 館長　那須　孝悌

1998.7.7

ただいまご紹介いただきました，大阪市立自然史博物館館長の那須でございます。

今日は市民参加ということで，私どもが特に力を入れて取り組んできた友の会活動について紹介したいと思います。

私の職場は人数はそこそこいるんですけれども，土曜日・日曜日っていうのは，学芸員・事務員といえども働く者なんだからみんな休む権利はあるが，みんなが休みの土・日こそみんなのために働くのが博物館だというんで，両方やろうという欲張った戦術を組んできました。結局，いまのような季節のいいときですと，野外行事を非常にたくさんやるわけですね。後でもお話しますけれども，今，自然に触れたいという思いの方たちが非常に多いもんですから，１回の行事でたいてい定員100人くらいで募集します。１年の最初，と言っても前年度の終わりぐらいに初心者向け普及行事の案内を発行して，誰でも参加できますからどうぞ，と呼びかけるわけです。だけど，だいたい１人の学芸員が１回に相手ができる市民の数はだいたい30人くらいが限度です。行事の種類によったら20人くらいが限度，また種類によったら50人くらいまではいけるということなんですけれども，複数の学芸員とさらに保安要員とかの人たちをも配置して100人規模が，まぁ１回でやれるせいぜいというものなんですけども，現状では申し込みが1,000人くらいになります。

そうすると抽選したらほとんどの人がダメということになるんで，これはせっかく期待して申し込んだ人たちには申し訳ないからということで，100人定員といっても実際は当選者数を倍にし，しかも班を複数班にして，さらにこれでカバーできないとなると，１回やる予定を，日にちを変えて２回やるというふうにして，何とか少しでも大勢の人に参加してもらえるようにしているわけです。そうすると結局案内者の数も保安要員も大勢必要になるから学芸員は総動員体制になる。

もともとうちの館は，常時総動員体制の考え方なんです。というのは，日曜日・祝日は開館してるんですけれども，その開けているとき，それから月曜日は休館してるんですが，その休館日も各専門分野の人が誰か必ず出勤してるという体制を組んでる。というのは，例え休みの日であっても，電話等での質問はいくらでもあるわけです。そうするとその専門分野の人が誰かいなかったら答えられない，ということで野外行事でいくら大勢動員かけても館内には必ず各専門分野の人が残れというやり方をすると，結局フル動員になるわけですね。すると学芸員てのは，休む権利があると思いつつも休む暇がない。すると人手が足りないときだから，当然ながら管理職は，春なんてのはほとんど休む日はない。で，平日は本庁がちゃんと仕事をしてますから，本庁からいつ呼び出しがかかるかわからないことで，常時館にいなきゃいけないとなると，平日に日曜出勤の替わりの休みをとることもできないということになる。

というわけで，ついこの間の日曜日は，たまたま休めそうだというんで，土曜日の夜遅くにノートパソコンをかついで帰って，雑音が入らないで仕事がしやすいから朝まで仕事して，さぁ寝るぞっていって寝た途端に東京の新聞記者からの電話で起こされてしまった。後，すぐ館に出て行ってすべての対応をしてたら，今ここへ来るまでついに女房・子どもの顔は見てないということになるわけです。そんな生活，状況の中で対応して来たんですけど，孔子鳥化石事件は，あらゆる博物館施設が，基本的には，内容的にはかかわりのあることなんで，ちょっと私自身の見解をここで簡単に申しあげておきます。<以下孔子鳥化石問題については，下記別稿をご覧ください>

きょうのメインテーマである市民参加という中でもね，やっぱりいい標本を手に入れて，それを前に市民とともに語るというのは非常に大事なことなんですよね。これは，ヴォランティア活動が，いま盛んに言われているけれども，ヴォランティアの人たちかて，当然ながら優れたいいものを見たい，そしてそれについて自分なりの考えをみなさんに語りたいというのは基本です。そこのところを大事にすれば，やっぱりみんなのためにいいものを手に入れよう，というのは当たり前のことになるということになります。

<孔子鳥化石問題に関する別稿>

1998.9　中国産「孔子鳥化石」購入問題　について。博物館研究，vol.33, no.9, p.12-14.

1998.12 (文；那須孝悌・写真；樽野博幸)　自然史博物館が買った「孔子鳥」化石について Nature Study（大阪市立自然史博物館友の会発行）, 44 (12), p.11-12.

なお，大阪市立自然史博物館のホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/> にも少しだけ内容の異なる文章を載せています。

大阪市立自然史博物館の組織と運営

最初に，私どもの博物館の構成についてお話したいと思います。当然博物館だから館長がいる。館長は，うちの博物館ができて以来学芸出身者と決めています。なぜかと言うと，博物館は学問世界に存在するものであって，どこの大学であれ

研究所であれ，博物館の責任者名が出ることによって，絶対の信頼関係が生まれるようにするためには，行政マンではダメだという考え方なんです。それから，優れた行政マンは優れていればいるほど，次々と新しい仕事が出てきて職場が変わってしまう。うちの経験で言えば，一番短い人で1年，普通は3年くらいでどんどん変わっていく。そうコロコロ変わってたら，あの博物館にはこの人がいるという信頼が崩れちゃうんですよね。そのため館長は研究者でなくてはならないという規定があり，その代わり副館長は，事務職出身者ということで，少なくとも，行政に関わることについては，最大の権限をもつことになってます。館長・副館長は部長級ですから，その下に学芸課長と庶務課長がいて各々の課を統括する。学芸課には学芸課長を補佐する学芸課長代理，それから，キャリアがあってさらにそれを補佐できる研究主幹だとか研究副主幹がおり，さらに主任学芸員がいます。主任学芸員には定員がなく，一定程度以上経験を積んだ学芸員です。だから時によって人数は違うんですけれども，あとは学芸員ということになります。

現状では館長を含めて，学芸職の人間は14名です。増員して15名にしたんだけど，ひとりやめちゃったもんだから，また欠員補充せな15人にならないということです。私どもとしては，当初は27名を目標にしたんだけど，当局がそんなに大勢雇えないって言うんで，当面は17名を目標にしています。庶務課には庶務課長のもとに係長級が2人いて，あと各仕事に応じた職員がいる，ということになります。

日常の仕事はですね，学芸員を5つの研究室に配置して仕事してます。研究室っていうのは，要するに学問分野です。うちの場合は自然史博物館なんで，自然史に関わる分野しかありません。動物，それか昆虫，昆虫かて動物なんだけど分類群があまりにも多すぎるという事で他の動物と分けて別にしてます。それから植物。地史，地球の歴史の地史学です。それから第四紀学というふうになっております。

第四紀学って言っても何だか聞いたことがないという人が多いと思いますけれども，地球上に人類が生まれてから現在までの時代を第四紀と呼びます。要するに人類時代っていうことですね。人類時代の問題を総合的に扱うのが第四紀学ということで，その第四紀研究室というのを置いておる。戦争で焼け残った小学校の建物をちょっと改造して，自然科学博物館の活動をしてたんですけれども，これはあんまりにもひどいからって言うんで，新しい博物館をつくって移ろうということになった。そのときに，第四紀研究室をつくろうということになって，私が来たんですけれども，なぜそういう研究室をつくったかというと，動物，植物，昆虫というのは，現在生きているものを対象として，現在科学の手法で研究してる。ところが地史学は，化石とか岩石を相手にして，歴史科学的手法によってやっておる。そうすると，現在科学と歴史科学とがなかなか統一できない。で，その統一する役割として第四紀研究室というものをつくった。要するに，博物館におけるオーガナイザーとしての研究室としてつくったわけです。まぁ，研究室つくって人がいないっていうのはおかしいという屁理屈で僕の採用を決めたらしいんですけれども。

まぁ，僕は6人目か7人目の学芸員として当館に来たんですけども，大阪ってところは非常に残酷なところで，来たばかりだから組合やれとか言われて組合の職場代表をやらされたんです。何もわからないですよね。組合の幹部は全部事務系の出身者なわけです。そりゃ，大阪市職員のほとんどは事務系だからね。そしたらその幹部がね，いろんな現場要求に対して，学芸員なんてほんの一握りじゃねえかってって言ったんで，こりゃあ喧嘩っぱやい僕としてはカチンと来てしまって，一握りで悪かったなぁっちゅうんで，すぐ増員闘争に踏み切って，どうせ頭へ来て喧嘩売ったからにゃあこれは勝たなきゃ負けですからね。で，1年間に6人増やして12人にしちゃったんです。なまじのやり方ではできないんで，そりゃあえげつない手まで使いながら，新しいいまの自然史博物館が開館するまでに，わずかな間に6人増やしたわけです。開館しちまったら，行政としてはだいたい一段落ということになっちゃうからね。そこが勝負どころと見て，一気に倍増して，で12人でずうっと来たんだけれども，これでは市民要求に応えられないということで，新たに増員を要求して1年に1人ずつ増やしてもらって，12が15になったのが現状というわけです。

で，この人数でやっているんだけれども，博物館ではいろんな仕事がある，それをやって行くには，やっぱり，きょうお話する中でひとつだけ覚えておいて欲しい事があります。博物館が良くなるか悪くなるかは，いわゆる学芸部長，要するに学芸のトップの資質と力量に関わるという問題。これは，博物館としては非常に大事なことなんです。学芸部長に相当する人が，フニャフニャしてると，とにかく混乱ばっかりする。そこで仕方が

ないから，そのトップに代わるものとしていろんな会議があるんです。会議の中で，当然ながらトップに来るのは非組管理職会議と呼んでるんですけれども，組合員ではない理事者側の管理職，要するに館長，副館長，学芸課長，庶務課長。この４人のトップ会談がやっぱり１番の責任がある。だけれども，こと人事，増員だとかその人事にかかわっては最高責任者である館長が責任をとるのは当たり前だけれども，僕自身はずうっとこの人事というのはあくまでも庶務課事項であると考えており，副館長と庶務課長が非常に重要な役割を果します。

本当の意味で，当館の意志決定をする管理職連絡会議と呼ぶのがあります。大阪の場合，主任学芸員，それから事務系で言えば主査，係長クラスは，一応管理職手当をもらいます。管理職手当もらってるならその分だけ働けということで，その管理職連絡会議というのに出席義務を持たせてます。目的はですね，学芸課と庶務課との仕事の方針確認と調整です。予算や契約などの事務的な問題は庶務課ですべてやってくわけですね。ところが研究だとか教育という問題は学芸課でやってるわけです。お互いにそこの話し合いと連携がうまくいかないと仕事にならないということで，両方の課の連絡調整をきちっと，管理職手当もらってる者同士が全員いるところでもって確認し合う場ということになってるわけです。そこに庶務課からの提案，学芸課からの提案というのがあって，そこで決定したら最高決定機関としてもう館の意志とすることになってるわけです。

そうすると，そのほかに学芸会議と庶務課会議があるわけで，学芸会議っていうのは学芸課の全員，要するに学芸員が全員集まって学芸課長が議長として取り仕切り，そこに館長が出席するというやり方をしてます。まぁ，博物館の遠い将来の問題を議論するのはやっぱり学芸員の責任なんです。庶務課の人たちは，自分が３年か４年したら次，全然違う仕事で頭抱えなきゃいけないのに，そんなこと言ってられないやということにもなるんでね，やっぱり採用されたら最後まで，骨を埋める覚悟で仕事せぇというのが学芸だから，そこで責任を負えっていうんで，学芸課で徹底した議論をする。それがある意味で言えば，非常に重要な重みをもった決定になり，先程言った管理職連絡会議に提案されるということになるわけです。その後，管理職連絡会議で決定したことを受けて実際に行動せなあかんので，今度は現場レベルで連絡会議というのをつくって実行段階に移すというふうにしてるんです。

1988年の５月から，それ以外にいろんな委員会を設け，委員会制度というのを始めました。人数が全部合わせて30人くらいしかいない博物館ですから，その中の学芸は半分15人としても，学芸員だったら複数の委員会に名前を連ねるぐらい頑張らないといけないんだけども，いくつかの委員会をつくって，その委員会でどんどん実行するという体制を組んでやってるわけです。

そういう体制でずうっとやってきたのは，実を言いますとね，今の博物館が，先程申しあげた，戦後焼け残った小学校から今の所に移った，その当時の館長は，ご存じの方も多いでしょうが，千地万造といって非常に頑張った方なんです。その館長が，次の人にバトンタッチしようというんで，当時の学芸課長に館長を引き継ぐために退職して嘱託になった。ところがその1年の間に肝心の次の館長候補が死んじゃったわけです。当時組んでいたチームの役割分担があまりにも完璧にできてた。例えば家庭で言えば，お父ちゃんとお母ちゃんがいてね，お父ちゃんに事故あったら母ちゃんがお父ちゃんの役割すべてできるかって言ったら必ずしもできないですよね。博物館の中で当然ながらいろんな役割分担をしたら，次の館長が死んだら，じゃ誰が代わって館長をするかっていったら，人事当局の求める条件を満たしていて，館長のできる資質の人間がいなかった。ほかのことでは素晴らしい資質を発揮してるけど，資質の発揮の仕場所が違うわけね。で，どうしようもなくなっちゃったんです。そのため非常に混乱したというのが，ことの起こりなんです。それの収拾のためにものすごい時間と労力を必要としたんですけども，一応軌道に乗って，倍増したついでに，次に２度とこういうことがないようにというんで，もし僕がコロッと死んだら必ずバトンタッチができるようにという，それでバトンタッチするつもりの人がこけても代替えができるようにっていうんで，複数配置にしていまの体制とってるんです。まぁ僕がコロッといってから10年先まで保証できればいいやという組み方で，そっから先はわかりませんけれどね。まぁ，一応そういう体制をとっているということです。

普及活動と友の会

私どもの博物館では，いろんな普及行事をしており，ざっと数えますと博物館主催の行事だけで1年間に100回を超えますね。ところが博物館行事を計画するときには，友の会の行事や普及委員会のことを常に考慮に入れています。うちの場

合には先程言ったように学芸員がいろんな委員会の委員を，途中で少しのメンバーチェンジはあるもののたいてい継続して分担しあいます。てのは，コンピュータ委員会にコンピュータの全然わからん人が入ってもしょうがないんでね。これは各々の得意技を生かして委員をやってく事なんですけれども，普及委員会ってのはちょっと別で，管理職を除く全学芸員によるローテーション制です。博物館自体の普及活動について計画から実行まで責任を負う役割の普及担当学芸員。それから友の会の活動を１年中ずっと間違いがないようににらんでる役の友の会担当学芸員。それから，友の会は毎月12ページだての Nature Study という雑誌を発行してますが，３種郵便の規定通りに定められた毎月10日にピタッと１ページも狂いのない印刷物を出し続けるというのは意外とたいへんなんで，これをきちっとやるためにNature Study編集担当という役割の学芸員を１人置いてる。要するに，学芸員のうち３人は，普及担当，友の会担当，Nature Study編集担当という３つの役割で張り付いているわけです。

この３人を普及３人組と称してるんだけど，この役割はたいへんだから，全員が交替でやる。館長，学芸課長以外は，全員がやる。ただたいへんだから，各々１年限り，それも最初の年は，まずNature Studyの編集をやって，それが終わったらすぐ次の年は，博物館全体の普及担当をする。すると２年経験できますね。で，３年目に，慣れたところで友の会担当。要するに，友の会を担当するってのは，たいへんなことだっていうことなんです。だから２年訓練しといて３年目にやっと友の会を担当する。それも新人がローテーションに入るときには，必ず老獪な人間を組んで入れるんです。慣れた人が新人を助け，訓練するようにしておる。３人組という目で見るといつもトコロテン式に１名が交代する事になり，継承性が保たれる。さらに主任学芸員のうちの普及教育事業総括担当者がいつも見守っている。これだけ，非常に気を使ってやってるわけです。

そこまで気を使って，なぜ友の会をやってるかと言うとですね，うちの館は地元主義っていうのを最初から掲げてます。大阪市立だから，大阪市の予算を使ってるわけです。そうしたら大阪市の行政の要望に応えるのはまず第一に当たり前のことです。ということは，税金を納めている市民の要望，ニーズに応えること。これがまず第一。それは当然だからまず大阪から始まろうということで，展示も「人と自然」を全体のテーマにしながら，現在の大阪から入ります。で，だんだん視野を拡げていって，最後はまた大阪に戻って来ようという展示の仕方をしてるわけです。

これは日常の，今度は展示以外の普及教育活動においても同じです。まず，大阪から日帰りで行けるところでいろいろやりましょうよと。で，時々は遠くにも出ましょう，いうことなんです。そういう組み方をしてやるんだけれども，当然ながら，自然を知りたい人は，博物館をもっと使って下さいと。博物館をもっともっと利用したい人はこの指とまれで集まって下さいというのが友の会なんです。だから友の会ってのはあくまでも，博物館をよりよく利用しようと思う人たちの集まりだという位置づけなんです。すると，市民がよりよく利用する，それをさらに利用しやすくするために学芸員は責任を持て，いうことで全面はりつき体制をとってるわけです。

ただ，学芸員だけがいくら頑張ってもダメで，この自然史博物館友の会には，評議員会というものがあります。１年に１回ある総会で推薦され承認された人たちが，評議員となります。職業・年齢は問わない。年齢を問わないと言っても，やっぱりある程度の歳の人じゃないとできないからね。まぁ，一番若い人で大学院生くらいの年齢。職業は家庭の主婦，画家，会社の経営者であったり，大学の教授もいるし，とにかく職業はいろいろで町の眼鏡屋の旦那さんもいたりとかね。

もうとにかく自然が，自然史博が好きなんだ，もっと自然史博を使いたいんだと思う人たちが集まって，世話役をしてる。定例評議員会だけでも５回。そしてさらに評議員と学芸員が組んで行なう月例ハイキング，そのほかに総会，遠くでおこなう合宿があるわけですね。そのための下調べ，打ち合わせや準備をやってたら，もっと回数がいく。しかも，友の会として独自のグッズなんかつくろうなんていうと，グッズ製作委員会なんてのを臨時でつくって集まったりとか，もうしょっちゅう会議を開いたりしながら，頑張ってやってる。

これ，まったくのヴォランティア活動なんです。定例評議員会と総会，月例ハイキングの交通費だけは友の会から出そうということで予算を組んでますけど，それ以外は何回準備に来ても，それは全部ポケットマネーによるまったくのヴォランティアでやってくれてるわけです。その友の会があるからこそ，またそういうヴォランティア活動をしてる評議員達がいるからこそ博物館の活動は成り立ってる。

だから，うちの博物館で100回を超える普及行事をやってると言っても，その中で館としてもっとも力を入れてるのは友の会活動なんです。だから友の会活動をより進めるために，Nature Studyの編集は博物館の学芸員が責任を負う。で，予算が足りなくなったのどうのっていうのは，そりゃあ走り回るのはまず学芸員が責任をもって走り回って，どうしてもダメなときには評議員のみなさんに集まってもらって，相談に乗ってもらうっていうことになるわけです。

旧館時代とか靱時代と呼んでる1973年以前には，「親と子の自然観察会」というシリーズをやってたんです。なぜ「親と子の自然観察会」かと言うと，未来のことを考えると，子どもたちが自然に興味をもってもらわないといかん。まぁ，私は自然史博物館館長だから自然と言いますけど，これは美術館の方だったら美術とか，歴史博物館の方だったら歴史という言葉に置き換えてくれたらいいんだけど，そういったジャンルにですね，子どもたちが興味をもって，知りたいという心をもってくれないと，その分野の人は増えないわけです。だからまず大事なのは小さな子どもなんです。ところが，これは女性もよーけいて，失礼な言葉になると堪忍して欲しいんだけど，一般的に使われる言葉を使わせてもらいますが，俗に言う教育ママというのは，全部その子どもの素直な芽を摘んでしまってるってのは，大阪の場合現実としてあったんです。だから，子どもの素直な芽を摘まないでくださいという，そのことをわかってもらうために，お母さんも一緒に来てください。中には，父ちゃん子もいるんで，その場合は父ちゃんも一緒に来てくださいっていうことで親と子としたんです。子どもを育てるために親にも一緒に理解を求めたという行事なんです。

いまおこなってる「やさしい自然かんさつ会」というのは，家族みんなで参加してください，まったくの入門ですから，というやり方なんです。うちの博物館友の会は，家族で１人が入会すれば１人の会費で家族全員が家族会員証をもらって，博物館の友の会の日ってときには自由に出入りできるわけです。館内で科学映画会だとか，講演会だとかをやるときには，家族全員がバラバラに来ても自由に出入りできるんです。

こうやって，「親と子の自然観察会」という行事の流れをくんだ「やさしい自然かんさつ会」は，１回の参加申し込み数も，以前は平均すれば100人にも満たなかったのが，いまは平均400人にもなるんですよね。多いときには1,000人に達するという，とんでもない数になっています。ここに書いてあるのは，結局申し込んだけれども，落選しちゃった，行けなかったという人の数がどれだけ増えて来たかっていうのが書いてある。これだけどんどん申し込んでも行けない人が出てきちゃってるんです。これでは市民ニーズに応えてるとはとっても言えないっていうんで，学芸員を増やしてくれなかったらやってけませんよという要求になるわけです。

市民ニーズが高まっているということは同時に友の会への入会者が増えていくっていうことで，友の会の会員もどんどん増えて，現在1,800人くらいです。友の会独自に12ページ立ての機関誌を毎月送って，さらにいろんな友の会としての行事をしてくれる評議員には交通費出さないといかんが，予算的には3,000円の会費で全部まかなわなあかん。そうすると金足りないんです。で，友の会としてグッズをつくったりして売ろうというのは金儲けしようっていうわけなんです。経験的に言うと，1,300人までは経営は成り立ちません。会員数が1,600人，だから1,600家族って言ったらいいかな。そのくらいを超えないと，どうも予算的には無理です。だからもう，一所懸命になって勧誘する。で，今日配った「『好奇心』がキーワード」という，これは会員を増やすためにうちの若い学芸員がこういうものをつくろうよと言い出して，あぁそれはいい案だ。じゃあつくってみようって言ってつくって今年から配りだしたんで，参考までに持ってきたんです。要するに友の会が博物館の，もう中心に座ってるんだよってことで，この友の会を軸にやってるわけです。

こういった友の会，会員がどんどん増え，活動が活発化していくと当然ながら会の事務というものもたいへんなことになる。友の会主催行事の企画，案内，募集，準備，実行は評議員と学芸員が責任をもってやる。で，Nature Studyの編集から印刷までは学芸員が，発送準備の宛名打ち出しは友の会事務員が責任をもつ，発送は館の庶務課が責任をもつ，とかね。会の刊行物だとかグッズをつくる，独自の刊行物を出すなんていうのは，評議員がまず企画をする。それには学芸員も加わる。製作して売るときになると友の会と庶務課と学芸員とが連携プレーでやる。金儲けのために委託販売も引き受けようというんで，これも館をあげてやる。要するに友の会のことは館をあげての仕事なんです。

こうやって友の会を軸にした普及活動というのを，私どもはずうっとやってきたんですけれどもね，ただその友の会か

て決して最初からそういうふうにやってきたわけじゃないんです。当館と友の会の歴史というものを考えてみますと，まず1950年にうちの博物館が発足しました。最初は，美術館の廊下に展示ケースを1つ置かせてもらって，展示を始めたというところから始まる。友の会の発足というのは博物館をつくろうということで1955年に「自然科学博物館後援会」として始まったんです。条例をつくって，博物館として活動が始まって，ちゃんとした場所が欲しいんだろうっていうんで，これは終戦直後のまだ立ち直っていないときだったから，焼け残りの小学校があるからということで，1957年にその焼け残りの小学校に入った。その直後の1958年に「大阪自然科学研究会」と名前を変えた。だけどその当時は，まだその研究会の評議員はみんな自然科学分野の鳥やクモや虫や植物などの専門家の集団だったんです。で，ずうっと一緒にやってきたんだけど，これは専門家ばっかり集まったら，結局学芸員は税金で雇った人間の専門家集団で，ヴォランティアの専門家集団がそこについてるだけだ。視点がどうしても専門家ってのは偏りがある。これはあかんと言うんで，評議員になるためには，何かの専門家でなきゃいけないという発想はやめようよということで，家庭の声を聞きたいんだっていうことで，家庭の奥さんに最初２人入ってもらったかな。それで雰囲気ががらっと変わっていまのスタイルにようやくもち込めたんです。だから，職業は問わないっていうのは，むしろ問わないことが必要なんです。要するに，市民ニーズというものを大事にして活動しようと思ったら，いろんな人たちのニーズが聞こえなきゃいけないんで，おれは自然が好きな専門家なんだとか，アマチュアなんだなんて人ばっかりのニーズだけ聞いていても始まらないんですよ。それが評議員会をつくるにあたって，あらゆる年齢層，あらゆる職業分野から集まって欲しいということになる。これはひとつの鍵だろうと思ってます。僕自身は。

評議員たちが日頃，和気あいあいとやるということが大事だし，そのためには，何よりも日常的に学芸員が和気あいあいとやってないといかん。いまは館長として，学芸会議には出席しても「俺は何も言わない」と言いながら時々頭に来てワッとしゃべることあるんですけれども，基本的にはものを言わないようにして学芸課長に仕切ってもらっている。以前僕が議長だったころには，とにかく僕はクソ平等主義ってのは大嫌いだからって言うんで，全部の学芸員の中でみんなこういう意見なのに１人だけ違う意見があるなんてのはものすごく尊重したんです。例え１人だけでも，毛色の違う意見は思い切りみんなで考えよう，というやり方でワイワイガヤガヤと，とにかくこれがまじめな学芸会議かなというくらい，ゲラゲラ笑うわ，その代わりその間は途中で休み時間をとるから電話はすべてカットして欲しいって言って庶務課にはお願いして，議論に集中するようにしてるんですけれどもね。最後に僕がこれで議長やめるからなんでも言いたいこと言えって言うたときに，若い者同士が，ほらおまえ怖くて言えねぇだろうとか言ってつつきあいをしとって，お互いに言っているのを聞いていると，あぁ何が言いたいかなっていうのはわかったりしたんだけど，まぁ公式発言がないから無かった事とするって言って笑い話で終っておいた。館長室の半分は僕の仕事のためのスペースだけど，半分は宴会場にしてあるんです。まぁ，勤務時間中はねぇ，お客さんとの会談の場であり接待の場でもあるけど，勤務時間を過ぎれば宴会場になって皆と雑談や議論ができるというふうにしてあるわけです。

実は夕べは家に帰るつもりだったんだけど，たまたまもう帰ろうと思ったときに女性評議員の１人が訪ねてきて，たった１人だけの若い女性学芸員とが館長室の半分の宴会場で意気投合して飲みまくってるから，ほったらかして帰るわけにはいかないもんだから，結局腰を上げてくれるまでつきあってたら帰れなくなっちゃったっていうんで，ここへ直行で来ることになっちゃった。

そんな状態でずっと学芸員も和気藹々とやってる中で，評議員もその中に一緒に入ってきてワイワイガヤガヤとやっている，っていう人間関係でもってるというのが実状です。そこがうまくいけば友の会活動自身も全体的にうまくいく，ということなんでしょう。

普及活動とヴォランティア

当館でも今，ヴォランティア問題に直面しています。ヴォランティアを活用しなさいと盛んに指導しているのは文部省なんですよね。文部省の命令だから大阪市当局も，とにかく博物館，美術館に対してヴォランティアを活用しなさいとガンガン言うてくる。だけど，うちの博物館はヴォランティア事業はやらないとずうっと言ってきてる。なぜかと言うとですね，当然ながら我々としてはね，ヴォランティアをどうのこうのって言ったら，他でやってるような養成講座をやらなければならなくなる。日頃フル回転で市民向けのことをやってる学芸員が，ヴォラ

ンティア事業のために特別な時間を割く余裕はないんです。そこへもってきて，じゃあそれでヴォランティア育って，後ヴォランティアが自由にできるかって言ったら必ずしもそうじゃない。これはあくまでもヴォランティアという言葉を間違えてるんです。ヴォランティアってのは，自分が自発意志でする，自発的に申し出る、自ら進んで提供するということです。ヴォランティアっていう英語でひいてもらったら志願者，志願兵とかいうのが出てくる。要するに自らの意志でやることなんです。それをヴォランティアを要請しなさいというのは，これどうかしてるんです。それから，ヴォランティアを組織化しろって今度は言い出したようですけれども，それもどうかしてる。組織化されたらヴォランティアなんていわないですよ。

なんでそうなるかっていうことなんだけれども，このヴォランティア関係の歴史の流れをずうっと見てると，1963年経済審議会が「経済発展における人的能力開発の課題と対策」というのを出してる。これが1960年代の国家文教政策のもとになってるんです。ここで，例の週休２日制問題なんかの走りがでてくるわけです。週休２日制問題っていうのは，もともと経済界の必要性からスタートしてる。要するに欧米からの圧力で，労働時間を短縮する必要から出てきている。労働時間を短縮するために週休２日制というのをもってきたんだけど，次に出てきたのが余暇対策をきちっとしないと不満が爆発するからっていう。その不満の爆発を防ぐためにはやっぱり余暇を有効に活かさせなきゃいかん。そのためには，その余暇をどうするかということで，社会教育問題，これを生涯教育，外国の言葉で言うリカレント教育の考え方にもってこうということで，社会教育が生涯教育になり，それが生涯教育からさらに生涯学習に名前を変えてる。

さぁ，次の問題として生涯学習の成果を活かしなさいということで出てきた。それはそんなに一所懸命になって勉強してそれが発表の場があるっていうのはいいことだし，欧米での博物館のヴォランティアっていうのはまさにそれなんです。

自分が好きで博物館に通ってるうちに，ここの学芸員よりこのコーナーについては俺の方がよく知っているんだというふうになると，そのコーナーの前に立ってここのことなら俺に聞いてくれって。毎日そこに立っててね，ここのことなら俺が説明してやる。あっちは知らない，ってこうなるわけね。これは，自分のプライドとして学芸員なんぞよりかも俺の方がこのことについては勉強してるんだといってやってるわけです。自分の意志でその成果をみんなに，お裾分けじゃないけれど，みんなに自分がせっかく調べたことだから，教えてあげてやるとかね。そういうことをやってるわけです。そこらへんが，欧米の博物館，美術館におけるヴォランティアとは，日本の場合ちょっと違いすぎるんです。

うちの場合，じゃあ振り返ってみたらどうかって言ったら，何のことはない。先程行事の参加申し込みがあまりにも増えすぎて，応じきれないので学芸員をこの分野増やしてくれってって，じわじわ増やした。それでも応じきれない。で，今度は上からはヴォランティアを活用しなさいとくる。なぜヴォランティアですかってって，じゃあ学芸員増やして下さいって言ったら，いや学芸員は金がかかるからダメだ。だけれども，ヴォランティアなら金がかからないからヴォランティア使えって言ってるんだって，もう露骨に言うわけです。交通費だけで済むんじゃないかって，交通費と弁当代だけだと。金をかけずに仕事をしなさい。これが行政命令ですって言うんで，わかりましたということで，じゃあヴォランティアをうちは拒否するけれども，ヴォランティアをもしやると言えば，どれだけ金くれるって言ったら，じゃあヴォランティアも学習のために，いろんな学習用の機材等も消耗品も必要だろうしということで，見込みでこのくらいは予算を用意してあげようと言うから，そんならその金をごっそり友の会で受けさせてくれ，いうことで，友の会でそのヴォランティア事業の金を全部受けることにした。

友の会の人たちに，行事に学芸員だけではとても応じきれないので，いつも一緒に自然観察をしてるみなさんにお手伝いして欲しいんや，いうことで呼びかけたら，友の会会員として一緒にやろうと。博物館が発展するのは我々の望みなんだっていうことで，友の会の会員たちが集まって，大勢の人が参加する行事をやっていく。これ，まさにヴォランティアなんですよ。だから，ヴォランティア養成講座なんてことはやらない。

ただ，例えばある池に鳥を観に行こうということになったら，池のまわりに危険な箇所がないか，ちっちゃな子が怪我をするようなことはないか，それは事前に見にいかなきゃいかん。それから，いまだったらどんな鳥がいるのか，それも事前に見とかないといかん。そのときに，ヴォランティアとして行事の応援をしてくれる人には全部案内を出してから一緒に行く。それでワイワイガヤガヤとそこで話をしたり観察したりする。それは，

まぁ言ってみたらヴォランティア養成講座みたいなものだと言っても構わないけれども，これは楽しくワイワイガヤガヤと話し合いながら，意見交換しながらやってるっていうことなんです。そうやってみんなと楽しく，とにかく博物館の目的を達成しようということで友の会の会員たちが集まってくれるというのが実状なんです。

だから，友の会自身がここまで発展してきたのは，評議員をはじめとするみなさんのヴォランティア活動で発展してきたわけなんです。月１回おこなう月例ハイキングっていうのも，僕も学芸員の１人として１回担当するんです。で，評議員が誰が担当するかは，学芸員の担当をまず決めといて名前を伏せておく。で，評議員会のときにみんな自由に俺は何月って言って決めるわけです。で，評議員の担当の月が決まったら両方パッと開いて誰と誰が一緒になったとか言って，何かトランプのカード合わせみたいにしてお遊びでやってるんですけれども，そうやって誰かと組んで一緒に山へハイキングに行く。だけどそのときにも，朝行ったらね，当然参加者の名前書いてもらったりとか，そういういろんな作業があるけれども，来た人が，自分が名前全部みんなの聞いてあげるとか，道迷ったらあかんからなんていって地図をコピーしておくと，自分が配って歩くとかね。このコースは俺が一番よく知っているから俺が先頭に立ってやるとかね。もしやのことがあるといかんから自分が一番後ろから見張っててやるってことで，会員がみんな勝手に，俺がこうするってってやってくれてるわけです。これはみんなもう日頃の会員と学芸員との付き合いん中で，友だち同士だから，どうして欲しいかをわかってるから好きなように自分で役割決めて勝手にやってるっていうことなんです。そこらへんが友の会の実際の状況なわけでね。

で，経済界の要請に従って出てきた問題のしりぬぐいとしてのヴォランティア。しかも安上がりにことをしなさいという発想のもとで，もっと行事をしなさいってガンガン言うのに，言うこと聞いてたら，こっちもたまったもんじゃない。ほかの美術館等はやってくれたのに，自然史はなぜ受けてくれないのかって言うんで，考え方が間違っとるって言って最初は頑として受けなかったんだけど，友の会が受けるということでよしとしようということで，今は友の会がお国の命令の末端を受けている。それは１つはね，友の会の財政がとっても大変だったんです。少しでもお金が欲しかったから，友の会に入るようにしたということなんですよね。お金が。友の会がそれで少しまた活発になれば幸いであるという考え方をしたということになるんです。

今日のテーマである市民参加というのはね，やっぱり，市民の自発意志を引き出すようにしてね，気持ちを聞くことがまず最初です。こういう行事をしたら来てくれるだろうかって，僕らも必死になってそれをやるけど，それだけじゃだめなんですよね。うちの博物館も入館者数が減ってます。大阪市全部調べてみたら全部ジワジワ減ってます。大阪ってのはまったく面白いところで，イベント主義でね，来るお客さんって言ったら要するに市民も，イベントには必ず行くけれども，常時あるもののところには行かへんねん。うちの博物館がオープンしたときの質問で一番多かったのは，この博物館いつまでやってますかという質問だったんです。で，大阪市がつぶれるまでって答えたんですけれども，そういう感覚なんですよ。とりわけ今の博物館のでき方の中には，博物館法読んでいただければわかるように，博物館に責任を負うのは教育委員会でなければならないんだけれども，博物館類似施設をつくって学芸員を配置せずに，知事部局とかに置いてある。これは行政宣伝でしかないわけで，これでまともな社会教育活動をしろと言っても，それは無茶だということなんです。何よりもそういう活動をきちっとやるために必要なのは学芸員です。その学芸員の質の高さ，そしてその質の高い学芸員を引っ張っていく学芸部長，要するに学芸のリーダーの資質も問題だと。これが一番重要な鍵を握るんだろう，いうふうに私自身も思います。この事はすでに1960年代からきちっと言われていることで，ヘンリー＝ミラーの場合にはもう1928年の文章の中でそれを明言してるし，アランていう人はやっぱり1960年代に学芸員の質の高さが重要だということをきちっと言ってる。

うちの博物館について振り返れば，自然史時代になっての初代の千地万造館長と，途中で館長になる直前に死んじゃった日浦勇という，チョウチョの専門家なんだけれども，その学芸課長の考え方，これを私自身はそのまま，私の考えと同じだし，何等反対するものはないからということで，踏襲してるということになります。

ということで，時間になっちゃったんで，何か全然まとまりのない漫談みたいなこと言ったことになりかねないんですけれども，一応終わりにさせていただきます。

質疑応答

【愛知県美術館・木本文平】

那須先生，どうもご苦労様でした。私，愛知県美術館の学芸員の木本と申しますが。1つ教えていただきたいんですが，先程友の会へ大阪市の予算が入金されるというお話があったんですが，それはどういう形で，そしてどのくらいの額が入るんでしょうか。例えば，ある一定額を超しますと，その友の会自体が社団法人とか財団とか任意の団体にしないと法的な処置っていうのはできないと思うんですけれども，そのへんはどのような対応をしてみえるか，ちょっとお教えいただきたいんですが。

【那須孝悌】

私自身も非常に気にしてやってきたことなんだけども，やっぱり1,000万円を超えますと，総予算がね，そうするとやっぱり税金上の問題だとか，いろいろ出てくるわけですわね。で，やっぱり法人化しようというのをだいぶん以前からいろいろやってみたんだけれども，法人化するとさらに事務員がもっといないと事務的処理がやってけないという問題があって，何のために法人化するのかわかんないなんていうことになって，まだ法人化には踏み切っていないです。

当局の予算を友の会に入れる1つの方法として，友の会が発行しているNature Studyの購入があります。というのは，うちの博物館の学芸員も事務も総員でもってやってきているから，無料でその一部をボンと勝手に使って，市当局の関係者で，いろいろお願いせなあかんところに全部無料で配布してたわけです。また，うちの博物館といろんな博物館とは出版物の交換をしてるわけですね。よその博物館との交換でやっぱりNature Studyっていうのは希望が一番多いんです。その交換も無料で配布するわけなんです。友の会は金をかけて印刷してるのに，いくら編集から何から全部やってるとは言え，タダで横取りしてるんです。それをきちっとした値段で買い上げるということにする。印刷部数が多ければ1冊あたりの印刷経費は安く済みますわね。その一部を公的にきちっと買い上げてくれたらすごく助かる。

それから友の会の業務のかなりの部分として，博物館自身の出版物を窓口で売っている。博物館のいろんな展示案内だとか普及書を，われわれが一所懸命になって原稿書いて印刷して売ってる。これを友の会に販売を委託する。そうすると友の会の事務員がいつも張り付いていても1人ではできないから，また学芸員と事務が応援するんですけれども，それで友の会が販売を引き受けてくだすったということで，販売委託をするわけです。そこでまた金が入る。

今度は普及行事の支援の委託。事業補助の委託をするという。そういうふうに分割するわけです。仕事の中身に応じて，つじつまの合う方法でやってる。買い取りとか委託とかね。そういうのの組み合わせで。ちょっとごめんなさいお金のことは全部まかせていてトンチンカンで。だいたい研究職はだからあかんって叱られるんだけど，ちょっとその辺の数字は覚えてないんで，館の方に問い合わせていただければわかるかと思います。

【愛知県美術館・木本文平】

先生，どうもありがとうございます。後日また調査に行かしていただきますので，よろしくお願いいたします。

【那須孝悌】

あの手前味噌ですけれども，博物館法，それからその施行規則，そういったのん中で博物館または，博物館っていう言葉，植物園，動物園，美術館全部含めての博物館ね，広い意味の博物館はいわゆる友の会を組織し活用するのが好ましいってことが書いてあるんだけど，これはそれの指導者であるはずの上野の科博でも成功してないんです。で，日本で唯一成功してるのは大阪の自然史だけだっていうんで，毎年上野の科博および文部省から複数の人たちが視察に来ている。どうしたらそういうふうに成功するかってって，教えろって来ても，これは心の問題でしょうとか言って適当なことを言ってるんですけれども，まぁ今日お話したのが基本かなぁと思いながら，暗中模索でここまで来たとしか言いようがないということで。

まぁ，少なくも今日，ここでお会いして私の名前を覚えといていただければ，裏口の方から，博物館には通用門というのがあって，そこへ入れば必ずガードマンがどこへ行くというチェックをします。チェックのときに，誰々に会うと言えばね，そうすると入って来れるわけで，いつでも来ていただければ，その必要な質問に応じて，それが最もよくわかる学芸員とか事務員とかをどんどん紹介しますから，どうぞやっていただければいい。頃良い時間に来れば，会場も整備しておきますので。ということです。

【式年遷宮記念神宮美術館・深田一郎】

先生，今日はお話，ありがとうございました。私，直接今回の会には関係なくて，今回は講演会だけを聞きに参りました，三重県伊勢市の神宮美術館の学芸員であります深田と申します。先程先生がちょっと学芸員はたくさんいるべきだっていうお話を訴えておるんですけども，

先生のお考えになってる学芸員像ってのはどのようなものなんでしょうか。そこを教えていただきたいと思いました。

【那須孝悌】

私が，学芸員って何だって言うときには，まず最初に研究者である，ていうことです。どこでも博物館活動ってのは，博物館法によれば「博物館資料の・・・」という但し書きが付いてますけれども，要するに調査研究，標本資料の収集保管，それから展示，普及教育という，この４つの活動が必ずあがるんです。

うちの博物館には先程申しあげたように，学芸課と庶務課しかないんです。よく普及課だとか，展示課だとかありますね。ああいうことはうちは絶対しないことにしておる。これはなぜかと言うと，まず学芸員が，今あげた４つの活動を，各自が全部やる。で，その全部やる基本は研究だと。研究の成果を展示し普及する。研究をガンガンやれば標本も集まってくる。そういう考え方なんです。で，1人で，各人が全部やれってったら，めっちゃ忙しいのはわかりきってるけれども，それはあくまでも，各々の専門でやりなさいということなんですよね。

だから，各々の分野で１級の研究者になりなさいというのが，まず学芸員に要求することで，従ってうちの博物館では，応募の際に学芸員資格は必要としません。ただし採用が決まったら，直後の国家試験を受けることというふうに書いてあるけど，学芸員資格は必要としないと明記してあります。これ，なぜかってたら，学芸員資格なんか持ってることよりも，その専門分野でどれだけ頑張って実力をつけてきたかの方が大事なんです。やっぱり実力が欲しいんです。これが学芸員像と言うときの一番の大事なことじゃないかと，私自身は思ってます。

だから，だんだんと歳とってくると，管理職手当なんかもらっていろんな余計な仕事が増えるんだけど，若い人には余計なことをしなくていいから，思い切り走り回って研究せぇとなる。ここでは好きなようにやらせる。で，ちょっと歳とったら歳とったなりに責任もだんだん重たくなってくるよっていう，言い方をしてるんです。

そこらへんが私の考え方だし，うちの館では基本的にみんなそう思っている。だから各人が一所懸命になって自分の得意技を発揮してるんです。だから，インターネットをつなぐときでもね，業者に依頼して半年経ってもまだつながらないなんて言ってる博物館があるかと思えば，うちの場合業者には一切依頼せずに，うちの学芸員が頑張って３ヶ月で完璧につないで，今ガンガン使ってます。若い人は若い人なりにコンピュータにやたら強いので，そこで思い切り好きなようにやってもらうとかね。自分の得意技をとにかく活かせ。で，学問の世界にあっては自分の専門分野でとにかく，自分は一流だと思うまで頑張れと言うのが基本です。

それからもう１つ，うちの館では学芸員にね，サークルを生みだし育てろと言ってます。これは，自分が一所懸命になって研究すれば，当然ながら一緒に研究する人たちが増えてくる。また，普及行事を一所懸命になってやると，普及行事の中でもっともっと知りたいっていう市民が増えてくるんです。そういう人たちをサークル化して，そのサークルをさらに発展させる。これは各人の専門分野でやりなさい。だから，１人で複数のサークルを抱えることになる。行事を頑張ってやればやるほど，この研究会つくろう，これもっと勉強しようとかいうのがだんだん増えてきてね，サークルを生みだし育てろっていうのがモットーでやってるんだけれども。

サークルに集まるメンバーでやっぱり多いのは学校の先生なんだけど，１年に１回サークルの反省会をやるとね，小学校の先生の発言が僕一番好きなんだけど，授業のときに自分がこんな研究したんだと子どもに話したら，子どもがこんなんでこんなんでって一所懸命になって話してくれる。すると，その先生の話聞いてると，当然その先生の目も輝いているんだけど，その背後にキラキラ輝く子どもの目が見えるんですよね。これが最高です。

そういう意味で，うちの学芸員像というのは，自分の専門分野で一所懸命に頑張ってサークルを生みだし，市民と一緒になって生きるのが学芸員だという姿かなって思ってます。

【式年遷宮記念神宮美術館・深田一郎】

励みにして頑張っていきたいと思います。どうもありがとうございました。

●PROFILE
NASU TAKAYOSHI　那須　孝悌
大阪市立自然史博物館館長

あとがき

この研修会が開催されてから早２年近くが過ぎ，旬を過ぎてしまうのではないかという危惧や不安を抱えながら，やっとこのあとがきを書くことができるところまで辿り着きました。

そして，編集の不備は棚上げすることとして，研修会から２年近くがたつにもかかわらず，色褪せない内容であると自負しています。博物館建設ブームの最中，新設館の学芸員となり，わけがわからないまま走ってきてしまったという反省を持つ人は，私だけではないでしょう。「博物館って何だろう」，「博物館をどうしよう」という，10年目にして立ち止まってしまった私のような迷える学芸員にとって，新たなる奮起のきっかけとなるよう，この記録集が利用されることを祈っています。

このほど，平成14年度から学校完全週５日制が始まるのに伴い，文部省は「全国こどもプラン（緊急３カ年戦略）」を策定し，平成11年度から文部省生涯学習局社会教育課が「親しむ博物館づくり事業」を募集しました。この動きを受け，愛知県博物館協会では「子どもと博物館研究会」を発足し，活動を始めています。また，「個性ある活動」に主眼を置いたこの研修会を始め，愛知県博物館協会では，「バリアフリー」「市民参加」「ワークショップ」などをテーマとした，新しい博物館のあり方を模索する講演会・研修会が続けられています。

１人では，１館では成し得ない企画や発想，展示，普及活動が，さまざまなバックボーンを持つ学芸員が集まりぶつかり合うことによって生まれ，それぞれに新しい個性が回帰していく。その仲間の１人であって良かったと，今，思います。

編集担当　一宮市博物館 久保禎子

■本書は，研修会当日録音したものをテープ起こしをし，講師推敲の上，再度技術的な編集を加えたものです。
■データは，1998年2月19日現在のもので，その後に変更したものもありますが，そのままとしました。
■本書の編集に際しましては，講師の皆さんを始め，丸山昭彦氏，山下治子氏（「月刊ミュゼ」編集長）に格別なご協力をいただきました。
■本書の編集作業は，久保禎子・柳田智子・宮下十有（一宮市博物館），犬塚康博（名古屋市博物館）が担当しました。

平成9年度愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会の記録
活きている博物館～歴史系博物館のこれから～

2000年2月17日発行
編　集●平成9年度愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会担当館
一宮市博物館
〒491-0922　一宮市大和町妙興寺2390　tel.0586(46)3215
名古屋市博物館
〒467-0806　名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1　tel.052(853)2655
発　行●愛知県博物館協会
〒489-0965 瀬戸市南山口町234 愛知県陶磁資料館内 tel.0561(84)7474
印　刷●株式会社　ミュゼ
〒108-0074　東京都港区高輪2-16-46サン高輪　tel.03(5488)7781